

令和4年度 厚生労働省委託事業

児童館における児童福祉文化財を活用した
遊びのプログラムに関する調査研究
報告書

受託団体

公益財団法人 児童育成協会

児童館における児童福祉文化財を活用した遊びのプログラムに関する調査研究

目次

第1章 事業概要

I 事業目的	4
II 調査委員会及びワーキング委員会	4
1. 調査研究委員会の設置運営	
(1)設置目的	
(2)委員会メンバー	
(3)開催概要（回数）と各回の検討内容	
2. ワーキング委員会の設置運営	
(1)設置目的	
(2)ワーキング委員メンバー	
(3)各ワーキング委員会開催概要と各回作業、検討内容	
3. 倫理面への配慮	
III 調査研究の内容	8
1. 表現活動プログラム等に関する実態調査	
2. 児童館における児童福祉文化財（主に児童劇）を活用した遊びのプログラムの企画・実施	
3. アンケート調査の実施と検証	
4. 報告書の作成	

第2章 調査研究の結果

I 表現活動プログラム等に関する調査の報告	
1. 表現活動プログラム等に関する実態調査	
(1)調査の目的と方法	10
①調査目的	
②調査対象と調査方法	
③調査の内容と分析方針	
④調査上の倫理面の配慮	
(2)調査結果	11

II	児童館における児童福祉文化財（主に児童劇）を活用した遊びの プログラムの企画・実施	
1.	企画及び公演前の準備	
(1)	演目及び劇団・児童館の選定経緯及び公演作品・児童劇団について	131
(2)	児童劇団・児童館との実施確定に向けての調整作業	141
(3)	児童館職員、保護者、子ども向けアンケートの作成	144
2.	公演等の実施結果	
(1)	児童館の公演結果	151
①	世田谷区立等々力児童館	
②	福岡市立中央児童会館 あいくる	
③	神戸市総合児童センター こべっこランド	
④	愛知県児童総合センター	
⑤	荒川区立熊野前ひろば館	
(2)	児童劇団からのヒアリング結果	248
①	ラストラーダカンパニー	
②	人形劇団のはな	
③	ロバの音楽座	
④	劇団風の子九州	
(3)	委員による「演目レビュー」及び「観察結果」	257
①	「らふいゆ れふいゆ」	
②	「ともだちげきじょう」	
③	「森のオト」	
④	「らふいゆ れふいゆ」	
⑤	「ハイハイ、ごろ～ん。」	

第3章 考察及び提言

1.	表現活動プログラム等に関する実態調査結果の考察	282
2.	児童福祉文化財（主に児童劇）を活用した遊びのプログラム実施 結果の考察	287
3.	今後の研究に向けて（提言）	291

謝 辞

第1章 事業概要

I 事業目的

児童館が有する施設特性の1つである「遊びをとおして文化的・社会的な体験活動などを行う」（児童館ガイドライン第1章総則の3-(2)）に当たって、その役割を一層効果的に果たしていくために、厚生労働省社会保障審議会福祉文化分科会が推薦する児童福祉文化財（主に児童劇）を活用し、全国の児童館の質の向上や、今後の児童館活動の方向性を検討するのに役立つ。

II 調査委員会及びワーキング委員会

1. 調査研究委員会の設置運営

(1) 設置目的

実施児童館の選定や児童劇公演と遊びのプログラム効果の可視化等、本事業について専門的な見地から助言をおこない、全体を適切に導くことを目的として調査研究委員会を設置する。

(2) 委員会メンバー（五十音順、敬称略）

[委員]

氏名	所属・職名
方 勝	玉川大学 名誉教授
小林 由利子	明治学院大学 心理学部教授
佐野 真一	公益財団法人 児童育成協会 健全育成事業部 部長
高見 由佳	荒川区立 熊野前ひろば館 館長
長崎 由紀	岩手県立児童館 いわてこどもの森 チーフプレーリーダー
宮里 和則	特定非営利活動法人 ふれあいの家 おばちゃんち 理事
渡部 博昭	一般財団法人 児童健全育成推進財団 事業部長

[厚生労働省]

氏名	所属・職名
高根沢 景	子ども家庭局子育て支援課 児童環境づくり専門官

[事務局]

氏名	所属・職名
北岡 秀規	公益財団法人 児童育成協会 総務部長
木下 直之	同 総務部 総務課
沼田 理恵	同 総務部 総務課 主任
野中 賢治	同 参与

(3)開催概要（回数）と各回の検討内容

開催数、期日	検討内容
第1回 2022年9月13日	<p>本事業の方向性を確認するとともに、全国5か所の児童館における遊びのプログラムの実施（12月～1月）に向けて検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業概要 ・実施児童劇および劇団の選定について ・児童劇実施児童館の選定について ・遊びのプログラムに関する調査研究実態調査について ・事業全体のスケジュールについて
第2回 2022年12月2日	<p>遊びのプログラム調査の結果を検証する。また、児童福祉文化財を活用した遊びのプログラムの効果的な実施・普及方法を検証・分析する。更に、報告書の内容等についても意見交換を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回調査研究委員会後の経過報告 ・舞台芸術実施後のアンケート内容確定について ・全国児童館実態調査について（中間報告） ・舞台芸術鑑賞後のコメントの項目について ・報告書の概要案（柱建て）について
第3回 2023年2月24日	<p>報告書の内容について最終確認を行う。また、今回の検証・分析結果について現場に広く周知して、多くの児童館、劇団に取り組んでもらえるような方策等についても検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究事業の進捗状況報告 ・報告書（案）について <ul style="list-style-type: none"> 目次（柱建て）、第1章 についての報告 第2章Ⅰ全国児童館実態調査結果の報告 第2章Ⅱ児童館における児童福祉文化財を活用した遊びのプログラムの実施について 第3章 考察及び提言について

2. ワーキング委員会の設置運営

(1) 設置目的

調査研究委員会を効果的に実施するために、ワーキング委員会を設置する。

(2) ワーキング委員メンバー（五十音順、敬称略）

事務局を基本委員とし、児童劇や遊びのプログラム等の専門性を有する人員として、各委員会に専門委員を構成した。

役 割	氏 名
専門委員	方 勝、小林由利子、佐野真一、高見由佳、長崎由紀、宮里和則、渡部博昭
基本委員	北岡秀規、木下直之、沼田理恵、野中賢治

○公演当日の実務を担当

氏 名	所 属 ・ 職 名
蛭名 野亜	公益財団法人 児童育成協会 野毛青少年交流センター 副センター長
下村 一	同 健全育成事業部 担当部長
翠尾 由美	同 麻布子ども中高生プラザ 副施設長
林 亮介	同 池之上青少年交流センター 副センター長
山本 博之	同 麻布子ども中高生プラザ 副施設長

(3) 各ワーキング委員会開催概要と各回作業、検討内容

① 専門委員・基本委員で開催したワーキング委員会（全3回）

開催数、期日	検 討 内 容
2022年9月6日（1回） 「ワーキング準備委員会」	・ 事業概要説明 ・ 活用する児童福祉文化財及び劇団候補の選定 ・ 実施児童館の選定について ・ 次回委員会日程等について
2022年10月6日（1回） 「全国児童館における実態調査 に関するワーキング委員会」	・ 調査の実施要領について（目的・方法・分析等） ・ 今後のスケジュール

2022年10月28日（1回） 「効果把握に関するワーキング委員会」	<ul style="list-style-type: none"> ・児童劇実施児童館の確認 ・実施後のアンケートについてのご意見（児童館向け、保護者向け、子ども向け） ・全国児童館児童劇実態調査アンケート ・その他（第2回調査研究委員会日程について）
---------------------------------------	---

②基本委員で行ったワーキング委員会（全64回）

開催数、期日	検 討 内 容
2022年7月（2回）	<ul style="list-style-type: none"> ・児童劇実施に向けたスケジュールについて ・再委託に関する事項等について
2022年8月（3回）	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーキング委員選定、実施児童館案について ・ワーキング準備委員会に向けた段取り等について
2022年9月（6回）	<ul style="list-style-type: none"> ・児童劇・児童館の選定案、整理について ・児童劇・児童館への日程調整等、依頼について
2022年10月（10回）	<ul style="list-style-type: none"> ・次回ワーキング委員会の児童劇実施効果測定について ・劇団・児童館マッチング進捗確認について ・公演後アンケート案の検討、意見のまとめ方等について
2022年11月（13回）	<ul style="list-style-type: none"> ・実施児童館への訪問者について ・3者事前打合せ内容の検討、アンケートの内容確認等について ・3者事前打ち合わせの実施 ・報告書概要案の検討 ・第2回調査研究委員会の議案について ・児童館訪問委員への観察結果の記載依頼について ・児童館訪問者決定について
2022年12月（7回）	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回調査研究委員会の議案、進め方等について ・劇団・作品、児童館のプロフィール作成について ・児童館訪問時における実施支援・レポート作成等の説明 ・報告書の構成案確認について ・公演実施後の劇団ヒアリング内容について ・公演実施（世田谷区立等々力児童館）

2023年1月（10回）	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート用紙の回収、とりまとめについて ・公演実施（福岡市立中央児童会館、神戸市総合児童センター、愛知県児童総合センター、荒川区立熊野前ひろば館） ・報告書案の作成、柱建ての修正について ・劇団からのヒアリング
2023年2月（8回）	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの分析方法について ・委員の観察結果確認、児童館職員アンケートまとめ ・報告書の内容確認、作成 ・第3回調査研究委員会議案内容、進め方について ・報告書の考察作成の方向性等の検討
2023年3月（5回）	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書の考察、提言内容等について

3. 倫理面への配慮

- 児童館・劇団には、実名を報告書に記載することについて了解を得て調査研究を行った。
- アンケート調査は、事前に本調査研究の目的・内容を伝え、大人・子ども共に協力していただける方について行った。
- アンケート結果は、個人が特定されることのないよう配慮した。
- ヒアリング調査対象（劇団）の情報及びヒアリングについては、当事者の同意と確認を得て記載した。
- 「表現活動プログラム等に関する調査（委託）」については、
 - ・調査票は、厚生労働省と受託・協力団体のみ共有し、当初設定した目的以外に使用されないよう配慮した。
 - ・回答された内容は統計処理により数値化し、回答した施設、個人が特定される情報や個別の調査票が公表されないよう配慮した。
 - ・その他、研究にかかる情報については、児童健全育成推進財団「研究倫理規程」及び「個人情報取扱方針」に基づき適切に取り扱った。

III 調査研究の内容

1. 表現活動プログラム等に関する実態調査

- (1) 表現活動プログラムを実施している児童館（約500館）に対して調査する。
- (2) 児童館における表現活動プログラムの状況把握を行う。
 - －体験の量的側面（実施主体、分野、対象年齢、参加人数、開催日数）
 - －質的側面の検証要素（事業名、事業概要、予算規模、事業効果）

- (3) 質向上（効果的・持続的な事業実施）のための工夫、課題
- (4) 表現活動プログラムの効果の把握し、評価基準等を検討する。
- (5) 表現活動プログラムの実施・継続意向（課題や要望）のヒアリングをする。

2. 児童館における児童福祉文化財（主に児童劇）を活用した遊びのプログラム企画・実施

- (1) 児童福祉文化財を活用した遊びのプログラムのあり方等について整理する。
- (2) 調査研究委員会やワーキング委員会にて、児童福祉文化財としてこれまでに特別推薦または推薦を受けた作品を上演できる劇団を選定する。
- (3) 児童館を選定し、全国5か所で作品の上演、実施する。

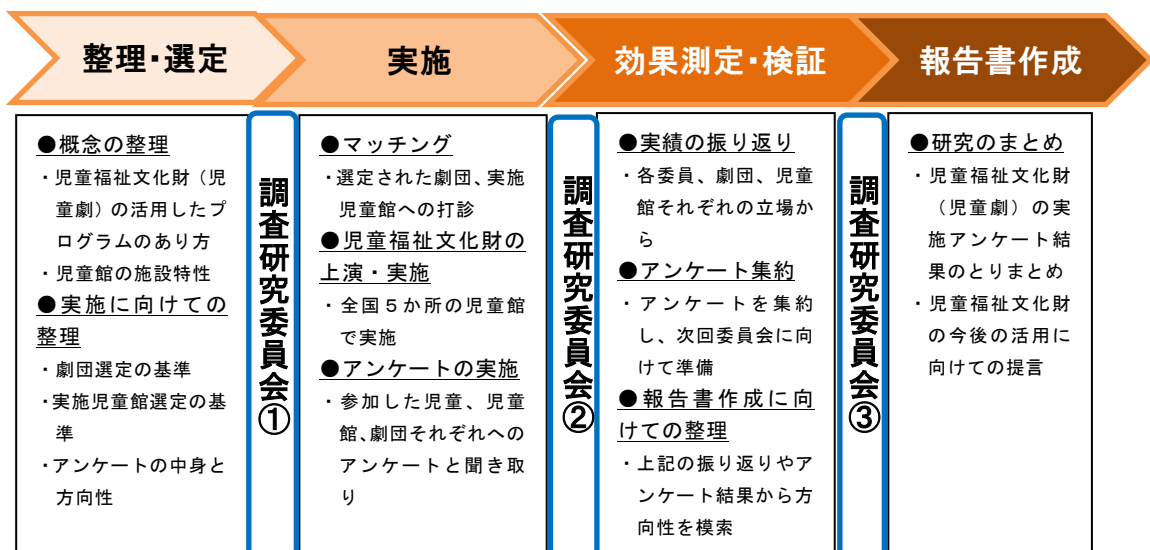
3. アンケート調査の実施と検証

- (1) 上演後、参加した児童や保護者、児童館及び児童劇関係者に対して、アンケート又はヒアリング調査等を行う。
- (2) 遊びのプログラムの現状や課題について分析・検証する。

4. 報告書の作成

- (1) 本事業の実施過程でワーキング委員会並びに調査研究委員会で検討した。
 - ・ 児童館の施設特性を踏まえた児童福祉文化財の捉え方の実態調査結果
 - ・ 児童福祉文化財の選定基準、選定結果
 - ・ 児童福祉文化財の児童劇上演・実施報告
 - ・ アンケート、ヒアリング調査結果を取りまとめる。
- (2) 児童福祉文化財の価値（必要性）を証明し、今後の普及方法について提案する。

事業フロー



第2章 調査研究の結果

I 表現活動プログラム等に関する調査の報告

1. 表現活動プログラム等に関する実態調査

(1) 調査の目的と方法

① 調査目的

児童館ガイドラインでは、児童館における遊びとして文化的・社会的な体験活動などを行うことが記載されている。その役割を一層効果的に果たしていくために、児童館において実施されている表現活動及び鑑賞活動のプログラムの実施状況等を把握するとともに、厚生労働省社会保障審議会福祉文化分科会が推薦する児童福祉文化財を活用し、今後の児童館活動の質の向上に役立てることを目的とする。

② 調査対象と調査方法

一般財団法人児童健全育成推進財団が実施した令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「児童館の運営及び活動内容等の状況に関する調査研究」において、劇遊び等の表現活動又は劇・映画・音楽等の鑑賞会のいずれかを実施していると回答された児童館

○調査対象客対数：上記を条件に抽出した児童館 1,475 か所

○調査対象者：児童館長等児童館の活動、取組状況について把握されている方

○調査方法：質問紙郵送調査

○回収方法：Webフォーム、電子メール及び郵送

○調査基準日：令和4年10月1日現在

○調査期間：令和4年10月11日～令和4年12月9日

③ 調査の内容と分析方針

○主な調査内容

・基本情報 施設名、種別、所在地、運営主体等

・活動内容 ①表現活動について（10問）

②鑑賞活動について（10問）

【①②共通項目】実施の有無、予算、回数、参加人数、活動の種類、対象、事業名・概要、効果、質の向上（効果的・持続的な事業実施）のための工夫、過去の実施状況、課題 等

③児童福祉文化財について（6問）

【主な項目】認知状況、広報の周知、分野別活用の状況、課題・要望、出版物展示のニーズ

○分析方針

次年度以降の児童福祉文化財を活用した遊びのプログラム推進のために参考となる数値を明らかにする。

④ 調査上の倫理面の配慮

○調査票は、厚生労働省と受託・協力団体のみ共有し、当初設定した目的以外に使用されないよう配慮した。

○回答された内容は統計処理により数値化し、回答した施設、個人が特定される情報や個別の調査票が公表されないよう配慮した。

○その他、研究にかかる情報については、児童健全育成推進財団「研究倫理規程」及び「個人情報取扱方針」に基づき適切に取り扱った。

⑤ 事業受託団体及び調査協力

事業受託団体：公益財団法人児童育成協会

調査協力：一般財団法人児童健全育成推進財団

(2) 調査結果

①集計結果の概要

○調査基準日令和4年10月1日現在

○調査票送付数 1,475

○回収数 857 (回収率 58.1%)

○本調査における用語の定義と解説

用語	定義と解説
表現活動	この調査では「表現活動」を、主に児童館が企画し、子ども(利用者)自身が行うごっこ遊びや劇遊び、朗読、読み聞かせ(読み語り)、演劇、人形劇、影絵、パネルシアター、ペープサート、ポップホップ、ダンス、その他の「身体表現」、うた、合唱、リズム遊び、ラップ、和太鼓、楽器演奏、合奏、その他の「音楽表現」と定義し、絵画や工作等の造形表現ほかの活動は含まないものとする。
鑑賞活動(鑑賞会)	この調査では「鑑賞活動(鑑賞会)」を、主に演劇、人形劇、音楽コンサート、オーケストラ、ミュージカル、ストーリーテリング(素話)、落語、歌舞伎、能等の舞台の鑑賞、映画、映画以外の映像・メディアを子ども(利用者)が鑑賞する活動と定義し、絵画や写真、自然等の鑑賞ほかの活動は含まないものとする。
児童福祉文化財	「児童福祉文化財」とは、厚生労働省社会保障審議会福祉文化分科会が推薦する、子どもたちの健やかな育ちに役立つ絵本や児童図書等の出版物、演劇やミュージカルの舞台芸術、映画等の映像・メディア等の作品をいう。 ○厚生労働省ホームページ「児童福祉文化財とは」参照。

*集計結果は令和4年12月9日現在のものである。

*比率については、小数点第2位を四捨五入しているため、近似値を表記している。

○アンケート項目一覧

	大項目	調査項目
問1	表現活動	「表現活動」を実施していますか
問2	表現活動	「表現活動」を実施するための事業予算はありますか
付問2-1	表現活動	令和4年度の予算額
問3	表現活動	「表現活動」の実施回数及び参加人数（概数）を記入してください
問4	表現活動	現在実施している子ども（利用者）自身が行う「表現活動」はどのような活動ですか
問5	表現活動	「表現活動」の対象者を選択してください
問6	表現活動	令和4年度に実施する「表現活動」（計画中含む）について記入してください
問7	表現活動	「表現活動」に期待する効果（ねらい・目標など）について記入してください
問8	表現活動	「表現活動」の質の向上（効果性や継続性等）のための工夫や留意点について記入してください
問9	表現活動	令和3年度以前にはどのような「表現活動」を実施していましたか
問10	表現活動	今後、「表現活動」を実施していくための課題があれば記入してください
問11	鑑賞活動	「鑑賞活動」を実施していますか
問12	鑑賞活動	「鑑賞活動」を実施するための事業予算はありますか
付問12-1	鑑賞活動	令和4年度の予算額
問13	鑑賞活動	「鑑賞活動」の実施回数及び参加人数（概数）を記入してください
問14	鑑賞活動	現在実施している子ども（利用者）自身が行う「鑑賞活動」はどのような活動ですか
問15	鑑賞活動	「鑑賞活動」の対象者を選択してください

問 16	鑑賞活動	「鑑賞活動」の主な活動事例（計画中含む）について記入してください
問 17	鑑賞活動	「鑑賞活動」に期待する効果（ねらい・目標など）について記入してください
問 18	鑑賞活動	「鑑賞活動」の質（効果性や継続性）の向上のための工夫や留意点について記入してください
問 19	鑑賞活動	令和3年度以前にはどのような「鑑賞活動」を実施していましたか
問 20	鑑賞活動	今後、「鑑賞活動」を実施していくための課題があれば記入してください
問 21	児童福祉文化財	「児童福祉文化財」を知っていますか
付問 21-1	児童福祉文化財	「児童福祉文化財」を知っている方はどのように知りましたか
問 22	児童福祉文化財	「児童福祉文化財」のうち、劇などの舞台芸術作品を上演・観劇したことはありますか
問 23	児童福祉文化財	「児童福祉文化財」のうち、絵本などの出版物作品を購入・活用したことはありますか
付問 23-1	児童福祉文化財	「児童福祉文化財」は図書を購入・借用する際の参考となっていますか
問 24	児童福祉文化財	「児童福祉文化財」のうち、映画などの映像・メディア等作品を上映・活用したことはありますか
問 25	児童福祉文化財	今後「児童福祉文化財」を有効活用していくための課題・要望などがあれば記入してください
問 26	児童福祉文化財	「児童福祉文化財」出版物部門の作品を児童館で展示する事業があれば実施を臨みますか

②項目ごとの集計結果

以下、「表現活動プログラム等に関する調査票」に基づいて集計結果を報告する。

I. 回答児童館種別

回答件数 857 件の種別内訳は下記の通りである。

【表 1 回答種別】

小型児童館	児童センター	大型児童センター	その他の児童館	大型児童館
518	287	11	26	15

II. 「表現活動」の実施状況等について

問 1. 「表現活動」を実施していますか。

回答件数 857 件のうち、「実施している」が 570 件 (66.5%)、「実施していない」が 287 件 (33.5%) であった。

【表 2 「表現活動」の現在の実施の有無】

表現活動の実施	実施している	実施していない
回答件数 857 (100.0%)	570 (66.5%)	287 (33.5%)

劇遊び等の「表現活動」または、劇・映画・音楽等の「鑑賞活動」のいずれかを実施している児童館のうち、現在は 66.5%の児童館で何らかの「表現活動」を行っていた。

問2. 「表現活動」を実施するための事業予算はありますか。

問1で、「表現活動」を実施していると回答した570館の回答を集計した。

【表3 「表現活動」の予算の有無】

表現活動の実施予算 回答件数 570 (100.0%)	ある	ない
	332 (58.2%)	238 (41.8%)

「ある」が332件(58.2%)、「ない」が238件(41.8%)であり、予算がある児童館が、ない児童館を上回った。

付問2-1. 令和4年度の予算額

問2で、「表現活動」の実施予算があると回答した332館のうち、無効回答の児童館を除いた308館の回答を集計した。

【表4 「表現活動」の実施予算額】

	回答件数 308件	100.0%
10,000円未満	36	11.7
10,000～50,000円未満	131	42.5
50,000～100,000円未満	59	19.2
100,000～200,000円未満	38	12.3
200,000円以上	44	14.3

「10,000～50,000円未満」が42.5%で最も多く、次いで「50,000～100,000円未満」19.2%、「200,000円以上」14.3%であった。

問3. 「表現活動」の実施回数及び参加人数(概数)を記入してください。

問1で、「表現活動」を実施していると回答した570館のうち無効回答を除いた回答を集計した。

なお、「延べ参加人数の合計」は、各児童館の回答に記入されていた延べ参加人数を、実施回数区分ごとに合計した。

【表5 「表現活動」の実施回数と延べ参加人数の合計（令和3年度）】

	回答件数 570 件	100.0%	延べ参加人数の 合計
0回	41	7.2	0
1～10回未満	214	37.5	17,818
10～20回未満	126	22.1	30,170
20～30回未満	57	10.0	18,286
30～40回未満	37	6.5	15,322
40～50回未満	21	3.7	10,186
50～60回未満	12	2.1	9,970
60回以上	62	10.9	77,748

令和3年度の実施回数は「1～10回未満」が33.7%で最も多く、次いで「10～20回未満」22.1%、「60回以上」10.9%の順に多かった。

また、延べ参加人数は「60回以上」の77,748人が最も多く、次いで「10～20回未満」30,170人、「20～30回未満」18,286人の順に多かった。

【表6 「表現活動」の実施回数（令和4年度）】

	回答件数 551 件	100.0%
0回	9	1.6
1～10回未満	187	34.0
10～20回未満	122	22.2
20～30回未満	69	12.5
30～40回未満	54	9.8
40～50回未満	20	3.6
50～60回未満	16	2.9
60回以上	74	13.4

令和4年度の予定を含む実施回数は「1～10回未満」が33.9%で最も多く、次いで「10～20回未満」22.1%、「60回以上」13.4%の順に多かった。

問4. 現在実施している子ども（利用者）自身が行う「表現活動」はどのような活動ですか。

問1で、「表現活動」を実施していると回答した570館の回答を集計した。（複数回答）

【表7 実施している「表現活動」の種類】

実施している 表現活動の種類 回答件数570 (100.0%)	ごっこ遊び	劇遊び	朗読	読み聞かせ (読み語り)	演劇	人形劇	影絵	パネルシアター	ペープサート	ヒップホップ
		181	34	26	255	20	34	7	87	59
	32.1	6.0	4.6	45.2	3.5	6.0	1.2	15.4	10.5	7.6
	ダンス	うた	合唱	リズム遊び	ラップ	和太鼓	楽器演奏	合奏		
	274	138	37	230	3	40	193	51		
	48.6	24.5	6.6	40.8	0.5	7.1	34.2	9.0		

実施している「表現活動」の種類上位3つは、「ダンス」48.6%、「読み聞かせ（読み語り）」45.2%、「リズム遊び」40.8%であった。

「19. その他」の記述は、次の通りである。なお、同じ内容のものはまとめて括弧内に数を表示した。

リトミック（7）／手遊び（5）／手話うた・手話ダンス（5）／ジャグリング（4）／わらべ歌（4）／よさこい（3）／紙芝居（3）／ふれあい遊び（3）／けん玉（2）／銭太鼓（2）／エプロンシアター（2）／お笑い（2）／ミュージカル（2）／バトン（2）／ダブルダッチ（2）／大正琴（2）／ハンドベル（2）／フラメンコ／和太鼓／ 剣伎道／ハロウィンパレード／カラーガード／詩吟／クイズ／手品／紙皿シアター／見たて遊び／盆踊り／さんさ踊り／ひなまつりの演舞／ロックソーラン節練習・ソーラン節／お手玉／映像表現活動（地域や保護者を対象に上映）／プラネタリウム投影／なりきりショー／リズム遊び／民舞／劇団によるワークショップ（パントマイム・ダンスなど）／民族楽器などに触れて音を鳴らす体験／手作り楽器遊び／ミュージックケア／親子で音楽体験教室／バンド活動ライブ

問5. 「表現活動」の対象者を選択してください。

問1で、「表現活動」を実施していると回答した570館のうち無効回答を除いた564館の回答を集計した。(複数回答)

【表8 「表現活動」の対象者】

表現活動の 対象者 回答件数 564 (100.0%)	乳幼児と保護者	小学生	中学生	高校生世代	地域住民	高齢者	その他
	321	502	136	90	62	14	8
	56.9	89.0	24.1	16.0	11.0	2.5	1.4

「小学生」が89.0%と最も多く、次いで「乳幼児と保護者」56.9%、「中学生」24.1%であった。

「7. その他」の記述は、次の通りである。

ボランティアサークル／母親クラブ／民生委員／小学生の保護者／保育園児／
障害を持った方／退職した職員／児童館を利用していたOB

問6. 令和4年度に実施する「表現活動」(計画中含む)について記入してください。

問1で、「表現活動」を実施していると回答した570児童館のうち、回答が記述されている544館の活動内容を表示した。(3事例まで)

なお、児童館毎の活動内容に独自なものが含まれている活動例は可能な限り掲載することに努めたが、「活動の概要」から明らかに同一の内容と思われるものは、まとめて括弧内に数を表示した。

【表9-1 「表現活動」の活動例と概要①】

活動例(事業名等)①	活動の概要①
「お花がわらった」「エンジョイミュージック」	幼児対象の読み聞かせ、小学生以上高校生までの楽器演奏
1年生歓迎会	子どもスタッフによるペープサート披露
2022年末の集い	子どもたちがジャグリング並びに楽器演奏を行う。
音楽会、コンサート、楽器演奏	中高生世代のライブ企画、講師の指導などで楽器体験 ウクレレ、ハンドベル、金管楽器、琴、大正琴、太鼓 発表活動など
発表行事	歌や演奏、ダンスなど、音楽に関わる表現の発表会
9月アンサンブルクラブ	講師指導の下、個人の楽器演奏及び合奏の練習、発表 ウクレレ
DAIONSUMMER	中高生世代がライブを企画。出演・運営をする。
DANCE! DANCE! DANCE!	全6回でヒップホップダンスを練習し、12月に行われる「交流フェスティバル」で発表する。
HONGO DANCE SCHOOL	初級・中級に分かれプロの講師によるレッスンを実施、4半期に1回発表会を実施。
k-popでおどろう	人気のk-popアーティストの曲に合わせてダンスをする
OSJ歌謡祭	歌や演奏、ダンスなど、音楽に関わる表現の発表会
RDC	ダンスクラブ
roots kids dance	月二回小学生を対象にダンスレッスンを行い、地域行事などに参加する。
SHIMOROCKFESTIVAL	中高生世代のバンド演奏の発表の場とする。
Show★time	講師にヒップホップダンスを習う。
TVアナウンサー読み聞かせ	テレビアナウンサーが来館して絵本の読み聞かせやアナウンサー体験をする
Xmas会でフィンガータップ・朗読	クリスマスソングに合わせてフィンガータップする・短編の朗読
アートクラブ	ダンス/劇/ラップなど
あそびまショップ	親子のコミュニケーションを目的とした遊び・お話し会・読み聞かせと造形あそび。
あそび広場ダンスイベント	ヒップホップダンスレッスン(予約制)
アフタフバーバンとあそぼう!	幼児を対象とした劇あそび
アミーコ	音楽表現/楽器演奏
あらい劇団	クリスマス会にて演劇を上演する。
イングリッシュハンドベル体験	講師を招いて、ハンドベルの鳴らし方を知る。
ウェヒルはっぴょうたい	ダンス(現在継続中)
ウクレレクラブ(2)	ウクレレの演奏を教わる
うたあそびコンサート	音楽に合わせて動いたり歌をうたったりする。

うたごえクラブ	歌や音楽あそび、楽器演奏などを楽しむクラブ。児童館イベント等での活動発表
ウルトラ合唱団・タッパーズ（ダンス）・ウクレッスン（ウクレレ）	ウルトラ合唱団：講師を招き、歌う事と踊る事を通して豊かな表現力を身につけ、音楽の楽しさを体感する。タッパーズ：活動を通して、プロ講師の先生にダンスを教わり、ダンスの技術を習得していく。ウクレッスン：講師を招き、ウクレレ等の楽器について知り、演奏方法や習得における過程を学ぶ。
エイサー発表会	地域伝統であるエイサーを、青年会を通して伝承してもらっています。
エンジョイタイム	読み聞かせ、パネルシアター、ペープサート、ダンス等
おはなし会、おはなしの時間など（13）	小学生や中高生による絵本、紙芝居、パネルシアター等の読み聞かせ
おひさまひろば	親子でうた・ダンス・ふれあい遊びなど
おんがくあそび	音に合わせて楽しく体を動かす。
おんがくクラブ	ドレミパイプの演奏
お月見会	夕方の映画会にこどもたちがダンスや獅子舞などを練習し、披露する。
お笑いライブ	子どもたち自身が考えたシナリオでコントなどを披露する
カラーガードクラブ	カラーガード
キッズコーラスクラブ	講師の指導によるコーラス練習と発表
キッズダンス（61）	ジャズダンス、ヒップホップ、ストリートダンス、社交ダンスなどをの練習及び発表
クリスマス会（14）	聖書朗読・パネルシアター・またはハンドベル演奏
こあらクラブ「おとあそび」	乳幼児親子によるふれあい遊び／リズムあそび／ミュージックパネルシアター
ごきげんパーク	リズムあそび、合奏など、乳幼児親子を対象とした音楽プログラム
さんさ太鼓教室	郷土芸能のさんさ太鼓を学び発表。教室は年間12回。
ジャグリングにちょうせん	ディアボロ、皿回しなどに触れる
ジャグリング体験	大学生のジャグリングサークルのメンバーを講師に、鑑賞と体験を予定。
スキップランド	ふれあい遊び／手遊び／絵本など
すずめ踊り	すずめ踊りの踊り方を覚え、近隣施設や児童館のお祭りで披露する
すずめ踊りクラブなないろチャンネルばぶばぶSPわらべうた	講師を招き、小学生がすずめ踊りを行う
スプリングライブ	バンド活動の発表会
ソーラン節（2）	発表することを目標に踊りの練習をする
たいこであそぼ	和太鼓の演奏に向ける
ダンス	乳幼児・保護者が支援員と共に活動を実施。
ダンスパーティー	子どもたちのダンスの発表
ダンボのおみみ	絵本・紙芝居のよみきかせ
チアダンス（クラブ）	27名の希望者がダンスを学ぶ
ちいさなてづくりコンサート	中高生世代が企画したイベント（発表等）
ちびっこあつまれ	音楽、リズムあそび
ちびっこコンサート	季節の手あそび、ダンス等

ちびっこタイム	しっかり歩ける幼児を対象とした表現活動
ちびっこタイム	平日午前中、閉館前に歌やダンスを楽しむ。
ちびっこ広場～ハロウィン～	親子で仮装やダンスをしてハロウィンを楽しむ。
チャレンジクラブよさこい	児童館まつりでよさこいを踊る。
ティーンズミュージカルワークショップ	講師の指導の下、体験・創作ワークショップを実施し、発表公演を行う
とまべびータイム	リズムあそび等
なかっこコンサート	地域で活動しているバンド演奏と、みんなでうたう
なっちゃんとレッツ！ダンス	月例行事。プロのダンサーと利用者が一緒に踊る。
なりきりショー	動物、ゴジラ、巨人、ドリフターズ、ミッキーマウス、顔なしなど、制作し、なりきり、劇やダンスで表現する。
にこにこコンサート	ダンス、うた、合奏の発表
にじいろ・ステージ	ダンスや歌、楽器演奏の発表
にじいろコンサート	音楽コンサートに手話歌で出演
ノーテレビデー	本の読み聞かせ／ペープサート／パネルシアター／ラジオ放送
はじめての楽器遊び	色々な楽器に触れる
バトンクラブ	年間を通じ、学年別にチームを作り、講師の指導のもと、曲に合わせたバトンを練習する
パネルシアターやっほい	パネルシアター・歌あそび
パフォーマンスライブ	児童センターの練習室や多目的室を利用している中高生の演奏・ダンス発表
ハロウィン	うた／リズム遊び／楽器演奏
ハロウィンイベント	仮装してダンスを踊る。英語の歌を歌う
ハロウィン祭	オープニングダンス（メロエスダンス）
バンドチャレンジ講座	バンド活動を通じた他世代交流
ハンドベル（3）	楽器演奏・合奏・発表
バンド活動	1年通しての中高生の楽器練習
ファッションショー	工作行事からの派生で、自身が作った服をモデルになりきって披露する遊び
プラザフェス 2022	出演者を公募し、音楽やダンスを楽しむ。
フラダンス	フラダンス練習
フラダンスクラブ	地域の方に月1回フラダンスを教えていただく。地域行事等で発表を行う
ふれあい能楽教室	文化庁伝統文化親子教室事業補助金による教室地域の方が事務局となり、市内にお住いのプロが講師年に1～2回、発表会も行っている現在も活動中なので参加者の人数は未確定ですが7人の小中学生とその保護者が参加している
ベリーダンス	親子で衣装を着けて踊る
ホッとママのおしゃべりティタイム	乳幼児親子が歌を聴いたり、手遊びや踊りを一緒にしたりして楽しむ活動
マイブラッパーを作って虫さんとコラボ	手作りラップで音を奏でる
ママスポ	ヒップホップダンス
ミニコンサート	楽器演奏
ミュージックコミュニティ（音楽活動）	毎月3回楽器演奏や音楽ゲームなどリズムあそびに関する活動を行う

ミュージックタイム	楽器演奏体験（小学生）月3回
ミュージックタイム	週1回音楽活動を楽しむ。
ミュージックフェスタ	中学生から大人までのバンド演奏会
ミュージックベル（3）	ミュージックベルを練習し発表する
みんなおいでよ～七夕～	手遊び／歌／リズム遊び／ふれあい
みんなであそぼう～忍者修行～	忍者衣装作りから修業まで
みんなの音楽広場	演奏・うたなどを含めた表現活動
みんなの寿ステージ	自主企画、ダンスの発表や特技を披露する
むつみ祭	和太鼓
よさこい（5）	職員や講師の指導で練習。地域のイベントなどで発表。
らるくしえるタイム「ダンス★ダンス★ダンス」	児童センターまつりのオープニング発表に向けて、ダンスの練習をする。
リズムあそび（7）	親子で音楽に合わせて手遊び、踊る、身体を動かす、パネルシアター他
リトミック（25）	乳幼児親子等を対象として音楽やリズムを楽しみ身体を動かす。外部講師、職員による指導など
レッツバトンクラブ	9月～3月にバトントワリングの練習、発表
わらべ歌	親子わらべ歌
わんにゃんぶう	市内在住の詩人による書下ろしの脚本、演出で行われる朗読劇を、団員を募り練習。毎年最低1公演を行う。
一歳児サロン	手遊び、読み聞かせ、リズム遊び
一年生を迎える会	ダンス等できるようになったことの発表
演劇	おまつりの中で発表する
演劇サークル	小学生の演劇サークル
演劇の日（小学生）	台本読みや演劇に繋がるゲームなど
音をあそぼう	さまざまな楽器に触れ、音あそびを楽しんだり実際に演奏したり、音楽への興味を広げる機会とする。
音楽あそび	乳幼児クラブの親子対象。講師を招いて、楽器に触れたり、リズムに合わせて体を動かしてあそぶ。
音楽クラブ（ミュージックベルの演奏）	音楽を楽しみむことを目的とし、ミュージックベルの練習をし練習の成果を地域のどこかで発表する（月1回）
音楽クラブの定期的な活動	月に1度、好きな楽器を使い演奏を楽しむ
音楽であそぼう	乳幼児親子向けリトミック教室
音楽ムーブメント	遊具を使って、音楽やリズムを楽しむ。
音楽会	楽器演奏
音楽祭	音楽の好きな子どもが集まり、地域の音楽グループ（ギター、合唱、バンド等）と一緒に演奏発表を行う。
音楽親子遊び	音楽療法を用いた音楽遊び
音感やリズム遊びを通じた交流活動	障害のある子ども達と地域の子どもの達と音楽を通じた交流
夏だ！ズンバでハッスル	ズンバを踊って夏休みの子どものエネルギーを発散させる。
夏のおたのしみ会	シンガーソングライターを講師にミュージカル体験
夏休み中のクラブ活動	ハンドベル
開館50周年事業お祝いの会	寸劇／トーンチャイム演奏／映像鑑賞他
楽器あそび	曲にのり、楽器を鳴らして楽しむ。

楽器演奏	クリスマス会で発表
楽器体験会	中高生を対象に、バンドレッスンを行う。
館まつり	高校生によるライブ
琴の演奏会	お琴の先生に教えてもらう
金管バンドサークル	金管楽器の演奏
芸能部	一年を通してのダンス等
劇ごっこ	親子で物語の役になりきる。
公式軽音部	楽器に関心がある利用者で集まってセッションを行う
高学年による1年生への読み聞かせ	昼食後などの時間を使い、1年生対象に高学年が読み聞かせを行う。
三味線教室	三味線・和太鼓の練習、発表
山中節を唄おう会	伝統文化である山中節を児童たちが演奏し、地域の方と交流する。
子どもK-POPダンス教室	楽しく踊ろう！初めてのK-POPダンス教室
子どもフラダンスサークル	フラダンス
子ども夢プロジェクト「ロカジョチャンネル」	子どもたちのかなえたい夢を児童館と共に叶えていく事業。今年度は情報番組の制作を実施中。
子育てサロン	リトミック／ダンス
市民まつりオープニングアクト	地域のおまつりでの舞台発表
市民文化祭でソーランを発表しよう	地域の子どもたちで受け継がれてきたソーランを踊る。
紙芝居	子どもが紙芝居を作成して朗読する。
手話ダンシングクラブ	毎土日曜日、手話とダンスを組み合わせたクラブ活動
小学生と楽しもう	乳幼児親子に向け、児童有志によるダンスパフォーマンス、合奏等
小学生によるプラネタリウム	子どもが星や星座の学習をし、台本を作成して、機器を操作しながら解説をする。
親子コーラスサークル	年間登録で月2回活動。親子で参加できるコーラスサークル。
親子でダンス	親子の触れ合いを通し、ダンスで表現を行う。
親子でダンス！ダンス！ダンス！	親子でダンスを楽しむ。
親子リズム遊び（3）	講師を招き、乳幼児親子対象のリズムあそび。親子の触れ合い。
人形劇（5）	子どもが人形劇に取り組む。即興や発表活動
吹奏楽コンサート	クラブ発表
銭太鼓クラブ	毎週木曜日実施
太鼓クラブ	太鼓発表会（センター内）
打楽器（ドラム）を楽しむ	毎月1回打楽器を使い演奏する
大正琴教室	大正琴を習い、発表会を行う。
地域祭等への和太鼓参加駅中コンサート朗読会	小学生から中高生による太鼓や器楽での地域交流
地域文化交流会	地域6児童館に集う児童の文化的活動の発表と交流。
読み聞かせ（14）	日常活動の中で、子ども自身が絵本や紙芝居を選び、子どもに対して読み聞かせを行う。
乳幼児クラブ（未就園児と保護者対象）	ごっこ遊び／手遊びなど
乳幼児のつどい	リズム遊び／リトミック
乳幼児親子対象事業ともだちあつ	「劇あそびごっこ」…「おおきなかぶ」の登場人物に

まれ	なりきり、お面制作や劇あそびを楽しむ。
入学・進学・進級お祝い会（４）	楽器演奏等の披露
忍者クラブ全11回	忍者にちなんだ遊びを実施
年齢別親子グループ活動	リズム遊び、うた、楽器演奏
発表会	ステージ発表（遊戯・うた）
発表会	ダンス・遊戯
発表会	小中学生がダンスやピアノ演奏など特技を来館者の前で発表をする。練習や準備を通して仲間との繋がりをを感じる。そして達成感を味わい自己肯定感を養う。
表現遊び	朗読劇の発表
福祉の里パレード	福祉施設をパレードで回り、パフォーマンスする。当館では神輿を引いて回り、ツバメのダンスを披露した。
文化祭	ダンスと太鼓を地域や保護者に披露
文化祭	文化祭でのダンス発表
遊びのプログラム「ニンニン忍者」	忍者になりきって修行（さまざまな動き、ゲームなど）に挑戦する
遊び場スキップ	リズム遊び
幼児クラブ	ダンスやリズム遊び、リトミック
朗読コンクール	日本のことばを豊かに美しく音声化し、文章に込められた作者の心を味わうことを通して、子どもの豊かな情操や感性、表現力を高める。
老人施設でのふれあい会	楽器を使ってのリズムあそび
和太鼓（７）	エイサーを踊る。指導者のもと太鼓演奏・体験など。

【表 9-2 「表現活動」の活動例と概要②】

活動例（事業名等）②	活動の概要②
0 さいじひろば	親子でうた・ダンス・ふれあい遊びなど
12 月のお楽しみ会	演劇
3B 親子ダンス	親子でボール、ベル、ベルターを使用し、ダンスを通し体で表現を行う。
Aza Fes	乳児親子～地域住民が歌、ダンス、楽器演奏などを発表する
MO こもこタイム	幼児親子の手遊び、リズム遊び等
TON キッズ	小学生を対象としたダンスクラブの活動
Teen's Live	中高生のバンド活動の発表
X'mas 会	表現活動、ダンス、うた等
《にじいろ》キッズコーラス	児童館まつり発表に向けて、発表前全 2 回の講座を開催
アンサンブルクラブ	講師指導の下、個人の楽器演奏及び合奏の練習、発表
あかちゃんおはなし会	手遊び
あそび広場	未就学児会員制事業内での親子のリズムあそび
あそび広場 リズム広場	月 1 回 ダンス等
あそべ村ステージ	児童館の子どもまつりで発表したい表現活動を募集し、披露する
ありがとうの会	会の中で、利用の終了する 3 年生への感謝の気持ちをダンスや楽器演奏を披露し、伝え合う
うたあそび	触れ合いながら歌をうたう

うたごえクラブ	皆で歌をうたい、披露の場を設ける
うたっこクラブ	歌ったり、ハンドベルの演奏を楽しむ
うたの時間・カラオケ大会	終わりの会で歌を歌う。中高生のカラオケ大会。
おんがくあそび	音に合わせて楽しく体を動かす。
おんがくかい	利用者のための利用者による音楽発表会
おんがくの日	ハンドベルや打楽器の合奏
おんぷ kids の音楽あそび	リトミックを含む音楽あそび
お楽しみ会	ハンドベル演奏等を披露する。
お誕生日会	手遊び・ふれあい遊び
がやがやフェスティバル	児童館合同の表現活動発表会
さんさ太鼓・踊り（４）	地元に伝わる伝統芸能の伝承のため、楽しく太鼓を打ち鳴らしながら踊る。お祭りやイベント等で披露する。
たいこクラブ	地域の盆踊りで太鼓をたたいている方がボランティア講師をしている。自主サークル化しており、保護者の方と講師で日程調整や準備片付けも担っている。コロナ禍前は町会の盆踊りで櫓の上で太鼓をたたいたり、児童センターや町会のお祭りで発表をしていた。以前は小学生だった子が今では大学生になり講師のお手伝いをしている
たからの会	小学生がピアノ演奏や朗読など、好きなことを練習して披露する。
たのしいリズム	季節のうたを歌う。鈴やマラカス演奏。
つどいの広場（３）	手遊びなど
なないろチャンネル	小学生が合唱やダンスなどいろいろな表現に挑戦し発表する
ぴよんぴよんクラブ	幼児親子の手あそび、リズムあそびなど
ふれあい遊び	リズム遊び
ぶっくぶっくキッズ	小学生を対象とした絵本・紙芝居等の読み聞かせ（読み手：子ども）
みんなであそぼう～忍者修行～	冬の修業を楽しむ。
みんなでダンス！	児童クラブ登録者対象、ダンスタイム
もののきもちになってみよう	仙台を拠点に活動するプロの俳優による演劇ワークショップ
やんちゃクラブ（うたあそび）	親子のあそびのクラブ
ようかいわーど	ようかいに扮した劇団員と交流し、ようかいに変身して楽しむ
読み聞かせ（12）	児童が読みたい絵本・紙芝居などを選び、みんなの前でよみかきかせをする。
わらべうたあそび（３）	わらべうた遊びを楽しむ。
アートラボ	小学生～高校生向け楽器体験等、芸術体験活動
アンサンベル隊	小学生の希望者に、子育て支援クラブの方がハンドベルを指導。年12回実施。外部での演奏会もある。
ウクレレをひいてみよう	子どもによるウクレレの練習や演奏
エンジェル・パーク	親子リトミック
ギター教室	中高生対象のギター教室
クリスマスお楽しみ会	出し物（まりつき・きつねダンス）
クリスマスコンサート（器楽演奏）	器楽は小学生を中心として普段楽しんで練習しているものを保護者や地域の方に見てもらえるよう

	コンサートを開催して発表します。
クリスマス会 (17)	合唱、歌、ダンス、楽器演奏、高校生バンド、読み聞かせ、子どもが得意なことなどを披露
クワイヤーチャイム	月1回。学童保育児童全員でメロディーとハーモニーに分かれて曲を奏でて楽しんでいる。
ザッツエンターテイメント	自分の得意なことを発表する。
スタッフによるダンスワークショップ	ダンスを教えられるスタッフと一緒に簡単なダンスを踊り、ダンスに興味を持ってもらうきっかけ作りとする
ステージ披露	希望する小学生が観客(小学生)の前でピアノやダンスなどを発表する
ストリートダンスクラブ	ストリートダンスを楽しむクラブ。児童館イベント等で発表
スミセイアフタークールプロジェクト	和太鼓の響き(3人で1つの太鼓をたたく)
センターまつり	ダンス・伝統芸能(さんさ踊り)
センターまつり ハンドベル演奏	ハンドベル音楽隊に応募した児童による演奏
センター行事	人形劇・ペープサート
タップダンス	講師によるタップダンスの指導
ダルクローズリトミック	リトミック団体の講師先生によるリトミック。歌ったり体を動かしたりして表現する事を楽しんでいる。
ダンス (31)	ツバメダンス、ストリートダンス、ヒップホップなどを踊る。指導者がついている活動もある。
オペレッタクラブ	子どもたちが配役などを決める劇活動
ハンドベル (4)	演奏の練習や発表
バンド活動	小学3年生以上が週2で実施。
パネルシアター	外部から指導者に来てもらい実施
パペットつくろう	スポンジ人形を作成し、舞台上で即興劇
フラダンスサークル	小・中学生のフラダンスサークル
プレミアムデイ	小学生を対象に、毎月2回楽器に触れ演奏を楽しむ機会を持つ
ベビー&キッズバレエ	親子でバレエを体験しながらふれあいを楽しむ
ママとヒップホップダンス	保護者と楽しく参加する
ライブ	ライブハウスでのライブ
リトミック・リズムあそび (33)	リトミック、リズム遊び、リズムダンス、親子の触れ合い
バレエグループ	目標達成のために、練習に励み自信をつける経験や、発表会の舞台上で踊るといった非日常的な体験を得る機会とする。
リトルビート	3歳以上を対象にダンス・歌・合奏を学ぶ
リフレッシュダンス	乳幼児親子対象
リフレッシュ事業	未就園親子でダンス体験
リンリンクラブ	ハンドベルの演奏
影絵を作って遊ぼう	影絵を作って動かして遊ぶ。
演劇のつどい	演劇クラブ発表会
音楽あそび	幼児クラブ(2クラス)でリズムあそびを行う
音楽グループ	講師の指導の下、ハンドベル演奏を施設の年末子

	ども会及び、自治体の児童館交流会で発表
音楽会	講師の演奏とともに、鈴やタンバリンなどの楽器で参加者それぞれが音を出して楽しむ。曲に合わせて体を動かす時間もある予定。
音楽会	児童館まつり
夏休み中のクラブ活動	和太鼓
夏祭りの踊り	地元の踊り、よさこい
学童まつり	親子で和太鼓の演奏
楽しく親子あそびをしよう	音楽あそびと触れ合いあそび
楽器作り	作った楽器で演奏を楽しむ。
楽器遊び	楽器に触れる、音を楽しむ
韓国の楽器演奏	韓国打楽器演奏
丸ごと忍者	忍者ごっこ
劇あそび	幼児と保護者でクリスマス会に出演
剣舞、詩舞、琴クラブ	楽器演奏、舞踊
見てダンス踊ってダンス	1年間を通して体験したダンスを皆様の前で発表する。
太鼓教室	和太鼓の演奏を聴き、叩く
語り部になろう	民話の語り部の方に教えていただき、民話を語る。
合同こどもステージ	日常の表現活動(ダンス、歌、楽器演奏等)の発表
三味線クラブ	楽器演奏
子どものミニ・コンサート	お腹休めの時間に、子どもがキーボードやリコーダーなど楽器の演奏を披露した。出演5名5回に分けて実施
子ども教室発表会	日頃の表現活動を1人または仲間と発表
子ども人形劇	クリスマス会にて人形劇を実施
市民文化祭発表	三味線教室発表
紙芝居を作って演じる	一コマ紙芝居や四コマ紙芝居を作成し、演じる。
紙芝居発表会	自作の紙芝居を学校の先生に披露する。
詩吟教室	地域の高齢者の方を先生に小学生向けの詩吟活動を月2回行っている。
児童会館スタジオ	施設のニュース番組制作
児童館合同発表(4)	自治体内の児童館合同で行うイベントでの表現活動発表ステージへの参加
七夕祭	ハンドベル、木琴、鉄琴を使った楽器演奏
手話UDダンス	障がいの有無しに関係なく手話で踊る
手話一クル	手話「小さな世界」を表現し、地域で発表をする
手話歌発表	世界がひとつになるまでの曲を手話歌で発表
終礼時の歌	月の歌を全員で歌う(時にダンス)
商店街のイベント・オープニング	和太鼓部の発表の場を設ける。
小学生によるプラネタリウム	子どもが星や星座の学習をし、台本を作成して、機器を操作しながら解説をする。
小学生クラブ「キッズフリーダンス」	講師の指導の下、小学生によるダンス体験
新1年生おめでとう会	ダンス・マジックの発表
親子であそぼ!ぐうちよきぱあ	手あそびや歌、ダンスなどの親子プログラム
親子でリズム	手あそびやパネルシアターを楽しむ。
親子リズム・小学生と乳幼児親子	音楽(ピアノ演奏やわらべ歌)に合わせて身体表現

の交流親子リズム	を楽しむ。乳幼児親子対象 月1回 小学生と乳幼児親子対象 年3回
赤ちゃんランド	親子（赤ちゃん）で手遊び、絵本読み聞かせ
卒業・卒園おめでとう会	歌・ダンス・楽器演奏
大学のゼミがやってきた 秋のコンサート 楽器に触れてみよう	大学のゼミの学生のコンサートを開催し、参加・鑑賞した児童が楽器に触れて音を出したりを体験
大正琴	発表（年間12回）
池カップ	ダンスや歌などの子ども自身の自主活動の発表
中高生世代演劇の日	台本読みや演劇に繋がるゲームなど
冬のお楽しみ会	ハンドベルの演奏。
乳幼児のつどい	うた、楽器、パネルシアター
乳幼児親子対象事業ともだちあつまれ	「楽器あそび」…クリスマスをイメージした楽曲に合わせて鈴などの楽器を鳴らして遊ぶ。
忍者修行	1年通しての夢プロジェクト
忍者修行	忍者ごっこ
年末コンサート	地域交流事業として行う年末コンサートで小学生自身が楽器の演奏発表を行う
年齢別行事	各年齢に合ったリズムあそび等
遊びのプログラム「いでよ！かけモン」	身近な素材で人形（モンスター）を作り、スクリーンに映し出して影絵遊びをする
遊び場スキップ	リズム体操
幼児の広場	リズム遊び、読み聞かせ、ダンス
幼児クラス	運動、工作、リトミック等
幼児クラブ	楽器あそび
幼児タイム	リズム遊び、読み聞かせ、楽器演奏
幼児教室	リズム遊び他
連盟主催のアンサンブルコンテスト 太鼓プロレス演奏 定期演奏会等	小学生から中高生による活動で地域組織である商工会やライオンズ等を通して交流を図る
朗読発表をしよう	これまでに学習した物語文の中からお気に入りの作品を1点選んで発表しよう。
児童館合同ステージ発表会	ダンスの演技等
和太鼓	小学生対象:ボランティア年10回予定 コロナにより現在3回

【表9-3 「表現活動」の活動例と概要③】

活動例（事業名等）③	活動の概要③
JUPN	気軽に参加できるライブイベント
Teen's Live	自治体内児童館で活動している中高生世代のバンドやダンスの発表の場とする。
3Bジュニアダンス	ボール、ベル、ベルターを使用し、ダンスを通し体で表現を行う。
あそびまショー！	リズム遊びや歌を歌う等、身体表現も含む活動。
あそび組「親子でダンス」	講師を招き、保育園幼稚園世代の親子でダンス、リズムあそびを楽しむ
いちごクラブ	劇あそび
おはなしパーク ミニコンサート	乳幼児親子対象のおはなしパークでミニコンサートを開催し、鈴や手作り（空き容器にビーズを入れ

	て音が出る) 楽器で合奏を開催
おんがくのじかん	音楽に触れる時間
ことさん	琴・三味線の練習、発表
ちびっこクリスマス会	親子でクリスマスの雰囲気を楽しむ。
ちょこっとくらぶ	乳幼児対象の行事・工作・読み聞かせ・リズムあそび
つどいの広場	楽器・うた
どんぐり劇場	拾ったどんぐりを使って劇ごっこ
どんどんちゃかちゃか〜ドラムサークル〜	たくさんの打楽器を円になって、ファシリテーターのサポートを受けながら自由にたたいて一体感を楽しむ。
なごみひろば	踊り・パネルシアター
ばぶばぶ SP わらべうた	乳幼児と保護者がわらべうたに合わせて踊る
みんなおいでよ〜あたたまろう〜	手遊び、歌、リズム遊び、ふれあい、工作
みんなで Boo チャン	自作楽器で演奏
みんなでクリスマス	音楽に合わせて手作り楽器を鳴らす
よみきかせ	小学生が幼児に本を読む。
わらべうたあそび	乳幼児親子 16 組予定
アフリカンダンスをおどろう	アフリカンダンスを実際に鑑賞し、一緒に踊ってみる活動
アンサンブルクラブ	講師指導の下、個人の楽器演奏及び合奏の練習、発表
ウクレレをしよう	ウクレレの体験活動
ダンス (14)	ヒップホップ、ダンスなどの練習・発表
クリスマス会 (5)	クリスマスソングの合唱、ダンス、楽器演奏等の披露
ソーラン節同好会	卒業生を含むメンバーが定期的にソーラン節の練習を行い、市民イベントなどに参加をする
ドラムにチャレンジ	ドラムの基本的な鳴らし方を練習
ハロウィンパーティー	ダンス、歌、朗読、ゲームなどを楽しむ。
ハロハロ・ハロウィン	参加児童によるモンスターを模倣したダンスタイムを楽しむ。
ハンドベル演奏 (2)	ハンドベルの練習及び発表
パネルシアター	児童が学童クラブ児童に
フォークダンス	世界各国の踊りにふれて楽しむ
フラメンコ体験	フラメンコの鑑賞と簡単な体験
ミニジョイクラブ	劇あそびや太鼓体験
リズムあそび・リトミック (12)	講師による歌や楽器を使った遊びの時間、身体を動かす、リトミック
レッツキッズダンス	他館との同時ダンスイベント
影絵劇場	節分まめまき会での発表
演劇会	パネルシアター、バルーンアート体験
音楽あそび	ボディーパーカッションやリトミックなど
歌ってあそぼう	ギター演奏による歌あそび
歌遊び、リズム遊び	毎日の誕生日会で実施
絵本・紙芝居読み聞かせ (子ども & 職員)	職員 6 回と読みたい子どもが練習して 5 回、児童クラブの子どもに一日 2 回読み聞かせをした。

楽器演奏	ハンドベルの演奏
公民館との合同行事ダンス教室	ヒップホップダンス
合唱サークル	小・中学生の合唱サークル
合奏	楽器の演奏
子育て講座「音楽遊び」	楽器を鳴らしてみる。音楽を楽しむ。
指人形であそぼう	スポンジ人形を作って、人形劇を上演
紙芝居	概ね毎週1回児童が児童に紙芝居を読み聞かせる
児童館交流会	自治体内の児童館を利用している子どもが児童館ごとに歌、楽器演奏、などを発表する
手品	児童のやりたいもの
秋の読書ウィーク	子ども委員会の子どもたちが読み聞かせやパネルシアターを行う。
初めてのダンス	ダンスに親しむ。
親子で一緒に身体を動かそう！	講師を招いて親子参加を呼び掛けて、音楽・リズムに合わせて身体を動かす
親子サークル	大きなかぶのごっこ遊び
親子セミナー	未就園親子対象わらべうた
親子リトミック教室	就学前児と保護者を対象にしたリトミック体験教室
人形劇	手作りした軍手人形で、簡単なストーリーを演じる
青春力	中高生限定の体験活動(楽器体験、演劇など)
全クラブ員による合唱	夏休みに2回、曲を決め合唱
大正琴を体験しよう	大正琴を教えてもらい、簡単な曲を弾く。
中学生ダンスクラブ	月2回、選曲した曲に合わせて話し合いながらダンスを作って楽しむ。
中高生ライブ	中高生のバンドメンバーを募集し、ライブを行なう
中高生活動「楽器でととのう」	中高生の楽器演奏(ギター、ベースなど)体験
冬のお楽しみ会	短大の学生とコラボレーション
読み聞かせバンビ	乳幼児親子向け地域住民による読み聞かせ
乳幼児クラブ・あそびの広場	リズムあそび、手遊び、ダンス等
入園おめでとう	乳幼児親子に向け、児童有志によるダンスパフォーマンス、絵本の読み聞かせ
舞台芸術公演巡回事業	音あそび
遊び場スキップ	ダンス
幼児タイム	ダンスやうた、リズムあそび、楽器演奏を楽しむ
幼児タイム	参加者によるリズム遊び、うた、合唱、楽器演奏など
和太鼓クラブ	小学4年以上～大人 和太鼓演奏 月2～3回
和太鼓楽しもう	高校生の演奏を聴き、交流しながら太鼓に触れ楽しむ。

「表現活動」を実施している児童館にどのような内容の活動を実施しているか求めたところ、多彩な活動が示された。

「ダンス」に関わる活動は括弧でまとめた106件以外にも、発表会での披露、歌や楽器演奏、手遊びとの組み合わせによる活動で数多く見られた。

「おはなし会」などの事業名による、読み聞かせ(読み語り)活動の事例が多くみられた。また、子ども自身が乳幼児や下の学年の子どもなどに対して読み聞かせる内容で実施されて

いるものも多くみられた。

「リズム遊び」「リトミック」は、乳幼児クラブ等の活動の中で、プログラムとして行なっている事例が多くみられた。

中学生・高校生世代を対象とした表現活動は、バンド活動、和太鼓などの楽器演奏が多く、ライブの開催やステージ発表などの活動に繋がられている。

詳細はそれぞれの自由記述を参照されたい。

問7. 「表現活動」に期待する効果(ねらい・目標など)について記入してください。

問1で、「表現活動」を実施していると回答した570館のうち、回答が記述されている468館の回答を表示した。(自由記入)

【表10 「表現活動」に期待する効果】

児童の興味・関心を拡大させる
音楽、楽器、外国の文化に触れ、感じ、身体で表現する。
成長段階に合わせた活動を知ることと遊びとして楽しむ。
子ども自身が何をするか計画して、進めていく。
ごっこあそびはこちらから提供していないが、創造力を養う。／読み聞かせは本(読書)を好きになり、興味を持ってもらう。
感性を豊かにし、表現を楽しむ
読書に興味を持たせながら、自分から本を読む習慣を身に付けさせる。様々な作品に触れさせ、児童の情操、知識の向上を図る。
表現活動を通して、達成感や満足感を味わい、それに伴って自己肯定感が向上する。
音楽に合わせてダンスを覚えて自分なりに表現できる。
自己表現に基づく自尊感情の育成。友人との協力。多世代の交流。
日本の伝統文化に触れる体験をし、演奏する楽しみを知る。
リズムに合わせて体を動かす楽しさを味わう。集中して音を聴き、体で表現する。想像を膨らませながら話を集中して聞く。
伝統文化に触れ、地域との交流ができる。
表現する楽しさや楽器に触れる楽しさを知らせる。
様々な体験を通して、感性が豊かになる表現あそびを楽しむ。
子どもから生まれる創意工夫やアイデアを生かせる場になる。また、遊びを通し練習や子ども同士の相談や関わり合い、目標を持つ、発表の場の経験から、子ども自身の満足感や達成感、自己肯定感の育成につながる。また、コロナ禍にあって気分転換や発散にもつながると考える。
プロならではのものを、予算として使い表現力を高めている。感性を磨く。
経験を通して、苦手な事にも積極的に取組んだり、興味や関心をもって自己表現ができるように。
個人の自己表現力と集団での協調性の育成。
本の楽しさやおもしろさや、わくわくドキドキ感を感じて本に愛着をもつ。想像力を豊かにする。
活動を通し、表現することの楽しさ、一緒に作り上げていく楽しさを体験する。
運動表現力の向上／運動能力の向上
表現活動により情操感情を育む。
身体を動かし、楽しんで参加することで心身のバランスを保てるようにする。地域行事などに参加することにより、地域とのつながりを感じ、地域貢献への楽しさを味わう。
子どもの様々な興味関心を引出し、子どもが地域や社会でつながることで、自分のもつちからや可能性に気づき、次の一步を踏み出すきっかけをつくる。
体を使って自己表現する。差別の歴史を伝え、いじめや差別をはね返す力にする。子ども同士のつながりを大事にし、一つの目標に向かって頑張る事や協力する事。
自分で表現する楽しさや考えて取り組むことで達成感を味わう。初めての活動に対して興味や関心もてる。
地域の方との交流／ウクレレの習得。楽器を使って表現する事を楽しむ。
自分らしさを出せるように自主性を育てる。
音を表現する喜び、友達と一緒に合奏する喜びを味わう。

みんなで力を合わせて合奏する楽しみを知る／表現の方法の多様性を知る／きれいなものを作ったりする気持ちよさを知る／創造する喜び、大変さを知る。
カラーガードを楽しみ、さらに自己の表現力を高める。
「身体表現」「音楽表現」のプログラムを経験する中で、子ども自身が主体的にのびのびと楽しむことで情操を育むきっかけになる。
音楽を聴いたり、見たり、身体表現したりすることによって、情操豊かな子どもたちを育てるとともに、協調性やコミュニケーション力を育む。
子どもたち（利用者）の自由な発想や思いをのびのびと表現する事で、達成感を味わい、自己肯定感や自己効力感につなげていく。
子どもたちの自主性、豊かな表現につながる。
子ども達の創造と表現力を伸ばす遊びや取り組み
自分の気持ち、感じていることを、できるだけ同じ温度、熱量で相手に伝えることの楽しさと奥深さを知るとともに、自分がどんなことを感じているのか、考えているのかを素直に感じることができる。／自己開放の快感と、相手と共有する楽しさを知る。
伝統文化継承すると共に、和楽器の親しみを感じ日本文化の素晴らしさを知ってもらおう。また、新しい音楽を感じながら身体を使った表現を楽しむ。
音楽あそびやふれあい遊びを通して、小集団の楽しさを知る。
乳幼児とその保護者に対しては表現活動への興味関心の向上や刺激を通しての心豊かな発達、小学生に対しては能力的・自主的参加し、積極性や向上心の発達を目指している。
地域交流を通して地域伝承やこども達の自己肯定感を高めることを目的に行っています
物語の空想の世界に子どもたちを引き入れ、想像する楽しさを味わわせる。
ダンス教室は、長期休業中に体を動かすことが少ない児童も多い事から、新しい学期への心と体の準備を狙いに実施。／読み聞かせは、読書活動の推進のために実施。
演劇を通して仲間と認め合い協力すること、表現する楽しさを一緒に味わう／絵本の読み聞かせやふれあい遊び、リズム遊びなどを通して親子で遊ぶ楽しさを味わう／様々な児童文化財に触れ、子どもだけではなく大人も情操を豊かにする
自由に自己表現をすることで自己肯定感を上げる／様々な表現を知る事で、他者の理解とコミュニケーション力向上を目指す。
友達と心を合わせて演技することの楽しさを味わわせる。／近隣施設で踊りを披露することで、地域社会を明るくすることに貢献する。
児童館活動に協力指導してくれる方々に向け、感謝の気持ちをそれぞれの活動を通して伝える。
協調性、積極性
リズム遊びやうた、楽器演奏などを通して、親子や友達とのスキンシップや交流を図る。また、表現する楽しさを味わう。
音楽遊びを通してリズム感を身に付けていく。
ジャンルを問わずに、児童の自主的な発表意欲を大事にして自己肯定感を向上させたい。
子ども主体・自由な（好きな表現の保障）
表現することの楽しさを通し、周囲に認められることの嬉しさや、友だちとの信頼関係を深め、自己肯定感を高める。
観る、感じることから自らの表現につなげること
ダンスの楽しさを味わい、表現力を養う。
ハンドベルの演奏を通して演奏する楽しさを知る。
古くから地域に伝わる伝統の和太鼓について、太鼓の名前や種類を学び、実際に叩いてみる事で太鼓への興味を促したり表現の楽しさを味わう。（2）
邦楽楽器の三味線、太鼓等の習得、伝統文化の継承。情操教育。

自分の気持ちを言葉で表現する楽しさ、人の話を聞き自分の体験したことや考えたことを話し伝え合うことで充実感を味わう。
社会経験を増やすと共に、活動への参加により、新たな興味、関心を広げる。
絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、人と心を通わせる。自分の気持ちや感じたことを自分なりに表現する楽しさを味わう。
優しい心を育て、創造力を培う。
居場所としての認知の浸透、子どもたちの生活（習い事含む）の発表機会の確保、施設を介した地域との交流など。
親子の活動を豊かにすると共に、豊かな情操を養う。
差別を許さない仲間づくり
活動に参加する子どもたちの主体的な表現の場の創出と地域の方との交流を育む機会をなっている
豊かな情操の涵養と読書への興味関心を高める。
まず、子どもたちから「やりたい」という声が出たため、実現させたいと思った。表現する事で自分または友達から評価してもらおう機会として、肯定感 UP につなげたい。
自己表現のできる場を増やす。社会性を身に付ける機会を提供する。地域の方々に中高生世代への理解を深めるきっかけを作る。
できるようになったことや練習の成果を発表することによって実感する。表現活動を楽しむ。
本に親しみ、豊かな感性を育てる。また、体を動かす楽しみを知る。
感じた事や考えた事を自分なりに表現して楽しむ。
表現活動を通して表現する楽しみや情操を豊かにする。
音楽にふれる。
子どもたちの自己表現の機会／自信に繋げる／興味を広げる／リフレッシュとなる。
小学生は、表現する場の提供。幼児は、親子でリトミックの活動を通してスキンシップや音楽に親しむ。
表現する事の楽しさを通し、周囲に認められることのうれしさや、友だちとの信頼関係を深め、自己肯定感を高める。
音楽を聴いて、体を動かす楽しさを味わう。
情操を育む。
乳幼児親子が触れ合いながら歩いたり、楽器に触れたりして音感を養う。
施設の良さを感じてもらい、また来たい参加したいと思える内容となる事を目標としている。
表現力の獲得、リズム感の獲得、音の楽しさを感じる。想像力を養う。
あくまでも子どものやりたいことをやりたい人と計画し、作り上げ、発表することで自信や達成感を持たせる。また、参加は強制ではなく、友だちの発表を見て楽しむことも選択肢の1つと考える。
自己表現力の育成。
表現することの楽しさ、充実感を知る。
曲やリズムに合わせて、身体を動かすことを楽しみ、地域のおまつりなどで発表をすることを目標とする。（よさこい）／コミュニケーションツールとして手話がありますが、手話を使って、うたやリズムに合わせて、手話を表現することで、躍動感あふれる手話が生まれる。地域のおまつりなどで発表をすることを目標とする。
様々な体験の機会の確保
放課後児童クラブに来ている友だちと一緒に興味・関心のある表現活動の練習、準備、発表をすることで、連帯感や達成感を持たせ、自己肯定感を高める。
想像力を高め、情操を豊かにする（読み聞かせ）／練習したことを発表することで、喜びや達成感を感じる（ショータイム）

子どもたちが体を使ったり、様々な形でお友達や仲間と一つのものを作り上げたり、成し遂げる楽しさや見ている人に伝える楽しさを味わう。
体験活動の充実。想像力を膨らませる。
主体性とコミュニケーション能力の育成
子ども達の「やってみたい！」という気持ちを大切にしながら、自主的に活動に取り組めるように心がけています。仲間と一緒に同じ目標に向かって頑張り、周りの人からも喜んでもらったり、認めてもらったりすることで自信にもつながると思っています。
特に中高生と商工会議所や青年部の皆様との交流を通し地元栃木市における将来の活動の幅を伸ばしたい。最終的には地元就職してもらいたいです。小学生はその前段階として質の高い発表を保護者とともに目指します
様々な体験を通して、感性が豊かになる／感じたことを自由に楽しむ。
子どもたちの自主性。人の前に立つ勇氣。
触れ合いや共感しあえる時間の提供ができた。
身体を動かす楽しさや協調性、独創性、感受性を学ぶ。
踊りに親しみを持つ。団体行動を学ぶ。異年齢交流を深める。
親御さんたちが子どもと楽しく触れ合う場。親子の関わり。
感じたこと考えたことを自分で表現したり表現する喜び意欲を持つこと。
子どもたち個々の自主性を養う。
親子の触れ合い
地域の子育て支援。児童の健全育成。
乳幼児と母と一緒に参加して楽しんでもらう。
子どもの情操を深める。
人前で発表する非日常を体験する。感情（心や思い）を理解するきっかけとする。
読み聞かせを通して図書に触れる機会を増やし、読書の楽しさを伝え、情操を育むことを目的として実施する。
体幹を鍛えると共に、心も強くなるようにしていく。できるようになった喜び、友達と一緒に合わせる喜び、充実感を味わう。リーダーを決め、練習の計画、準備、実行する経験を通して自主性を高める。
様々な経験をすることで、情操を豊かにしたり、活動を通して自分の思いを表現できるようにする。
親子で体を動かす楽しさを感じてもらおう。お母さんたちのリフレッシュ。
読み聞かせや芸術鑑賞から子どもたちの豊かな発想力や創造力、情操をはぐくむ。
誰かの前に立ち発表する面白さ、楽しさ、達成感を知り、自主的に自己表現ができるようになっていく。
友だちとのつながりや表現することの楽しさを感じる。
音楽の楽しさを知る。豊かな感性を持つ。表現を楽しむ。
人権について児童に考えてもらいたい。
仲間と協力し合いながら最後までやり遂げる力を身に付けること。
リズムに乗って体を動かし楽しむことをねらいとしている。頑張った良かったという達成感を得て、「次も挑戦してみよう」という目標を持つようになる。
うまくなるなどではなく、音楽が楽しいと思えるきっかけ作り
練習を通して仲間同士の助け合いの気持ちを育てる／発表を通して達成感を味わう。
音色、楽器に触れ情操を養う。
楽しく遊ぶ
地区の敬老会などで発表する場がある事で、表現活動への高まりが見られた。自己肯定感を高める事ができた。
豊かな感受性と表現力（身体・言語）
自己肯定感の向上／人前での自己表現の楽しさを体験する。

子どもの情緒を豊かにし心身ともに健やかに成長する／曲に合わせて体を動かしたり、簡単なリズム遊びを楽しむ
豊かな創造性を育む／共感したり、心動かしたりしながら感性を育む。
表現活動を通して豊かな情操を養う
色々な音、リズムを楽しむ。体で表現することを楽しむ。
毎日、終礼時に気持ちよく全員で歌う事で一日の締めくくりとしている。祭りでの発表、行事（クリスマス会や新入生歓迎会等）でのダンスで集団意識を高めている。
感じた事を自分なりに表現でき、「もっと活動したい」という達成感や満足感を感じてもらうことをねらいとしている。
子どもの情緒面での成長を促し、自己表現の場として活用
物語を聞いたり、物を造ったりして想像力を豊かにする
音楽に親しんだり、リズムを楽しんだりして表現する楽しさを味わってほしい。
様々な経験をする事で、情操を豊かにしたり、活動を通して自分の思いを表現できるようにする。
音楽や体を動かす楽しさを感じてほしい。
規律ある自主的行動能力の育成。
音楽に合わせて体を動かす事や、自己表現をする楽しさを味わう。発表を目指し、継続して練習に取り組む。
子どもの感性や創造性を育む。友達と楽しく遊ぶ。
表現力の向上、人前で発表することの喜びを感じて欲しい。
親子で音楽やリズムを通じて触れ合いを楽しむ時間をもつ／音やリズムを合わせ、心を合わせる経験を持つ／自分達で表現を考え、構成し、できた時の達成感を味わう
子どもたちの主体性を伸ばす。他、発表の機会を大切にし、相互に良い影響をもたらすようにしている。
多世代・他世代交流、親子の交流
音楽に慣れ親しんでもらい、音楽を楽しむ
楽器の演奏を通して情操を高める／仲間との共同活動を通して調和の良さを体感する。
地域で子どもたちの様子を見てもらうため、手話ダンスの練習発表をし、健全育成活動に繋げる。
子どもたち自身の思いを最大限に尊重しながら、友だちとアイデアを出し合い、一緒に色々な踊り方に挑戦したり、表現活動に取り組んだりして、その真の楽しさを十分に味わえるようにする。
表現する事を楽しむ／様々な体験を通して、感性が豊かになる。
意欲向上、協調性を育むコーディネーショントレーニングもできる。身体表現からの様々な可能性が生ずること。
踊りの練習に参加することを通して、コロナ禍で運動の機会が著しく減っている子どもたちが、仲間と協調しながら踊る楽しみや達成感を味わい、自己肯定感を獲得する機会とする。また、踊りを発表することを通して、日頃の児童センターの活動を地域に向けて紹介する。
耳から聴き、想像力を豊かにする。
子どもたちの自主性を育む
毎日の遊びの中で子ども達の想像力を育みながら、自分が感じたことを様々な手法で表現することを楽しむ。仲間と感動したことを伝えあい自己肯定感を育むなど。
人前で表現する事により自信を持たせる。経験していない事を新たに経験することにより、様々な方向に目を向けさせる。
表現活動を通して想像力を豊かにし、自分達の思いや考えを自由に表現できるようにする。
乳幼児親子の触れ合いになり、子どもの情緒が豊かになる。

主体的な活動を目指し、踊る（読み聞かせる）楽しさを味わう
活動を通して達成感を得、自己肯定感の向上につなげる。地域の中に活躍の場を作り、子ども真ん中のコミュニティづくりを進める。
情操を豊かに育む等々。
遊びを通して、楽しさやイメージを発する
読み聞かせにより、様々な感情を疑似体験し、感情表現を身に付ける。 発表の機会を提供し、子どもたちの成功体験と努力を続けることの大切さを伝える。
自主性、創造性を養う。
発表することの楽しさ／自己肯定感を上げる／チャレンジしたい気持ちを持つ
子どもが表現活動を通して、自分の気持ちを自由に発信していけるようにする。
能楽やたいこクラブ、銭太鼓など日本伝統文化に触れる機会を提供、文化の継承。 発表を通して参加者の自己肯定感を育み、地域に児童センターの活動をしてもらう機会を作る。
表現活動を通じて自己表現する楽しさを知るとともに、達成感を味わう。
楽しく身体を動かすことを通して心身をリラックスするとともに、お互いの絆を深める。
友だちとの交流、計画、実施、達成感
おはなしや楽器演奏を体験する中で、情操を豊かにし、自分の感じたこと思いを、活動を通じて表現することができる。
友だちとの達成感を味わう。リズム感を養う。
子どもの主体的な活動の充実
四季を感じ、情操を豊かにする。気持ちを落ち着かせる。
体を動かす事や発表する事に達成感がわき、次へのステップをはかる。
それぞれの活動で協力して表現することで一緒に作り上げる楽しさを感じて欲しい。
練習や準備を通して仲間とのつながりを感じる。そして本番での発表を通して達成感を味わい自己肯定感を養う。
本に親しむ機会や、児童が大勢の前で発表することで自己肯定感を養う。
情操教育
郷土芸能について知り、自ら行うことで郷土を大切にしようとする心を育てる（さんさ太鼓）／リズムに乗って体を動かすことの楽しさや集団で一つのものを創り上げる喜びを味わわせる（キッズダンス）
音楽を通して心を豊かにする
子どもが感じたことを自分なりに表現する事で、感性を豊かにし、子どもの創造性を育んでいく。
読書に親しむ／図書貸し出し数の増加
表現活動は、児童の健全育成を図る上でとても効果があると思う。それは、身体の健康を増進する／心の健康を増進する／情操を豊かにすることと考える。
健康増進し、情操を豊かにすることを目的にしている。
図書・文学・物語に触れる機会の増加／クラブ活動による仲間づくり／自己表現力・合意形成力の向上。
伝達、コミュニケーション、能力の向上。／体的活動の促進／異年齢活動の活性化。
子どもの自己表現力を高める／子どもの感受性をはぐくむ
豊かな表現力を獲得する／演劇活動に触れてみる。
表現する事を楽しむ／様々な体験を通して、感性が豊かになる
曲に合わせて、ステップや体の使い方を学び、表現する楽しみや、協調性を学ぶ。
様々な経験を通して表現の楽しさを体感すること。
様々な活動に触れさせ、人ひとりの可能性、良さに気付かせる。表現する喜び、伝える喜びを体感させる。
情操教育を中心として、心を豊かにしたり、仲間作りをしたり、所属感を高めたり、

社会性を養ったりなど、ねらい・目標は多岐に渡る。
様々な体の部位の使い方を知り、リラックスする事を覚える。
活動を通して技術の向上や知識の向上
年間を通じて「読み聞かせ」を継続して行い、絵本の世界の楽しみ、喜びを共有する。文字や絵に親しむ／クリスマスという特別なシーズンを迎えるにあたり、歌や楽器に触れ、興味を持つように促す／人前で朗読・演奏することにより、緊張感を持ちながら披露し、達成した喜びを感じることができる。
音楽に親しむ。
想像力が豊かになる／人の立場に立って、考えられるようになる／コミュニケーション力を養う
表現活動を通じて、子ども自身の情操を豊かにすることねらいとします。また、読み聞かせやコンサート出演においては、表現する事の楽しさを味わい、人を楽しませる経験を積むこともねらいとしています。
自分の感性を素直に表す／音やリズムを楽しむ。
身体表現する事で自己を開放し、精神的な安定に寄与する事をねらいとしている。
体や声を使って表現する楽しさを知る。友達の表現をみる。
読書活動の推進
心を動かす事に触れ、イメージを豊かにしたり、様々な出来事の中で感動したことを伝え合える楽しさを味わう。
音楽、リズム感覚の醸成。運動機能の醸成。集団の中での仲間づくり。
調べ学習や台本作りからプログラムを作成し、最終的に地域の方や児童センターの来館者の前で発表することで自己肯定感を育成する。
こどもが自ら活躍し、考え、表現する過程の中で協調性や主体性を育む。
子どもの想像力を育み、相手の気持ちについて考えられるよになる
リズムに合わせて体を動かす楽しさ、大きな声でうたう楽しさ、友だちと一緒に行う楽しさを味わい、情操を養う。
自分から進んで参加することにより、学校、家庭では得られない押しつけでない協調性を育てたい
楽しさや喜びを味わうことができる／表現力やコミュニケーションを養える
親子共の活動の為、触れ合いを感じながら、基本的な人間としての生き方を学ぶ。リズム体験から、仲間づくり利他の心を学ぶ。
表現活動を通して、豊かな人間性を育成する。
表現力（伝える力）を仲間と一緒に高めることを目的にしている／楽しくつながっていききたい
感じたことを自分なりに表現することで、豊かな感性を養い、創造力を豊かにする。
表現する喜びを味わい、意欲を持つようになる／友だちと表現する中で、力を合わせる大切さに気付く。
心身の健康、知的適応能力、社会適応能力、情操を養う。
表現活動に取り組むことで、視野を広げたり、興味の幅を広げたりする。
音楽を通した親子のふれあいを深める
職業体験と読み聞かせを併せて実施することにより、親の子どもへの愛を確認してもらい、中学生にはいのちの大切さを感じ取ってもらうことを目的としている。
表現活動は楽しいこと。
教え合うことによる立て割学年のつながり、子ども同士の成長、自分を表現することの気持ちよさ、達成感
感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
創造力を育む／情操教育
子どもが主体的に活動し、表現力を高めることにより、子どもの社会性の向上を図る感情や想像を豊かにする。

感じたこと考えたことを自分なりに表現する／色々な素材に親しみ、イメージを豊かに試したり工夫したりする
仲間作り、練習してきた成果を発表し、達成感を味わわせる。
概念にとらわれず、一人ひとりの豊かな創造性、感じた事を自分なりに表現することができる。
子どもの想像力を豊かにしたいため。
音楽に興味を持つ。
練習を重ねてできなかったことができるようになった時の達成感。
子どもの情操をはぐくむ
仲間で実施することで、達成感を味わう。
練習を通してみんなと協力すること及び発表することによって達成感を体験させる。
表現を楽しむこと、自己表現の力を培うことをねらいに実施／言葉以外での表現を通しての喜びや発散等／他の人に見てもらおう事での達成感や充実感等の効果を感じる。
本格的な人形劇を楽しんでもらう。
楽しみながら他者との関りを通して連帯感や感性を育む。
季節に合わせた内容を選び、情緒を育む
体を動かす事の楽しさを味わってもらう。
季節の行事や楽曲に合わせてイメージを深め、体を動かす／季節の歌を楽しみ、楽器や手拍子でリズムをとって楽しむ
音楽に合わせて体を動かす楽しさを味わう／親子で一緒に活動し、ふれあいを楽しむ。
音楽に親しむ／自然に運動を楽しむことができる／情操が豊かになる。
みんなで楽しむことを何よりも考え、ストレス発散もできるようにする。また、お家時間をより楽しみのあるものにしていけるような取組とする。
音楽を通じた地域交流の促進や、子どもたちの情操を育むことを目的とする。
子どもたちの表現力や豊かな情操の醸成
歌や絵本などで季節を感じる／親子のふれあいタイムを楽しむ
子どもの情操を育み、感性や創造性を高める
読み手の伝える力や聞き手の想像力の向上を図り、情操を育む。
自分の想いを思い通りに身体で表現する方法を体得し、その楽しさを味わうため。
練習を通して互いにアドバイスをしたり、教えたりすることで仲間意識や思いやりを育むことが最大の目的。発表して他人からの評価を実感して充実感や達成感、次回への反省、更なる意欲をもつこと。
読み聞かせはたくさんの物語に触れることで想像力や情操を育む／ダンスや人形劇では自己表現の機会として
テレビやゲームに依存せず、会話を楽しんだり、みんなで過ごす楽しさを感じる。
子どもたちの創造性をかきたて、心豊かな子どもに育てるため
年齢に応じた表現力を身に付ける。表現する楽しさを知る。
音楽やダンスに親しみ、表現することや音楽の楽しさを知る／発表等を通して、自主性・社会性・自己肯定感を育む
表現する楽しさ、人前に立つ緊張感や達成感などを味わえる。
豊かな情操の涵養
感性を豊かにし、想像力・創造力をはぐくむ／表現することの喜びや楽しさを味わう
みんなで協力すること。
生活の中で様々な音、色、形、感触などに触れ、心が動いたり、感じたりしたことを伝え合ったり、自分なりにあそびの工夫したりして豊かな情緒を育む。
子どもたちが楽しく参加できること
豊かにのびのびと自己を表現できること。
子どもの表現力、創造力、コミュニケーション力などの様々な能力を育むこと／家族

間や参加者同士のふれあい、交流
子どもによる絵本や紙芝居の読み聞かせを行い、読み聞かせをとおして、豊かな感受性や想像力を育み、子どもたちの情操を培う機会としている。
練習をして上達することを楽しむ／異年齢間や友達同士で教え合い、協調性を育む／本番の発表を経て、達成感を味わう
音楽やダンスといった活動を通し、児童や保護者同士の交流を深める。活動によっては、発表会を目標として、演技の熟練性を高め、自己表現力や達成感を味わう。
協調性と主体性を伸ばし、自立する力をはぐくむ
こども自身が表現者になる体験をする中で、自信を深める。
児童の芸術的感性を養い、公演を楽しみながら地域交流を深める。
自分の得意なことを発表することで自信が持てるようになる。また、周りと相談しながら完成させることによるコミュニケーション能力の向上。成し遂げた達成感が得られる。
自己表現はもちろん、他者の表現を受け止める「心を育てる活動」と認識しております。それぞれの世界観の違いを否定せず、尊重し合う関係性構築や、相手の考え方や周囲に合わせる協調性を身につけることがねらいとも捉えております。指導者側で制御しきれない発展性を持ち、活動者自身の自主性に委ねるところが大きく、匙加減の難しい活動だと考えます。
本や物語に親しみながら、子どもたちの情操を育む。
ダンスを通じて体力づくり。
子ども自身がチャレンジする意欲を高める。
音を楽しみ、情操を養う／子ども自身が創作することにより、主体性を養う／集団で音やダンスに取り組むことで、協調性を養う／地域での発表で、地域と繋がる
自分で考えた動きを表現して喜びを感じたり、達成感を味わう／皆と一緒に合わせることで、そろった一体感を感じ取る
「やってみたい」で集まってきたメンバーで楽しく身体を動かして自信を持つ。
仲間作り、主体性や向上心の育成。
自分自身の考えを他者に伝える力を身につけるため
表現する喜びを知る。楽しい、うれしいを分かち合う。
表現するために必要な技術を身に付ける。／情操が豊かになる。表現の仕方を工夫したり、表現することを楽しむ。
音楽の楽しさや体を使った表現の楽しさを知る／楽器やダンス、紙芝居の練習をし、人前で披露することで自己肯定感を高める
豊かな感性を育み、ダンスなどの表現の楽しさを味わわせる。
子ども達の自由な発想から、「興味」や「やる気」を大切にし、行っていく／活動を通して、自己肯定感や達成感を高める。新たな意欲や今後の活動に繋げていく
自ら考えたものを形にすることで自信がつく。他者の視点を考えるきっかけとする／周囲の人と1つの作品を作ることで協力して物事を進める経験をする
集団活動を通した心の成長の育成と運動遊びでの体力作り
季節の歌を通して季節を楽しむ／保護者とふれあいながら、コミュニケーションを深める／楽器を使ってリズム遊びを楽しみ、音を感じる／相手のまねをしたり、言葉のやり取り等を通して、伝わる喜びを感じる／親子同志の交流を図る
活動を通して、こどもたちが自分の内側をみつめたり他者の気持ちを知る。また、それをものごとりにのせて表現し共感してもらい自己肯定感を高めていく
人との関りを通してともに活動する楽しさを味わって欲しい／仲間とやり遂げる達成感を感じてほしい
音楽を仲間と楽しむ／発表することで自信に繋げる

絵本を子どもたちにたくさん知って欲しい／絵本の内容で子どもの情緒が豊かになるように考えている
創造性を高め、感性を豊かにする。
主体性、創造性、社会性（協調性）を育む
音楽に触れながらリズムに合わせて体を動かしたり、楽器を鳴らしたりしてリズム感を養い、かつ、心身の成長を促す。
高いレベルを求めるのではなく、子どもたちのやりたい気持ちを大切に間口を広げて活動を行っている。
縦の繋がりの中で、子どもたちが話し合い、協力し合い、一つの物を作り上げ、他児の前で表現する。
子どもたちが活動したいことを選択、主体的な活動を通して努力する気持ちや達成感を育みたい。
中学生と幼児親子の世代を超えた交流。
表現活動を通して、想像力、創造力を豊かにする。また、異年齢のコミュニケーションを図る（男女関係なく）。
表現力を養う。発表の場を持ち、達成感、皆で一緒に表現する楽しさ。
お話しの会（読み聞かせ）の活動により、想像力が育まれ感情も豊かになる。また、集中力も向上する／ヒップホップやダンスなどの身体活動により、運動能力の向上はもちろん、感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむことができるようになる。
情操を豊かにする。表現する事で自分に向き合い、相手の思いを汲む／親子または参加者どうし交流する。
情緒の安定を測る。話を聞く姿勢を身に付ける。
こどもたちの感性を豊かにし、想像力（創造力）を育む。
ダンスの基礎を学び、音楽に合わせて身体を動かす事の楽しさを知る／子ども参画会議の意見を基に事業を実施する
児童の情緒育成のため
音楽を通しての親子のスキンシップ作りの場を目指している。
自主的に取り組む姿勢を養う。のびのびと題材を考える。
子どもの成長・記録／親子のふれあい／親同士のコミュニケーション
身体を動かす楽しみを知る
子どもが主体となって考え、自分を表現する。
音楽や体を動かす事に興味を持ってもらう。
本に親しみ、心を豊かにし、表現力を伸ばす
楽しく興味を持ち参加する。
手遊び、絵本読み等で親子や利用者の触れ合いを高める。
自分の特技を発表する場を提供することで、人前で発表するため、努力、練習を重ね、団体で行う場合は、相手を思いやる心も生まれる。自信もつく。
地域ボランティアによる活動。活動の幅を広げ、皆で合奏する楽しさを感じてもらえればと思う。
豊かな情操を育み、趣向を凝らした魅力ある行事や活動を行う。
同学年、異年齢の繋がりを大切にし、発表することで達成感、自己肯定感を養う。
地域の子どもたちに受け継がれてきた踊りを伝えていく／市民文化祭で発表することで、児童館の子どもたちの活動を地域に発信していく／日頃聞かせていただいている民話を、自分たちも体験することで、民話の奥深さを知る。
情操を豊かにする。達成感を味わう。
表現活動の楽しさを共有する。
音楽に合わせて自分の体を動かす楽しさを知る。体力を養う。リズム感を養う。音楽表現の楽しさを知る。

子どもたちへの新しい体験の場の提供。ことばや絵ではない身体を使った表現方法の獲得。／体験したことによって世界を広げ、さらに興味を深めていくためのきっかけづくり。
動きの対する豊かな感性を学ぶ
身体を使って表現することを楽しむ
子どもたちの自由に体で表現する力を伸ばす／歌詞やリズムの楽しさを味わい、友だちと分かち合う。
読み聞かせを通して、絵本に親しみ、想像力を養い、情操を豊かにする。
表現活動を通して、親子のコミュニケーションの機会を創出する。
感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。また、感じたイメージを膨らませ、様々な表現を楽しむ。
曲に合わせて楽しく体を動かす／発表の場を設け、自信・意欲の増進につなげる。
色々な表現活動を通して子どもが「楽しい・もっとやりたい」と感じ豊かな感性を育む。
あまり型にはめず、子どもが自主的に楽しめるよう心掛けている。
自分が思うものを外へ出し表現し他者に伝える。自分を受け入れてもらえる体験、他者を受け入れる体験をし、多様性を理解し優しい世界を知る。また自分を外へ向け表現することの快体験をすることによりストレス発散をする。
子どもたちの集団での結束力や高学年が低学年の面倒を見るなどのねらい／最後まであきらめずにやり遂げる気持ちを育てることを目標とする。
小学生は通常のイベント活動ではやらないダンスを経験して楽しめるようにする／乳幼児はバレエやリトミックの要素を取り入れた親子の触れ合いを楽しんでもらう
活動を通して、様々な感覚を味わう経験をする。感じた事や考えた事を自分なりに表現する。そしてそれを周囲から受け入れられる。
子どもたちがイベントに向けて仲間と考え練習した成果を発表することで、達成感や自己肯定感を感じる事ができる。見ている子どもたちも次は自分もやってみたいという目標ができる。
子どもと指導者、子ども同士が表現活動を通してコミュニケーションを楽しみ、表現の世界を一緒に作り上げていくプロセスを通してコミュニケーションを深めていくことです／自分を出せる場があることで承認欲求が満たされ、心の安定につながることです。
記憶力・洞察力・表現力・想像力・創造力・言語力・コミュニケーション力・ルールを守る社会性・心の発達・体力向上・リズム感・協調性・向上心・楽しむ力などを養うことが目的である。
音楽に合わせて、身体を動かす楽しさを知る／団体演技をすることによる達成感を味わう
読み聞かせを通して、本の楽しさを知り、想像力を育む／友だちの前で読み聞かせをすることにより、子どもが特別感と達成感を感じ、豊かな成長へつなげる。
子どもたちの情操を発達させることで、青少年等の健全育成に繋げる。
情操や達成感を育む機会とする
長期的に異年齢で活動することで協調性を高める。また、子どもが主体的に活動できる環境を作る。
音楽を通して季節を感じたり、体を動かす楽しさを味わい、心身の発達を促す。
想像力や発想力を養う／他者との協調性を育む／自分のイメージや気持ちを、言葉や制作物等を通して表出する楽しさを味わう。
身体感覚の経験を豊かにすることで、自分なりに表現する力を育む。
友だちと一緒に表現する楽しさを知る。
日頃、児童館のスタジオで練習しているバンドに、児童館の中で気軽に友達や小学生の前で発表できる機会を設ける。

演奏機会を与える。演奏を聴いて、楽器の名前を知ったり、生の音の迫力を体感する。
集団での達成感を味わう／表現する喜びを知る。
皆で作上げる喜び、達成感。
活動を通じて自己実現の機会や、他者と共に活動する機会にあっては、体験を共有する事による仲間づくりの機会。
音を楽しむ。
絵とお話の内容から想像を広げ豊かにする
自分たちの考えや気持ちを体を使って表す
年間通して行うことで、幼児の成長（感情・言語等）を促す
普段自分たちが練習に励んでいるこま、けん玉、お手玉の技術を発表する場として設定。
「本物に触れる」をモットーに、なかなか触れる事のできないバイオリンを体験する。音を出すことを目的とはしない／乳幼児対象行事は、季節を感じることができる本の読み聞かせやリズムあそびをする。
体を動かす事により、身のリフレッシュが図れる
子どもの体験の幅を広げることを目的としている／子どもの感受性や表現力の育成／仲間同士で楽しみを共有する喜びを感じる
自分の意識向上／人前で発表する事への自信を持つ／周囲との交流の深まり。
異年齢交流・高学年のリーダー育成
色々な表現活動に触れることで、情操を育み、未知の事にチャレンジして充実感を得たり、自分自身を表現したりする手段を見つけることに繋がればと考えている。
音楽に親しみ、歌や楽器を使う楽しさを味わう／自分の好きなものイメージなどを表現し伝える喜びや、感じ取る力を養う
想像力や発想力を刺激する事で、子どもたちからの要望の幅が広がる事が期待できる。感じたことを自分なりに表現し豊かな感性を育む
子どもたちが真剣に音楽に対して聴いてくれるので、少しずつ身近に感じたらと思い、計画している。
コロナ禍における運動不足解消等。
就学前の子ども達には体の発育を考えたメニューとし、併せて保護者の悩み等の相談にも応じている。小学生にあっては、本人がやってみたいと思う事を自分の意志で選ぶ事ができるように先輩たちの発表を観ることで「かっこいい」「やってみたい」などの自主性を持って取り組める工夫をしている。楽しく安全に、そして自由に活動してもらいたい。
言葉以外のコミュニケーションの取り方を学ぶ。努力した成果を皆に見てもらい、自信に繋げる。
リズム感ある動きを伸ばす。
子どもたちの自己表現を促進する。
自主性を高め、協調し練習を繰り返すことにより達成する喜びを味わう
協調性や自分で考える力を養う一助になれば良い。
楽しい時間、ほっこりする気持ち、好きになってくれる、いつか自分もやってみたいなどと思う気持ちが持てたらと思う。
人間関係、言葉で表現する楽しさを味わう。子どもたちの自信にもつながる。
想像力、友達とのコミュニケーション、行動力など、表現活動を通して育てたい。
音楽に親しみ、ハンドベルの音色に癒される。
絵本や物語などに親しみを持ち、広く心を通わせる
情操を深め、豊かな心を育てる／仲間と協力し表現することで、互いを認め合い高め合う。
身近にあるリズムや音を楽しむ、音楽を楽しむ姿勢を持つ／行事において発表するために協力して取り組み、達成感を味わう

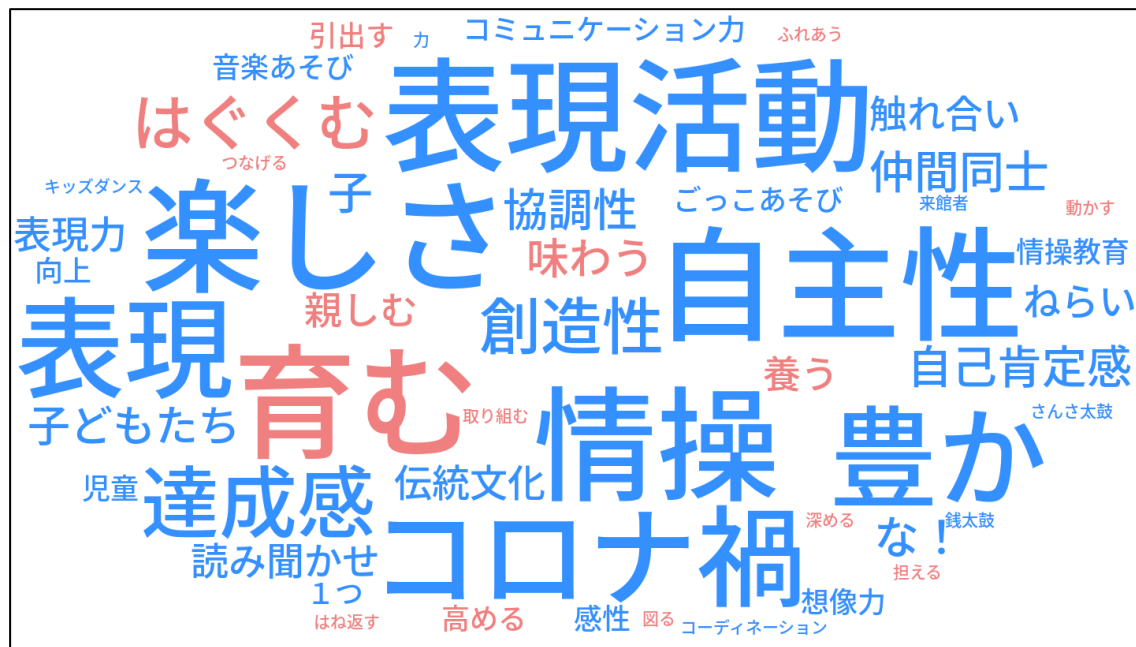
子どもたちの自主制、主体制や自己実現を育む。また、多数で1つのことを取り組む楽しさや協調性や団結力を育む。表現力も養われる。
自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう／コミュニケーション能力を育てる。豊かな感性や表現する力を養い創造性を豊かにする
「児童館って楽しいな!」「また明日も来たいな!」と感じてもらい、利用してもらうための一翼を担える一つとなって欲しいと考える。
親子のふれあい、身体を動かす心地よさを味わう
本に触れる時間を設けることで、読書への興味・関心の向上を目指しています。
言葉が分かるようになるとともに絵本や物語りに親しむ
表現力、自主性の向上
全身を使って運動することで、体力の増強や精神的なリフレッシュ等を図ることができる。また、複数人が動きを揃えて踊ることによって、他社との交流や一体感を感じることができる。
季節感に合わせたものを選び、子どもが興味関心が持てるようにしている。
子どもたちのリズム感や運動能力を鍛えること。
情操を豊かにする
他の学校・学年の子どもたち同士で一つのものを作り上げることで様々な経験を積み、また自分が上級生になった時に全体をまとめるリーダー的存在としての役割を担えるよう取り組む。また練習を積み重ねて大勢の前で発表することで自信や達成感につなげる。
小学生は自分の表現する場として、クラブ活動としてや自主的に好きなことをしている。
乳幼児親子はママたちの息抜きと触れ合い方、読み聞かせ。
音楽を感じ、ほんのちょっと心豊かになれるひと時を目指す。
児童のアイデアや自主性の向上
様々な表現遊びを通して情操を豊かにする。
日常とは違う活動を通して新しい体験や友人との関係を深める。
表現活動を通じて、見たこと、聞いたこと、感じたこと、体験したことなどから、自ら表現する事や表現する楽しさや面白さを味わうことに繋げる。また、豊かな創造力、発想力を生み出し、育むこと。表現することから「できる」「できた」、達成感に繋げ、子どもたちの自己肯定感の向上につなげる。
本の楽しさや身体を動かす楽しさを知る
表現する事の楽しさを知る／発表する事で達成感・充実感を味わう。
皆で教え合い練習する中で、仲間づくりを図り、自主性や協調性を養う／練習を続ける事の大切さや、努力し頑張る事の大切さを学び、活動を通して学んだ事を学校、地域、家庭の中で活かす。／練習した成果を地域行事等で発表し、自信をもって発表する力を養うと共に、地域の一員としての自覚を育てる。
絵本や音楽に触れ、楽しむ。感性豊かな子に育てて欲しい。
様々な活動を通して心身の健全育成を図る(3)
自己表現及び体育的、チームコミュニケーション効果
子ども同士や関わる大人との交流。体験の豊富化。
全員が同じ動きをすることで、見ている人に感動を与える事ができることを実感し、集団活動の素晴らしさを体験する。
他児とのコミュニケーションの機会の向上等
心に響く作品に親しみ豊かな心を育む
直接、利用者が「表現活動(観劇・読み聞かせ・ダンス等)に触れることで、感性を育てる。伝え合う喜びを知る。
内なる感性からあるれ出る力を楽器や身体表現等で発信する。
表現力や基礎体力を高める／仲間との共感関係や集団性を大切にする姿勢を身につけ

る。
色々な楽器に触れ歌ったり踊ったりして身体を動かし、自由に表現する事ができ、満足感、達成感を感じることができる。
子どもたちの想像力を掻き立て、自由な発想やイメージを具現化させることをねらいとしている。
表現する事を楽しむ／様々な体験を通して、感性が豊かになる。
小学生等の子どもたちには歌詞の意味や相手への伝え方、聞き取りやすさ等の能力を培い、発表を通して人前で披露する力を身に付ける。音楽に合わせて歌ったり、演奏することでリズムをとる能力を培い、ゆくゆくは音楽で自分を表現する力をつけるきっかけにする。大人向けのコーラスの目的は児童館まつりでの発表だが、同じ趣味、好きなことで集まり、練習をすることで社会での孤立感を緩和し、好きなことに時間を使う事で子育て疲れ等からのリフレッシュを行う。また、実際に練習してきたものを発表する事で達成感を感じ、生きる力につなげる。
情操教育。
分かりやすく、どの年齢でも一緒に行うことができる。表現活動を通して、楽しさや思いを巡らせたり、自己を表現する面白さを感じられる。
仲間づくりや交流を図る
地道に練習を重ね、大勢で演奏する心地良さを感じ、また、仲間で力を合わせ成し遂げる喜びを感じて欲しい。長年児童館で先輩方から受け継いできた和太鼓を、後の子どもたちに繋げて欲しい。また、地域での発表から、地域の中の一員である自覚を持って欲しい。
自主活動の奨励。
子どもたちが興味を持っている活動の機会を作る。
自主性協力性を育む
音を感じながら楽しむ
「目標に向かってみんなが仲間として協力しあう力を持てるようにするため」を活動の目的としている。
感情や情緒を育み、表現力を身に付けると共に、グループ活動を通して自主性、協調性等を高める。
乳幼児親子のふれあい遊び、子ども自身の表現能力を高める
日頃の活動の成果を発表する場を提供する事で、モチベーションUPと共通の音楽活動をしている利用者同士の交流を図る。
身体を動かしながら、親子の触れ合いや活動の満足感を味合わせる。家庭での触れ合いにも活かす。
ダンスに興味を持ってもらい、学校の授業では体験できない専門的技術を知り、継続的にダンス体験をしてもらう。
学年をこえた子ども達の交流。ダンスを通して、他の子と一体感や達成感を味わう。発表会を通して、自信を持って自分を表現できるようになる。
多くの絵本に触れることで、創造力を育み、また、共感性や相手の気持ちを理解する心を育む機会としています
地域で活躍する次世代を育てる。
仲間づくり、情操教育、礼儀作法、伝統文化の伝承。
異学年の交流を深め、みんなで目標に向かい、一つのを創り上げる喜びや達成感を味わう。
練習の成果を発表するためには、普段からの努力とチームとの調和を大切にすること。ワクワクドキドキ感を感じる。
子どもたちの自由な発想や想像力を活かすことで、表現活動の発展や自主企画につなげる／表現活動を楽しむことで、達成感や自己肯定感を感じ、自己実現につなげる。
年に3回ある発表会での演奏。

歌やダンスなどを通じ、表現することが楽しいと思えること。また活動を通じて、子ども同士や若者世代とのつながりが生まれる場を作ること。
合同発表会に向けて、集団での表現活動を行い、ホールで発表する。
何でもいいし、そのものを表現するにはどうするかを学ぶ。例えば人のダンスの動きを見て、空を飛んでいる様を感じたらその動きを覚え実践することで、飛行とは何なのかを意識する。この意識を持って実際に飛行機で飛んだ場合に、飛行そのものの感覚をどう感じ取るのかも合わせて何かを発見できるかも知れない。
親と子の触れ合いを通じて、共に情緒の安定を図る。また、子育ての楽しさを共に分かち合うきっかけづくりの場を提供する。
利用者の自主的な活動のサポートを行い、活動を通して利用者に社会性や自主性を身につけてもらうこと。
自分の思いや、気持ちを伝え合ったり、自分の気持ちを表現したりすることを楽しむ。人の話や言葉をよく聞き、日常生活に必要な言葉を習得する。
リズムに乗って楽しく体を動かす事で、心身の発達を促す。
子どもの健全な自己表現力の育成、遊びを通じた親子の触れ合いや異世代の交流。
自己表現力や集中力、スキルの習得と向上。コミュニケーション能力や協調性を養う。感性が磨かれる。
音楽に触れる機会を持ち、体を使って表現する楽しさを知る。集団で取り組むことで、楽しさを共感できる場を作る。
真似をするため、観察する力を身に付ける／音や曲に合わせて、リズムカルに体を動かし、心身共にリフレッシュ／単純なリズムに合わせる動きで一体感を感じる／想像力が育まれる／感情が豊かになる。
小さな時から音楽やリズムに触れ、様々な表現方法で自分を開放したり表現できるようにする。自己表現を実現できることで、楽しさを自信に繋げていく。
豊かな心を育み、表現の技術を身に付けると共に、学校を越えた人間関係を作る。
年鑑を通してワークショップを行い、ミュージカル創りを通して、仲間作りや中高生の活動支援。
自分でイメージを膨らませ、工夫して遊びを作り出す力が育つ／豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。
音楽に親しむ。音楽を楽しむ。
親子のスキンシップと子育て中の母親同士の交流、情報交換を目的とする。
見立て遊びを通して友達とイメージを共有し、コミュニケーションを取りながら遊びを楽しむ。イメージを膨らませながら表現して遊ぶ。

問7で自由記述されたテキストデータを、ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://wordcloud.userlocal.jp/>) で分析した結果、下記のような結果が得られた。

【図1 「表現活動」に期待する効果】



この図は、自由記述の中でどのような単語が多く使われたかを可視化したものである。回答の傾向を見る目安として参考にしていきたい。

なお、自由記述では、おおよそ次のような効果を期待していることが見て取れた。以下に列記する。

- ・子どもたちが表現活動を行うことで、表現をすることの楽しさを体験し、表現力が高まること。
- ・情操が豊かになること。
- ・自主性や創造性が高まること。
- ・仲間同士や講師等の地域の方々との関わりにより協調性、コミュニケーション力などが高まること。
- ・自己肯定感や達成感が充足されること。
- ・出版物・音楽等の舞台芸術などの文化財に親しむこと。
- ・日本や地域の伝統文化を知り、伝承されること。

詳細はそれぞれの自由記述を参照されたい。

問8.「表現活動」の質の向上（効果性や継続性等）のための工夫や留意点について記入してください。

問1で、「表現活動」を実施していると回答した570館のうち、回答が記述されている416館の回答を表示した。（自由記入）

【表11 質の向上（効果性や継続性等）のための工夫】

「おはなしクラブ」では、子どもたち自身が「みんなに聞いてもらいたい」という本を選定することで、聞き手の人のことを考えながら練習をしています。情景が伝わるように制作物も作るなど、工夫をしながら取り組んでいます。子ども同士が伝えあうことで、目的の効果は確実にあると思います。
「表現活動」事業を定例化して開催している。
0歳からOK。おしゃべりOK。途中から、途中までOK。お母さんにもリラックスして欲しい。
1人ひとりの感じ方に向き合い認めていくこと。
1年間を通しての練習成果を発表する場を設けることで、目標を持ち意欲を高める。
1年生から中学生の幅広い繋がり、差別を許さない仲間づくり
PR活動
あまり難しくしすぎず、少し頑張ればできるくらいのレベルのものにする。
いずれも時間及び場所の提供をして十分楽しめるようにはしていた。
イベント開催時に参加者からアンケートを回収し実施内容やニーズの把握を行っている
イメージが広がるような環境づくり／職員の言葉がけ（きっかけをつくる）／その子なりの自由な表現を受け止め、評価はせずに、共感すること。
うたや表現の出来栄にこだわるのではなく、子どもたちの素朴な表現を受け止め、主体性や自発性を発揮できる活動になるように援助している。
エイサーは経験者を中心に教えてもらい、発表の場を設ける事で、こども達の意識向上を図っています。
クラブとしてメンバーを募集して継続的に実施する／読み聞かせは、日常活動内でも取り入れることで子どもが自主的に読み手になっている／ダンスでは講師を招いて、向上心を持って取り組めるようにしている。
クラブの開始4月から1年間、基礎から練習し、3月に発表の場を設け、家族や来館者に聴いてもらい、達成感や楽器の楽しさを感じてもらう。
クラブ員を中心として、作品作りや人形作り等を行う。ビデオの活用やプロの人形劇団から指導を受け、意識を高めさせる。
クリスマス会などでの発表を目標にすることで、継続的な参加を促す。
グループの一員として参加ができるような配慮／楽しく参加できるような促し／できたことを認めてあげられるようなコミュニケーション
コーラスはキッズコーラスクラブとして年間通して活動している／リズム遊び、リトミックも毎月取り入れるようにしている。
こどもクラブというスタイルで楽しめる場づくりを行っているが、保護者の希望で申し込んだり「お教室」のようにならないように、子ども自身の「やりたい」を確認しながら実施している。
こどもの発想や感性を大切に、こどもが主体となり活動ができるように支援する。また、それに必要な環境を整え、発想の広がりを促す。
これまでに実践してきたことが、マンネリ化しないように、常に指導者側がリーダーを張って、子どもたちの欲求をよく知っておき、対応できるかどうか検討しておくことも大切と思う。
これまでのプラネタリウム解説の概念に捉われず、子どもの自由な発想を大切にする。

また、子どもの得意なこと（機器の操作、発表、絵を描くことなど）を活かせるようにする。
コロナでなかなかできないが、地域での発表の機会を作る。
コロナの影響から人前で発表する場がなくなり、以前からの取組を継続できない現状がある。もう一度、今の置かれた環境からできることを工夫して支援していく必要がある。
コロナもありましたがやはり継続だと思います
コロナ禍という事で、人数制限、換気、間隔など配慮した。
スタッフミーティングを通して、アイデアを広げていく。
ストリートダンス教室では、保護者等に参観してもらう発表の場を設けている。
スモールステップで小さくても成功体験を得ることで、やる気や自信や意欲に繋げる側も他からの刺激が必要。（鑑賞したり、自然や非日常に触れる事が大事）継続するためには、予算や小規模な場所でも来てくれる人が（グループ）いると有難い。
それぞれの活動を熟知している外部講師やボランティア講師に依頼している。
ダンスクラブはメンバーを募集し目標を定めて1年間の活動としている／児童による読み聞かせは月3～4回実施する日を決めて児童に周知している。
ダンスでは、子どもたちのレベルに合わせたプログラムを取り入れるなどの工夫をした。子どもたちの表現力、集中力の凄さが伺える。
ダンスのレベルに合わせてグループ分けし、それぞれのグループごとに練習する。
ダンスの練習をしやすくするための検討。具体的には鏡の設置など。
ダンス教室は地域で活動する講師に依頼し、活動の継続性をねらっている／読み聞かせは、各界から推薦を頂き実施している。
ダンス講師による教室の実施／自治体内8児童館合同の発表会の実施
ダンス等の身体を使った表現力を学ぶ機会を定期的に設け、多くの利用者（子ども）が参加できるように工夫している。
チアリーダーを指導者として依頼し、専門的な動き、踊りに親しむ。
チーム内での協力、各自の技能アップを大切にしながら指導している。
できた時の喜びや達成感を感じられるように進める。
ニーズを把握し、情報収集に努め、計画的に運営する／外部講師と連携を密に図る。
パパ・ママ・幼児さんたちがまた行きたいなあと思う様な内容を考える。
バリエーションを考える／司会、進行では声の大きさや速さの練習等をする。
ハンドベル、和太鼓（ペットボトルでリズム打ち）は繰り返し行う。
ハンドベルは簡単な曲を選び、参加しやすくする。
バンドメンバーに実行委員となってもらい、意見を取り込んでいく。
ふれあい遊びは毎週水・金曜日の決まった時間に行い、継続的に実施している。全ての職員が担当し、自分で絵本やふれあい遊びを選び行っている。職員同士でお互い見合い学ぶ時間を取っている。
ふれあい遊びや読み聞かせなど、一方的になりすぎることがないよう参加者の親子が楽しめるように工夫をしている
プロの色々な表現方法を鑑賞する機会を何回かもうける。
マンネリ化しないように、少しずつ難しい曲にチャレンジする。
やってみたいという気持ちを尊重し、無理強いせず、子どもの意見を積極的に取り入れる。子ども同士で話し合いをする際には、少数意見にも耳を傾けられるような声掛けをする。
やってみたいという好奇心の芽を伸ばす
やる気になるような声掛け／楽しいと思える環境作り。
より具体的にアウトプットすること（ごっこ遊びで使う道具にもリアリティを持たせること）で、さらに「やってみたい」「あれも欲しい」といった子どもの興味関心を引き付ける事を大切にしております。そしてそれを子どもたちと一緒に作り上げること

で「別なことにも使える」など発展性があることに気づかせることも工夫しております。
わかりやすい表現、楽しめる音楽を使う
わらべうたなど多く知っている方々に参加してもらう
異学年での交流が増えるよう設定
異年齢の児童が参加しやすいよう簡単で覚えやすいものを選び、個人が恥ずかしがらずに踊れるよう大人数で挑戦させる。同じダンスを何度も練習し、踊れるようになった時の達成感を感じさせる（ダンス）
一人ひとりが興味、関心を持って主体的に活動できるようにする。
一人ひとりの工夫や動きを大切に認める。そして次の意欲へと繋げていけるようにする。
一度ではなく継続できるよう取り組み方を考え、興味が持てるよう宣伝の仕方を工夫していきたい。
一部の事業は、年間を通じて月 2 回の活動を継続的に実施することにより質の向上を図っている。また発表の場を設け、活動者だけでなく、周囲の人へ活動の楽しさや意義を伝える機会を設けている／単発の活動を実施し参加しやすくすることにより、興味をもつ裾野を広げる取り組みをしている。
演奏することにより自信をつけ、レベルが上がる。演奏する側、聞き手側、年齢に合ったもの（アニメなども）演奏してくれる。相互のふれあいもできる。
音楽に興味がない児童でも興味を持ってもらえるような、プログラムを行っている
音楽やダンスの専門的スキルがあるスタッフの雇用／参加者が少なくても継続して実施し、事業自体がフェードアウトしないように努める／他の連携機関との合同練習など
音楽やダンスを専門とする講師に指導してもらっている。
音楽再生機器の導入。練習時は個室で行うなど、集中できる環境づくり。
可能な限り参加者が自発的に活動できるようにする。
家でできない事を児童館で思い切り実現できることを工夫している。
過去の事例を紹介し、自分はどんなことをやってみたいか、自ら考える機会を作る。
読み聞かせの研修を受け、子ども達に伝授する／読み聞かせの場を設定し、実施する。
外部講師に来てもらっている。先輩から後輩へ、自主練習として指導を繋げている。
外部の専門講師にお願いし、広い場所を借りて実施している
外部講師に教えてもらう
外部講師や地域ボランティアに協力を依頼している
外部講師を招いたり、他館の活動を見たり、研修に参加したりすることで、職員の表現活動の質を高める。
外部講師を招き、職員にはない目線や専門的要素を取り入れたい。
外部団体への協力を依頼する。
各種研修に参加
学年に関わらず、上手な人を褒め、リーダーとして教え合うと共に、上達したことを評価し、個々に自信とやる気を高めている。「仲間意識」「協調性」
学年や子どもたちの特性に合った本を選ぶ（読み聞かせ）／コロナ禍で難しいが、定期的に発表の機会を設ける（ショータイム）
学年差があるので、高学年が低学年を見守りながら教え合っているように工夫している／長く続けていけるよう、励まし合ったり、保護者の協力も得ながら活動して行く事の難しさを感じる。
楽しくリラックスできるように気をつけている。
楽しい時間の共有・評価しない
楽しく表現する事で、今までと違う自分を見つけ、良い方向に成長できれば良いと思う。

楽しみながらダンスをできるように選曲する。
楽しみながらも、先があるような仕掛けづくり。上手な先輩の技術を感じる場づくりやステージなどの目標の設定。
楽しみながらも技術の向上を目指すこと。発表の場を定期的に設ける事。
楽しむことを第一に、目標の設定をしている。
楽器を手作りする、季節の行事を取り入れるなど、同じことでも内容を変えて行うことで、飽きずに取り組める。
活動に工夫を加え、新鮮な内容になるように努める。
活動の成果を発表する場をつくり、目標を持って取り組むことにより、意欲や演技の向上につなげている。
感情を込めて読み聞かせする
環境を整える。子どもの様子を把握し、観察を良くして働き掛けたり援助したりする。
環境を整える／子どもの様子を把握し、必要に応じて援助する。
簡単な手遊びから体全体を使う遊びを楽しんでもらう。
基本となる動きを指導し、自身で考えた動きを工夫しながら考え、表現させてみる。
基本的なことを繰り返しながら、成長・興味・季節等に合わせて変化させていく。
気軽にダンス、合奏、楽器ができる環境設定。
気軽に活動に参加できるように出入り自由にして、まずは体験する機会をつくる。
季節をイメージしやすい楽曲、児童に親しみのある楽曲を用意する。児童の年齢に合わせて簡単に模倣できる振り付けを設定したり、リズムを取りやすい楽器を用意する。
強制参加ではなく自ら希望して参加する取り組みであるので、最後まで責任を持ってやり通すことを促す／発表の場の設定をきちんと行い、発表者が満足感を得られる環境を整える。
教室最終日の発表会を利用者に公開にする。
興味や集中が続くような働きかけ。それぞれの意見を尊重し合うこと。
興味を持ち表現できる題材を選ぶ
興味を持てるような題材選びをする。
鏡が無いので姿見を数台借りて来て設置した。
曲決めや振り付けなどを話し合う事で主体的に活動に参加し、発表の場を設定する事により、目標の達成感を味わえるようにする。
具体的にほめています
形はあるダンスだが、個の表現を認める。
経験した子どもが学年が上がると、リーダーや教える側になるように、子ども自身で取り組めるよう工夫している。
継続した活動となるよう、年間を通した活動を多くしている。 プロの演奏家やパフォーマー、または地域で活動する方々に依頼をし、来館される児童へ「本物」を体験できる場の設定をしている。
継続した取り組み
継続することにより、次の楽しみを持つ。
継続するための工夫として、活動する子どもたちの満足度を高めるための取組を考える。
継続的に開催し回を重ねること。性別、年齢などにこだわらず、児童の自由な発想を引き出すような言葉かけを心がけること。
計画、準備を職員間で共有し、期日に余裕をもたせて丁寧に行う／普段来館の少ない中学生と行事ごとに連絡をこまめにとる。来館した小学生との会話から変化をとらえ、活動の主旨を丁寧に伝え、可能なかぎり依頼を行う
月1回継続して取り組むことにより、できる喜びから自己肯定感に繋がる。また、初めての参加でも、バランスボール、和太鼓など、友達やボランティアをみて簡単に楽しめる。

研修、新曲の導入。イベント参加などで、メリハリをつける。お話し会、小道具利用や表現方法を変化させる。
研修で学んだこと、他館からの情報を集め、話し合い取り入れる
研修などに参加し、職員のスキルを磨く。講師の力をお借りする。 継続的に実施し、表現力を育てる。
研修や情報収集をしたことを職員が出し合い、児童館に生かせるように検討をしている。
研修等に参加したり、ネットでの新しい情報を入手したりしている。
現状、継続的に実施できていないので、今後どの様に取り組むべきか考えたい。
個々の興味に合わせて楽しめるように、無理に誘わず、まずは親しむところから楽しめるように声を掛ける。
個性をきめ細やかな指導と即時評価で褒める。
孤立を防ぎ、自主性を育てる。仲間作りに重点を置く。
五感を使いながら、子ども達の表現力を大事にしている。
効果性は、発表の場などを設けてあげると次へつながるため、設定したい。
厚生員の資質の向上・研修／多くの参加を呼びかけ、相乗効果をねらう。
広く声をかけ表現活動に参加させる
行事としての実施だけではなく、日常のちょっとした「やりたい・やってみたい」を実現している。また、読み聞かせやパネルシアター等は、小学生が幼児に対し“こどもスタッフ”という形で関わることで、楽しさや充実感につながり、継続した活動になっている。
行事名は同一であっても、多様な内容で展開することで興味・関心を持ってもらうよう努めている／活動を定期的(月に1度の実施など)に実施することで継続化を図っている。
講師と事前に内容を練り、初心者が脱落しないものにする。
講師と相談しながら色々な体験ができるよう、講座内容を考えて開催していく。
講師と打合せをし、参加者が楽しめる内容を考える。
講師に児童館の特性など主旨を説明し、子どもたちに合った指導を行ってもらう。
講師の確保。子どもたちの興味に合わせ、職員間でアンテナをはり、実施に向ける。 職員ができるものは得意なことを中心に行う。
講師の派遣（ダンス・音楽講師）
講師やボランティアなどの外部の人材の活用や職員同士の情報交換など。
講師を依頼し、専門的、本格的な内容の提供を行う。 職員のスキルアップ。
講師を依頼し専門的な内容の提供を行う。 職員が研修等に参加し、スキルアップを行う。
講師を外部より招へい。
講師を呼び、子どもたちのやる気をアップできるようにする。
高学年の読み聞かせも取り入れて、児童による表現活動の喜びを味わせている
高度な技術を習得することを目的としない。(バイオリン) 季節感を大切にする。リズムあそびは繰り返し同じものを覚えてもらったり、親子で触れ合うものを多く取り入れたりしている。
合奏時などは、音楽の専門スタッフの伴奏に合わせて行うことで、子どもの様子を見ながら速度や回数などを変えることができる。
最後の練習後に発表会を設けることで、意欲向上を図っている。
昨年度の様子を動画で見せて、児童の意欲を高め、やりたいものに取り組みせ、できるだけ練習時間を設定し、児童の話し合いや工夫を取り入れ、児童の主体性を尊重している。
参加した児童や保護者からアンケートを取り、次回に向けての意見や希望を聞いてい

る。
参加する子どもたちが楽しみながら継続することに留意して企画、立案している。
参加できる児童が日々・刻々と変化しており、下校後の数時間の中ではまとまった時間の確保が難しいが児童が互いを認め合ういい機会となっている。
参加回数によって、プレゼントを渡している。
参加者（発表型）がいる場合は、発表の妨げとならないように鑑賞場所・方法を工夫している。
参加者の自由な発想を大事にする。
参加者全員が参加できる雰囲気づくりと事故防止。
子どもができるだけ集中できるように、できる限り静かにする
子どもがやってみたいことを実現に向けて支援する。 発表の場を設け、他者からの評価を得ることで向上心を育てる。
子どもがより表現したい形に近づけられるよう、ヒップホップダンスは講師を招いて練習している／子どもからやりたいと声があった時にはどうすれば実現できるか問い、職員も共に考えている。
子どもが興味・関心を寄せているテーマを組み込むようにしている。また、職員も発表の枠を設け、取り組む姿も子どもたちの生活の中で見えるようにしている。
子どもが表現する楽しさを味合うための環境構成と援助の工夫。
子どもが表現意欲を高めるための援助、環境設定。
子どもたちが、考えや思いを言葉に表すことにつながればと思っています。なかなかすぐには目標通りに行きませんが続けて行きたいと思っています。
子どもたちがしたいという自主性に任せる部分を作っておく。
子どもたちが活動に集中できるよう環境を整える。
子どもたちが見通しをもつ場とふりかえりの場を意識的に用意する
子どもたちが自ら進化させたことに職員が否定せず共に楽しむ
子どもたちが自主的にダンスに取り組めるよう配慮し、子どもたちがやりたいことを実現する。
子どもたちが自主的にやりたいものにする。
子どもたちが主体となって活動できるように、励まし応援する気持ちで接するよう職員にお願いしている。
子どもたちが主体となって実施できるような声かけ、関りを継続すること／子どもたちの思いやアイデアを形にすることに注力はあるが必要以上に手を出さないこと
子どもたちが親しみやすいリズムの曲を取り入れた。
子どもたちが飽きない、嫌がらないようにしている。
子どもたちに興味を持ちやすい題材を選ぶ。
子どもたちに人気のある楽曲を選ぶ／低学年の子の目標となるような高学年の育成。
子どもたちのしたい事を職員が寄り添って具体的に実現できる様に援助する。同じ内容にならない様に様々なアイデアを職員間で出し合い工夫している。
子どもたちのニーズを取り入れ、やる気を引き出すたねに踊りてみたい曲の選曲から一緒に行う。
子どもたちの意見を取り入れて、楽しさを実感させる。
子どもたちの活動が、周囲の子どもたちに分かるように、発表の機会を作ったりする。
子どもたちの興味関心をリサーチする。読み聞かせに興味が無い子どもが多い。導入や図書の選定を工夫している。
子どもたちの好きなあそびを積極的に取り入れながら意欲が沸くように工夫する。
子どもたちの好きな音楽を使ってできないか等、講師に交渉した。
子どもたちの思い、考えを充分認めていく／環境を整える
子どもたちの自主性を尊重し、内容に反映するようにしている。また当日にそれまでの練習の成果が出るようにモチベーションを保てるように工夫して取り組んでいる。

子どもたちの自由な発想を引き出せる環境を作ったり、その発想を大切にします。
子どもたちの自由な発想を活かす工夫をするとともに、共にアイデアを考える。楽しい雰囲気づくりに留意し、継続的な意欲につなげる。
子どもたちの中からリーダーを選出し、練習時間内はリーダーと年長児童に子どもたちをまとめる役を担ってもらい。大人は子どもたちが自分の意志で自発的に動けるように声掛けを工夫し、子どもの良い所を率先して褒める。練習を休むことについても、自分で決めてよしとしている。
子どもたちの年齢、興味、レベルに合った活動の提供。表現活動をしてくれるボランティアや講師の確保。
子どもたちの表現を肯定的に受け入れる。
子どもたちや利用者の声を聞きながら、臨機応変、柔軟な対応での事業作り。
子どもたち自身が企画したものを具現化できるよう支援しています。表現活動では練習プロセスを大切にしながら、自分たちが楽しみながら、発表当日は観てくれる人を楽しませるためにはという視点が持てるよう、職員がアドバイスをしています。また、行事終了後も活動できるよう、行事終了後早い時期に次回の企画も子どもたちと一緒に考えています。
子どもたち自身にもっとどのような工夫をしたらいいか考えてもらい、主体的に関わってもらい／民話の語りを録音しCDにすることで、形と記録に残るようにして家庭でも共有していただいた。
子どもたち同士で教え合ったり、子どもに任せられるところを見つけて主体的・自主的に行わせる。
子どもに任せきりにならず、大人のアドバイスを必ず入れる。
子どものやりたい気持ちを尊重し、職員が工夫、仲立ちしてよりよい活動へと向かうようにしている。
子どものレベルに合わせた振り付けを考えてもらっている。
子どもの意見や思いをよく聞き、実現できるようサポートや助言しながら、自分で取り組めるよう配慮する。他児の取り組みが新たな興味関心の糸口になるよう、演者を褒めたり認めるとともに、多くの子どもが見たり楽しめるよう場の設定や広報に努める。
子どもの意見を聞きながら一緒に考えていく
子どもの気持ちに寄り添って、子どもの意見を尊重し、見守りやサポートをしている。
子どもの興味、関心。
子どもの興味や関心のある事から、自由な表現や活動を広げていく
子どもの興味や関心を引き出す。来年は何がしたい？と次につなげる会話を楽しむ。子どもが表現したい事をサポートする。
子どもの興味をそそるような物を選ぶ
子どもの興味をもった選書
子どもの考えや思いを尊重し、活動に取り入れている。
子どもの自主性を尊重する
子どもの主体性の尊重／子どもたちの「やりたい」という思いを、具体的に実現する職員の力量／職員の表現活動の資質向上と、プロの講師による指導により、表現活動の質を高める
子どもの様子の把握、観察を良くして、環境を整えたり援助したりする／子どもの思いや感じた事をそのまま受け止める。
子どもの様子を把握し、働き掛けたり援助したりする。
子どもの良いところを認め、やる気を引き出すような言葉かけをしていく
子ども自身の願いや表現したい思いを出しやすい場の工夫。
子ども主体で意欲的に取り組めるよう、まず厚生員も一緒に楽しみながらすすめる、「やってみよう」気持ちがもてるよう子ども達の声を聞く

子ども達が自分達でやりたいことを支援していくが、1人1人の違いを話し合い、認めあえる場をつくる。
子ども達へ伝えるために、ごっこ遊びや読み聞かせ等さまざまな職員のスキルの向上が必須と考え、館内研修を実施している。
指導している職員の技術向上や、地域の方のボランティアなどの協力。
指導する職員のスキルアップと、適切な指導と評価のサイクルの中で子どものモチベーション維持・向上させている点
指導者の確保。
支援する職員のスキルアップ。外部講師の活用。認め合う発表の機会を設ける。
施設の年間行事に位置付け、計画的に実施している／それぞれの活動は専門家に講師を依頼し、より効果が高まるようにしている／単独の活動だけでなく、他の行事（文化祭等）と組み合わせて実施することにより、より多くの方が参加できるようにしている。
紙芝居の活用、パネルシアターの導入により、特別感を感じる事業にする。／工作会も一緒に実施する。
紙芝居は毎月地域の図書館から借りている／作品の対象年齢が低くても、児童が読みやすいものを選んでいく
事業の継続と中高生が興味を持てる本物に近い機材、信頼できる講師との関係。
事業終了時、次の案内や申込をその場で受け付ける。
事前打ち合わせの時間を確保し、ねらいや実施の意図、参加者の状況（年齢、初参加など）講師に共有することを意識している／一方的に話を聞き、鑑賞するのではなく、乳幼児親子や子ども自身が体験する時間をできるだけ確保するようにしている／企画立案の際、参加者アンケートを参考にするなど利用者の声を反映できるように、取り組んでいる。特に中高生企画については、今後やりたいテーマを中高生自身と話す機会を設け、企画立案をしている／乳幼児親子向け企画、小中高生だれでも参加できる企画、中高生限定企画をそれぞれ実施するなど発達段階に合わせて、参加しやすい環境設定を意識している。
児童から意見を聞き、取り入れたりする。
児童の運動能力を把握すること／児童が興味関心を示す楽曲の選定／児童と年齢に近い指導者の選定
児童館の特性を知った講師への依頼、発掘
自主的に活動する環境を整えてタイミングを逃さず、意欲が続くようにしている。
自分が楽しみながら活動できることを一番に考えています。また学校のイベント、地域のお祭り等で発表できる場を作ってあげることでたくさんの皆様の前で堂々と発表できるよう働きかけている。
自分自身の心を動かすものに触れるよう心がける
自分勝手に一人で楽しんで表現し、ふざけないようにすること。
自由参加の行事であるが、親子のふれあい、楽器等を使ったリズム遊びの実施を通して、親子のコミュニケーションを図りつつ、参加者同士の交流を図っている／年度始めは簡単な歌や遊びからスタートし、回数を重ねるごとに活動内容をステップアップしている。
自由時間での活動のため、活動が不規則で定期的な技術向上に必ず繋がるとは限らない。成果が見える形で現れないと感じてしまうことがある。課題が見つかったときは丁寧なミーティングを持つよう心がけている。
質の向上に十分取り組んでいるとは言えない。今後の課題。
質の向上のためには継続することが大切。多く練習ができるよう来館回数を工夫して増やしたり、短時間でも来館できるよう工夫したりすること。
実力によりチームを分け、定期的に技のテストを行い、上のチームに上られるよう、目指し努力している。

社交ダンスに興味を持ち、児童があまり多くないので、講師と連絡を密にして発表会の回数を増やしていきたい。
取っ付き易い内容（平易な内容）のものにする／馴染みのある内容を盛り込む。
周りの皆さんの迷惑にならないよう、静かに音楽に触れる約束をする。
周りの子に評価してもらえる事で自信を持つことができる子が多いので、子どもが興味を持っていないようなことでもチャレンジしてみようという声かけも行っている。
習い事ではなく、遊びの要素を取り入れた内容実施を行う他、児童館に留まらずに地域に場で発表を行うことで保護者や地域の方に子どもたちの姿を見てもらい反響を得ることで、子ども自身の自己肯定の機会が生まれている。
週1回、音楽に触れる「ミュージック」を行っている。
集団で一つのことを成し遂げる事を援助する
集団の場合、一人ひとりの成長の差があるため、温かく長い目で見守る必要がある。
集中して聞けるよう参加者にカードを作っている。
縦割りのグループ活動を継続して行う中で、信頼関係等が築ければ良いが、コロナのため全く行えない状況である。
出来る出来ないに関わらず遊びの一環として、まず体験を呼びかけ、面白さ楽しさを分かってもらえるように言葉がけを行いながら活動を進める。
小学生には、積極的に声かけを行う／幼児親子に向けては、定期的実施し成長を喜び合う。
小学生には発表の場を設けたり、インスタにイラストを載せたり、館内に貼ったりしている。／乳児親子は講師の方のお話やママ友との触れ合い。
小学生対象の読み聞かせでは、職員が本の選定をするのではなく子どもたちに本を選ばせたり、子ども自身に読み聞かせをしてもらうことで質の向上を図っている。
小道具のスペースを設け、遊びが展開できるようにしている。支援員は材料提供などをし、アイデア補助へ回り、イメージを膨らませるように配慮している。
少人数での実施のため、子ども同士の会話を出来るだけとり、表現の幅を広げることが出来るようにする。
少人数でも練習を続けること。行事の持つ意味を継続して伝えていくことができるようにしている。
上学年から下学年に代々動きを伝えていく。
上級生が下級生に踊りを教える。
上手にできたね。と声をかけたり、専門家へ指導をお願いする。多様な楽しみ方を気付かせる。
場や機会の提供、日頃のコミュニケーション。
常に自由に楽器が使える環境にする。
職員と一緒に活動したり、外部講師を招いたりして刺激を与える。
本物に触れる機会をつくる。
職員が決めてしまうのではなく、子どもや利用者自身が考える機会を持つようにし、自発的な取組ができるようにする。
職員が見本となり、楽しく行う。
職員が率先して楽しそうに行うこと。小道具等はできる限りハイクオリティなものを用意すること。表現しようとした過程を肯定すること。
職員だけでなく多くの人に関わってもらうことで、活動がより充実していくと思うので、地域の方などの協力してもらっています。
職員のスキルアップ（講師に任せただけでなく、主体的に関わっていく）。
職員の質の向上（情報収集）。
職員はサポートする側になり、メンバーである高学年や中学生から後輩へアドバイスを送り、憧れ力を養っている／あえて一部同じプログラムにし、親子で知っている遊びを継続してできるようにしている／おはなし会においては、プロの方をお呼びして

いるため、職員も研修を受ける意識で参加している。
職員も一緒に取り組み、動画などでの研究や、ボランティアなども取り入れ良いものを工夫
職場研修を通して職員のスキルアップを図り、特定の職員が関わらなくても自主的な子どもの活動を支援できる体制作り。
色々な素材を用意、環境に取り入れる。
親子で楽しい時間を楽しむ。無理に参加させず、楽しい雰囲気を楽しめるようにする。
身体を使った表現は専門的な知識や技術が必要なため、可能な限り講師をお願いしている。講師に依頼することで職員が対応するよりも早く知識・技術を獲得することができていると思われる。ダンスについては、講師に参考動画の撮影をお願いし、参加者に配布することで家でも練習できるようにしている。
成果の発表を行う。興味・関心が高いものを行う。多様な表現から自己選択できるようにする。
静の時間（帰りの会）を利用して伝える活動にしている。
積極的に地域と連携して発表の場を設けること／外部講師、保護者等、周囲の大人の協力体制を固めること。
専門の講師に指導を依頼し、本格的な技術の習得ができた。（ダンス）／音楽の教員である館長による指導と、本物の箏に触れ、練習を行った。（箏）
専門の講師の方に様々な技術を指導してもらい、身に付けてもらう。
専門の講師を招き行い、その経験を生かした活動を行事等で発揮させる。
専門の方に講師をお願いしている。アイスブレイクやレクリエーションなどを少し時間内に入れていく。
専門講師による指導の実施／発表の企画／児童にとって負担とならない時間や頻度の設定。
専門講師による多彩な指導。
専門性に長けた講師に依頼をすること／図書などの教材研究
全体での活動の他、学年別での小グループ単位で発表し合う機会を設けたり、年長者にお手本として躍らせたり、個々の成長する目標を示す。
奏でる音選び（手作り楽器など）
想像的な造形表現活動、描画表現活動の導入部分で、発想や想像の展開が明らかにできるのではないかな。
多くの児童が参加できるように調整する。また、他者を否定する行為を見逃さない。
太鼓指導では礼に始まり礼に終わるといような、礼儀や挨拶の大切さを伝える。
体験を通して達成感を分かち合う。自信に繋げる。伝えることの大切さ、難しさ、怖さを知る。
対象学年の発達状況に合うように配慮する
対象者の発達段階を考慮するとともに、楽しさを前面に押し出した活動に留意する。
大きなステージに立つ機会が減少する中で、人前で発表する機会を増やして体験させたい。
大きな舞台で発表する機会に向けて、継続して練習し、舞台発表の達成感を味わう。
大人（親）向けのチラシのみではなく、子どもたちへのチラシを作成する。
大人のプレイヤーのアシスト
大人の考えを強要せず、子どもの力を引き出す援助も必要だと考える。
大人は道筋だけを示すこと
誰か一人が楽しむのではなく誰もが皆、納得し理解し一緒に楽しむことができるよう、話し合いの時間を十分取るように心掛けている。
単に読み聞かせをするのではなく、十分なトレーニングと読み込み、発表図書選定にあたっては話し合いにて行うなど、集団で合意形成のをする力の育成を促進している。
単発での活動ではなく、定期的に継続した活動が望ましい。

担当者を中心にアイデアを出し合う。話し合い。
段階を分け少しずつレベルアップする
地域で活躍している方を招いて教えてもらう／一緒に活動／WEB の活用／文化センターとの違いに留意する／あくまで手段であり、目的は健全育成であることを忘れない。
地域のダンス経験者の方を講師として、子ども達は基本から学ぶことができる／近隣の施設への慰問発表や地域行事への参加をすすんで行き、子ども達の活動を広く知ってもらおうようにしている。
地域の交流会や館集会等で発表する。
地域の方々の読み聞かせや異世代交流の場としての活用。
挑戦したい子は誰でも体験できるようにしている。
低学年から高学年まで、理解、分かりやすい内容を選び、児童に発言、感想の場を作る。
定期で行っている事業は定番があり、月ごとにプラスアルファで変化を加える（来館者が覚えられるようなダンス）／職員同士で見せ合いなどを行う。
定期的に継続して実施できるよう、年間計画を立てること／ボランティアや講師を積極的に招き、質の高い活動を実施すること。
定期的に発表の場を作ることで、発表という目標ができると練習に意欲が出るのを感じる。中高生世代になるとボランティア側で参加してもらうことで、「中学生になっても参加したい」という子が出てくる。
伝える側も、抑揚をつけ、子どもたちに自由な中で表現させる
伝統芸能では外部講師を招き、レベルアップとマンネリ化しないように取り組んでいる。
登録する子どもの継続。
同じ形式にならないよう読み手の変更や子どもを読み手にする
同じ系統のものに偏らないようにして、色々なジャンルのものにふれられるようにする。
同一の講師が行うことで、親子が安心して繰り返し参加できるようにする。
特に予算が付いている訳ではないため、服や小物などを職員の手作りで、お金を掛けないようにしている。
読み語りは主に3年生が順番に担当し、平等に経験してもらうように配慮。ダンスは講師を依頼。
読み手の資質向上を図り、臨場感あふれる場作りに努める
読み聞かせスタッフがお勧めの本のポップを作り、図書室へ展示している。
読み聞かせであれば発表の前に練習を重ね、達成感を味わえるようにサポートする。また、子どもたちの意欲を大切にしたり、環境作りを行う。
読み聞かせにさまざまな手法（パペット劇、紙芝居、音楽等）をとりいれている
読み聞かせについては子どもたち自身で発表者を決める／ダンスは子どもたちの意見を反映させながら、季節行事などでの発表のゴールを設け、目標達成に向けた取り組みを行っている。
読み聞かせボランティアとの連携と活動環境の工夫。
読み聞かせも様々な教材を使用
読み聞かせをする前に、担当児童に練習を重ねてもらい、事業当日を迎えます。事業後には次は私が読みたいとの立候補が常にあがってきます。他の児童が読む姿を見て、自分もやってみたいとの気持ちにつながっているかと思います。発表するということ、効果や持続性につながっているのではないのでしょうか。
読む楽しさを実感できるよう働きかけている。来館者全員へ向け、行事内で発表する事で自信が付き、聴いている児童も読み手に挑戦してみたいという意欲が引き出されているように感じる。
読む本の選定において、職員が読み手の年齢や読む力に合わせて助言を行い、読み聞

かせをしやすい本と一緒に選ぶ。そして、読み手の成長に合わせて難易度を上げていき、達成感を感じてもらおう。
難しいよりも、皆が参加しやすいものからスタートし、全体を盛り上げていけるように、職員も全力で取り組む。
日頃から、館内に様々なジャンルの音楽が流れている／自由に扱える用具や教材、および、場の環境構成。
日常から子ども達自身の自己肯定感が高まる声掛けや子どもから「これをやってみたい」といった気持ちを実現できるよう留意している。
乳幼児と保護者の場合、親子で楽しむ内容にするため、読み上げた、手あそびや季節の歌を入れたりしている。
乳幼児親子については親子の愛着活動を育てること、小学生以上については自発的な参加を促している
年に数回新規図書の購入／職員による読み聞かせを行う
年間の計画を立てる時、過去の反省や再活動をすべきもの等、十分に把握し価値のあるものに仕上がるように注意を払う。
年間を通じて計画的に実施し、継続的に行っている。読み聞かせの題材については、児童の発達段階と実態に合ったものを選ぶようにしている。
年数回イベントとして行うことで、興味の幅を広げられるようにしている／活動参加と見学の両方向から楽しむことで、次の活動へ期待を高める
年度の終盤に、全文化センターの児童館サークルによる発表会を設けることにより、意欲ややる気を引き出している。
年齢にあった内容にする（2）
年齢や発達、季節に合った題材を選ぶ。
発表する機会を設ける／専門性を持っている人の協力を仰ぐ
発表する場を設けるために、地域との交流を表現活動以外にも行う。
発表に向けて日々、練習に取り組んでいる。そのために挑戦する技術のランクを決めて練習している。
発表の機会を作ること。
発表の場を設ける。達成感を味わえるようにする。
発表を見た子が、憧れを持ちやってみたいと感じるよう定期的を実施する／またやりたい気持ちやレベルアップしたときの満足感を得られるようにしている。
必要に応じて様々な歌や曲を聴くことができる場、簡単な楽器も自由に使うことができる場を設けて、音楽に親しみ楽しむことができるような環境の工夫／年齢に応じた絵本や書物を充実させ、落ち着いてじっくり見ることができる環境作り
表現することは楽しいことと伝えるために、活動時間は楽しい雰囲気になるように心がける。
表現をする機会・場を作り、緊張感を持って参加できるようにする。継続して練習や仲間と協力できるように子どもたちが話し合う機会を作り自主性を大事にする。
表現活動が得意、又は前向きなスタッフが施設に必要。
表現活動に関する職員の研修と情報交換を行う。
表現活動の機会を継続的に提供し、体験から感じた事を保護者へ伝えられるよう、体験後に感想を聞くように心がけていきたい。
表現活動の成果発表を実施することで、周囲への刺激に繋げ、次年度の活動に発展するよう心がけている
表現活動は、各教室を設け、希望する教室に児童が参加して楽しんでいる。質の向上のための工夫は、多くはそれぞれの教室の講師にお願いしている。
表現活動を通して、スタッフが話し相手や相談相手になり、話の中で認めていけるようにする。
評価の高い絵本を選定する。

不安げな生徒には「大丈夫！」と声を掛けたり、良い所を認めたりする／周囲からの応援を届ける（声援）。
普段の生活の中で表現できるあそびや教材を広める。
幅広く実施するようにしている
分かりやすいように、ゆっくりと読み、優しく接する事を心掛けている。
雰囲気作り（環境）。
文化祭、学校行事、高松市主催のイベント等で発表している。
聞き手の気持ちになって、よみかかせの練習を行っている。
保護者や地域に向けて発表の場を設ける。
母親クラブと児童館が連携して開催（リズムあそびとリトミック）／リズムあそびは児童館の先生が講師となり、周知は母親クラブの毎月の広報に載せるなど。
法人他事業のスタッフに劇団主催者がいるため、講師として招く。
本の選定や音読練習等の準備をサポートする。自信に繋がる表現発表の場を設定する。
本番までの1か月程度の期間に映像を流しながら、1日、45～60分程度練習。子どもたちのやる気を出すためにも、衣装などを着せて本番同様に行う。
本番行事の前にプレ発表などをおして、緊張感を和らげたり、歓声などの反応から向上心を培う。
本物の音、絵を知る経験を繰り返す。一人でも参加者がいれば全力で演じる。
毎回、同じ曲ではなく、色々なテンポの曲を選ぶようにする。
毎月、リトミックと体操のイベントを行っている他。乳幼児向けのイベントでは、リズム遊びを行うようにしている。
毎月「今月のうた」「今月の手あそび、ふれあいあそび」を設定している。
毎週決まった曜日、時間に読み聞かせを実施する。聞き手から感想を聞き、今後のモチベーションに繋げる。
毎週行う子育て支援の中で、職員が提供する表現活動を楽しみながら継続して行う。
毎年楽しく活動できるように、日本や世界の文化や季節に合った内容を計画する。
毎年発表の場があること／児童館なので強制はしないが、仲間づくりができる／発表後の満足感・ほめてもらう喜びを味わう。
毎年必ず行うようにしている。できるだけ職員も入れ替わりで参加し、この目的を職員も一緒に達成できるようにし、日々の生活に生かせるよう心掛けている
無理なく簡単な内容を取り入れ、楽しめるよう工夫している。
無理強いせず、子どもの自主性、自発性を大事に主体性を育てていく。
目的やゴール（発表等）を見通せるようにする。日常活動の中でも楽しめるようにしている。
目標を持って取り組むことができるような声掛け、ありがとう！との感謝の気持ちを持つような声掛けをする
目標設定をこまめに設け、子どものモチベーションを保つ。また、地域の方、友だちなどに見せることができるような発表する場を設定する。
友だちちと活動する楽しさを知らせるために、友だちと楽しく取り組める活動を計画的に取り入れる。
遊びの中に季節を感じられるものを取り入れる
幼児親子が参加しやすい時間帯に行う工夫をしている。
幼稚園教育要領に示される幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を考慮し、生涯にわたる生きる力の基礎を培えるように努めている。
様々なジャンルの講師を依頼するようにしている。
様々な指導者の確保、予算の計上、未就学の時期から小、中、高と継続的に参加できるプログラムの設定
様々な素材や道具に触れ合える環境を作る事で、豊かな表現を育ていき、それを発表する機会を作り、発信し連鎖させる。

様々な表現活動の機会を提供すること。体験させる機会を提供すること。職員も自ら表現活動に参画し、楽しさ、面白さ、喜びなど、子どもたちと共有すること。一度きりで終わらすことなく、継続的、日常的な事業展開を行うこと。
様々な表現活動を体験させるために指導できる講師の招聘に苦勞している。
来館者が日によって異なるため、継続的な取組が難しく、質の向上までは目指せていないが、影絵は〇年生、ハンドベルは〇年生でできると期待感を育むことはできているかもしれない。
利用者相互が仲良く公平に利用できるように留意している。
良い物を聞き、見て、子ども自身の感受性を豊かに育てる。他の施設と情報交換をし、情報を集めている。
令和3年度の小学生クラブ(どれみクラブ)は歌のみだったため、参加者の希望で音符の書き方や音階についての学習も取り入れた／令和4年度は歌の発表に加え、児童館にあるハンドベルの演奏も取り入れ、課題曲は参加者で話し合っただけで決めた。また、今年のメンバーはピアノ伴奏できる子もおり、伴奏に合わせて合奏も行った。
令和4年でいえば、年間180回の体育文化教室を13の分野に分け、希望する教室3つまで所属できるようにしている。小学生段階であれば、これで充分であると考えられる。そもそも児童センターは表現の質の向上を目指す所ではないので、それを望むなら個々で考えるべき。
例えばパネルシアターや、ペープサートはよどみなく進行する事が大切。幼児においては集中を持続させる事が特に重要なため、話し方や動かし方一つ一つをよく練習し習得して行くようにする。
例年2月末に舞台発表を行う。
練習の場を設ける、楽しんでできるようにサポートする
練習を続けるためのモチベーションを工夫する。困ったときはスタッフが支援する。
和太鼓の体験を通して、興味や関心を持ち、自発的に働きかけ、和太鼓の演奏を通して、豊かな感性や好奇心など、その後の生活の学びの基礎とする。
和太鼓部では、講師を呼び、指導をしてもらっている。練習メニューや今後の方向なども細かく相談している。中高生のライブイベントでは、演奏以外の部分も子どもたち同士で相談して決定できるよう、工夫している。

自由記述の表現は様々であるが、おおよそ次のような趣旨にまとめることができる。

- 子どもに関わること：子どもの自主性・主体性（子どもの意見・子どもが取組みたい内容・子どもが考える・子ども同士で教え合う・子どもが素材の選定など）を尊重する／子ども一人ひとりの自由な表現を大切にする／子どもが達成感を得られるようにする／子どものニーズを捉えるなど。
- 活動の内容に関わること：子どもの興味や関心に応じた内容にする／子どもが様々な体験・素材・道具などに出会う機会にする／発達段階を考慮した活動の設定／子どもが親しみやすい内容や素材の選定など。
- 活動の環境に関わること：定期的・継続的な取組みとして設定する／専門技術のあるスタッフ・講師が関わる／取組みやすい環境の設定（参加しやすい日時・取組に集中できる環境など）／職員間で意識・情報の共有を図る／職員が研修を受講する／講師との十分な打合せ（活動趣旨の確認・子どもの特性などを伝えるなど）／取組み成果を発表する場を設定するなど。詳細は自由記述を参照されたい。

問9. 令和3年度以前にはどのような「表現活動」を実施していましたか。

全児童館 857 児童館のうち、無効回答の児童館を除いた 822 館の回答を集計した。(複数回答)

【表 12 令和3年度以前に実施している「表現活動」の種類】

令和3年度以前 に実施している 表現活動の種類 回答件数 822 (100.0%)	ごっこ遊び	劇遊び	朗読	読み聞かせ (読み語り)	演劇	人形劇	影絵	パネルシアター	ペープサート	ヒップホップ
		179	69	40	320	42	77	26	129	101
	21.8	8.4	4.9	38.9	5.1	9.4	3.2	15.7	12.3	7.7
	ダンス	うた	合唱	リズム遊び	ラップ	和太鼓	楽器演奏	合奏	令和3年度以前も 特に実施していない	
	350	192	80	237	0	62	252	78	158	
	42.6	23.4	9.7	28.8	0.0	7.5	30.7	9.5	19.2	

上位3つは、「ダンス」が42.6%、「読み聞かせ（読み語り）」が38.9%、「楽器演奏」が30.7%であった。

「19. その他」の記述は、次の通りである。なお、同じ内容のものはまとめて括弧内に数を表示した。

マジック・手品（7）／銭太鼓（4）／よさこい（4）／手話・手話ダンス（3）／手あそび（3）／ハンドベル（2）／リトミック（2）／大正琴（2）／お手玉（2）／わらべ歌（2）／けん玉（2）／バトントワリング（2）／ふれあいあそび（2）／盆踊り（2）／子どもによる企画事業／小学生によるプラネタリウム／バンドの発表会／体験活動発表／特技の披露／インターネット番組作り／ジャグリング／創作紙芝居の読み聞かせ／ハロウィンパーティー／3B体操／神楽／ロックソーラン節練習／大正琴／民舞／正調山中節踊り／伝承遊び／文化交流会発表／能楽／南京玉すだれ／日舞／落語／昔あそび／リズム遊び／ポンポン／高校生によるラジオ番組／オペレッタ／さんさ踊り／ひなまつりの演舞／琴／オンライン発表会／

問 10. 今後、「表現活動」を実施していくための課題があれば記入してください。

全児童館 857 館のうち、回答が記述されている 425 館の回答を表示した。(自由記入)
 なお、内容が類似しているものはできる限りまとめて括弧内に数を表示した。

【表 13 今後「表現活動」を実施していくための課題】

新型コロナウイルス感染症、少子化、小学校が長時間、塾などによる来館者の減少や年齢の偏り。それに対する対応 (29)
新型コロナウイルス感染症による活動の制限や活動の再開、方法、交流ができない (55)
新型コロナウイルス感染症対策との兼ね合い (40)
高齢化、情報不足、子どもへの指導技術のある講師・指導者・ボランティアの確保 (53)
予算不足により楽器や素材の不備。講師が呼べない、活動が継続的にできない (55)
指導者・職員の知識・技術の不足や向上の必要性、研修機会の必要性 (35)
子どもの主体性・やりたいを重視した活動にしていく。(9)
「恥ずかしい」という気持ちの子がいると周囲に影響を与えてしまうため、楽しいことを好きな子に伝え、それを子どもから子どもへ楽しさを伝えていく必要がある。
「表現活動」が苦手な子は、活動への参加を促しても参加してもらえない。
1～6 年生までの異学年の児童がいること、通年利用の児童と自由来館の児童が入り混じって活動しているので、計画や準備(練習)段階から発表まで全員そろって取り組ませたいが、限界がある。
1 か月のプログラムに取り入れて展開して行く事は、非常に難しい。課題がある。
TV 等のキャラクターの力を借りずに内容を決める。季節感や日本の行事、童謡などを取り入れる。
ウィズコロナでいける内容をどんどん考案していくようにしたい。
お話玉手箱は毎月 1 回、年 10 回、たなばたのパネルシアターは年 1 回、毎年実施している。
この調査により「表現活動」について知る事ができたことに感謝申し上げます。
コロナ禍での実施をすることは難しい。コロナ対策をとっても子どもたちが集まりにくい。また、子どもたちのアイデアを募り実行委員により企画している。年度ごとに希望者は変わるので表現活動を定着させることが難しい。
コロナ禍での練習ができない日が突然出ることによる練習日や発表会の日程変更にかかる事務連絡の増加
コロナ禍で集まって何かを作り上げて発表することが困難。また、習い事が多く、定期的に児童が集まることができないことが多い。よって、安全な環境での継続的な活動への参加が課題。
コロナ禍で発表の場が少なくなり、活動をしない子が多く参加者が少なくなっている。
コロナ禍ということもあり、“本物”に触れる、出会うことが極端に少なくなっているように感じる。特にここ数年は大勢の人数で一緒に体感できる経験が少なく、共感が生まれにくい。また、表現活動を丁寧に実施したいが、児童クラブの受け入れで精一杯で余裕がない。
コロナ禍以前に繋がりがあった外部団体との関係性が弱くなっていること。
指導者を見出すことが難しい。
子どもたちが自主的に行うまでが困難だと感じる。(全員集まるのが難しいなど)
その時々ブームでゲリラ的にはやったりする。少し前ビリーの運動が流行ったときもあった。子どもに開放している wifi 環境がないので、必要な映像を流すときなどいちいち大人の許可が必要になって、自由度が低い。
ダンスなどの練習場所の確保が難しい。
ダンスの練習場所の提供の仕方。

できれば素晴らしい活動だと思うが、現状、小型児童館では難しい。
ニーズの把握、参加の気軽さ
フラダンスクラブについては感染症対策もあり、曜日や会場・人数に制約がある。幼児クラブのリズムあそびについては、職員が進めているが、リトミックなどの技術がないため、簡単なことしかできていない。
マンネリ化を防ぐ。
やりたくない子もいて、モチベーションを保つのが難しい時があります。出来ないからやりたくない、やらないといつまで経ってもうまくなならないし、他の子がどんどん上手になり、余計に出来なくなる…
異学年の集団のため、低学年ができるもので、高学年も意欲的に参加できるものを選ぶのが難しい。
異年齢の児童数も多いため、フリーの時間を設けてあげられない。
異年齢同士との関りを持たせ、心の成長を促していきたい。
一人でやる表現活動は個人練習で大丈夫だが、合奏とか劇等は全体練習が必要（数多く）なので自由来館の児童館では厳しい。1・2年生はまだ集まれているが、高学年になるほど難しい。
一度の活動ではなかなか実施しづらいため、継続的な活動が必要であり、現在の開館時間内では計画が難しい。
音楽以外の表現活動についてどのように実施していくか
下校後の児童はおやつ、宿題後のわずかな自由時間を使って準備を進めている。保護者の迎え時間にばらつきがあるため、時間の確保の難しさがある。また、発表当日に家族旅行などが重なり、親の思いと子の思いの違いの難しさを感じる。学校行事には予定を合わせるが、児童館行事は児童のみのイベントのため、優先順位が低いと感じる。
皆が体験できるよう声かけする
絵本が小さいので、大きい絵本がもっとたくさんあるとよい
楽器演奏などの練習の機会を作るが、参加できない子どもへの対応 保護者理解と児童館への送迎など
活動できる場所が無くなった。活動できるだけの職員がいない。
活動参加の子どもたちが減っている部分もあるので、活動を継続していくため、活動の魅力伝えるため、体験する機会やレッスン、模範演奏などを行っている。
活動内容のマンネリ化にならぬように、新しい活動を取り入れていく。同じ内容でも工夫してより質の高いものになるよう（目的に添う観点から）に。
感じたことを、言葉や身振りで相手に伝える表現力を高めること
感染症対策を実施しながら、人数設定や会場の環境構成の検討が必要である。また、地域の表現活動団体と連携を取り、活動状況を把握し、表現活動の指導等協力依頼を進めていくことが表現活動を充実させるための課題である。
感染症予防に気をつけて、以前のように合唱等もできたらよいなあと思っています。
感染対策を鑑みて縮小や中止していた活動において、再開時期の見極めや感染対策を含めた実施方法 バンド練習やダンス練習が可能な半防音室を2部屋有しているが、コロナ以降利用が少なく施設特性を活かしきれていない現状。
環境の確保（人数制限や広さ、道具→コロナと付き合いながら実施していくために）。 興味・関心が育つような働きかけ。
企画スタッフとして登録していても塾や習い事で全員集まる事が難しい。
希望者のみで実施するのかどうかの選択。用具等の整備。
機会の創出
実施しても発表する場が少ない。
興味、関心が持てるような環境づくり。

経験の場の提供を願いつつも、安心してのびのびと表現できる場の確保。
劇やダンス等、高学年が興味を自主的に持てる課題を継続して引き出せるような関りを持って行く事。
月1回のみでなく、読み聞かせが児童にとってさらに身近となるよう、実施回数を増やしていきたい。
月に1~3回程度の活動であるので、あまり高度なものではない。回数を増やすにも子ども・職員を含めて負担になる。
現在のコロナの状況においては、部屋の広さに対する人数の制約があるため、広い活動場所の確保が課題である。また、クラブ員の確保が課題と考えている。
現在もセンターで企画して児童が行う「表現活動」は実施していない。あくまで外部の市指定のアドバイザーが行っている。
個人でもグループでも、できるようになったことをありのまま受容し、一人ひとりの成長やグループ全体の成長を目指す。
好きな子や苦手な子がいるので、全員ですることが難しい。
行事に自分たちもその一員として、会を盛り上げ、みんなとの踊りを楽しもうと無理のない参加で表現活動を取り入れている。
子どもたちをよく知り、ニーズを把握すること
スペースや機材等の確保
子どもたちのやる気。
プログラムの広報
講師やボランティアの方が欲しい
今の時代に合ったもの、児童が興味関心のあるものを取り入れていきたい。
今までやったことのない活動を企画立案していかなければならないと思っている。
今後も継続して子どもたちが自分に自信を持ち、最後までやり遂げた達成感を育てていきたい。
参加したい気持ちがあるが、自信が無く意思を伝えられていない児童に対するバックアップを強化していかなければと考えている。
参加者の日程調整など。
子どもが落ち着いてお話を聞くときの導入の難しさ。
子どもたち、保護者との関りの積み重ね。
子どもたちが「楽しい」と感じてもらえるような指導の手立て。
子どもたちが興味を持って、楽しく参加できるような題材の設定。
子どもたちが自主的に行える環境にない、皆でひとつの事を始めるタイミングが揃わない
子どもたちが飽きない様に内容等考え、継続して行くこと。
子どもたちに興味を持ってもらえる内容を考えたい。
子どもたちのニーズの把握
子どもたちの下校時間が早くなるようなカリキュラム。
子どもたちの興味・関心の引き付け方とそれを持続させる方法
子どもたちの自主的発想を引き出したいが、職員主体になってしまう
子どもたちの遊ぶ時間と練習時間の確保の兼ね合い
子どもたちを取り巻く環境の変化をとらえ、情報収集をしていく 先入観や固定概念にとらわれず、職員の表現活動に対するイメージを広げる。
子どもたち自身が絵本や音楽に興味関心を示し、遊びの中で様々なことを体験できるような環境の構成 表現意欲を満足させられるような取組を考える。
子どもの興味、関心事の多様化により、ニーズを把握することが難しくなっている。
子どもの表現したいものを実現するために、インターネット等のツールや表現場所な

<p>どを確保していく必要がある 感染対策と表現の場の提供の両立が難しい。</p>
<p>子どもや保護者を出演者として活動に巻き込んでいこうと声掛けをしているが、聴衆としての参加はあっても出演者としての参加が集まりにくいこと。</p>
<p>子ども自身が主体的に関われる体制が取れていない。</p>
<p>施設</p>
<p>活動場所は苦慮している。</p>
<p>指導方法の工夫。</p>
<p>表現力の向上 参加者を増やす</p>
<p>事前の準備が十分にできるための時間の確保</p>
<p>児童クラブ併設の為、児童クラブ登録児童の参加が多く、一般来館者の参加が少ない。</p>
<p>児童センターでミュージカルをやっけいこうとする中高生の確保。</p>
<p>児童の来館時間や帰宅時間、来る曜日が違うので、進み具合がまちまちになる。</p>
<p>児童館が企画して、子どもたちと作り上げていく行事はいつも同じ子が利用するとは限らないので難しい。</p>
<p>時間の確保。</p>
<p>児童館としての取組の場合、皆が経験して欲しい思いもあるが、苦手な子たちに対する対応。</p>
<p>児童館には音楽室が無い。その利点はピアノが「街角ピアノ」のように、弾きたい人が弾けて賑やかな、または、素敵な BGM になる。が、中高生がバンド活動をしたい思いには応じられない。しかし、区民センター内には音楽室があるので、公的利用で使える日を整え、一層の音楽活動を進めたい。また、ダンスなど踊れる環境も整えたい。</p>
<p>児童館内での活動場所の確保が難しい。(放課後児童クラブの児童数が多く、児童館の部屋は全て使われているため)</p>
<p>児童自身が表現活動しているとは言えないほどの参加と企画であった。</p>
<p>児童数減少により、なかなか集まらないので、色々な場所で（おたよりなど）告知する必要がある。</p>
<p>時間と職員体制の不足</p>
<p>時間の確保</p>
<p>時間の設定（特に小学生向け） コロナ対策。</p>
<p>自主的な参加者が増えるように魅力的な事業計画を含む、事業の継続に必要な環境を整えること。</p>
<p>自分の気持ちを上手に表現できない児童が多いので、表現活動を取り入れていく必要を感じている</p>
<p>自由遊びの中で観られた表現活動を職員がサポートすることで「みせる」場を作ったり、他の友だちと共有で切る体験に繋げてきた。今後の見通しを持って取り組める活動として計画し、位置付けていきたい。</p>
<p>自由来館のため集団で活動できる時間や、サポート体制の確保が難しく中途半端になってしまう</p>
<p>自由来館のため利用する時間が異なり練習がうまくできない</p>
<p>自由来館の子どもたちは、継続的な取組は難しい。学年が上がると、学校行事や習い事等で来館頻度も少なくなるため、質の向上を目指すのは難しい。また、職員が少なく、豊かな表現活動に取り組んでいく余裕はあまりない。</p>
<p>質向上のための専門家をどのように取り込み練習に組み込んでいくか</p>
<p>実行委員会的なメンバーを中心に取り組みを恥じているが、中心メンバー以外の参加が少ないので今後の課題</p>
<p>実施するための練習時間、研修時間がなかなか取れない。</p>

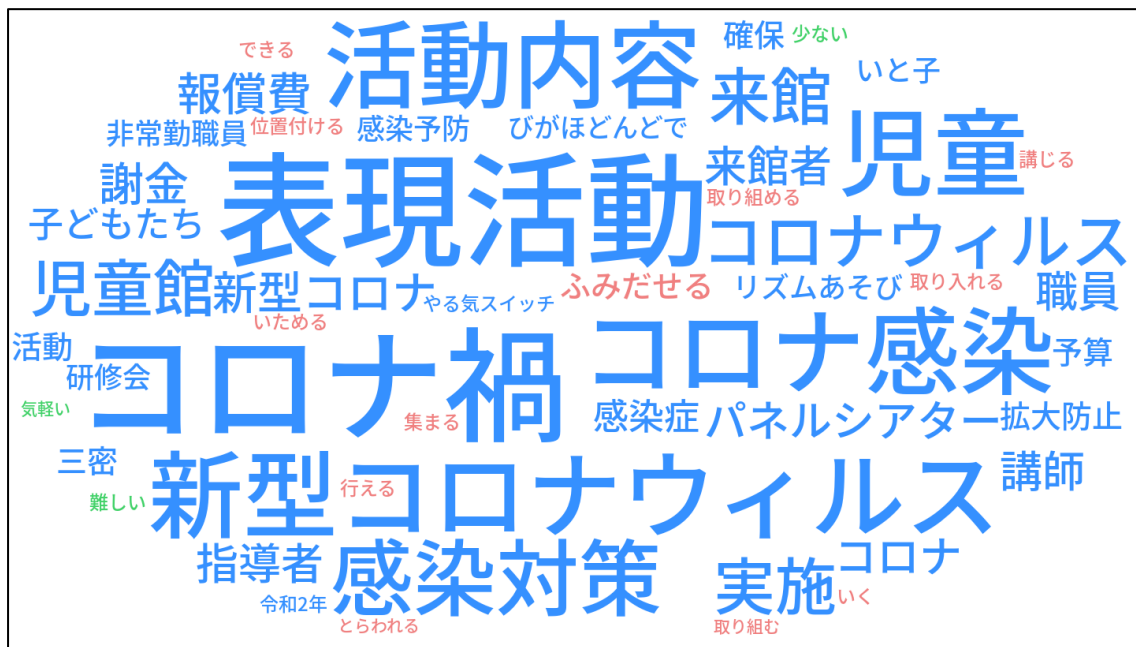
実施のための資金、全国的な人材ネットワーク（表現活動実施団体等）。
周知、告知が難しく、講師との日程調整が難しい。
小学生の表現活動として、イベントに向けてダンスなど自主的にやるが、それ以外になると継続はできない。
小学生以上児童の表現活動が実施できていないため、次年度は実施したい。
小学生向けなど、子ども自身が自らの表現ができる場をもっと増やしていきたい
少集団にするとしても、練習時間、場所を補償する事が難しい。
職員が持っているスキルで実施するだけでなく、様々な関係機関と連携していきながら活動を進めていきたい。
職員数、指導員の確保
職員体制に余力がないため、チャレンジしたくても実施が難しい
新しいダンスや地域の踊りにも挑戦できればと思う。
新規の子どもを誘う時の動機付け。
新型コロナウイルス感染症への対策が課題である。
児童の放課後の時間が短くなり、十分な練習の時間を確保することが難しいこと。
中高生(特に中学生)の参加者数の減少がみられている。
人の前で表現する事を嫌がったり恥ずかしがったりする子が多い。また、している子に対してからかう子もいる。
人形劇を指導できる職員の知識・技術のばらつき（特定の職員でないとできない）
練習できるスペースの確保（児童館の部屋数が少なく、児童クラブの登録人数が増え、コロナへの配慮も欠かせないとすると、連取場所の確保が難しい）
人数が増えた時の時間の割り振り。
人前に入る事を恥ずかしがる子に自信を付けさせたい。
実施する上での場所の確保も大きな課題である。
時間も限られていて難しい。
施設の制限
全員揃っての練習がなかなかできない。
素材や道具の確保。指導者の検討。
騒音問題。
対象の設定を考えること
滞在時間がそれぞれのため時間設定が難しい
大きな音になってしまうと、周辺住民に迷惑となる。
大型児童館で、子どもが自分だけで来館するのが難しい立地条件のため、子どもたちが日常的、定期的に集まり、表現活動を主体的に実施するのは難しいと感じている。
大人数でのイベントを企画することが難しくなり、試行錯誤の途中。特に高齢者との交流が激減し、発表する場も減少した。
大勢の人数が1か所に集まってすることが困難。
単発の活動と継続的な活動のバランスをどのようにしていくかが課題。
単発の活動は、参加者も多く楽しんでいただけており、表現活動の魅力は伝えられていると考える。しかし一方クラブ活動は、当園は郊外に位置しアクセスが悪く、子どもだけでくるのが困難なためか、所属するクラブ員は減少している。今後、クラブ員を確保し、活動を継続していくための方策を考えていきたい。
地域の特性を活かした活動を考えていきたい。
地域性の課題（騒音問題）、活動が習い事と捉えられないようにしたいという課題を抱えております。子どもたちの様子を見ながら実施する遊びがほとんどで、日常活動として実施することから、計画的な実施が難しくことも課題に思います。
地域保護者会活動の減少
低学年（1・2年生）の集中力や持続力の育成。 高学年の練習参加率の向上

低学年を対象とした活動が中心になってしまう
田舎なので高校を卒業すると街を出てしまいます。帰ってきてからの少しゆるい大人の活動形態も模索したいです
当館の利用者は、主に3年生以上で、表現活動を練習する時間の確保が難しい。
同じような活動内容によるマンネリ化。
同じような内容にならないようにする。
子どもたちの意欲がないと強制的になってしまう。
読み聞かせの練習の回数・場所等も含め、継続した活動ができるようにしていくことが課題です。
日頃、家と学校の行き帰りが多い児童に、テレビ等に映るコンサート等を身近に触れさせたいし、講師の先生方と話す機会を持たせたい。
日常活動の中で行うには人手不足などが課題。
年毎に子どもたちの思考の短絡さが目に付くこと。
発表する機会を作ること。
表現の受け取り方の習熟に課題を感じています。聞き方や態度のほか、自身と違う表現を受け入れ、自身の表現に発展させる方法など。
表現活動に当たっては、活動前に、講師の思いや取組方針などを職員みんなで共有する事が大切だと思う。
表現活動の楽しさをもっと多くの方に伝えて、参加してほしいと思っています。コロナの影響で、みんな新しいことに挑戦することに消極的になりがちなので、表現活動を通して、生活がより充実したものになっていければと思います。
表現活動を苦手としている子への対応。
表現活動を職員がしかけても中々浸透しない こどもたちのやる気スイッチがなかなか入らない
表現活動的なイベントを実施したいが、どうしても制作活動に偏ってしまいがちである。企画の段階で表現を意識していきたい。
表現力を取り入れてた取り組みや活動をするのに職員が考えすぎてしまう
平日は放課後児童クラブが主のため、時間調整が困難
放課後児童クラブの運営に職員やスペースが多く割かれるため、企画が難しい。
毎日の来館児童が違うので、一つの集団、グループを作るのが困難。
未経験なことに対して消極的な児童が多く、表現活動を行いたい児童が限定的になっている。
未就学児対象と小学生以上の児童との開催回数のバランス。
密予防の中で定員を決めると思ったように実施できない。例えば歌は取り組みにくく、子どものやりたい気持ちにタイムリーにこたえられない場合もある。多くの方に参加していただくために少人数で回数を増やすなど細かな実施内容の工夫が欠かせなかった。
予算と人材の確保が大きな課題といえる。人材は地域の方が担うことも大切だが、中高生児童が和太鼓の指導を行うなど参加者から支援者に移り変わるサイクルをつくることも有効といえる。また、いきなり難しい表現活動でつまづくこともあるため、まずは児童館を遊びに行く居場所として定着できることも児童の安心材料になるのかなと考える。どんな取り組みでも遊びがきっかけやスタートにできるような指導や職員の力量も必要と考える。
職員不足
幼児から小学生などと参加をする子どもの年齢層が幅広く、中には参加をしたが子どもの年齢に合わなかったという声もあった。全ての子どもに平等に楽しんでもらえる内容にしなければいけないのが課題点である。
幼児向けの内容を検討する。
様々な種目の体験をさせたい。児童館職員自身の実技習得

実施者の年々減少
来館した児童達が主体的に様々な活動を計画し、実施していくような環境、雰囲気作りを心掛けていきたい。
来館人数が増加しており表現活動を行うために確保するスペースを確保することができない。
利用者が「表現活動」を行うことについてハードルの高さを感じている。様々な事例から少し研究していく必要がある。
利用者ニーズに合った活動を実施できるよう工夫する事。(コロナ禍で色々な規制があるため)
利用者の多くが未満児親子である事から利用者自身が表現活動を行う事が難しい中で、どのように展開し、充実させていけばよいか。
利用人数に応じたスペースの確保
令和3年以前に行っていた表現活動はクリスマス会などの出し物として練習したもので、表現活動自体が目的ではなかった。また、クラブ活動として取り組んだ時期もあったが、やりたがる子が少ない。どんな活動でもそうだが、苦手な子、やりたくない子をその気にさせる仕組みが難しい。多様な児童が集まる場なので、自己表現を恥ずかしがってしまう子も多い。また、習い事でやっているため、わざわざ児童館や学童でやらないという子もいる。さらにはコロナの事もあり、歌を歌うだけでも気を遣う事が多くなり、消極的になってしまう。
練習する場所の確保。
練習場所の確保。他ジャンルへの挑戦。
和太鼓等、子どもたちに体験させてあげたいが、子どもクラブが団地内にあるため、大きな音が出せない。

問 10 で自由記述されたテキストデータを、ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://wordcloud.userlocal.jp/>) で分析した結果、下記のような結果が得られた。

【図 2 今後「表現活動」を実施していくための課題】



なお、自由記述では、おおよそ次のようなことを課題と考えていることが見て取れた。以下に列記する。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、大勢が集まったり、大きな声を出したりなどが難しいなど、活動場所、活動人数、活動内容等が制限されること。感染対策に関すること。
- ・職員の指導技術や知識の不足、謝金や報酬費等の予算がない、または少ないことなどにより指導者、講師の確保が困難なこと
- ・子どもの放課後の忙しさや、子どもが集まらないこと、恒常的な活動場所の確保が困難なことなどにより継続的な活動をすることが難しいこと
- ・活動に伴う予算がない、または少ないこと
- ・子どもの自主性や、やりたいという気持ちを引き出すこと
- ・魅力的な活動内容の選定

その他、詳細は自由記述を参照されたい。

Ⅲ. 「鑑賞活動」の実施状況について

問 11. 「鑑賞活動」を実施していますか。[全児童館]

回答件数 857 件のうち、「実施している」が 607 件 (70.8%)、「実施していない」が 250 件 (29.2%) であった。

【表 14 「鑑賞活動」の現在の実施の有無】

鑑賞活動の実施	実施している	実施していない
回答件数 857 (100.0%)	607 (70.8%)	250 (29.2%)

劇遊び等の「表現活動」または、劇・映画・音楽等の「鑑賞活動」のいずれかを実施している児童館のうち、現在は 70.8%の児童館で何らかの「鑑賞活動」を行っていた。

問 12. 「鑑賞活動」を実施するための事業予算はありますか。

問 11 で、「鑑賞活動」を実施していると回答した 607 館の回答を集計した。

【表 15 「鑑賞活動」の予算の有無】

鑑賞活動の実施予算	ある	ない
回答件数 607 (100.0%)	342 (56.3%)	265 (43.7%)

「ある」が 342 件 (56.3%)、「ない」が 265 件 (43.7%) であり、予算がある児童館が、ない児童館を上回った。

付問 12-1. 令和 4 年度の予算額

問 12 で、「鑑賞活動」の実施予算があると回答した児童館 342 館のうち、無効回答の児童館を除いた 312 館の回答を集計した。

【表 16 「鑑賞活動」の実施予算額】

	回答件数 312 件	100.0%
10,000 円未満	53	17.0
10,000～50,000 円未満	140	44.9
50,000～100,000 円未満	57	18.2
100,000～200,000 円未満	34	10.9
200,000 円以上	28	9.0

「10,000～50,000 円未満」が 44.9%で最も多く、次いで「50,000～100,000 円未満」18.3%、「10,000 円未満」17.0%の順に多かった。

問 13. 「鑑賞活動」の実施回数及び参加人数(概数)を記入してください。

問 11 で、「鑑賞活動」を実施していると回答した 607 館のうち無効回答を除いた回答を集計した。

なお、「延べ参加人数の合計」は、各児童館の回答に記入されていた延べ参加人数を、実施回数区分ごとに合計した。

【表 17 「鑑賞活動」の実施回数と延べ参加人数の合計（令和 3 年度）】

実施回数	回答件数 570 件	100.0%	延べ参加人数の合計
0 回	79	13.7	0
1～10 回未満	399	69.0	39,765
10～20 回未満	61	10.6	18,000
20～30 回未満	16	2.8	7,744
30～40 回未満	6	1.0	6,674
40～50 回未満	2	0.3	1,616
50～60 回未満	6	1.0	5,980
60 回以上	9	1.6	21,505

令和 3 年度の実施回数は「1～10 回未満」が 69.0%で最も多く、次いで「0 回」13.7%、「10～20 回未満」10.6%の順に多かった。

また、延べ参加人数の合計は「1～10 回未満」の 39,765 人が最も多く、次いで「60 回以上」21,505 人、「10～20 回未満」18,000 人の順に多かった。

【表 18 「鑑賞活動」の延べ参加人数（令和 3 年度）】

延べ参加人数	回答件数 556 件	100.0%
0 人	55	9.9
100 人未満	259	46.6
100～200 人未満	121	21.8
200～300 人未満	46	8.3
300～400 人未満	22	3.9
400～500 人未満	12	2.1
500～600 人未満	10	1.8
600 人以上	31	5.6

「100 人未満」が 46.6%で最も多く、次いで「100～200 人未満」21.8%、「0 人」9.9%の順に多かった。

【表 19 「鑑賞活動」の実施回数（令和4年度）】

実施回数	回答件数 580 件	100.0%
0 回	25	4.3
1～10 回未満	434	74.8
10～20 回未満	72	12.4
20～30 回未満	20	3.5
30～40 回未満	7	1.2
40～50 回未満	3	0.5
50～60 回未満	6	1.0
60 回以上	13	2.3

令和4年度の予定を含む実施回数は「1～10 回未満」が 74.8%で最も多く、次いで「10～20 回未満」12.4%、「0 回」4.3%の順に多かった。

問 14. 現在実施している「鑑賞活動」はどのような活動ですか

問 11 で、「鑑賞活動」を実施していると回答した 607 館の回答を集計した。(複数回答)

【表 20 実施している「鑑賞活動」の種類】

実施している 鑑賞活動 の種類 回答件数 607 (100.0%)	演劇	人形劇	音楽 コンサート	オーケストラ	ミュージカル	ストーリーテリング (素話)	落語	歌舞伎	能	映画	映画以外の映像・ メディア
	42	199	234	5	11	68	18	0	1	218	82
	6.9	32.8	38.6	0.8	1.8	11.2	3.0	0.0	0.2	35.9	13.5

実施している鑑賞活動の種類上位 3 つは、「音楽コンサート」38.6%、「映画」35.9%、「人形劇」32.8%であった。

「12. その他」の記述は、次の通りである。なお、同じ内容のものはまとめて括弧内に数を表示した。

マジックショー・手品 (34) / 絵本や紙芝居の読み聞かせ (28) / パネルシアター (11) / ジャグリング (9) / バルーンアート (9) / 映像の視聴 (7) / パントマイム (5) / 大道芸 (5) / 和太鼓 (4) / モバイルプラネタリウム (3) / 腹話術 (3) / ペープサート (3) / よさこい (2) / 獅子舞 (2) / 和楽器 (琴と尺八) の演奏会と琴の体験を実施 (2) / ダブルダッチ / サイエンスショー / クラシックバレエ / 日本舞踊 / 中学生による英語劇 / コーラス / パフォーマンスショー (ヨーヨー、手品、けん玉など) / 影絵 / 琴の演奏会 / バイオリン / オカリナ演奏 / 南京玉すだれ / 講談 / 琴コンサート / エプロンシアター / 大人から歌声・リズムあそびの披露 / 影絵 / 厚生員による昔話の寸劇・絵巻シアター / 音楽鑑賞 (クラシックなどを館内放送で流す) / 三味線演奏 / クリスマス会 (リコーダーアンサンブル、ハンドベル、ピアノ 有志の子どもたちの演奏) / 16 ミリ映写 / 子どもたちが演じる防災ドラマ (演劇) 上映会 / 子どもフラダンスショー / フラメンコ / 発表会 / タップダンス / ブックトーク / 平和イベント / 忍者ショー / わらべうた / ブラックシアター / ヒーローショー / 吹奏楽 / ダンス / 地域の伝統芸能 / 猿回し / 講談 (怪談) / シャボン玉パフォーマンス / 琴と朗読の演奏会 / ダブルダッチ / 民話の語り

問 15. 「鑑賞活動」の対象者を選択してください。

問 11 で、「鑑賞活動」を実施していると回答した 607 館のうち無効回答を除いた 600 館の回答を集計した。(複数回答)

【表 21 「鑑賞活動」の対象者】

表現活動の 対象者 回答件数 600 (100.0%)	乳幼児と保護者	小学生	中学生	高校生世代	地域住民	高齢者
	380	561	175	118	112	56
	62.6	92.4	28.8	19.4	18.5	9.2

「小学生」が 92.4%と最も多く、次いで「乳幼児と保護者」62.6%、「中学生」28.8%であった。

「7. その他」の記述は、次の通りである。

障害を持った方／小学生の保護者／地域関係団体等／民生委員

問 16. 令和4年度に実施する「鑑賞活動」(計画中含む)について記入してください。

問 11 で、「鑑賞活動」を実施していると回答した 607 館のうち、回答が記述された 579 館の活動内容を表示した。(3 事例まで)

なお、児童館毎の活動内容に独自なものが含まれている活動例は可能な限り掲載することに努めたが、「活動の概要」から明らかに同一の内容と思われるものは、まとめて括弧内に数を表示した。

【表 22-1 「鑑賞活動」の活動例と概要①】

活動例(事業名等)①	活動の概要①
音楽コンサートなど鑑賞(119)	プロ、アマチュア、中高生吹奏楽などの演奏や和楽器(太鼓・琴)、歌などを楽しむ
55こどもフェスティバル	バルーンショー
16mm映画映写(4)	フィルム映画を映写。観る、知る。
映像作品の鑑賞(166)	夏休み中などに上映。子ども達のリクエストを集計。映画館の雰囲気再現、お楽しみ会として、中高生向け企画としてなど。
映画会(6)	市立図書館の主催、教育委員会所蔵の作品などの上映
映画鑑賞会	映画館に向いて映画を鑑賞する
映画館ごっこ	映画のポスターやチケット制作、当日の進行を子どもたちで実施
20周年記念行事	パネルシアター
R2小学生お楽しみ会	バルーン
ウェルカム児童館	歌・ダンス・演劇
おたのしみ会	歌・パネルシアター・ペープサート鑑賞
お話し会・読み聞かせなど(32)	プロ、地元の読み聞かせやボランティア団体、子ども、児童館職員などによる読み聞かせ。絵本、紙芝居、ペープサートなど
オペレッタ鑑賞	広島市内で活動しているグループに無償で来てもらっている
お楽しみ会	ジャグリング
お芝居屋さん鈴木 KE 企画	「泳げない犬」の公演
キッズカーニバル(5)	手品・人形劇・音楽コンサート
キッズシアター	劇団による演劇を鑑賞する。
きむたかのあまわり	2023年3月の公演観劇予定
クラウンショー	クラウン
クリスマス会・クリスマスコンサート(27)	ピアノ、ハンドベル、楽器の合奏、合唱、パネルシアター、人形劇、マジックショーなどの鑑賞
こどもの館巡回劇場	人形劇やパネルシアターの鑑賞
ざんさん落語	落語等
すこやかクラブ	かば♡うまさんによる表現鑑賞あそび
タップダンス	文化庁「芸術家派遣事業」で実施。タップダンサーによる演技を鑑賞する。体験活動あり。
たなばた会	リトミックの実施
なんちゃれ	腹話術、マジックショー等
にこにこ広場	わんわんショー
パネルシアター	ボランティアで活動を続けている演者さんによるパネルシアターの上演

パネルシアター公演	外部から演者を招きパネルシアターを上映して親子で鑑賞する
パフォーマンスショー	ディアボロなどの披露鑑賞
バルーン大魔王	Xmas バルーンショー
パントマイム鑑賞	パントマイムを鑑賞した。
プラネタリウムを見に行こう	遠足を兼ねてプラネタリウムを鑑賞する。
フラメンコ体験	フラメンコ
マジック (8)	いつもと違う楽しい時間を経験する。プロ・地元の愛好者などによる
みーんなあつまれ「クリスマス会」	少年少女合唱団によるクリスマスコンサート鑑賞
ミュージカル「白雪姫」	市民により手作りミュージカルの上演
ミュージカルがやってくる	館内でのミュージカル鑑賞
ミュージカル公演	子どもたちによる、子どもたちのためのミュージカルパフォーマンス公演
みんなでいこう!	バス遠足による観劇。
モバイルプラネタリウム	移動式のプラネタリウムによる上映
レインボータイム クリスマススペシャル	職員による演劇
わくわくステージ	人形劇、音楽コンサートなど。月1回。
移動児童館(ちょうこくしつ座)	人形芝居
影絵 (6)	大学や地域ボランティアと連携。鑑賞、制作、動かす体験などの取組
英語で落語	小学生対象の英語での落語鑑賞とミニゲーム
演劇 (7)	劇団員の方による演劇鑑賞
演劇 (七夕会)	演劇鑑賞、朗読
演劇会	素話とペープサート、パネルシアター
外部講師による あそび歌コンサート	乳幼児親子対象で、音やリズム、身体表現で楽しむコンサート
観劇	地元母親ボランティアによる観劇会
観劇会	ホールを借りて劇を鑑賞
館まつり ダンス・吹奏楽発表	ダンスや吹奏楽の発表を鑑賞する。
寄席	桂吉弥さんたちに米朝一門の落語を鑑賞する。
吉田さんちの大道芸	親子の大道芸を鑑賞
琴の演奏会	お琴の演奏を鑑賞する。
語りの会	ボランティアによるストーリーテリング
子どもファンタジー劇場	オリジナル児童演劇
子ども寄席	落語
子ども落語会	子どもたちが上記対象者の会場案内や司会進行、会場設営を行う。
市内児童館合同観劇会	市内の児童館合同で観劇会を実施する
紙芝居	地域の紙芝居団体より話し手に来てもらい、本格的な紙芝居を読み聞かせてもらう。
紙芝居	地域ボランティアによる読み聞かせ
児童会館でけん玉セッション! ハイレシートとけん玉	けん玉パフォーマーが来館し、けん玉パフォーマンスや 技の指導を実施した。(会場参加とオンライン参加)

しよう！	
児童館フェスタ	戦隊ショー
児童館まつり	オープニングステージでの「よさこい」鑑賞
児童館まつりパフォーマンスショー	ディアボロ等ジャグリング・シャボン玉ショー
児童館観劇会	放課後や休日などの子ども達の居場所確保事業のひとつとして、観劇会を催し、子どもの感性をはぐくむため
主婦たちの集まり	童謡、楽器遊び、お話、トークなど
新入生おめでとう会	ミュージカル「夢のかいぞく島」
新入生歓迎会	新1年生を皆で祝う。
新年おたのしみ会 I	典芸、琴の演奏
親子あそびの広場	パネルシアター鑑賞
親子クリスマス会	親と子の劇場の自主サークル「パペットキッズ」さんによる、絵本の読み聞かせやパネルシアター、人形劇、エプロンシアター、わらべ歌遊びなどを乳幼児親子さんを対象に、毎年、クリスマスの時期に、実施。良質な絵本との出会いや、わらべ歌による親子のふれ合い遊びなどを、乳幼児親子さんにプレゼントする。
人形劇（87）	プロ、地元のアマチュア劇団、母親クラブ、大学サークルなどによる。鑑賞、児童のワークショップ、児童も出演し、即興で演じるなど。
星空観察会	講師を招いて、映像を見ながら夏の星空の説明や宇宙の神秘を知る。
大型絵本をみよう	絵本や紙芝居の読み聞かせ
大型紙芝居	大型紙芝居の上演
市民会議学童支援事業	マジック、本の読み聞かせなど
大道芸	けん玉、コマまわしなど
第 21 回 やっとこサン劇場 うさぎとかめ	劇団による参加型劇と表現あそびワークショップを実施。
地元の劇団	演劇を鑑賞すること、音楽コンサートの鑑賞
冬のおたのしみ会	パネルシアター
日曜開放・親子でたのしむミュージカル	日曜開放行事として、地域の子育て世帯を対象に実施
忍者ショー	アトラクション団体による忍者ショー
年に 1 度の児童館まつりでの催し物としてジャグリングショーの方を呼んだ。	ジャグリングショーをお祭り来場者に観てもらった。ショー以外にもマジック講座のブースを担当してもらった。
爆笑！お笑いショー！	札幌吉本興業の芸人さんを招いての、お笑いショー
美術館に遠足	美術鑑賞
腹話術	人形や身近なものを使った自作の小道具で腹話術を中心とした笑いのある活動。
文化芸術	年 1 度、文化財団の復興プロジェクトで希望する
文化小劇場共催	児童向け観劇の鑑賞
文化伝承教室	地域芸能（箱まわし）
防災ドラマ（演劇）上映会	子どもたちが防災について学び劇を創作してドラマを制作し、上映することで防災について地域に啓発する
遊び場スキップ	エプロンシアター

【表 22-2 「鑑賞活動」の活動例と概要②】

活動例（事業名等）②	活動の概要②
音楽コンサートなど鑑賞 (70)	プロ、アマチュア、中高生吹奏楽などの演奏や和楽器 (太鼓・琴)、歌などを楽しむ
(サマーフェスティバル) 子 どもフラダンスショー	子どもフラダンスの鑑賞
3匹のヤギのガラガラドン	市の財団が児童館での活動を支援して、開催。
映像作品の鑑賞 (40)	夏休み中などに上映。子ども達のリクエストを集計。映画館の雰囲気再現、お楽しみ会として、中高生向け企画としてなど。
ECO 紙芝居を見よう	市主催の ECO 講座がセンターで行われた。
Mr. ソロ	マジックショー
R3 小学生クリスマス会	影絵
エプロンシアター	エプロンシアターの鑑賞
おたのしみ会 (6)	児童によるけん玉パフォーマンスや合奏発表 地域の愛好者やプロの手品、ジャグリングなどを観る。 パネルシアター
おとうさんカモン!	ばか面おどり (団体) 鑑賞
読み聞かせ・おはなし会 (38)	読み聞かせ団体、ボランティア、子ども等による素話、 絵本、パネルシアター、エプロンシアター等の読み聞かせ 絵本と音楽のパフォーマンス
お芝居&謎解きあそび〜も もたろう”毒入りきび団子事 件”〜	劇団による参加型劇と謎解きあそび、表現あそびワー クショップを予定。
お別れ会	南京玉すだれ鑑賞
クリスマス会、クリスマス演 奏会など (18)	合唱鑑賞、楽器演奏、手品、腹話術、音楽コンサート、 地元中高生の吹奏楽など
クリぼっちパーティー	中高生のやりたいことを企画し、実現する
こあらクラブ「クリスマス 会」	職員によるパネルシアターの上映、歌あそび
こどもわくわく劇場	劇団や地域サークルによる人形劇などを提供
コメディクラウンサーカス	子どもとその保護者を対象として、プロの道化師(クラ ウン)によるサーカスを上演することで、親子で触れあ いながら楽しめる機会を提供し、よりよい家庭環境づ くり資する。
サイエンスショー	実験をみたり体験して不思議さや科学に興味を持つ。
サマーコンサート	音楽グループの演奏とうた
スペシャル人形劇	劇団に来てもらい観劇。
ダンス	ダンスショーをライブで鑑賞
ちいさなコンサート	美しい音色で心を癒す
ちびっこあつまれメリーク リスマス	ペープサートによる人形劇と生歌によるコンサート
ちびっこクリスマス	ジャグリング
パネルシアター (6)	未就学児等を対象としたパネルシアター実演
パフォーマンスショー	大道芸人によるパフォーマンスショーとジャグリング 講習会
パントマイムショー	ピエロになるまでを披露し、ショーを見る。

パントマイム鑑賞	館まつり、クリスマス会等の鑑賞
プラザフェス 2022	出演者を公募し、音楽やダンスを楽しむ。
マジックショー（6）	プロ・アマチュアによるマジックショー
ミュージカル	幼児と保護者向け
ワイワイ広場「映画を楽しもう」	15分～30分ぐらいのお話をみんなで鑑賞する
わくわくマジックショー	マジシャンズクラブ仙台の方々に来ていただいてマジックを実演鑑賞する。
わらべうた	乳幼児と保護者向け鑑賞
影絵鑑賞（7）	母親クラブ・地元影絵サークル等による影絵を鑑賞
映画会（17）	16mmフィルム等の上映
映画館ごっこ	町民会館借用し、おもちゃのお金でチケットやおやつ、飲み物を買って、レンタルDVDをプロジェクターで鑑賞する。
英語劇	中学生による英語劇
影絵（2）	影絵による劇
演劇のつどい	演劇クラブ員と劇団員による劇
音遊び	音遊びの達人のWS他
花はなまつり	ハンダーFOXのヒーローショー
絵本コンサート	読み語り+コンサート
学童クリスマス会	演遊舎さんによる劇あそび
鑑賞会	腹話術公演
館外活動	プラネタリウム
基幹ステーション事業（地域の活性化のために児童館が企画したもの）	演劇鑑賞（8/8）
教室活動	戦争についての映画
芸術家派遣事業（ほうねん座）	和太鼓と民俗芸能
劇団「ばれっと」による人形劇	別府溝部学園短期大学の人形劇部による人形劇。年長～小学生を対象に行い、学生の手作りの人形劇を鑑賞し、学生との交流も行う。
劇団スイートピー	児童劇団によるダンスと演劇の公演
劇団鑑賞	マジックショー
講談	講談の鑑賞
作品展	造形活動の展示鑑賞
子どものための舞台芸術による地域応援の場づくり、全国児童館等巡回公演事業	H28年度戦略的芸術文化創造推進事業として文化庁より委託を受けた、日本児童青少年演劇劇団協同組合に公演をお願いし、準備や当日の運営を行い、地域住民との交流も行った。
児童劇巡回事業	子どもに有益な劇の鑑賞（実施補助があった）
児童健全育成	よさこい踊り
七夕行事	楽器演奏・影絵・素話・ブラックシアター・人形劇
手品	マジシャンを招いて鑑賞する
手話ソングワークショップ	地元で開催されているバリアフリー音楽会「とっておきの音楽祭」実行委員会から演者を招いて、小学生を対象にした手話ソングの鑑賞と体験
手話による劇あそび	手話と身近な劇を合わせて
秋のこどもフェスタ	劇団によるペープサート劇、歌、ダンス等の鑑賞

春休み 人形劇	地元の方のボランティア
新年おたのしみ会Ⅱ	腹話術
新年おめでとう会	バルーン・アーティストによるパフォーマンス&ワークショップ
親子あそびの広場	リトミックを楽しもう！
人形劇鑑賞（48）	地元劇団、プロの劇団などによる人形劇の鑑賞
動く、こどもの館号	パネルシアターやペープサートの鑑賞
虹サタ「漫才体験」	お笑い芸人による漫才鑑賞と二人一組による漫才体験。
乳幼児向け児童館観劇会	観劇会を催し、子どもの感性をはぐぐむため
乳幼児親子クリスマス会	未就学園児親子対象。地元在住のママのプラスバンド演奏。
乳幼児親子プログラム	1歳児クラスでの紙芝居
忍者ショー	小学生対象：劇団おぐら座
舞台芸術公演巡回事業	演劇
舞台芸術鑑賞	俳優がおくる参加型ヒーローパフォーマンスショー鑑賞
夢っ子シアター	歌・身体表現あそび
落語鑑賞（4）	落語の世界を世代間で楽しむ。アマチュア・中高生の落研など

【表 22-3 「鑑賞活動」の活動例と概要③】

活動例（事業名等）③	活動の概要③
16ミリフィルム鑑賞	外部に依頼
映像作品の鑑賞（23）	毎月、夏休み、クリスマスなどに鑑賞
あそびの広場	子どものダンスステージと演奏会
おたのしみショー	ちんどんや、腹話術、マジックショーなど
おはなし会・読み聞かせ（12）	地域の絵本サークル、ボランティア団体、職員、子どもたちによるもの。絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサートなど
落語鑑賞（4）	落語の鑑賞
キッズカーニバル	コンサート鑑賞とバルーンアート
クリスマスコンサート（12）	フルート・クラリネット・オカリナ・マリンバなど楽器の演奏
クリスマス会（10）	人形劇、ペープサート、子どもの特技、プロの劇団などを鑑賞
こども観劇会	プロの劇団による劇や音楽の公演を提供
サイエンスショー	劇団による実験を主体とするショー
ジャグリングショー	ジャグリングショー
たのシアター	厚生員による昔話の寸劇・簡単なマジック・絵巻シアター
ダブルダッチ	ダブルダッチの鑑賞・体験
ドン・キホーテのクリスマスコンサート	男声合唱団による合唱の鑑賞
にこにこ広場	音楽、リズム遊び
パネルシアター	クリスマス会でのパネルシアター
パネルシアター発表会	乳幼児・小学生を対象としたパネルシアター公演
パフォーマンス YAYA ジャグリングショー	パントマイム・ジャグリング等ショー

ブックトーク	ブックトーク活動をされている方に来ていただき、本の紹介をしてもらう。
マジックショー（5）	プロ、地域の愛好者、児童館職員などのマジックの鑑賞
ミュージカルを見に行こう！	劇団四季リトルマーメイドの観劇
モバイルプラネタリウム（2）	モバイルプラネタリウム上映
英語で読み聞かせ	英語の本を楽しんだ（英語講師による読み聞かせ）。
音楽コンサート（35）	楽器演奏・歌・バンド・吹奏楽などを聴く。プロや地域の愛好者、中・高校生による。
怪談	夏休みの間に職員による怖い話（素話）5回
輝け★中高生	中学生によるよさこいのパフォーマンス
芸術家派遣事業（ジャグリング）	大道芸・ジャグリング
劇団ちょびっと公演	ボランティア劇団の劇を観る
獅子舞・和太鼓	伝統芸能を身近に感じる。
出張プラネタリウム	天文台の出張プラネタリウム。エアドームの中で星座の話聞く。
人形劇（15）	プロ、大学生、母親グループ、子どもによる人形劇
伝統芸能にふれる会	ししまい鑑賞
入学・進学お祝い会	楽器演奏

「鑑賞活動」を実施している児童館に、どのような内容の活動を実施しているか求めたところ、多彩な活動が示された。

「音楽コンサート」の事例が多く見られる。演奏される楽器はピアノ、バイオリン、太鼓、琴、吹奏楽など様々であるが、地域のプロの演奏家や愛好者、地元の吹奏楽部などと連携して実施している。

「映画鑑賞」を含む映像の鑑賞も多くみられた。こちらは、日常活動の一環として上映したり、イベントプログラムの一つとしての取組み事例が多かった。

「人形劇」は、プロの劇団による上演、地元のアマチュアグループや大学のサークルなど、地域の社会資源を活用した事例が見られた。

詳細はそれぞれの自由記述を参照されたい。

問 17. 「鑑賞活動」に期待する効果(ねらい・目標など)について記入してください。

問 11 で、「鑑賞活動」を実施していると回答した 607 館のうち、回答が記述されている 462 館の回答を表示した。(自由記入)

【表 23 「鑑賞活動」に期待する効果】

感性を豊かにし、想像力（創造力）、様々なものに触れる機会とする（13）
感動を共有する事で、子ども同士の親睦を図る。 子どもの好奇心と想像力を大いに刺激しながら、豊かな心を育てる。
観劇する事で、物語や歌に興味を持ち、楽しさを味わうなどで豊かな感性の成長に繋がることを期待している。また、親子一緒に参加することで、会話が生まれ、共有できるものの一つにして欲しい。
観察力や集中力を養う。簡単なストーリーを理解し、空想力や想像力を養う。
観賞態度を養い、参加者で感動を共有する
鑑賞から得た感情や情報を成長に役立ててほしい
鑑賞することにより、美しさや面白さ等を直接感じ取り、味わうことによって、子ども達一人一人の素直な見方や感じ方を育てていく。
鑑賞するマナーを育む
鑑賞する事によって、心豊かな人間に育って欲しい。
鑑賞のみでなく、体験を活動の中に組み込んで、いかに努力が必要なことかを考えるきっかけにしたり、チャレンジして達成できた充実感、成功体験により様々なことにチャレンジする積極性が養われるよう心掛けている。
鑑賞の体験を通し、季節行事を知り楽しむ。
鑑賞の対象となるものの美しさを直接的に感じ取り、味わう事により、子どもたち一人ひとりの素直な見方や感じ方を育てていく。
鑑賞を経験する事で、鑑賞中のマナーを学び、楽しさを共有する。
鑑賞を心から楽しむ中で想像力を養う。
鑑賞を通し、感性を育み、自分たちで表現することに興味を持つ
鑑賞を通して、直接感じとることにより、豊かな感性を育む。
鑑賞を通じて、美しさや新たな体験を直接感じ、味わうことによって子どもたち一人ひとりの素直な見方や感じ方を育てていくため
鑑賞を通して、豊かな情操と感性を育てる。
鑑賞活動に親しむ態度を養い、情操やその子自身の生活が豊かになる。
鑑賞活動を通して見ることを楽しむ体験を積み重ね、楽しいと感じる心を養う。また、感じた事や思った事を話したり、友達と話し合ったりするなどして、見方や感じ方を広げ豊かな心を育むことができる。
鑑賞教材のテーマについて考え、情操を高める。
館外ボランティアから事業を実施してもらう事で、様々な体験で豊かにできる。
気軽に大きなスクリーンで映画を楽しんでもらう。
季節・行事に関連した内容から、友だちと楽しい時間やお互いの感想の違いを共有する
季節に応じた興味や、行事に来て心の豊かさを育てていくねらい。
興味・関心を広げ、豊かな心を育む。鑑賞のマナーについて学ぶ。
形や音を通して、様々な表現があることを知り、関心を持って欲しい。想像力を養い、自己の表現も豊かにできるようになってほしい。
芸術、音楽に触れ、楽しく過ごしてもらおう。
芸術に触れる機会提供。心躍る経験。
芸術を身近に感じ楽しさを知ることができる。
感性を豊かにする。

芸術文化に触れる機会を作る
劇の世界観や、音にあふれる非日常を楽しみ、情操や感性を豊かにする。
劇を観劇し、想像力を育むことを目的とする。
健康を増進し、情操を豊かにすることを目的にしている。
健全育成と情操を豊かにする
見たり聞いたり、体験することで、鑑賞することの楽しさを伝える。また、公の場でのマナーを学ぶ機会とする。
見て楽しんだり感じたりできるようになってほしい。
見方や感じ方を広げる事によって、表現の美しさや素晴らしさを発見することで、感性を養うことができ、創造力や表現力を育むことにつなげる。
個人では鑑賞しにくい大型紙芝居などを観る事で、豊かな情緒を育み、体験を増やす。
五感と想像力の成長を促す。
交通安全に関する鑑賞なので、交通ルールを守ること、自転車の安全運転の大切さを学ぶことをねらいとしている。
公共施設の利用による、社会性を養う。
厚生員では伝えきれない、プロの芸術を鑑賞する機会を得る。また、予算が許せばさらに大きな芸術鑑賞を行い、鑑賞の楽しみ方、マナーについて学習機会を与えたい。
行事に合った生演奏や生舞台を鑑賞する事で、子どもの経験の幅を広げられる。
講師や演奏者の美しい演奏に触れ、感情（感性）を豊かにしていく。
国語力を高める。人の気持ちを思う。
作品について理解を深め、感受性を高められる。
参加した方、児童が笑顔になれること。
心・体を開放できること。
参加型（子どもたちが）のイベントが人気であり、集客（参加者数）が少ない。
子どもたちが出演する創作ミュージカル上演団体の県域協会団体による公演の場の提供を目的とし、結果的に子どもを含む来館者への鑑賞機会の提供となっている。
子どもたちが小さい頃から宇宙や音楽に慣れ親しむことで、宇宙への興味・関心を持ってもらうと共に、豊かな情操を養う。
なお、幅広い世代の更なる利用促進を図る。
子どもたちに「生の語り」に出会う機会を提供し、その体験の記憶が、子どもたちの心の奥底に温かく懐かしく残り、子どもたちの生きる力になること。
子どもたちに映画を通して、社会のことを学んでもらうこと
子どもたちに演芸鑑賞の機会を提供し、情操を育む機会とする。
子どもたちに歌、音楽の楽しさを感じて欲しい。
施設同士の交流を深める。繋がる。
子どもたちに直接鑑賞する機会を提供し、楽しみながら豊かな感性や創造力を育てる。
子どもたちに優しい気持ちを持ってもらうことをねらいとして、映画の題材を選んでいる。
子どもたちの興味の範囲を広げると共に、仲間と一緒に観る事で共感を味わう。
子どもたちの興味の幅を広げる。
子どもたちの集中力を養う。スクリーンの大きさ、音響効果などからストレス発散、感性を磨く、知識も学べる、友達との話題作りにもなる。
子どもたちの情操を育むこと、日常活動の充実へ繋げることを目的に実施。
子どもたちの情操を深めると共に、演者とのコミュニケーションを通して様々な体験をする。
子どもたちの情操を豊かにする
発表者（演奏・演劇）ボランティアの活躍の場
子どもたちの素直な見方や感じ方を育てる。
子どもたちの創造力や情緒を育てる。

<p>子どもたちの豊かな情操を育てる活動と位置付けている。 子育てしている母親たちのリラックスできる機会とし、穏やかな「子育て」を応援する。</p>
<p>子どもたちの豊かな情操を育むとともに、地域における子育て支援事業や児童館活動の一層の充実・発展に寄与する</p>
<p>子どもたちひとりひとりが、自分が香味を持って夢中になれること、好きなことを探すきっかけとなること 既に、その表現活動に夢中になっている先達が持つ熱量を、子どもたちに直に感じてもらうこと</p>
<p>子どもたち一人ひとりが素直な見方や感じ方を育てていく。 豊かな感性、想像力を育むと共に、楽しい時間を過ごす。</p>
<p>子どもたち一人ひとりの素直な見方や感じ方を受け止め、豊かな情緒を育む。</p>
<p>子どもの感受性が豊かになる。共感力・社会性の向上。家族間のコミュニケーション。</p>
<p>子どもの感受性と創造力を育て、参加者同士が感動を共有する</p>
<p>子どもの感性の成長に少しでも影響があればと思います。</p>
<p>子どもの感性を育むと共に、保護者への癒しの時間の提供。</p>
<p>子どもの興味に応え、全体での視聴マナーを意識させる。</p>
<p>子どもの五感を育み、感じた事を表現していく表現活動へと繋がっていく。</p>
<p>子どもの情操を豊かにする。人の気持ちを考えられるようになる。戦争を起こしてはならないと感じる。</p>
<p>子どもの創造力を深める、物語の中に入り込み物語の世界を体験できる。</p>
<p>子どもの想像力を伸ばす。</p>
<p>子ども達の情操発達や親子でふれあう喜びや楽しさを知るきっかけ作り</p>
<p>子育て支援事業や児童館まつり等の行事に取り入れているが、コロナ禍で外部講師を呼べなかった。終息すれば盛大にできる事を願っている。</p>
<p>子育て中の保護者が、子育てをしていることを楽しめるようになる。</p>
<p>子どもに興味・関心が沸き、情操が豊かになる</p>
<p>視覚を通して豊かな想像力や感情移入が体感できる。</p>
<p>視聴覚を通して情操を豊かにする。特に、友情や正義の心を育むことができる。</p>
<p>児童が日常生活において体験できないことを体験できる機会を与える。</p>
<p>児童に音楽に触れ、楽しんでもらうと同時に、地域の方との触れ合いを目的に毎年実施している。</p>
<p>児童の情操を育てると共に、創造的な感性や態度の向上を図る。</p>
<p>児童の情操を育む (21)</p>
<p>児童の心身共に健全な育成を図る事を目的としている。</p>
<p>児童の想像力を豊かにしたいため。</p>
<p>児童の豊かな感性を育みたい。</p>
<p>児童会館を劇場にし、みんなで一緒に楽しむ。映画の内容によっては豊かな心を育てる。</p>
<p>児童館に親しむための行事の一つとして考えている。</p>
<p>児童館行事として、児童の楽しみの活動としての位置づけ。公共マナーの取得。</p>
<p>児童文化の振興と児童の健全育成</p>
<p>自主活動や創作活動などへ繋がられるようにする。 子ども達の感性を高められるようにする。</p>
<p>自身の知らなかった世界を受けて考え方を変える事をねらいとしております。また、鑑賞の際にはマナーを大切にしており、「一緒にその時間を楽しむ方が不快な思いをしないように思いやりを持つ」ということを都度伝えるようにしております。</p>
<p>自分たちもやってみたい・表現てみたいとおもってもらう。 純粋に表現活動を楽しんでもらう</p>

自分の住んでいる地域を知り、興味を持ってもらう。
自分自身あるいは、現実社会では経験できないような事例や物事に触れ、視野を広げる
自由な発想を得る。
質の高いプロの音楽や演劇を鑑賞することにより、人間性を豊かにして、多様な生き方や考え方を学ぶ
実際には経験できない感動を作品を通して体感し、心の成長につなげる
社会性や協調性を身に付けさせるとともに感情・自己表現力の向上を図る。
集団で楽しみを共有する事ができる（館内の大型スクリーンを使って）。
集団で鑑賞することによる一体感の感得
芸術的な感動を味わう
集団で視聴するマナーを学び楽しむ
集中力、態度、情緒を高める
上質の音楽活動に触れ、音楽のすばらしさを感じるとともに、高い目標を立てて努力することの大切さを知る。
場所によってルールが違う。大勢での鑑賞中のマナー等。
情操を豊かにする。
想像力を養う。
共感力や社会性が育まれる。
他者とのコミュニケーションが促進される。
情操を豊かにする。興味関心を広げる。幼児保護者のリフレッシュ。
情操を豊かにすることや想像力・集中力の育成。
色んなものに見て触れて感じて欲しい
色々な楽器の演奏を聴き、音楽に親しむ。
様々な楽器の音色や音の出し方を知る。演奏や楽器に興味を持つ。
色々な芸術に触れ、心動かす機会になればと思っている。地域交流にもつなげている。
色々な物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ。
生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。
感じた事や考えた事を自分なりに表現して楽しむ。
色々な物を鑑賞することで、子どもたちの世界を広げてあげる。
色々な物語やおはなしを知ってもらいたい。
色々な文化に触れる機会を通して、豊かな人間性を育てる。
心の安定。リフレッシュ。
心やさしくたくましく、想像力豊かな子どもの育成。
心を動かす経験
表現力を豊かにする
新しい体験の場の提供。共に鑑賞することで共有感を得る場の提供。
新作を取り入れ楽しみ、定期的に行う
親子でリフレッシュできる機会、情操を豊かにする、興味の幅を広げる
親子で楽しい時間を過ごす。子育ての中でのほっとした時間にする
親子で感動の共有
親子で触れあいながら楽しめる機会を提供し、よりよい家庭環境づくりに資すること。
親子で触れ合い、楽しい時間を過ごしてもらおう。
親子の触れ合いや表現活動を子どもたちに感じてもらい、楽しい時間を過ごす場の提供。
親子や友だちと楽しい時間を過ごしてもらおう
身近で生の楽器演奏を体験。地域交流。
身近にある児童センターで、気軽に生の音楽に触れ、親子で同じ目線で共有する事で、情緒が豊かになることを期待する。

人形劇、映画にふれる
人形劇への興味を持ってもらう。感情や表現力を養う。
人形劇やおはなし会の世界を楽しむ。
人形劇や映画会実施で利用者の触れ合いと人間形成を高める。
人形劇や映像の鑑賞によって、豊かな情操を養う。 想像力を育み、言語発達を促す。(乳幼児クラス)
人権について児童に考えてもらうこと。
人権意識を高める。
世代間交流機会の確保
整理券での入場や団体での鑑賞マナー等を学習し普段町内では経験できない体験をする。
生で見ることによる、地域の子どもたちの情操教育のため。
生の演技、演奏に触れる体験。児童文化財を体験する事での情操的な効果。
生の演奏や、落語を聴くことにより感性を育てる。
生の演奏や人形劇を鑑賞する機会は滅多にないので、本物に触れる事で鑑賞の態度の確立や情操教育の一助としたい。
生の演奏を聴くことにより、音楽の良さ、楽しさ、感動などを味わってもらう。色々な楽器の名前や種類、音色を知る。
生の音楽を味わったことのない子どもたちに演奏を聴いてもらい、一緒に体全体でリズムを感じてもらい体験をする。
生の楽器演奏を身近で聴くことで、音楽の素晴らしさを実感、体感させたい。
生の芸術に触れることで、感性が豊かになると考える。 実体験として、経験させたい。
生の表現を観る事で子どもたちの心が動かされる体験の機会を設けたい。
生演奏による迫力や音を楽しむ。
生演奏を聴く機会を提供し、子どもたちに音楽への興味を持ってもらう。
静かに鑑賞できるようにする。
静と動のバランスを取るため。(2)
専門の方々の本物を鑑賞することにより、児童の視野が広がると共に、豊かな情操を培うことができる。
専門家によるパフォーマンスや、地域で活動している団体によるパフォーマンスなど、「本物」を体験できる場とする。
鑑賞した児童が「自分もやってみよう」と思えるようなきっかけづくり
戦争は最大の人権侵害である。あらゆる差別をなくしていこうという取組の中の一つである。
全身に響き渡る和太鼓の力強い演奏を楽しむ。 和太鼓の演奏体験を通して、和太鼓の楽しさ、魅力を感じる。
素敵な音楽を聴いたり、文化芸能に触れる事で感受性豊かに育てたい。
創造性を育む
創造力・聞く力の育成、情緒を豊かにする
創造力や想像力の育成と豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成。
想像の世界や感受性の豊かさを育てていく目的。
想像力や見聞きする力を養い、情操を育む
想像力や集中力への刺激を与える。体を動かすこと以外で楽しみを知る。
想像力や聞く力を身に付けること。
想像力を高め、感性を豊かにする。
想像力を高める。
想像力を豊かにする。普段なかなか体験できない人形劇を鑑賞し心から楽しむ。

想像力を膨らませる。
想像力を膨らませる楽しさを味わう。
想像力を養い、心の発達を期待する。
多くのものを鑑賞することで、美しさ等を味わい感性を育てる
多様な体験・文化活動の機会を作る
体験、体感し、心・情操の豊かにする。
体験する事により、素直に感動する心を豊かにしたい。
体験活動の充実。
大きなスクリーンで観る楽しさを味わう。
大きなスクリーンで友だちと感動を共有し、豊かな心を育てる
大きなスクリーンで友だちと仲良く感動を味わえる。
単純に「楽しむ」ことその他、教育的な意図で職員が選択する映画を鑑賞して、映画を通して多岐な感情、思いを 育む。裏目的で、夏休み等長期休業期間中に実施しているが、休みの後半は児童も朝から夕方まで1日中遊んでいて疲れているので、心身ともにリフレッシュする目的で映画鑑賞を実施。
短時間で気軽に親しめる内容
知的な適応力を高めること、及び情操を豊かにすることが期待される。
知的好奇心を高める。
地域で活躍する中、高生を観て刺激をもらい、学校以外でも自分が輝く場所があると思ってくれたら
地域との交流の場。情操を高める。
地域の活性化と人権意識の向上。
地域の子ども達に友達づくりと夢を見る感性や想像性を高めてもらうことを目的としています。
地域の人を招いて、ミニコンサートを行い、交流を深めるとともに、情操教育の推進を図る。
地域の乳幼児親子に、普段見る機会の少ない人形劇を楽しみながら、和やかなひと時を過ごしてもらう。
地域の方まで広く呼び込めるため、PR効果も期待できる。
地域ボランティアの方による活動。
地域交流。文化体験。
地域住民との交流、各世代交流。
仲間や家族と表現を楽しむことで感情表現の豊かさや共感する力にもつながる。
長い夏休み期間中、児童館を利用している児童に対して行事として行っている。月2回程度。(暑さ対策として。なかなか外等、部屋を含めて遊べないから。)
長期休みのひと時を過ごす。
長期休みの一日開館での生活に変化と潤いになっている。
長期休業中の子どもたちの楽しみの一つとして位置付けている。季節に合った題材を選択して、季節感を持ったり、行事の雰囲気盛り上げたりする。
長時間の利用時間に変化をつける
通常のコンサート、劇場のように子どもが静かにしていなければならないという決まりが無く、児童館で実施することにより、赤ちゃん連れの方でも音楽をゆっくりと楽しんでもらうことができる。
小さい頃から音楽に触れることにより、子どもの表現力を豊かにする。
伝統芸能等に親しむことで、情緒面や芸術面での素養を高めることができる
伝統文化に触れ、その良さに気付く。
同じものを見聞きし、一堂に会することで一体感がうまれるようにする。
同世代の児童が取り組む劇団の公演を鑑賞し、触発を受ける。

親子や友だ同士で鑑賞し、人形劇の楽しさや雰囲気を共有する。
道徳や防災、地域活動などテーマに合った映像作品を鑑賞し、興味を深める。
特に鑑賞活動を意識し実施していない。子どもたちがやりたい事を実現する「こども企画」の中で、鑑賞活動が結果として入ってきている状況。
日頃、体験する事が難しいものを題材として選択し、こどもの興味、関心をきっかけとし、豊かな感性を育む。また、身近な地域で開催する事で様々な事情で遊びに出かけられない児童や家族も気軽に参加してもらい、繋がりを持つ。
日頃あまり見る事のできない表現活動を鑑賞し、友だちと楽しい時間を共有すると共に豊かな感性を養うことをねらいとしている。
日頃なじむことのないコンサート活動を計画することで、身近に音楽に触れて欲しい。
日頃味わえない事に触れる事で、視野を広げる事ができる。
日常では接する機会の少ない芸術に触れることができる。
本物に触れることで興味・関心の幅が広がる。
日常で体験できない経験と今後の来館へつなげる。
日本の伝統音楽に触れ、琴を操作して音を出し、演奏（さくらさくら）するという未知の体験ができることから、何かの役に立つことはないかもしれないが、心豊かに育つきっかけになることを期待している。(2)
日本の伝統文化を親子で楽しむ。
家族で楽しみ、コミュニケーションを深める。
乳幼児の情操に資する
乳幼児親子や児童が共に楽しめる交流の場を提供し、児童館利用の促進を図る。また、良質のショー（劇など）を身近で観ることにより、子どもたちの情操を育て鑑賞マナーを身につける。
年中行事のお話会の素話は、子どもたちが自由に想像しながら物語を聞き、絵に頼ることができないため、しっかり集中して話を聞くようになる。
発表の場を与え、相方に喜び、楽しみを与える。またそれをきっかけとして、児童館を利用者にアピールする。
非日常を楽しめること(2)
非日常体験を通して興味の幅を広げ、子ども一人ひとりの感受性を豊かにしたい。
非日常的な空間の中で鑑賞態度を学ぶ
美しいものを観る事、聴く事で豊かな感性を育む。
美しい音楽に親しみ、情操を豊かにする。
美しい音楽や映像を観る事により、豊かな情操を養う。
美的、芸術、道徳、知的情操を養う。
表現活動はコミュニケーション能力に欠くことができない。鑑賞活動は表現活動と表裏一体であり、より良いプロの演劇や音楽コンサートを体験させ、本物に触れさせたい。
表現力、想像力を豊かにする。
普段、観ることができない人形芝居等を実際に鑑賞し豊かな心を育てる。
普段、目にすることのない文化に触れることができる
普段あまり経験しない本物を見る、聞く、触れることに感謝する気持ちを育てる。
普段あまり見る事のできない鑑賞活動を通して刺激を受けると共に、自らも体験することで芸術に触れる機会とする。また、日常のあそびにも取り入れて、あそびを豊かにするきっかけにもなる。
普段なかなかできないプロの演奏に触れる体験を通して情操を育む。
普段なかなか見たり聞いたりすることが無い人形劇やコンサートを行うことで色々なことに興味をもってもらおう
普段なかなか見ることのできない人形劇を親子で楽しむ。子育てに余裕が持てる環境作りの一環とする。

<p>普段の生活とは違う物や話により、子どもたちの感性を豊かにすることを目的としている。</p>
<p>普段はなかなか触れる事のできない生の音や読み手の抑揚に触れる事で情緒を育む。鑑賞活動を宣伝する事によって児童館の存在もまた宣伝され、新たな来館に繋がる。</p>
<p>普段ふれることのできない音楽などを観賞することによって子ども達が心豊かに過ごすことができる。</p>
<p>普段経験できない事を、たくさんの子どもの体験させてあげたい。</p>
<p>普段見たり、触れる機会の少ない楽器の音色に触れることで、子どもの感性を育てる</p>
<p>普段見ることのできないものをまじかで見えて楽しみ、子どもたちの情操を育成する。</p>
<p>普段見ることのできない人形劇などの催しを通し、情操豊かな体験をする機会を持つ。</p>
<p>普段職員では経験させられない体験をする。</p>
<p>情操豊かに心の豊かさとなるように子どもたちの豊かさにつなげたい。</p>
<p>普段触れる機会がない題材を設定することで、それを見る機会を与え興味や関心の幅を広げる。</p>
<p>普段身近で滅多に鑑賞できない『マジック』や『バルーン・アーティストによるパフォーマンス&ワークショップ』を親子やお友だちと参加し、楽しむだけでなく、その場にふさわしい鑑賞マナーも身につけたい。</p>
<p>幅広く色々な分野を鑑賞することで、人間性を深める。</p>
<p>物の見方感じ方を広げて豊かな心を育むことに繋がる。</p>
<p>物語、本への興味を持つ機会とする。</p>
<p>物語にふれ、想像力を養う。</p>
<p>物語の世界を楽しみ、子どもの想像力や豊かな情操を育む。</p>
<p>文化、芸術活動に触れて、情操教育に役立てる。</p>
<p>文化活動に触れ、TVやDVDやオンラインとは違ったストーリーとリアリティを体験させる。できれば豊かな読書生活に繋げさせたい。</p>
<p>文化芸術に触れることで豊かな心を育てる。様々なことを経験することで子ども達の視野を広げる。</p>
<p>文化芸術に触れる機会やコロナ禍での非日常体験の創出。</p>
<p>聞く、見るの力をつけつつ、おはなしへの関心を高める。</p>
<p>放課後の児童センターでの生活にメリハリをもたせたり楽しみをもたせたりする活動のうちの一つである。</p>
<p>豊かな感性・情緒を育む (13)</p>
<p>豊かな人間性や感受性、想像力を育む効果が期待できるので、継続していきたい事業の一つです。</p>
<p>豊かな文化に触れる。生のパフォーマンスを観て感動を得る。</p>
<p>本や映画を友達と鑑賞し、作品の良さやおもしろさを味わいながら友達と楽しく過ごす。</p>
<p>本物を観る事で、芸の素晴らしさを味わう。</p>
<p>本物に触れる機会を通じて、子どもたちの想像力や感性を育み、保護者の方にも日常の忙しさを一時忘れ、楽しんでもらう。</p>
<p>本物の音楽に触れる。</p>
<p>本物の楽器等に触れ、干渉するものの見方や感じ方が広がるよう、子どもの豊かな心の育む機会の創出を図る。</p>
<p>本物の芸術、プロの技に触れる事で、感性を伸ばす。</p>
<p>普段出会わない世界との出会い。</p>
<p>本物の体験。日々のあそびへの発展。</p>
<p>本物を観る楽しさ、情操豊かになる (養う)。</p>
<p>毎年恒例行事なので、子どもたちも楽しみにしているので、今後も続けていきたい。</p>
<p>夢やあこがれなど、子どもたちの情操を育む</p>

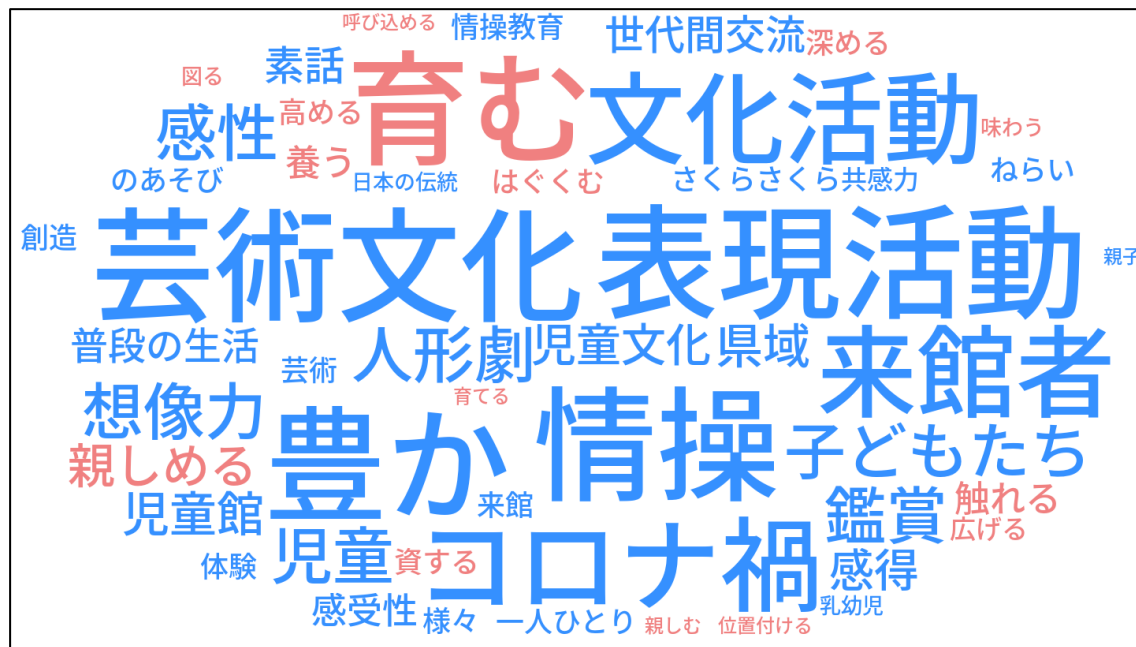
無料で実施できる団体の情報が欲しい。
目の前で演奏に触れて、情操豊かな心を育むことを目的とする。
目の前で生の演奏に触れて、情操豊かな心を育むことを目的とする。
友だちとの共感。
プロの舞台を見る事で、芸術の素晴らしさを分かち合う。
友だちと一緒に鑑賞する事で、共通する話題を持ち、互いの理解を深めると同時に心を成長させ豊かにしてくれるものである。
友だちと観ることで乾燥の話し合い、共感、価値観の違いを知り、認める。時間内の集中。
友だちと共有して鑑賞して楽しむ。
友だち同士で同じ作品を鑑賞する事で、同じ世界観を共有したり、感情や想像力を豊かにする。
友達と笑いや悲しみ、楽しみを共有する。
有用な児童文化財に触れる機会を児童及び保護者に提供すること。
幼いうちから、気軽に音楽やダンスなどの様々な芸術に触れる機会としている
幼い頃からプロの生演奏や表現を見聞きすることにより、情操を高め感動する心を養うきっかけ作りとなる効果を期待。
幼児親子や小学生まで皆で広い遊戯室で映画鑑賞をする楽しみを味わう。
様々なテーマを通じて、地域や社会に関心を持ち、つながることができる。
様々なものに触れ、情操を豊かにする。
優れた芸術に触れ、子どもの感受性をはぐくむ。
様々な映像作品、楽器にふれる機会を多く持ち、感情豊かに育てたい
様々な楽器の音色や映像に触れさせることで、子どもたちの感受性を育む。
様々な楽器や演奏を聴くことで、五感を刺激したり、感受性が豊かになったりする。
様々な活動、体験を通して色々なことを感じる。
感性を豊かにする。興味関心を広げる。
様々な活動を通して、感性を豊かにする。
興味関心を広げる。
様々な芸術に触れることで、情操を豊かにする。
様々な芸術文化の美しさに触れ、感動や喜びを味わい、豊かな感性を育む。
様々な劇を楽しむことで想像力を広げ、喜怒哀楽の感情に共感すること。
音楽コンサートを鑑賞することで、音楽を身近に感じることで、また、親子のふれあいを促すこと。
鑑賞活動を通して、感じる思いや共感を通して、情緒を育むこと。
様々な作品にふれ、想像力を働かせ感じ取り、味わう機会を保障する。
様々な作品に触れさせ、考える力を育み、視野を広げる機会とする。
様々な世界を楽しむ
様々な体験を通して、感性を豊かにする。
様々な媒体の作品に触れ、物語を楽しむことで豊かな情操を養う。
様々な表現活動を見たり感じたりすることによって、感動を味わう。
また、自分たちも「やってみよう」と関心を持つようになる。
洋画を日本語字幕で観る楽しさ、面白さを体感してもらう。
映画の感想を共有し合って交流し、多様な価値観に触れる。
来館のきっかけづくり、居場所づくり。
来館者の安らぎの場の提供し、日常生活からの喧騒を離れ、こころのゆとりを持ってもらう
来館者増と親子や地域との親睦交流。
落ち着いた時間を過ごし、心を豊かにする
落ち着いて鑑賞すること。心を落ち着かせること。

臨場感を持った表現を鑑賞することで、物語などに没頭し、何か一つのことに集中する体験をすることができる。

綺麗な音色、悲しい音色を聴くことで感受性が豊かに生まれ、自分の感情を表現することや人の気持ちを汲みとることが得意になり、スムーズな人間関係を構築できるようになることをねらいとします。

問 17 で自由記述されたテキストデータを、ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://wordcloud.userlocal.jp/>) で分析した結果、下記のような結果が得られた。

【図3 「鑑賞活動」に期待する効果】



なお、自由記述では、おおよそ次のような効果を期待していることが見て取れた。以下、列記する。

- ・感受性・情操を豊かに育むこと。
- ・想像力・創造力・共感力などを高めること。
- ・普段の生活では体験することができない芸術文化に触れる機会となること
- ・子どもたちの興味・関心や視野を広げること
- ・鑑賞マナーなど社会性を身に付けることができること

詳細はそれぞれの自由記述を参照されたい。

問 18.「鑑賞活動」の質（効果性や継続性等）の向上のための工夫や留意点について記入してください。

問 11 で、「鑑賞活動」を実施していると回答した 607 館のうち、回答が記述されている 351 館の回答を表示した。（自由記入）

【表 24 質の向上（効果性や継続性等）のための工夫】

「生の語り」にこだわること、継続して行うこと、鑑賞しやすい雰囲気や環境を整えること。
子どもたちに周知されている題材を選ぶ事で好評を得た。
0 歳児、1・2 歳児、幼児、小学生とそれぞれ年齢に合った演目をお願いし、「楽しかった」と思える経験を大切にしている。
1～6 年の児童が対象となるので、作品選びは吟味している。春は新入生が喜ぶようなものを選んでいく。
1 時間から 1 時間 30 分くらいのものである。子どもたちの好きな物を選ぶようにするが、ホラーなどは避ける。
1 人 1 枚マットを渡し、それに座る事で静かに集中して鑑賞できる環境を作る。
あきないように、長時間にならないようにする
アンケートを取り、子どもの要望を取り入れる。
いつでも触れられるように、定期的を実施することを心掛けている。
いろいろなジャンルの紹介。（2）
おたのしみ会、お化け屋敷など、表現活動の一つとして活かされている。
お楽しみ抽選会などのイベントも実施し、子どもたちに「また参加したい」という気持ちになってもらうよう工夫している。
お話しに興味付けできるように PR している。
お話の導入にキャンドルや手あそびを入れて、集中できる雰囲気作りをする。
こどもの意見を尊重したものを取り入れるように工夫すること
これからも続けて活動できるよう、地域の方（尺八・琴の先生、演奏者）と交流していく。
コロナにより人数の制限はあるものの、毎年の恒例行事として定着しているので、特別な向上を求めるのではなく、ずっと親しまれている曲や歌を続け、普及させていきたい。
コロナ下で難しくなったが、鑑賞者にとどまらず子どもたちが参加できる余地をもった演者の演目をイチバンに考えている。
コロナ禍での実施だったので、人数制限をしたり、外にある園庭などで実施した。
コロナ禍での人数制限や、距離感に興ざめしないようなワクワク感を演出しどなたにも楽しんでもらいたいです。
コロナ禍なので、感染対策をして二部生にする。観劇後のアンケートをとる。
コロナ禍なので、換気（暗幕に気を配り）、人数制限。
コロナ禍において、一番初めに再開しやすい活動であった。感染症予防対策をとりながら高齢者や地域住民との顔を合わせるつながりの喜びと大切さを共感するため、広い会場を確保した。
コロナ禍による制約があるが、今後は絵本だけでなく、様々な鑑賞活動を取り入れて行く事で、児童等の参加を促す。
コロナ禍のため間隔をあけながらも、観客席の見やすい配置を工夫した。前年度の反省を活かしながら、高校和太鼓部顧問と綿密な打ち合わせをした。
コロナ禍の感染対策、鑑賞に参加しない人の居場所確保。
コロナ感染防止に気を付ける。
コロナ対策ができる内容かどうか。

コンサートに参加するときのマナーを大切にする。 地域とのつながりを大事にして、鑑賞活動を継続していく。
コンサートの裏方や当日の準備だけでなく、チケット作りなども子どもに主体的にや ってもらっている。
コンサート等、毎年同じグループ（地元演奏者・大学生）の協力を得て実施してい る。地元の方々に児童館の存在をアピールすると共に、継続をお願いできる。児童館 行事全般的に言えることであるが、どうしても予算の面で限界がある。
シアタータイムは、児童の道徳、情操、知性の向上をねらいとして年間に観れる作品 を選択している。
その年によって依頼できる演奏団体が異なっており、計画を立てる段階で継続性を意 識する必要があるが、なかなか担保できていない。
その分野でプロとして活躍している人やそのパフォーマンス、生演奏に触れる実体験 をすること。
ただ観るだけでなく、準備活動や当日の運営なども任せる事で、一つの行事を仲間と 成功させようという気持ちを持って、取り組んでもらえる。最後まで集中して鑑賞す る事ができ、行事の成功の達成感も味わう事ができる。
チャンスがあれば、外部の劇団等に依頼
できるだけ対象年齢を限定しない事業を企画している。
できるだけ幅広い世代が興味を持って参加できるものにする。
できるだけ様々なジャンルのものを提供する。
できるだけ利用者の希望に沿う内容を選択すること。
できれば、色々な分野の表現活動を、計画的・継続的に触れさせたい。
テレビ以外の形で映像を見る事を楽しんで欲しい。
なるべく多くの子どもたちに鑑賞してもらえよう、乳幼児や小学生といった主にな る対象を考慮して日時を設定している。／主になる対象でなくても受け入れてその年 齢で受ける感覚を大事にしてもらいたいと考えている
ニーズを把握し、情報収集に努め、計画的に運営する。 外部講師と連携を密に図る。
ねらいをもって活動を考える。 幅広い活動に触れられるようにする。
プロあるいは音楽学部の学生の招へい
ボランティアに頼っているが、プロの表現に接するための予算が足りない。
ボランティアや地域で活動している団体等の社会資源を積極的に活用し、活動の場を 定期的に作っていくことです。 内容の質は団体によってまちまちなので、任せっぱなしでなく、フィードバックをし て質の向上を目指しています。
モバイルプラネタリウム等の鑑賞活動により、豊かな感性や好奇心などを培う。
より身近に感じてもらい、興味・関心を持ってもらえるように、地域の方に参加（出 演）してもらっている。
以前は「映画会」を実施していたが、家族で観に行く機会が増えてきたため、比較的 体験数の少ない「人形劇」に変更して実施している。予算、会場の広さ等の観点から 鑑賞人数に制限があるため、幼児親子対象の年と小学生対象の年と隔年で対象を変え ている。
依頼する劇団の精査と内容の確認、子どもとの振り返り
違う団体に依頼することにより、その団体の良さをそれぞれ感じてもらう。
一人ひとりの興味や関心をすり合わせ、活動を行うこと。 過度な感想を求めず、余韻を楽しむことができるようにする。
一人ひとり児童に考えてもらうために、それぞれに感想を述べてもらう。

映画に関しては、事前に子どもたちの希望調査を行なっている。
映画上映中に集中して鑑賞できる様に
映画の選定を慎重に行う
映画の内容、種類の選択。市立図書館への協力。
映画は子どもたちの要望を取り入れていく。
映画や人形劇鑑賞会が終了した段階で、参加者から何を感じたか感想を聞くようにしている。
映画会ではオリジナルの映画チケットや自分の気持ちを表すオリジナルカードを作成し、取り組んだ。また、ホラーシネマを実施した際にはお化け屋敷のような怖さに演出し、より世界観に没入できるよう工夫した。
映画会として、センターだよりに載せて実施している。
映画鑑賞では子どもたちの意見を反映させている
映画内容の選定／鑑賞会前後の声かけ
映写会は画像や音響を整える。
演者の確保
演者の確保（予算や種類が限られる）、会場の確保（予算や演者の要望に応える施設の確保）
演奏してくれる専門家を知っておくこと、予算を確保すること。
演奏や歌唱以外のプログラムも取り入れるようにしている。
演奏者の技能・人間力の向上
演目が参加者に身近なもの、興味を示しそうなものなどを選択すること。
音楽系のコンサートは、演奏者とのパイプを保ち、前年度よりご都合を伺い、期日、時間を決めている。
音楽等の分野も取り入れ、じかで本物に触れる機会を持っていきたい。
下校から帰宅までの短い時間でできる鑑賞を考え、長期間ご協力頂ける団体を探しお願いしている。
何について感動したかなど、振り返りをさせる。
歌、音楽を取り入れたり、参加者がずっと受け身にならないように工夫している。
会場の広さに限りがあるので実施の仕方を工夫する。対象年齢を考慮したプログラムを実施する。
会場の整備、参加人数の調整
開催時期の設定
開催場所を児童館に限定することなく、多くの子が鑑賞できるよう、必要に応じて会場を借りて行う。
学校と密に情報交換をし、児童の好みや流行を知る機会を多く持っている。
学童の日常生活に密着したテーマ（家族、友情、生き方、郷土愛）の中から、どのテーマのものを鑑賞させるか留意している。
楽しい映画選び
楽しい雰囲気づくりをすること。マナーについては、始まる前に周知すること。活動終了後に感想を聞くこと。
楽しい雰囲気で参加できるように声をかける
楽しく興味を持ち参加する。
楽しみに来てくれる子がいるので、長期休暇など子どもたちの来館が増える時期に毎年行っています。
楽しめる上映時間、内容の良いものを確認
楽しめる場を提供したい。
活動しているボランティアに依頼し継続して実施している。
活動する人（演出者等）の選別、参加者の満足度を高めるための取組を工夫する。

感染症対策を講じながらの、場所や人数設定に留意した。
環境の設定の配慮。
観たい映画のアンケートを子どもたちが実施して、子どもたちが応えることで自分たちの映画館をつくることができる。
観るだけでなく、触れたり体験できる内容のものを取り入れていく。
観るだけでなく、触れたり体験できる内容のものを取り入れていく。
鑑賞しやすい場の設定。
鑑賞することに慣れてもらうためには、継続して鑑賞会を続けること
鑑賞する上での目標をもたせ、鑑賞後に感想を話させるようにしている。
鑑賞する人たちの年齢が幅広いため、内容についてはどの年齢層でも楽しんでもらえるように配慮して考えている。
鑑賞できる場が減り、発表者又その保護者そして鑑賞するみんなが楽しみ、成長と喜びまた、憧れを持てるように流れをつくっている。
鑑賞に集中できるよう、適した環境に整える
鑑賞の際、集中できるように光や音について工夫する。
鑑賞までの環境づくり、導入の仕方、子どもによって参加の仕方の違いを受け入れる。職員もアンテナを広げておく。
鑑賞活動の継続性を考えると、児童の関心内容をアンケート調査等で把握し、それらを鑑賞活動に取り入れていくことも大切だと思う。
鑑賞活動の多様化を図るための情報収集。
鑑賞活動を通して、子ども達自身の新たな考えや想像力等が掻き立てていけるよう内容設定に留意している。
鑑賞後にまねて遊びが発展するので、それを伸ばしている。(特別にスペースを作ったり、画用紙を用意したり。)
関係機関の中で、活かせるものを常に連携していけるよう検討していくようにする。
館内で鑑賞するもののみならず、劇場などでさらに大きな鑑賞を全て県などで機会を与えていただきたい。
館内行事の他、外部団体(劇団等)による演劇等の鑑賞の機会を設けている。
企画者がイベントの計画や制作についての案を出すなど意欲的に取り組んでもらった。
企画段階で、「ただ映画を観る」のではなく、参加者同士で感想を共有し合い交流することを目的とした。
企画立案の際、参加者アンケートを参考にするなど利用者の声を反映できるように、取り組んでいる。特に中高生企画については、今後やりたいテーマを中高生自身と話す機会を設け、企画立案をしている。
企画立案の際に、出演団体に関する情報の収集、予算の確保
喜怒哀楽のあるストーリーが心に残る作品が効果的である。
機会作り。地域との連携。
機器の充実。
様々な作品に職員が触れ、子どもたちにより良いものを鑑賞させられるよう、研修できる体制があること。
気軽に楽しめる会場の雰囲気作り。
気軽に鑑賞活動を楽しめるよう配慮する
季節に合った作品鑑賞や子どもたちの実態を考慮した問題提起的な作品などを取り扱うようにしている。
教育機関の無料貸し出しの情報を集め、経費をかけないように努めている。
興味がわくよう宣伝する工夫または参加人員の確保の仕方を考えていきたい。
興味を持てるような題材選びをする。

曲名を覚えたり、好きな曲を各自伝え合う。 リズム感が自然に身につく。
金銭が関わって来るので、なるべく各種団体と協力し、継続できるよう努める。
経験を重ね、お話の楽しさを知ってもらう。
継続する事で施設同士の交流を深める。
継続的な予算取り。市内の児童館で情報交換をし、質の良い演奏家等に依頼をすること。
継続的に話し手の方に来てもらい、前回の話の続きを読んでもらったり、児童との関係性を深めてもらったりする中で、児童が鑑賞活動をより楽しむことのできる環境を整えている。
劇や絵本の読み聞かせ・シアター（エプロンシアター・パネルシアター）開催日は、事前に黒カーテンや黒マルチなどで背面を黒くしておき、演じたものが映えるように配慮している。また、ボランティアの打ち合わせの場所を提供したり、参考にとし、撮影要望のある団体には、職員がサポートしている。
劇団とやり取りの中で、観客との距離の確保であったり、音響と照明がスムーズに入るように換気を計りながら遮光カーテン等を引くようにしている。
健全な作品を選ぶ。
県内のアマチュア劇団や図書館のボランティアによる協力。
現在はできていないが、以前児童が鑑賞だけでなく、披露を行うなど、音楽コンサートの取組みでもみんなで作りあげる内容を意識して行っていた。お客さんではなく作り上げる参加者となる方が、主体的な参加の姿が見られる
現在参加者はリピーターが多くなっており、公演内容は毎回異なるように行っている。中には参加者からのアンケートの声を内容に反映し、ニーズに合わせたものを提供できるように心がけている。
限られた予算と時間の中で、偏りのない活動を実施し、子どもたちに様々な経験の場を提供する。
公演後に、出演者とワークショップ的なことをし、触れ合う時間を持つ
口コミでプロやセミプロの方を捜すようにしている。また、コンクール入賞等も事前に下調べ。
好き嫌いなど個人差があるので、作品の選定には苦勞する。
広報活動に力を入れたい。
行事实施（鑑賞）後、そのまま終わらないように、余韻を残せるような取り組みをしています。例えば、人形劇の後には、劇にまつわる絵本を用意したり、読み聞かせをしています。映画鑑賞後は感想を言い合えるような場面設定、雰囲気作りを職員が行っています。
講師チョイスと活動内容の話し合い。
講師に来ていただいて、本物の演奏や劇に触れるようにしている。
合同演劇会は、良いものを選定するため、劇団の下見は入念に行う。
作品の新鮮さ
作品選び
参加する子どもたちの特性（障がいの有無等）を事前に把握し、子どもにあったプログラムを行うようにしている
参加者が興味を持つプログラムや参加型の内容になるよう、演奏者と時間や内容を話し合う。
参加者だけでなく、職員も一緒に楽しめるようにする。
参加者に合わせたプログラムの設定。
参加者に合わせて活動内容や題材を選択する。
刺激を受け、音楽等に興味を持つ。
子どもが楽しむ事ができるよう、内容を吟味する。

子どもたち（利用者）の興味や関心のあることを考慮しながらの事業企画。
子どもたちがやりたいことを聞き「子ども自主企画」として実施している。／地域ボランティアや劇団と連携し、実施することで子どもたちの新たな活動への意欲を引き出す。
子どもたちからのリクエストに応える。
子どもたちがリラックスして鑑賞できるように環境を整える。
子どもたちが何に興味があるのか調査のうえ行事の企画検討を行っている。
子どもたちが興味あるものを取り入れる。 日々の子どもの様子から、見て欲しいものを取り入れる。
子どもたちにとって魅力ある内容
子どもたちに合う内容を選ぶ
子どもたちに本物の活動に触れる機会を提供して芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養う。
子どもたちのアンケートで作品を選ぶ。
子どもたちのやりたいことや体験、鑑賞したいことを主に考え、鑑賞内容を決める。
子どもたちの意見を取り入れ、子どもの興味関心に合った楽しめる活動を計画すること。 コロナ禍において、感染症対策を講じた活動となるよう留意すること。
子どもたちの意見を取り入れる。
子どもたちの興味・関心や季節に応じた作品選び。
子どもたちの興味・関心を捉え、集中して楽しむことができるよう、内容の選定を行う。
子どもたちの興味を引くような映画を選定している。
子どもたちの興味を引く内容を選ぶ
子どもたちの集中力を高めるため、ステージ上で演技する。
子どもたちの成長を願うとともに、地元のボランティア活動の発表の場として、その育成と相互の協力にも寄与するよう心がけている。
子どもたちの生活に繋げられる内容のものを選ぶ。
子どもたちの発達段階に合わせた教材を選ぶ。
子どもたちや利用者の声を聞きながら、臨機応変、柔軟な対応での事業作り。
子どもに分かりやすい内容の中に、学びがあるものを選ぶようにしている。
子どもの興味、関心、年齢をふまえての作品を選ぶ。 子どもの気持ちに共感する。
子どもの興味、関心に目を配り、常に新鮮なものを選択する。また、アンケートを取るようにする。
子どもの興味をひき集中できる作品選び
子どもを対象とする無料団体の登録一覧表のようなものがあれば良いと思う。市内、県内、全国と。
子ども達がその世界を満喫できるよう、できる限り効果的な雰囲気を作る
子ども達が楽しめる雰囲気づくりのため、指導者も一緒に楽しむよう心掛けている。
子どもや参加者の意見を伺いながら、内容と業者の選定を行う。
子育て支援クラブと共催で行事を企画し、講師謝礼を捻出している。 子どもの興味、関心や実態に合わせてものを鑑賞するようにしている。
市の理解。
施設の年間行事に位置付け、計画的に実施している。／季節感や児童の生活状況に即した作品。また、郷土に関わるものや伝統的なもの、あるいは国内外の名作などを上映している。
施設の予算向上。
紙芝居を見たり聞いたりするだけでなく、講師を呼び、自分達で作ってみたい。

視聴作品の選定
事前にどんな楽器があるのか伝え興味を持てるようにしておく。
事前に作品の話をして、期待を持たせている。鑑賞の態度なども事前に指導している。
事前に流行しているものを児童に聞き、興味が沸くように心がける。
事前情報の提供
児童センターの利用対象は0歳から18歳と幅が広い。その中でも乳幼児親子の利用割合が多いので、乳幼児でも楽しめる内容や題材の工夫。
児童の興味・関心を大切にしつつ、ねらいに沿った内容の映画を選定するようにしている。
児童の年齢に合ったものや流行に沿ったものは勿論、古い時代のものなど、良い作品であれば、あらゆるジャンルの作品を鑑賞させている。また、児童のリクエストにも応えている。
児童の年齢に合わせた内容や視聴時間を検討する。人気のキャラクターが登場する作品を用意する。
児童館職員だけでイベントを行うのではなく、地域で活動する専門の講師を招いて、より質の高いイベントになるようにしている。
自由席を設け、気軽に音楽鑑賞を楽しんでもらう。
室内では密になる為、ファミリーライブでは、児童館近隣の公園で実施
質の向上として講師を招き、おはなし会を開催している。
質の高い映画を上映する。
質の高い文化に触れる機会、子どもたちやボランティアの活躍の場面に 乳幼児親子も障害のある子も 気軽に参加できるような設定
発表者に、鑑賞者の感想などをフィードバックし、意欲につなげる
実施することで子どもたちの目の輝きが違う。周りの大人に見て欲しい。
終了後には演奏者と色々な話をして、理解を深め、次につなげるようにしている。
集中して鑑賞できる環境をつくる（6）
十分な事前準備と指導。良い雰囲気づくりなどを心掛けている。
出来るだけ継続した実施を行い、発達段階に合った気付きや感性を育てていく
小さなお子さんから小学生まで年齢の幅があるが、どのお子さんでも楽しめる題材を選択する。／暗がりや苦手なお子さんへ配慮した環境設定。
小学校低学年に分かりやすい内容の物を選んでいく。
少ない予算でも実施してもらえよう交渉し、年1回でも継続できるようにする。
招待する費用を工面する必要がある。
障がいを持っている方でも参加しやすいものや生の音楽や劇に触れる機会が減少している為、実際に見て、触れて、聞く事のできる題材を選択する。
上映する作品を吟味する
上演する時に（劇、オーケストラ）詳しく説明し、理解が深まり、より深く鑑賞できるようにする。
上演内容について劇団と相談しながら実施している。
場の設定（語りの会の時間は、館内の1室を、他の利用を止めて静かな集中できる場にする）。
情操を養い、様々な体験をさせるため、年間計画に取り入れる。
状況をふまえながら、様々な表現を味わえる場をつくっていく。また、安全に楽しむことができる環境を整える。
職員が参加児童の育ちを理解し、適切な題材を選定する。
職員の感情・感性や講師の確保。

職員も様々な分野に関心をもち、感動する体験をすることで、自分たちの活動にも取り入れていくことができるのではないかと。どんな活動が行われているか、情報収集もしっかり行う。
職員自らやるよりも、外部団体に依頼する。内容もかぶらないようにする。
色々な分野で「本物」に触れる機会が少ないので、そういう機会を増やす。地域の資源も利用する。
心を動かす良い作品に出合わせる。
新型コロナウイルス感染症対策を講じての実施を工夫している。 例：実施会場を分ける。椅子の間隔を空ける。30分毎に換気をするなど。
親子で楽しめるよう幅広いジャンルの演奏やテーマを設定し、クラシック、ポップス、童謡、アニメ、映画音楽等生演奏を行っている。
身近なものとして劇や音楽鑑賞ができればと思います。
人形劇やコンサートの公演後、その日の様子を撮影した写真を掲示し、思い出を振り返りながら、親子で再度楽しさを分かち合う。
図書館との協力、日程の設定。
吹奏楽等のコンサートでは、鑑賞のみに留まらず、参加者も一緒に歌う、踊るなどをし、楽しい時間を過ごせるように図る。／定期的な催し物であっても内容に変化を持たせる。
生で本物を見ると感動も大きい。(バーチャルの多い中) TikTokなどで見て紹介し合って、普段から遊びの中にダンスが見られる。
静かに鑑賞できるように環境を整える。
静かに参加できるように留意する
選定を慎重に行う。
全員で共有し、思い思いの感想を語り、体験の中で学ぶことも多く、マナーを知れた。
奏者や演者の確保
多くの方に参加してもらうための広報活動
多彩なプログラム展開に対応できる会場の確保
対象に合わせた内容を選定する
対象を親子とすることにより、親子間の共通話題となるようにした。 非日常的な空間を親子で共有できる機会を設けるように心掛けた。
対象年齢が限定され過ぎないように、誰でもが楽しめる内容を実施している。
対象年齢に応じた内容を重視して行う。
対象年齢を絞って年齢にあった演奏・進行・演出をする
大きいスクリーンと音響をよくし、臨場感を出す。
大きなスクリーンでの鑑賞(映画館のような)し、友だちと一緒に共有できるように。
大きな絵本の活用している。絵本なしのお話会も検討。音楽イベントも今後は開催していきたい、表現するだけでなく鑑賞する楽しみを様々な年代に合わせて実施したい。 短い時間で様々な要素を組み合わせることによって、子どもの興味持続を図っている。
大きな予算を充てるのが難しく、地域人材の有効活用がもとめられている。日頃から地域諸団体や個人とのつながりを大切にしている。
大人の価値観を押し付けず、子どもたちの思いや考えをそのまま認める。 本物の表現活動に触れられるようにする。(2)
単に「観る」だけの“受け身”の活動ではない、参加型のものや、テーマに関連したワークショップを併せて実施する。 感想の伝えあいや共有を行う。
地域で活動する専門家に依頼をするなど、地域ぐるみの活動としたい。

地域の人達との交流を通して、情報収集する。
地域の団体の活動をアンテナを高くしてキャッチし、依頼を細目に行う。市の図書館等も活用。
地域の方からの寄付や補助金で観劇鑑賞ができていますので、こども達への支援を継続してもらえようように広報を頑張っています
地域の方々にもお誘いする。
地域児童館 4, 5 館とグループ化し、4 館×40,000 円=16 万円くらいで大きな劇団などを呼べるような予算の組み方ができるか検討中。
地元の大学生の方々に人形劇や演奏を依頼し、鑑賞後に子どもたちとのふれ合いの時間を作り、活動に親しんでもらえるようなコミュニケーションづくりをしている。
聴くだけではなく、遊び歌など参加型の内容にしています。
自治体の子どもプランでは、子どもたちに鑑賞活動を行ってくれる人をコーディネイトするための職員を配置している。
低学年や高学年で教材も変えて色々な想いを持ってもらい、その内容について都度都度アウトプットできるように工夫したい。
低学年を中心とした。1 年生以外は任意の参加とした。
当日使用するチケットなどを児童に作って貰うことでイベントへの興味を高め、集中力を持ってイベントに参加してもらう。
同じ内容ではなく、年ごとに内容を変えていく
内容がマンネリ化してきたため、新しいことにも目を向けていきたい。
内容がマンネリ化しないようにする。
内容について、下見を重ねている。
日常生活の中で触れない文化こそ、触れる機会があることが重要だと思うので、機会を絶やささない事や、職員自身も日頃から関心を持って題材を知る意識を持つ。
乳幼児向け、児童向けなど対象を分けて開催し、年齢に合った内容を提供。また、福祉会館と共催で、幅広い世代に楽しんでもいただく工夫をする/アンケートをとり、ニーズを反映していく
乳幼児親子が参加しやすい雰囲気づくり。
如何に子どもの興味が抱くものを選ぶかを考えて内容を選んでいる
年に数回鑑賞する事で興味、関心を広げられると思うので、鑑賞のための計画立案が大切だと思う。また子どもの興味関心はどこにあるのかの把握が大事である。
年度当初に活動計画に組み入れ、早期に出演者等との打ち合わせを行う。
年齢にあった内容にしている。
迫力や環境の整備と内容の吟味
費用対効果、日常活動との兼ね合い（利用者のニーズ、活動場所の確保等）。
美しいものに触れ、イメージを豊かにする。
表現活動するときにはできるだけ質をあげられるように準備・練習段階でストイックに自分たちで突き詰めていくようにしている。
表現活動の導入や途中、終末など様々な場面において、対象の良さや面白さを感じ取る場を設定する事で、表現活動と関連付ける鑑賞活動を行う。
普段、来館者が来ている時や、行事のはじまりの曲としてあきらちゃんの曲を流したり唄ったり踊ったりして一緒に歌える、踊れる曲を増やしている
普段なかなか観劇することが難しいものを、積極的に取り入れるようにしている。
普段の学童、児童館ではできない事をするようにしている。
普段の生活では味わえない内容や体験ができるように、内容を選んでいる。
普段触れることのない楽器の演奏を取り入れる。
幅広い分野の作品に触れられるようにする。参加している児童の年齢に合った作品を選定する。
聞く、見る時の姿勢作り。イメージや発想力を高める。感じた事を伝える力。

本物の良さ、美しさに触れる。
大人の価値観を押し付けず、子どもたちの思いや考えを受け入れていく。
本物らしさ。
毎回、アンケートを取り、結果を活かし反省点を改善していくように努めている。
毎回アンケート等を取りながら、次回に反映させている。
毎年、演目や内容に変化を持たせていく。
毎年の経験値の蓄積。
毎年マンネリにならないよう出演者や内容を工夫してきたが、地元には子ども向けの内容を提供してくれる人材が不足している事を思い知らされます。アンテナを立てて、情報をキャッチするのが難しいと感じています。
毎年決まった時期に開催し、定例的に行うことで意識を持ってもらえるようにする。
毎年同じような内容ではなく、少しでも違う曲調や楽器選択を考えて実施していく
無理な活動はしない。
無理の内容と興味関心を引くような企画
目指す児童像を念頭に置き、児童館として何を重点的に取り入れていくのか、それをいつどのように実施するのかを考えなければならない。
予算が少なく、遠方から著名なプロの演奏家や劇団を呼ぶことは小型児童館では困難である。ホールなど大人数を収容管理する団体が主催することが肝心である。しかし、入場料が高く、生活保護を受けるなど家庭経済状況が厳しい家庭の子どもたちは鑑賞を味わうことが難しい。
予算と人材の確保
予算の確保
予算の確保の難しさ、場所や日程の確保も容易でないことが多い。
様々なジャンルのプロの実演を紹介できるよう、職員がアンテナを拡げる。また、地域、地区から発掘して、地区の結びつき、ネットワーク強化につなげる。
様々な機会の提供
様々な劇団に来てもらい経験してもらう。
様々な種類の鑑賞活動を行いたいですが、まず、財源の確保が必要となり、場所、協力者の確保なども行いながら、地方にいても本物を見る・知る機会をアンテナを張りながら行って行きたい。
様々な分野の講師やボランティアを発掘して、鑑賞の機会を確保する。
落ち着ける空間づくり。
落語を実施してくれる方を探したり、ピアノコンサートに出席し、ボランティアで子どものために演奏してくださる方を探したりしている。
利用者アンケート等を行い、参加者のニーズをくみ取り、継続性を高めていきたい。
利用者のニーズに合った内容の選定。
利用者の興味関心に沿うものを準備する。
利用者の声をダイレクトに受け止める。リサーチする。
利用者相互が公平に利用できるように留意している。
流行りや傾向を掴みつつ、その題材が鑑賞対象者にふさわしいものか吟味すること、また古い題材を扱う際には現在事実とされていることと異なるものでないか（やむを得ない場合、職員から補足を入れるなどの工夫をする）調べたうえで取り扱うことを大切にしております。鑑賞後は感想を聴くことで子どもの心にどう響いたのか効果を検証することも意識しております。
留意点 子ども達が興味を引くものの実施
良い作品を見せられるよう興味を持ち探す
良さや美しさを感じられるよう、本物の表現活動に触れる機会を持つ。
大人の価値観を押し付けず、子どもの思いや考えをそのまま認める。
緻密な打合せ。狙いに沿ったものであるかどうかの選定。

自由記述の表現は様々であるが、おおよそ次のような趣旨の意見が見られた。

- 子どもに関わること：子どものスタッフ活動を取入れる／何をしたいか子どもが考えるなど。
 - 活動の内容に関わること：子どもの興味や関心に応じた内容にする（子どもが楽しめる内容）
／発達段階を考慮した内容の設定／子どもの意見を尊重した作品選び／地域の社会資源を活用する／様々なジャンルを体験するなど。
 - 活動の環境に関わること：定期的・継続的な取組みとして設定する／集中して鑑賞できる環境の設定／職員間で意識・情報の共有を図る／演者との十分な打合せ（活動の趣旨の確認、子どもの特性などを伝えるなど）新型コロナウイルス対策など。
- 詳細は自由記述を参照されたい。

問 19. 令和3年度以前にはどのような「鑑賞活動」を実施していましたか。

全児童館 857 児童館のうち、無効回答の児童館を除いた 806 館の回答を集計した。(複数回答)

【表 25 令和3年度以前に実施している「鑑賞活動」の種類】

	演劇	人形劇	音楽コンサート	オーケストラ	ミュージカル	ストーリーテリング (素話)	落語	歌舞伎	能	映画
実施している	118	346	340	12	22	84	45	0	10	293
鑑賞活動の種類	14.6	42.9	42.2	1.5	2.7	10.4	5.6	0.0	1.2	36.4
回答件数 806 (100.0%)	映画以外の映像・メディア	令和3年度以前も特に実施していない								
	95	122								
	11.8	15.1								

上位3つは、「人形劇」42.9%、「音楽コンサート」42.2%、「映画」36.4%であった。

「12. その他」の記述は、次の通りである。なお、同じ内容のものはまとめて括弧内に数を表示した。

マジックショー・手品 (40) / 読み聞かせ (11) / 大道芸 (9) / 映像の視聴 (8) / 和太鼓 (7) / ジャグリング (7) / パントマイム (6) / バルーンアート (5) / お笑いライブ (5) / 南京玉すだれ (4) / ダンス (4) / 影絵 (4) / 獅子舞 (3) / プラネタリウム (3) / 16ミリフィルム映写 (2) / エプロンシアター / クラウンショー (2) / 腹話術 (2) / サイエンスショー (2) / 郷土芸能 (2) / ダブルダッチ / パネルシアター (3) / ペープサート / 楽器演奏会 (ベル・リンガーハンドベル、オカリナ、ヘルマンハーブ、三味線、琴、大正琴、フルート、ピアノ、雅楽、邦楽など) / ブラックシアター / よさこい / リーダーズシアター / 忍者ごっこ (アフタフバーバン) / 映像を利用したお話会 / 猿回し / 芸術見本市 (オンライン演劇ワークショップ) / 語り部による昔話 / 三味線体験と鑑賞 / 人形浄瑠璃 / 地元高校生によるアカペラ / 中学生の合唱 / 独楽のパフォーマンス / 日用品楽器コンサート / 朗読劇

問 20. 今後、「鑑賞活動」を実施していくための課題があれば記入してください。[全児童館]

(自由記入)

全児童館 857 館のうち、回答が記述されている 402 館の回答を表示した。(自由記入)
 なお、内容が類似しているものはできる限りまとめて括弧内に数を表示した。

【表 26 今後「鑑賞活動」を実施していくための課題】

<p>予算に関すること (139) プロや子どもに見せたい演目を招聘したいが呼べない、地域の方への報償費が限られている、機材を直せない、自己負担とした場合に参加できない家庭がある</p>
<p>新型コロナウイルス感染症に関すること (118) 感染防止のための人数制限、活動制限、会場等の環境整備の困難、外部団体に依頼できないなど</p>
<p>出演者・団体、作品選びに関すること (51) 子どもの興味や関心に応えられる出演者や団体、作品を選定すること 様々な年代が利用しているため作品の選定が難しいこと 出演者・団体、作品に関する情報が少ないこと など</p>
<p>鑑賞スペースに関すること (25) スペースがない、または狭い、会場を確保すること、放課後児童クラブ等他施設との兼ね合い</p>
<p>「映画会」「人形劇」と固定することなく柔軟に活動を続けていきたいと考えています。予算の兼ね合い等課題もありますが、新しい分野にもチャレンジしてみたいと考えています。</p>
<p>「遊ぶ」ことが楽しい子どもたちに鑑賞活動に興味を持ってもらうために、どのようにアプローチしていくことが必要か、その方法を工夫すること。</p>
<p>企画する人材確保等をしていく必要がある。</p>
<p>地域で活躍する大人とのつながり。／</p>
<p>中高生(特に中学生)の参加者数の減少がみられている。</p>
<p>人材確保</p>
<p>これからは思考力、判断力、表現力から鑑賞活動を考えていかなければならない。</p>
<p>スクリーンは備え付けのものがあるが、プロジェクターが無いため毎回別の施設から借りているので、早めの予約で借りられているが、タイミングが悪いと借りられない可能性もある。</p>
<p>音の問題。</p>
<p>テーマを設定し、子どもたちに課題を見つけさせたい</p>
<p>なかなか本物を見せる機会がない。子どもたち自身が忙しすぎる</p>
<p>プロジェクターが故障したので活動できずにいます。</p>
<p>プロジェクターが当館にはなく、他で借りて行っているため、気軽に活動できない。</p>
<p>ボランティアで戯に参加してくれる人員を確保するのが難しい。</p>
<p>まずは児童館に足を運んでもらう必要がある。</p>
<p>委託費(プロを呼ぶための予算) 枠が削られ何十年も経つ。マイナス面でもあるが、地域、地区の協力者を発掘していく力が向上している。そうした力の一層の向上が大切。</p>
<p>一つの分野にこだわらず、子どもが今、必要としているものを見出し提案していく。</p>
<p>音楽コンサートや人形劇など「生」の良さを大事にする層が減少しているように感じる。その認識を変えるような広報や演出が必要である。</p>
<p>音響設備(スピーカー)の充実</p>
<p>保護者の協力を得るための日程調整に課題がある。</p>
<p>各分野とも専門的なため、知識を得るためにそれらとコネクトするのは難しいように</p>

思う。
環境整備
鑑賞するための準備、知識不足が課題。継続していく難しさを感じている。
鑑賞活動で感じたことや得られたこと等の思いを大切に、今後の活動に活かしていくこと。
鑑賞活動の行事のみ実施しても参加者が集まらない。(特に小学生)他の行事と合わせる事で、参加者が増えることを期待する。
鑑賞活動をするにあたり、郷土の伝統文化にも触れたいと思っているが、事業の復活のタイミングの検討が必要。
鑑賞活動を行ってくれるボランティア団体の紹介。
館単独での実施ではなく、学童連盟等の企画参加という形でなら派遣する事はできる。
機会があれば鑑賞できるような提供を考えていきたい。
興味、関心を持ってくれる児童や保護者が少なくなってきた。行事に参加してくれるよう、こちら側からの働きかけに工夫が必要だと感じている。
近隣の方に迷惑をかけないよう防音対策が必要。
集客年齢層をどこにするか。ニーズがどのようなものか。(集客できると思っても少ない事もある。)
古典芸能の鑑賞活動は実施できていないので、多岐にわたった分野の鑑賞を実施していきたいと考えています。
高学年の参加率が少ない。
今の時代は予算が厳しいので、いかにその中で創意工夫した企画運営をするかがカギとなる。
環境の整備
子どもたちの鑑賞態度、また鑑賞によって得られた体験や感想を大切に、以後の活動に活かす。
鑑賞する作品の選定の基準を明確にし、偏りのないよう留意する。
子どもたちの興味・関心がある分野から外部の人やグループを招き、実体験を重ねること。時勢に合わせた方法で実施すること。
子どもたちの興味関心があるものを鑑賞できるようにしていきたい
子どもたちの参加(なかなか広がっていかない)。
子どもたちの集中力の低下が感じられるため、集中して鑑賞できるよう、工夫していかなければならない。
集客を多く望む中で、子どもたちの対象年齢の幅がある。
子どもにより興味が異なるため、全体に楽しめる作品が増えてほしい
子どものために表現してくれる方がたくさん現れてほしい。
子どもたちは無料で鑑賞できる制度があれば充実していく。子どもたちはその分野に興味関心をもち、学ぶ意欲を向上させるだろう。
施設が住宅地の中にあるので、引き続き、音・声には配慮していきたい。
児童センターの利用に繋がる「鑑賞活動」の計画及び実施。
児童館で上映できる映像作品について図書館等の市有施設を利用することで予算を抑えて実施できるように計画する。音楽活動等の発表をする地域団体を調査し、活動状況を把握し、事業での発表の機会に協力してもらえるように連絡を取る。
児童福祉文化財の活用。
質の維持
周知の仕方(SNS、ちらしなど)
住宅ができ、大きな音が迷惑になるのではないかと。以前は吹奏楽のコンサートを行っていたが、心配。
小学生以上の子どもへの周知について。
人選

情報が単発的（しかし他館の実践例は大変有効）なので、一覧表があれば便利。
職員だけでは対応が難しいため、外部からの支援があるとよい
職員数、バス代など、鑑賞活動に出かける敷居が高い。 バスや引率する大人の人数について、援助があればと感じている。
職員数、指導員の確保 直接鑑賞したり、オンラインで鑑賞するなどの鑑賞できる環境にない。
身の回りの事象全てが鑑賞の対象。造形品、デザイン、漫画、アニメなどの中で、視覚的、美術教育の方向性を示す。 音楽表現及び鑑賞の能力を豊かにするための音楽指導など専門的な指導力の向上が必要。
人形劇など児童館に来てもらうのには高額なものが多いので、お手頃に来てもらえる情報などがあれば良いと思う。
人形劇や劇団活動はよく実施しているが、音楽活動や他の鑑賞活動にも広げていきたい。
人数制限
全ての子が静かに集中して鑑賞できる環境づくり。
他を招いての鑑賞活動は難しい
多くの児童に質の高い鑑賞活動を提供し、心の健康や情操を豊かにするため、ある程度、鑑賞活動の選択肢を広げることも重要であると考える。
多様な価値観を持つ子どもたちのニーズを捉えること。
大勢の人数が一か所に集まる事が困難。
地域のニーズに添った事業展開をしていきたいです。
地域の人々の参加を促し、児童センターを活動の発表の場となる様に働きかけ、地域との触れ合いの機会を提供したい。 児童センターが地域の学びの拠点となる様な活動を増やして行きたい。
地域の方々も一緒に活動していきたい
地域住民の方々も巻き込んで行うことができたら良い。お孫さんがフランスから夏休みに帰国したので、バイオリン・チェロのコンサートは計画し行った。
地域性の問題（騒音問題）、設備上の問題（会館で実施できる内容を選んでしまう）、アクセスの問題（外部の鑑賞会への参加がしにくい）、職員体制の問題などを課題と感じております。
著作権の問題…どの程度なら問題ないのかなどわかりにくい。確認が面倒。
長時間、その表現に集中することを好む子どもが減ってきている。子どもの感じる、鑑賞に対する敷居が高い。
当館において実施ができる新たな団体の発掘。 利用者の参加増への取り組み。
童謡離れなど、古くから親しまれている歌への関心。
徳島県内では上記の1～11のような鑑賞活動に触れる機会がほとんどないこと。
日時、人員の確保。
日程の調整。
鑑賞の対象をどこに（どの年代）にするか。
環境の整備
環境整備。
不特定多数の利用者のニーズの調整
職員の手配を行わない限りコンサート、オーケストラ、歌舞伎、能等は不可能だと思われれます。
幅広くしたいが、子どもの要望に添い偏ってしまう
ボランティアの発掘。
鑑賞場所などボランティアの方達の厚意でしかできない。手作りの鑑賞活動に終わっ

ている。本物の歌舞伎・能その他夢の夢。
準備期間
実施してもらおうボランティアや地域の中学校・高等学校との連携。
設備面。
異年齢同士の子が快適に鑑賞できるよう、座席や時間設定等を配慮する。
与える側の知識量を増やして対応できれば、更に良いと考える
様々な文化に触れる。
利用者のニーズを知る。
利用者へその意義や価値を理解してもらうこと。
令和3年度以前は母親クラブのサークル等地域のボランティアによる人形劇があり、素人としては質も高く毎年楽しみにしていたが、若い保護者が加入せずに高齢化が進み、解散に至ってしまった。予算がないので、劇団等を招くことは不可能なので、何か違う形で鑑賞できるものを求めていく。

IV. 「児童福祉文化財」の活用状況等について

問 21. 「児童福祉文化財」を知っていますか

アンケートを回収した児童館 857 館のすべてから回答があった。

【表 27 「児童福祉文化財」の認知状況】

児童福祉文化財 を知っていますか 回答件数 857 (100.0%)	よく知っている	ある程度知っている	詳しくは知らない	知らなかった
	29	229	308	291
	3.4	26.7	35.9	34.0

「詳しくは知らない」が 35.9%で最も多く、次いで「知らなかった」34.0%、「ある程度知っている」26.7%であった。

付問 21-1. 「児童福祉文化財」を知っている方はどのように知りましたか

問 21 で、「児童福祉文化財」を「知らなかった」と回答した児童館を除いた 566 館のうち、無効回答の児童館を除いた 460 館の回答を集計した。(複数回答)

【表 28 「児童福祉文化財」の認知方法】

児童福祉文化財 を知っていますか 回答件数 460 (100.0%)	厚生労働省のホームページ	厚生労働省が発行しているポスター	自治体からの情報提供	児童健全育成推進財団からの情報提供	その他
	71	131	122	284	15
	15.4	28.5	26.5	61.7	3.3

「児童健全育成推進財団からの情報提供」が 61.7%で最も多く、次いで「厚生労働省が発行しているポスター」28.5%、「自治体からの情報提供」26.5%の順に多かった。

「5. その他の媒体」の記述は、次の通りである。なお、同じ内容のものはまとめて括弧内に数を表示した。

研修会 (3) / 他の職員から (2) / 劇団からの情報 / 出版社の図書のカタログ /
メディア / どちらかで耳にしたことがある / 児童館に送られてくるチラシ等 /
書籍 (教育系) / 文化庁文化芸術による子供育成推進事業 / 受賞作品 (お話) が郵送されて / 書店の紹介で厚生労働省が発行しているポスター・チラシを毎年提供してもらっている / 幼稚園勤務の経験から

問 22. 「児童福祉文化財」のうち、劇などの舞台芸術作品を上演・観劇したことはありますか

問 21 で、「児童福祉文化財」を「知らなかった」と回答した児童館を除いた 566 館のうち、無効回答の児童館を除いた 559 館の回答を集計した。

【表 29 舞台芸術活用の有無】

舞台芸術作品を上演・観劇したことはありますか	はい	いいえ
回答件数 559	47	512
(100.0%)	8.4	91.6

「はい」が 8.4%、「いいえ」が 91.6%であった。

問 23. 「児童福祉文化財」のうち、絵本などの出版物作品を購入・活用したことはありますか

問 21 で、「児童福祉文化財」を「知らなかった」と回答した児童館を除いた 566 館のうち、無効回答の児童館を除いた 563 館の回答を集計した。

【表 30 出版物作品活用の有無】

出版物作品を購入・活用したことはありますか	はい	いいえ
回答件数 563	168	395
(100.0%)	29.8	70.2

「はい」が 29.8%、「いいえ」が 70.2%であった。

付問 23-1 「児童福祉文化財」は図書を購入・借用する際等の参考となっていますか

問 23 で、「はい」と回答した児童館 168 館のうち、無効回答の児童館を除いた 167 館の回答を集計した。

【表 31 出版物作品の活用状況】

児童福祉文化財は図書を購入・借用する際等の参考となっていますか回答件数	毎回参考にしている	ときどき参考にしている	あまり参考にしていない
167	20	129	18
(100.0%)	12.0	77.2	10.8

「ときどき参考にしている」が 77.2%で最も多く、次いで「毎回参考にしている」12.0%、「あまり参考にしていない」10.8%であった。

問 24. 「児童福祉文化財」のうち、映画などの映像・メディア等作品を上映・活用したことはありますか

問 21 で、「児童福祉文化財」を「知らなかった」と回答した児童館を除いた 566 館のうち、無効回答の児童館を除いた 556 館の回答を集計した。

【表 32 映像・メディア等作品活用の有無】

映画などの映像・メディア等作品を上映・活用したことはありますか	はい	いいえ
回答件数 556	45	511
(100.0%)	8.1	91.9

「はい」が 8.1%、「いいえ」が 91.9%であった。

問 25. 今後、「児童福祉文化財」を有効活用していくための課題・要望などがあれば記入してください

全児童館 857 館のうち、回答が記述されている 254 館の回答を表示した。(自由記入)

なお、内容が類似しているものはできる限りまとめて括弧内に数を表示した。

【表 33 今後「児童福祉文化財」を有効活用していくための課題】

「児童福祉文化財」についての周知・情報発信の徹底。 ポスター、ホームページ、アプリ、メールなどの方法で (78)
「児童福祉文化財」を活用するための予算の確保 (19)
イベント等事業の趣旨に合った作品があれば活用したいと考えるが、どこに、どのような方法で申請するのかや、予算額はいくらかが不明であるため、分かりやすい案内をしてもらいたい。
お客様のニーズに近い物にしていただければよいと思う。
これから活用できたらと思う。
コロナ禍な事もあり、多くの児童が本や映像に親しむ場面が多く見受けられます。次に目指すは、落ち着いた先の本やメディアの情報を受けて感じ取った思いを表現する場の提供です。
それぞれ鑑賞する際には、目的をもって実施していきたい。
チャンスがあれば利用したい。
どの様に取り扱ったら良いのか分からない。また、予算がかかるものについては、市の許可を得ないといけない。
まずは、「児童福祉文化財」にはどのようなものがあるか、また、どのようにすれば活用できるのか理解することから始めたい。
まずは職員が児童福祉文化財が何かを学ぶ。
もっと意識できるように、一覧表を貼り職員に周知する。
展示会を各地で行ってほしい。
運営主体への強力プッシュ、連携・協力体制の確立が必要と感じる。
映画などを上映する上での著作権が気になります。
映画等のメディアの貸し出し。種類が多くあれば活用しやすいと思われる
映像、メディアの借用方法を知りたい。絵本や児童書のリストの配布があると良い。
演劇やミュージカルなどの舞台芸術を当センターで開催して欲しいです。
演劇ワークショップなどを行って欲しい。
何ができるのか、その概要を知ること

絵本の提供など
学校ではないので、真面目な教材的な内容をどの様に、子どもに伝えるのか、方法。また、映像であれば借用する予算が課題である。
活用していくためには予算が必要となるので、補助金等があれば助かる。
活用しやすいことが第一だと思う。
活用するための申請方法等を知りたい。無料であれば活用しやすい。
活用できるもののリストなどを簡単に見たり、視聴できたりすると助かります。
活用にあつたてのスペースの確保
観劇に連れて行く費用の助成があると嬉しいです。
鑑賞のためにかかる費用の予算の確保が必要。
鑑賞系を実施するためのスペースの確保。
機材の確保、および予算の確保が大きな課題です。
供給が簡単にされるのであれば、積極的に活用したい。
区を通しての活用となる。
携帯やタブレット端末の普及により、本（児童書）を手にする児童が少なくなっている。
劇・映画等を上映するための予算や図書を購入するための予算が少ない。
劇であれば身近な場所での開催など、慣れない文化であれば敷居を低くすることが必要。積極的に紹介されると良い。
劇については、県内で児童対象の公演を行い、チケットなどを斡旋して欲しい。本については、ポスターの寄贈があれば嬉しい。
現在児童館を利用している子どもたちの興味と、紹介されているコンテンツが離れていると思う。利用方法がわかりづらいと感じたため、一覧表などがあれば良いと思う。
現状（コロナ渦等）の状況が改善されれば、積極的に館運営に取り込んでいきたい
公立公営としては予算立てをすることが厳しいので、無料での提供の機会も作って欲しい。
厚生員が児童福祉文化財を理解する人が少なく、主に制作感に一生懸命である。子どもたちに素話や読み聞かせ等を行いたいが、できない状況である。厚生員がどの館も学校の延長を行っている様を感じる。もっと夢のある児童館にしたいが、ドッチビー中心のあそびになっている。職員が異動したことで、各種の大会主催がなくなってしまった。館長が職員に発破をかけるわけにもいかず、悩んでいる。考えるレク・ゲーム等をしたり、思いやりが出てくるゲームビルディング等に取り組みたいが、運動遊び（体を動かすだけ）が中心になりつつある。子ども一人ひとりの意見を聞きながら進めていけたら理想だが、それでも喜んで毎日 50 から 60 名程来てくれるのは嬉しい。
広く周知されていないと感じるので、定期的なお知らせや推薦映画・人形劇等々を気軽に鑑賞できる様に工夫して頂きたい。（映画無償貸出等）
講師を派遣していただき、子どもたちに文化財を伝えて欲しい。
購入するのに費用が掛かるため、レンタル等してくれたら助かる（2）
今回、児童福祉文化財というものがあることを初めて知り、インターネット等で調べたものの中から選書などに活用していきたい。
今後、有効活用できるように考えていきたい。
今後しっかりと学びを深めて有効活用していきたい。また、他の周知が必要。
自治体との連携を深め、児童館等に情報発信をしていただければ、もう少し身近に感じられるのではないかと思います。
再生機器の導入。
残念ながら、推薦されたものが、子どもたちが興味を持つものと必ずしも一致しない。だが、始まると興味を持ちだして取り組むので、「持って行き方」の工夫が必要。

子どもたちに「見て欲しい、読んで欲しい」という大人の思いと、子どもの「見たい、読んでみたい」の思いの温度差が縮まらないこと。
子どもたちにより多く本物の芸術に触れる機会を増やすため、以前実施していた劇団等の派遣予算を増額し、地方にも平等にチャンスを与えてほしいと思います。
子どもたちに学んで欲しい作品は多いが、子どもが認知しているものが少なく、興味を示すものが少ないと思う。そのため周知が必要と考える
子どもたちに紹介していく機会があまりうまく持てない。
子どもたちは本が好きなので、少しでも贈呈してくれるとありがたい。
子ども達に口頭ですすめたことはあるが、自ら読んだことはないので手にとってみたい。 「知ってるよ」という子が多いので共有していきたい。
指導者がアンテナを張り、情報収集し、子どもたちに提供すること
児童センターでは難しい。
児童になかなか浸透させるのが難しい
児童音楽・映画等、児童の成長・発達のために良い刺激を与えたい。児童センターは放課後見守りだけの域からなかなか脱却できない。
児童福祉文化財としてどんなものがあるのか、内容はどのようなのかを職員が研修して知っておくこと。
児童福祉文化財の周知が有効活用するために必要だと思います。そのために児童福祉施設に出版物やメディアの配布を要望します。
児童福祉文化財は選んでいる人、何がすぐれているかがわかりづらいので、有効活用がしにくいです。劇は児童館で無料で見られる機会があると普及にもつながると思います。
児童福祉文化財をよく知らないなので、確認して、必要に応じて利用していきたい。
児童福祉文化財を確認する。HPを見る。
児童福祉文化財を手軽に借りられる環境が整うと良い。
児童文化財の情報や活動事例、その成果を知りたい。
時代にあわせたテーマの選定をおねがいします。
自分の問題です意識が遠いです。
自分は寡聞にして知らなかったが、もし自分の様な方が多いのであれば、周知活動をしてもらえば有効活用できる場面も増えてくるのではないかと思う。
出張旅費等も含め、無料な鑑賞活動の派遣があれば希望したい。
出版物の購入、活用は取り組みやすいが、演劇や映画等は費用がかかり鑑賞時間帯の設定や集客が困難である。
小さな施設でも出来る内容を知りたい。また、芸術ダンス(バレエ・コンテンポラリー)なども取り入れて頂ければ有難い。
上映するための機器がないため(パソコンにCDドライブがついていないので再生できない)
上映に必要とされる機材が当館には何もないので、上映・活用するには、大変ハードルが高いです。
情操教育に力を入れていきたい。最近の傾向として、指導が弱くなっているように感じる。
情報の発信場所が分かりにくい。インターネットで探しに行く手間があるため、手元に資料が届いていれば活用できる可能性もある。
職員が「文化」に対して幅広く受け入れる柔軟性、感度の向上。それを健全育成に活用する発想力、応用力、実践力の向上。
職員が1年ごとに代わるので、毎年、何らかの形で情報共有しないと、有効活用されないと思われる。
人的資源(人不足)、時間的なゆとり、スキルアップなど。

図書の購入はできるが、なかなか映画や映像は上映時間や内容の関係で難しい。
図書は比較的活用しやすいのだが、児童劇、見て欲しい映像はイベント等で取り組んでも参加者が少なく、理解してもらうのに時間が必要である。
図書館等公的施設（児童館含む）への寄贈。
図書購入の際に参考になっている。より幅広い分野の書籍の紹介があればと思います。
推薦された絵本や図書、芸術作品展等のを参考にし、活用していく。
推薦作品（図書）について、【年齢】だけではなく【ジャンル（自然、社会、ミステリー、ファンタジーなど）】がわかると、その分野のおすすめ本として配架しやすく、子どもたちの興味や関心につなげられる。
対象が高学年以上のものが多く、購入に手が伸びにくい。舞台等にも興味は持つが、どのくらいの予算で演じていけるのか知れると良い。
対象者、時期、場所、費用が合えば活用したい。
対象年齢別で検索できると取り入れやすい。
大人の意見だけで選びがちになっているが、子どもの目線、意見も取り入れながら活用していきたいと思う。
知識、情報を積極的に求めて活用について研修したい。
地方（京都北部）でも鑑賞の機会があっても良いのではないか。
蓄積と知らせるための工夫、さらに、各児童館がそれらの内容を素材として子どもの実態や職員のスキルに応じて自由に改変することもできるような知的所有権の開放。
中学生や小学生中高学年用は種類も多いが、低学年用の種類もたくさんあれば、参考にもなり有効活用がよりできると思う。
長年あるものもあるので、新しく買い替えるか、また別のものを購入するか迷う。（嬉しい迷いではあるが…）
低学年向けのものが多いと、より児童館で利用しやすい。
低年齢向けのメディア作品があれば知りたい。
提供するものが興味を持っているか検討する必要があると感じている。
乳幼児と保護者向けと、小学生向けに合ったものに対して予算を付けて欲しい。
舞台・芸術は地域内に新しくできた劇場の関係者とのつながりを深め、協力してやっていきたいと考える。映像・メディア部門は、今回のアンケートでこちらの作品も参考にすることができるとわかり、改めて子どもたちと活用する機会をつくるよう考えたい。
舞台芸術等は難しいが、推薦図書等の購入は考えていきたい。
文化財そのものを知らなかったので今後内容等を理解してみたい
勉強して知りたいと思う。
本の購入の際には、活用していきたいです。
目的に合った情報の収集のツール等方法確認
有効活用している例があれば知りたい。
有効活用の範囲を広げるために、児童の保護者向けに児童福祉文化財の普及を図る方策を見出していければと考える。
有効活用は難しいが、ポスター等の周知希望
上映機器等。
職員のやる気とスキル。
予算が限られているため、無償で貸し出してもらえたり、出張して上映してもらえる機会があればありがたい。
予算が少ないので無料もしくは低価格で提供していただけるものがあれば活用したい。
児童福祉文化財の情報の確保
予算的な優遇があるとか、活用のノウハウなどがわかりやすく教えていただけると取り組みやすい

利用したい思いはあります。
利用者の希望とのマッチングができるかどうか。
利用者の実態（年齢、ニーズ等）に即したものの、利用しやすさなど、より良いものの有効活用について工夫してもらいたい。
良い作品が沢山あると思うが、それらを活用するための予算が必要。
令和2年に開館した新しい館なのですが、今後機会があれば考えたいとおもいます。

問 26. 「児童福祉文化財」出版物部門の作品を児童館で展示する事業があれば実施を望みますか

全児童館 857 児童館のうち、無効回答の児童館を除いた 817 館の回答を集計した。

【表 34 出版物展示のニーズ】

「児童福祉文化財」出版物部門の作品を児童館で展示する事業があれば実施を望みますか 回答件数 817 (100.0%)	はい	いいえ	どちらともいえない
	202	149	466
	24.7	18.3	57.0

「どちらともいえない」が 57.0%で最も多く、次いで「はい」24.7%、「いいえ」18.3%であった。

問 26. で「はい」と回答した 202 館のうち、記述がある 141 館の回答を表示した。(自由記入)

なお、内容が類似しているものはできる限りまとめて括弧内に数を表示した。

【表 35 問 26 が「はい」の理由】

「児童福祉文化財」の広報・周知、そして健全育成に役立つと思うので。
「児童福祉文化財」の出版物以外の映像作品なども活用していきたいと思います。
児童の道徳、情操、知能、体位等を向上、その生活内容を豊かにすることによって児童を社会の健全な一員とするために積極的な効果をもつ児童福祉文化財が児童館としても賛同できるため。
いろいろなことを子どもに体験、鑑賞してもらいたい、触れて欲しい(3)
これまでは、当施設で購入していたので実施してもらいたい。
コロナの影響で、児童クラブ保護者が館内に入れない。 乳幼児の保護者が見て参考にするかとは思いますが、小学生以上の保護者にもぜひ伝えたい。展示方法に工夫しながらぜひ実施したい。
たくさんの方へ出版物の良さについて知ってもらい、良質な本など選択の幅を広めるために。
とても良い企画なので、広めていきたい。
ポスターや本など手軽に展示できるものであれば実施を希望したい。
もう少し具体的な実施内容を知りたいところだが、諸々の都合が許せばやってみたく思う。
よい作品に触れさせたいから。
より多くの作品に触れ、興味・関心を持ってもらうよい機会であると同時に、職員を始め地域の皆さんにも知っていただく機会となると思うからです。
より良いものに触れる機会を提供でき、職員のスキルアップにもつながる。(2)
館だけでは質の良い作品の提供が難しいため
機会があれば、内容により。
気軽に行える事業であれば実施したい
興味・関心あり。
興味を持って手に取って欲しい。

近隣に図書館がない為、地域の方々に理解していただく機会として。
経費を負担していただける事業であれば、子どもたちの情操を豊かにする良い機会になると思うので、実施したい。
厳選された作品だから。
現在 地域図書館と連携して児童館の一角に出張図書館コーナーを設置してありますが、好評です。児童館の蔵書 図書館の蔵書 そして文化財の蔵書は視点が違うと思うので、ウケると思います
広く利用者に知っていただくことで、子どもたちの健やかな育ちに役立てて欲しいため。
作品に興味を持つであろう利用児童が多いため。多くの作品を通して幅広い視野を持ってもらいたいため。
作品のすばらしさを直接肌で感じるができるため。
作品を通して、子ども同士、親子の会話の一助としたい。
子ども・保護者に広く知ってもらい、興味をもってもらえる機会になると思うので。
子どもたち（小1～3）の本（絵本含む）への関心度は高いから。
子どもたちがより良い作品に触れることを通じて、豊かな感性をはぐくみたい。
子どもたちが希望する本や県立図書館で進めている本等を購入しているが、幅広いジャンルの本を置きたいので、そういった事業があれば利用したい。
子どもたちが質の良い文化財により多く触れる機会を増やしたい。紹介したい。
(10)
子どもたちに優良な児童福祉文化財を提供し、児童の健全育成を図るため。(当館事業と調整が必要になるため、実施時期・展示内容については、応相談)
子どもたちの健やかな育ちに役立つと考えたため。
子どもたちの健やかな育ちのため、「児童福祉文化財」出版物部門の作品を手にとって見れる事業があったら実施してみたいです。
子どもたちの健やかな育ちの一助となると思われるので。
子どもたちの健やかな心の育成に役立てる事ができると考えるため。
子どもたちの様々な可能性(力)を引き出すために、出版物を展示する事で興味を持たせていきたい。
子どもにとって様々な物を見たり、感じたりする体験はとても良い事だと思うから。
子どもにポスターだけでなく、現物を手にとってもらえるのであれば、展示も触れる、読めるなどの展示であれば有難い。
子どもに豊かな遊びや表現の場を提供するため。
子どもに様々な体験をさせたいので希望。
子どもの健全育成に少しでも影響(効果)のあるものをしっかりと啓発していきたいため。
子どもの豊かな情操を育むツールを広く周知したい
子どもや保護者、おはなし会を運営するボランティアが情報を得ることで文化財の普及につながると考えるためです。
子ども達の感性や考え、発想力などを高めていきたいため。
児童、保護者など多くの人に児童書の魅力をPRできる機会にできるため。
児童、保護者にも手にとって観てもらいたい。
児童にとって良い影響を与えられるものなら実施したい。
児童に豊かな経験をさせるため
児童の健全育成につながるため。
児童の知識と知能を広めることができる。
児童館で上映したいと思う作品が無料でできるのであれば実施を考える
児童館で展示し、子どもたちに読ませたい。
児童館の利用者が、乳幼児又は小学校低学年の利用が多いのでその年代に合うものが

あれば実施をしたいと考えている。
児童館の利用者が実際に児童福祉文化財にふれ、興味を持つきっかけになりそうなので。
児童館は特に予算が厳しい状況にあり、子どもたちに体験させたくても叶わないことがある。費用が掛からずにできる事業であれば活用したい。
児童館を利用する方々に少しでも多くの経験をして欲しいため。
児童館職員から見て、大変興味深く子どもに触れさせたい作品が多いが、予算等の問題により導入が難しい。作品の貸与等の事業があれば、ぜひ参加したい。
児童館職員や保護者に知らせたいため。
児童健全育成に寄与する取り組みは広く実施していくなかで、有意義な活動であると感じる。特に映画等のメディアは小学、中学、高校世代の方が当館を利用するきっかけになるのではないかと考える。
児童福祉文化財について、見聞を広めるため。
児童福祉文化財に触れる機会の少ない親子に知ってもらいたい
児童福祉文化財は、児童の成長にとっても有益であると考えから。
児童福祉文化財を広く周知したいからです。
児童福祉文化賞受賞作品を参考に図書を購入しているが、全ては無いので推薦作品を多くの子どもたちに知ってもらえる機会があるといい。
自分自身が知らないため、理解したい。
質の良い作品を子どもたちに与えるため展示を希望する。
実際に見て触れる機会が持てるため。紹介している本を一冊ずつ探すのは大変である。
実際に触れみるのが最善と考える。
実施したことが無かったのでやってみたい。
実物があることで、子ども達にも手にとり、読んでもらう機会を作ることができる
出版物も内容が分からなければすすめるのも難しく、職員、利用者が手に取り観てもらえるのであれば、もっと薦めやすいと考えたから。
上記機会を設けることで、様々な文化財に触れ・知ってもらいたい。また、利用者の出版物作品の活用にもつなげていきたいため。
情報を貰えると助かる。
職員の学びのため。
色々な作品に子どもたちが触れて欲しいため。
新しい取り組みは子どもたちにとっても楽しいため。
図書活動（選書）等の参考にさせてもらいたいため。
図書館に「児童福祉文化財」コーナーを設けても良いかと思う。
図書費等の予算は限られているので、児童館で購入できない大型絵本等を貸してもらえればありがたい。
積極的に理解し、活用していきたいと思ったから。
専門の方が選んだ作品はきっと子どもたちに有意義な経験になると思う。
多くの子どもの目に触れる機会を作りたいため。
多くの児童に児童福祉文化財に触れる機会を提供できる。
大型児童館として、児童福祉文化財の普及をしていくべきだと考えるから（２）
知らないから。
知る機会の提供
地域の子どもたちや親たちに触れてほしい。また紹介をしたい。スタッフも触れていきたい。
地域住民に児童福祉文化財について知る機会を提供したいため
展示ができるのであればぜひ展示したい。

展示スペースがあり、児童も興味があると思う。
展示することで、良い作品に多くの方から触れてもらえるから。
展示するスペースがあれば実施したいです。
展示は児童の知的な適応力を高め、情操を豊かにすると思う。
児童館周辺地域の学校が読書活動に力を入れているからか、市内他地域と比較して図書に親しむ子どもが多いので、子どもたちが興味・関心を持つような図書が紹介出来れば良いと思う。
当センターには少ない予算なので、ぜひ実施して欲しい。
当館では、児童が作る、描くということを大切にしているので、ぜひやってみたいで す。
当館には、漫画を読む機会がありますが、しばらく出版部門の作品を購読したことが ありません。ぜひ展示して、漫画との違いや読書の新たな楽しみを体験できる事業を 実施してほしいです。
内容にもよるが、機会があれば実施してみたい。
内容を把握することで職員の理解も深まると考えます。
文化財にされている本に興味があるため。
保護者や子ども達にも周知させたいから
本の（特に絵本、育児書）の貸出需要が高いため。
本の話共有でき良いと思う。丁寧に扱えるよう工夫も必要に思う。
本調査を通じて「児童福祉文化財」について調べ、関心を持ったため。
毎週（小学校長期休業中は毎日）読み聞かせを行った結果、読書に興味を持つ子ども が若干数増えたように感じる。図鑑など専門知識を深める出版物もたいへん人気があり、 毎日の自主学習に活用する子どももいる。展示するスペースが広すぎなければや ってみたい。
漫画や好きなジャンルのものばかり見て、読書を好む児童が少ない為、いろいろな本 や映画の紹介のきっかけになれば。
目にする（できる）機会があるなら、その機会を有効に使いたい。
様々な作品に触れる機会は貴重な体験となる。
様々な人にその存在を知ってほしい
様々な創作物に触れる事は豊かな情緒を育むことに不可欠なので、様々な機会がある 事が大切だと思うので。
来館された方々に知っていただきたい。
来館者が固定されておらず、流動的なので展示であれば、より多くの児童に見る機会 を提供できる。
来館者にも幅広く知ってもらい活用してほしい為
利用して、子どもたちに触れて欲しい。
利用児童に、様々な体験や知識を増やしてもらいたい。
利用者により良いものを提供できる機会としたいため。
利用者への展示や職員の情報収集に役立てたい。
利用者層に合うものがあれば実施を検討したい。
良いものに触れることができる。皆に広めたい。職員の勉強にもなる（9）

自由記述は様々な表現がされているが、「はい」の主な理由としては、次のような回答が見られた。

- ・子どもたちの健全育成に資すると考えるため
- ・子どもや保護者に様々な良い出版物（作品）と出会い、知ってもらう機会となると考

えるため

- ・実際に触れて、見るができるため

詳細はそれぞれの自由記述を参照されたい。

問 26. で「いいえ」と回答した 149 館のうち、回答が記述されている 101 館の回答を表示した。なお、内容が類似しているものはできる限りまとめて括弧内に数を表示した。(自由記入)

【表 36 問 26 が「いいえ」の理由】

「展示」よりも鑑賞・読み聞かせなどを希望
コロナ禍で事業が縮小されているため。
スペースの確保が困難 (78)
まずは児童福祉文化財にあたりたいと考える。
よく分からないため。
安全面で不安があるため。
運営上、実施できる環境にない。
運営上、必要としない。(2)
汚したり、破損したりする恐れがあるので不安である。
会場、運営など、無理な状況にある。
改まって展示をしなくても、ネット検索である程度調べられるから。
館内に図書館があるため。
興味関心をいただく子どもたち、保護者がいないと思われる。児童厚生員達も現時点では希望しないようである。
現状事業が多く、また人件費に限りがあるため。
公立で市を通さないといけないので、手続き等が難しそう。
児童館利用者の多くが乳幼児親子と小学校低学年の児童のため、対象年齢が合う作品が少ない。
出版物のリスト等をデータで公開してもらっただけで充分である。
消毒できないもの(本類)は児童館で利用しない。
図書室に本を置いてもなかなか、手に取ってみることはしません。映像などで本のお勧めなどを知ることができたらいいなと思います(本当は私達が読んで、この本のお勧めなどを伝える事ができればいいのですが・・・)映像を YouTube などで気軽に見られる環境ができるといいなと思います。
推薦図書などについては、学校や図書館で借りている子どもたちが殆どであるため、児童センターでわざわざ展示する必要はないと思うから
展示であれば望まないです。(体験などが欲しいです)

展示の前に活動の周知をしてからが望ましいと考えたため。
内容や方法、規模等が見通せないため。
年齢層が低いため。
物を大事に扱えない児童が多く、せっかく作った作品を何かの拍子に壊してしまうのではないかという懸念があり、私共の館では現状実施できないと判断しました。
放課後児童クラブ併設しているため、時間的余裕がない。
令和4年度末で55年の歴史に幕を下ろし、閉館となる事が決定している。建物の老朽化が理由で、同じ学区のもう一つの児童館も同様に閉館。大変残念である。

自由記述は様々な表現がされているが、「いいえ」の主な理由としては、次のような回答が見られた。

- ・展示スペースの確保が困難なため
- ・利用児童の現状と「児童福祉文化財」の内容合わず、興味・関心を持たれないと考えるため
- ・運営上、必要としないため。実施できる環境にないため（人的・時間的余裕、子どもが汚損・破損しそう、消毒できない）

詳細はそれぞれの自由記述を参照されたい。

問26. で「どちらともいえない」と回答した466館のうち、回答が記述されている172館の回答を表示した。なお、内容が類似しているものはできる限りまとめて括弧内に数を表示した。（自由記入）

【表37 問26が「どちらともいえない」の理由】

「展示する事業」とはどういうものなのか、もう少し詳細がわかったうえで判断したい。イメージできないから。イメージが持てる周知があれば実施を考えられる。
これからしっかり調べたり学んだりしてから検討したい。
コロナ禍で、活動を制限しているため。
コロナ禍以降、乳幼児親子の来館が多いため
コロナ感染拡大防止の観点から、外部講師などを今お断りしている状況です。マニュアルの改訂が進めば可能になることもあるかと思えます。
スペースがない（20）
資金が少ないので難しい。
資金が少ないので難しい。
その時になってみないとわからない状況です。
その時の館の状況による。
どういう事か具体的な説明が欲しい。
どうしても、破損や紛失などを防ぐことができない懸念を確認したい
どのような形で展示できるかわからないから。
どのようにするのか想像が出来ないので。
どの程度の展示か詳細が不明なため。
どの様な事業なのか理解した上で、実施を検討したい。
どの様な内容化よく分からないので。ただ、子どもたちにとっての大切さを感じるので、

何とか実施できたらなと思う。
どの様に活用すべきか分からないため。
どれくらいのスペースや予算に応じて実施可能かどうか決まるから。
どんなものかイメージがわからないため、「1. はい（望む）」に○できなかったが、できることなら望みたい。
どんなものかよくわからない。壊したりしたら困る。
どんなものかわからないので、展示することについて具体的なイメージがわからない。
ポスター展示であれば可能。
まだ、どのような作品があるか知らないため。申し訳ございません。
よくわからないため
確認が必要。
確認が必要。
館長の経験が浅く、知らないことが多い。今後色々と学んでいきたい
既に実施している他行事の継続の有無も含めて検討する必要があるため（4）
規模と期間に依る
興味はあるが、事業を行うための予算がない。
興味をもたせるきっかけづくりが難しい。
具体的な内容を検討して、今後考えていきたい。
具体的にどのようなものかを知ってから判断したい。
現在、施設の改修工事のため、今後については検討中である。
現在、利用できる環境にない。
現時点でその必要性をあまり感じていない。
現状（キャパシティや人員体制、現場の状況）が可能であれば希望したい。
現状は、検討をしていないため
現状は多くの事業が実施できていない状況にあるため。
公施設なので自治体の検討と了解が必要（4）
今後検討（4）
参加者が集まらない。
子どもたちが児童館に求める本や映像が、手軽に読めるコミックや絵本が多い為。
子どもたちの活動のタイミングと目標到達度によって実施するかどうか変わる。
子どもたちの生活の場が維持できる展示であれば行いたい。
市の担当課に相談してからになるため。
市役所に相談が必要と思われるため。
施設利用対象者が小学校1・2年生という事もあり、展示しても見てもらえないと思う。
事業内容の詳細が不明（25）
児童クラブと併設された児童館なので、実施できることが限られているため。
児童館で本を読む児童はわずかしかない。
児童書に関しては図書館司書が定期的に来館し、入れ替え等を行っているため。
児童福祉文化財を知らないため。
時期や規模等を考えて事業があった場合に検討
自身や職員、子どもたちでやりたいと思ったことと合致する場合は一緒に事業をさせていただきます。
実際に展示でなくても、オンラインで解説してもらえたり、子どもと交流が持てたらと思う。
実状に応じて対応していきたい
周知のためには実施しても良いと考えるが、出版物は読み物であり、展示のみで軽く手に取るだけでは、文化財を有効活用できるとは思えない。
出版物（図書）は豊富にあるため。

出版物の選定は、おそらく全児童会館で一番慎重に自信を持って行っている。(1年間で100万円程度購入)
出版物の内容を把握、理解し検討するため。
小型児童館の中では実施が難しい。当施設は複合施設で一般図書と共有スペースのある図書室があるが、司書の要望があれば実施可能。図書室勤務の職員は「児童福祉文化財」を知らなかった。
詳細がわからないので、企画できるかどうか判断しにくい
場所の確保
場所の確保と内容を精査する必要がある
情報不足のため展開の想定ができない。
状況にもよるため「どちらともいえない」を選択しましたが、まずは、会館での本の購入の際には、「児童福祉文化財」出版物部門からの選定をるところから初めてみたいと思いました。
状況による。
新規に購入・貸出する本はスタッフ内で季節や時勢に合わせたものを協議・決定しており、児童福祉文化財の利用及び設問の様な展示事業の実施に関しては検討の必要があるため。
身近な所だと告知しやすいが、遠いとあまりできないと思うため、どちらともいえないと回答した。
図書館と隣接しており、連携が取れているので、当館としてのニーズはあまり高くありません。
図書室が単独でないため。
数が大量でなければ展示できるが、多いと場所が無い。
前項で書いたように、ネットで選書等に活用できるから。
他の事業との兼ね合いで決める必要があるため。
定期的に配布してもらえるものは設置している。児童の興味が高いのでないと関心が向かない傾向に思う。
展示するだけならお願いしたいですが、基本、センター来館時は子どもたちは金銭を所持しないのが原則で、販売を伴うものであれば実施は出来ないかと思われます。
展示するならばある程度の場所を用意しなくては行けないと考えているので、その場が用意できるか十分に検討をしたい。
展示するにあたっての段階を確認したい。
展示するもの、展示の仕方などによりできるものと、できないものがあるため。
展示する場所の確保が難しい。
展示する場所や態勢を整えば。
展示する場所等も無いし、出版物等を購入する予算も無い。
展示だけではなく、貸出しができれば読むことが出来る。中身を知ることの意味があるのではないか。
展示できるスペースの確保が難しい。
展示と同時にその後速やかに供給されることが必要。
展示のみなのか、読むことができるのかにもよる。
展示の場所、施設が狭いので工夫が必要。
展示の場所に制限があるため。
展示の内容がはっきり分からないため。
展示の内容によっては考えてみたい。
展示内容によって実施できるか判断する。
展示内容やスペースなどの詳細を具体的に知りたい為
展示内容やそのやり方によって変わるのでどちらともいえない。
当センターでは、子育て支援センター機能もあり、児童館だけに集中して取り組む人的な

不足もあり、できる事とでない事がある。
当センターでは、小学6年生までの利用なので、子どもたちが受け入れやすく理解や興味を持った物であれば実施したい。
当館にも絵本や児童書を読めるように設置しているが、館内が賑やかでじっくり読む環境ではないため、展示という企画でそのような機会を設けたい。
当面、館内のもので間に合っている。
幅の広い年齢層当館を使うため。
本の購入に際し、参考にさせていただくこともあります。展示に関しては、実際に手に取って読むことができたり、貸し出すことが可能であれば実施も有効だと思います。
本を読む子どもが少ない。
本離れをしている子ども達だからこそと思いますが、本よりアイパット等での授業も進み、あえて児童館で読書をする子ども達が増えるのであろうか。
予算や作業コストに対する効果が不明
予算や自力では企画できないが、他事業やスケジュールが合えばできるかもしれない。
来館児童が低学年が多いため、対象にあった作品であればぜひ望む。
来館者数が多いため、展示する場所があまりない。
利用者にとって児童館で文化財と触れ合う良い機会になると思うが、現状新型コロナウイルス感染症対策の為、会場の設定、その他の懸念事項などありどちらともいえない。
流行や利用者に好まれる物を選択したい。
良く分からない。

自由記述は様々な表現がされているが、「どちらともいえない」の主な理由としては、次のような回答が見られた。

- ・展示スペースの確保が困難ため
- ・事業内容の詳細が不明なため
- ・公共施設のため自治体の検討と確認・了解が必要
- ・そのような状況にない・必要性を感じない

詳細はそれぞれの自由記述を参照されたい。

以上、「表現活動プログラム等に関する実態調査」を「表現活動について」、「鑑賞活動について」、「児童福祉文化財について」の個々の項目を集計・分析してきた。

令和4年度 厚生労働省子ども家庭局委託事業
「児童館における児童福祉文化財を活用した遊びのプログラムに関する調査研究」

表現活動プログラム等に関する調査票

年度の指定がない設問については、令和4年10月1日を基準日として記入してください

I. 児童館の名称・所在地等について伺います

1. 児童館名	(ふりがな)	2. 児童館コード (※1)
3. 児童館種別 (いずれか選択)	1. 小型児童館 2. 児童センター 3. 大型児童センター 4. その他の児童館 5. 大型児童館	
4. 所在地 (※2)	〒 都 道 府 県	
5. 電話番号		6. FAX番号
7. E-mail		
8. 運営主体 (※3)		
9. 記入者氏名	職 名	氏 名

(※1) Web フォーム又は Excel 調査票に入力する場合は、郵送された調査票に記載された児童館コード(5ケタの数字)を記入してください

(※2) 複合施設の場合は、施設(建物)名も記入してください

(※3) 運営主体が法人の場合は、法人名から記入してください

II. 「表現活動」^(※4)の実施状況等について伺います

(※4) 「表現活動」とは、この調査では主に、児童館が企画し、子ども(利用者)自身が行うごっこ遊びや劇遊び、朗読、読み聞かせ(読み語り)、演劇、人形劇、影絵、パネルシアター、ペープサート、ヒップホップ、ダンス、その他の「身体表現」、うた、合唱、リズム遊び、ラップ、和太鼓、楽器演奏、合奏、その他の「音楽表現」と定義し、絵画や工作等の造形表現ほかの活動は含まないものとします。

問1. 「表現活動」を実施していますか (いずれかに○)

1. はい(実施している) 2. いいえ(実施していない)→問9へ進む

問2. 「表現活動」を実施するための事業予算はありますか (いずれかに○)

1. はい(実施している)→令和4年度予算額 円 2. いいえ(ない)

問3. 「表現活動」の実施回数及び参加人数(概数)を記入してください (数値を記入)

令和3年度	実施回数	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	回	延べ参加人数 約	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	人
令和4年度	実施予定	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	回			

問4. 現在実施している子ども（利用者）自身が行う「表現活動」はどのような活動ですか
〔該当するすべてに○〕

1. ごっこ遊び 2. 劇遊び 3. 朗読 4. 読み聞かせ（読み語り）
5. 演劇 6. 人形劇 7. 影絵 8. パネルシアター
9. ペープサート 10. ヒップホップ 11. ダンス 12. うた 13. 合唱
14. リズム遊び 15. ラップ 16. 和太鼓 17. 楽器演奏 18. 合奏
19. その他 → 具体的に記入

問5. 「表現活動」の対象者を選択してください 〔該当するすべてに○〕

1. 乳幼児と保護者 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生世代
5. 地域住民 6. 高齢者 7. その他 → 具体的に記入

問6. 令和4年度に実施する「表現活動」（計画中含む）について記入してください 〔3事例まで〕

活動例(事業名等)	活動の概要	参加人数	実施状況(※5)
1.		人	実施済・未実施
2.		人	実施済・未実施
3.		人	実施済・未実施

(※5) 終了している活動は「実施済」、予定中の活動は「未実施」に○をしてください

問7. 「表現活動」に期待する効果(ねらい・目標など)について記入してください 〔自由記入〕

問8. 「表現活動」の質の向上(効果性や継続性等)のための工夫や留意点について記入してください
〔自由記入〕

問9. 令和3年度以前にはどのような「表現活動」を実施していましたか 〔該当するすべてに○〕

1. ごっこ遊び 2. 劇遊び 3. 朗読 4. 読み聞かせ（読み語り）
5. 演劇 6. 人形劇 7. 影絵 8. パネルシアター
9. ペープサート 10. ヒップホップ 11. ダンス 12. うた 13. 合唱
14. リズム遊び 15. ラップ 16. 和太鼓 17. 楽器演奏 18. 合奏
19. その他 → 具体的に記入

20. 令和3年度以前も特に実施していない

問10. 今後、「表現活動」を実施していくための課題があれば記入してください 〔自由記入〕

Ⅲ. 「鑑賞活動」^(※6)の実施状況等について伺います

(※6) 「鑑賞活動」とは、この調査では主に、演劇、人形劇、音楽コンサート、オーケストラ、ミュージカル、ストーリーテリング(素話)、落語、歌舞伎、能等の舞台の鑑賞、映画、映画以外の映像・メディアを子ども(利用者)が鑑賞する活動と定義し、絵画や写真、自然等の鑑賞ほかの活動は含まないものとします。

問11. 「鑑賞活動」を実施していますか [いずれかに○]

1. はい(実施している) 2. いいえ(実施していない)→問19へ進む

問12. 「鑑賞活動」を実施するための事業予算はありますか [いずれかに○]

1. はい(ある) → 予算額 円 2. いいえ(ない)

問13. 「鑑賞活動」の実施回数及び参加人数(概数)を記入してください [数値を記入]

令和3年度	実施回数 <input type="text"/> 回	延べ参加人数 約 <input type="text"/> 人
令和4年度	実施予定 <input type="text"/> 回	

問14. 現在実施している「鑑賞活動」はどのような活動ですか [該当するすべてに○]

1. 演劇 2. 人形劇 3. 音楽コンサート 4. オーケストラ 5. ミュージカル
 6. ストーリーテリング(素話) 7. 落語 8. 歌舞伎 9. 能
 10. 映画 11. 映画以外の映像・メディア
 12. その他 → 具体的に記入

問15. 「鑑賞活動」の対象者を選択してください [該当するすべてに○]

1. 乳幼児と保護者 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生世代
 5. 地域住民 6. 高齢者 7. その他 → 具体的に記入

問16. 「鑑賞活動」の主な活動事例(計画中含む)について記入してください [3事例まで]

活動例(事業名等)	活動の概要	参加人数	実施状況(※7)
1.		<input type="text"/> 人	実施済・未実施
2.		<input type="text"/> 人	実施済・未実施
3.		<input type="text"/> 人	実施済・未実施

(※7) 終了している活動は「実施済」、予定中の活動は「未実施」に○をしてください

問17. 「鑑賞活動」に期待する効果(ねらい・目標など)について記入してください [自由記入]

問18. 「鑑賞活動」の質（効果性や継続性等）の向上のための工夫や留意点について記入してください
〔自由記入〕

問19. 令和3年度以前にはどのような「鑑賞活動」を実施していましたか 〔該当するすべてに○〕

1. 演劇 2. 人形劇 3. 音楽コンサート 4. オーケストラ 5. ミュージカル
6. ストーリーテリング（素話） 7. 落語 8. 歌舞伎 9. 能
10. 映画 11. 映画以外の映像・メディア
12. その他 → 具体的に記入

具体的に記入

13. 令和3年度以前も特に実施していない

問20. 今後、「鑑賞活動」を実施していくための課題があれば記入してください 〔自由記入〕

IV. 「児童福祉文化財」^{（※8）}の活用状況等について伺います

（※8）「児童福祉文化財」とは、厚生労働省社会保険審議会福祉文化分科会が推薦する、子どもたちの健やかな育ちに役立つ絵本や児童図書等の出版物、演劇やミュージカルの舞台芸術、映画等の映像・メディア等の作品をいいます。

○詳しくは、厚生労働省ホームページ「児童福祉文化財とは」参照してください。

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo_kosodate/suisenjidoufukushibunkazai/index.html

問21. 「児童福祉文化財」を知っていますか 〔いずれかに○〕

1. よく知っている 2. ある程度知っている 3. 詳しくは知らない
4. 知らなかった → 問25へ進む

付問21-1. 「児童福祉文化財」を知っている方はどのように知りましたが 〔該当するすべてに○〕

1. 厚生労働省のホームページ 2. 厚生労働省が発行しているポスター・チラシ
3. 自治体からの情報提供 4. 児童健全育成推進財団からの情報提供
5. その他の媒体 具体的に記入

具体的に記入

問22. 「児童福祉文化財」のうち、劇などの舞台芸術作品を上演・観劇したことはありますか 〔いずれかに○〕

1. はい(ある) 2. いいえ(ない)

問23. 「児童福祉文化財」のうち、絵本などの出版物作品を購入・活用したことはありますか 〔いずれかに○〕

1. はい(ある) 2. いいえ(ない)

付問23-1 「児童福祉文化財」は図書を購入・借用する際等の参考となっていますか 〔いずれかに○〕

1. 毎回参考になっている 2. ととき参考になっている 3. あまり参考にしていない

Ⅱ 児童館における児童福祉文化財（主に児童劇）を活用した遊びのプログラムの企画・実施

1. 企画及び公演前の準備

(1) 演目及び劇団・児童館の選定経緯及び公演作品・児童劇団について

【舞台芸術（演劇）の選定】

候補作品は、児童福祉文化財（舞台芸術）の中から、ワーキング・準備委員会および第1回調査研究委員会において委員よりご意見をいただき、選定した。

選定作業の過程で調査研究委員会において、劇を鑑賞するだけでなく、表現活動につながっていくか、日常の遊びにつながっていくような作品であるかどうか、についても考えていったほうが良いとの意見があった。また、児童館で上演すること自体の価値を重視したいという意見もあった。

上演そのものを大切にしながら、児童館で上演する際に、子どもたちが見ながら参加する要素もあり、表現の働きかけがあるものであって、上演の後、劇団員を交えて、もしくは劇団員が去った後でも児童館で遊びを展開するうえで役立つことが容易なものであるという観点から選定した。

なお、公演の内容については、「乳幼児向け芸術体験作品」、「幼児向け人形劇」、「音楽家と道化師の物語」、「コンサート形式の音楽会」など幅広い分野から選定することを考慮した。

選定した上演する作品の内容と劇団の概要は以下のとおりである。

【公演作品】

公演作品の内容についての記述は、劇団による文章である。

公演作品は公演日順に掲載している。

○作品内容

① 「らふいゆ れふいゆ」（「ラストラーダカンパニー&X-jam」）

チラチラ枯れ葉の舞い散る頃、楽譜を手に一人の音楽家がやってきた。そこに現れたのは、旅芸人の気ままな道化師二人組。ちょっかい出したり出されたり、噛み合わない3人のおかしな物語が始まる。やがて季節は移りゆき……。音楽家と道化師が落ち葉の中で繰り広げる楽しくも美しい言葉のない舞台です。

○「ラストラーダカンパニー」について

国内外で道化を学んだChang & L O N T Oにより、道化師と様々な表現を追求すべく2018年に設立。名古屋市在住道化師。アーティスト、パフォーマー。

言葉を使わないノンバーバル（non-verbal）の舞台を中心に全国の劇場、幼稚園、保育園、学校、おやこ劇場、こども劇場での公演他、大道芸、人形劇の公演に出演するなど様々な出演形態を持つ。

二人が率いる「コメディ・クラウン・サーカス」は平成30年度厚生労働省児童福祉文化賞を受賞。児童福祉文化賞とはその年の児童福祉文化において最も優れている作品に贈られる賞で、サーカスという分野が舞台芸術部門において受賞することは初。また和紙のサーカステントの舞台「サーカスの灯」は厚生労働省児童福祉文化財に認定され、アシテジ〈国際児童青少年舞台芸術協会〉世界大会国内招待作品5作品の中に選ばれる。現在、全国各地で120ステージを超え巡演中。

クラウン講座やパントマイム講座、身体表現のワークショップ開講などワークショップ企画も行う。道化師や、パフォーマー、ダンサー、人形劇、演劇関係など様々な場所へ身体表現の指導を行う他、舞台共演をしている。

「ラストラーダカンパニー」の由来は、この道を志すきっかけの一つとなったイタリアの映画フェデリコ・フェリーニ監督の「道」（イタリア語表記が‘La strada’からきている。今まで歩んできた道、そしてこれからの道は果たしてまわり道なのか、行き止まりなのか！？

○「X-jam」について

音楽家シモシュを中心とした音楽と舞台の創造集団。幼児から大人まで各年代を対象にしたシモシュコンサート作品、パントマイムパフォーマー金子しんぺいとミュージシャン齋藤ちゃくらとのパントマイムと音楽のショーなどを企画、上演。

また他劇団への音楽提供、楽曲制作、CDプロデュースなど、X-jam Studioにて多くの音源制作を行う。若手のプロデュースから、他団体とのコラボまで幅広いジャンルの共同制作を行なっている。

音楽を通して、観客と創り手、こどもとおとな、創り手同士がつながる交差点のような創造の場所を目指している。

②「ともだちげきじょう」（「人形劇団ののはな」）

5本の作品で構成された、幼児向けの人形劇です。「しろくまちゃん」はセリフがなく、想像しながら見るおはなしです。「ウレタンロボット」「コップんこシアター」「ぴょんちゃん・けろちゃん」は、人形劇ワークの中から生まれた、人形遊び的

な作品です。「うどんのうーやん」は、岡田よしたかさんの絵本が、人形になりました。児童福祉文化賞特別推薦作品。

○「人形劇団ののはな」について

1998年北九州にて設立。全国での人形劇活動を開始する。

野の花は大地や雨やお日様の恵みをもらい、花を咲かせ、やがて実を实らせませす。そして、またその実を大地に返す。

そんな活動でありたいと「ののはな」という劇団の名前にしました。

子どもたちの笑顔や歓声は、未来を明るく照らします。好奇心が旺盛で、行動力がある、子どもらしい子どもの時代を、のびのびと生きてもらいたい。そんな子どもたちのために人形劇をしていこうと思います。

③「森のオト」（「ロバの音楽座」）

多種多様な古楽器と空想楽器により、やわらかくて気持ちいい森のような音楽会。ヨーロッパの中世～ルネサンス時代によく使われていたバグパイプ、リュート、を始め30種以上の古楽器を駆使し、身の回りにあるものから作り出す空想楽器は子どもたちの創造力を掻き立て、古楽とオリジナル曲を中心としたコンサート形式に、突然はじまる仮面劇や森の住人の登場など、今までにないスタイルの音楽会。

○「ロバの音楽座」について

中世・ルネサンス時代の古楽器やオリジナル空想楽器により、子どもも大人も楽しめる心温まる「音と遊びの世界」を創造しているグループ。

1973年 中世・ルネサンス音楽を演奏する「カテリーナ古楽合奏団」結成。

1982年 子どもたちに音楽の夢を運ぶべく「ロバの音楽座」結成。

ロバの音楽座は古楽器や空想楽器などにより、ファンタジックな音と遊びの世界を繰り広げている。

1988年「愉快的コンサート」が厚生省中央児童福祉審議会の特別推薦文化財作品に選ばれる。

1998年「ジグの空想音楽会」が東京都優秀児童演劇選定優秀賞受賞。

2004年よりNHK Eテレ「パンツぱんくろう」「からだであそぼ」「いないいないばあっ」などの音楽を担当。

2006年 ジブリ作品「ゲド戦記」の音楽に参加。

2009年 第3回キッズデザイン賞・創造教育デザイン部門において金賞（経済産業大臣賞）を受賞。

2011年「らくがきブビビのコンサート」 2016年「森のオト」が厚生労働省社会保障審議会特別推薦文化財作品に選ばれる。

2021年「楽器の国へようこそ」が第20回アシテジ世界大会 国際子どもと舞台芸術・未来フェスで招待作品に選ばれる。

④「ハイハイ、ごろ～ん。」(「劇団風の子九州」)

7ヶ月から14ヶ月の赤ちゃんとその親に向けた演劇です。なるべく近い距離で観て欲しいので、上限14組で観てもらいます。言葉はほとんど使わず、動きや生音、人形や大小の球体を操り、赤ちゃんたちの五感に訴える作品です。客席は舞台を半円形に囲むようにしてあるので、親たちは、赤ちゃんたちの反応も見ることが出来ます。

○「劇団風の子九州」について

私たち劇団風の子九州は、1985年劇団風の子から独立して誕生しました。現在では九州圏内及び日本全国、海外へも活動の範囲を広げ、小学校・幼稚園・保育園などを中心に年間600ステージ程の公演を行っています。

また、アジアの玄関口である福岡市に本拠地を持つことから、アジア・環太平洋地域の国々の人たちとの交流も積極的に進めています。

風の子九州は創立以来、俳優と観客の子どもたちが共にイメージを高めあう作品『にっこりぽっかり座』や、世界に先駆けて乳幼児向け芸術体験作品(ベビードラマ)に取り組んだ『ピーかぶー』、さらには子どもたちと一緒に考えて表現する‘参加型’の作品の制作など、従来の演劇様式にとらわれず「遊びから創造へ」をキーワードにした数々の作品を創り続けてきました。

これからも、遊びや日常生活の中から新しい創造と表現の世界を追求し、広げていきたいと思っています。

[劇団の概要] (劇団名の50音順/敬称略)

都道府県	市区町村	劇団名	責任者
福岡県	福岡市	劇団風の子九州	代表理事 仮屋 祐一
福岡県	北九州市	人形劇団のはな	代表 納富 俊郎
愛知県	名古屋市	ラストラーダカンパニー	代表取締役 兵藤 禎晃
東京都	立川市	ロバの音楽座	代表取締役 松本 雅隆

【児童館の選定】

全国5カ所の児童館で実施した。

5カ所の児童館は、事務局において大型児童館・小型児童館など規模を考慮のうえ、いくつか候補をあげ、その中から調査研究委員会において地域バランス等の観点も考慮し、選定した。

[児童館の概要] (児童館名の50音順/敬称略)

都道府県	市区町村	児童館名	責任者
愛知県	長久手市	愛知県児童総合センター	センター長 矢倉 浩央
東京都	荒川区	荒川区立熊野前ひろば館	館長 高見 由佳
兵庫県	神戸市	神戸市総合児童センター こべっこランド	所長 荒田 浩
東京都	世田谷区	世田谷区立等々力児童館	館長 井出野 彰
福岡県	福岡市	福岡市立中央児童会館 あいくる	館長 諸熊 富美子

【児童館のプロフィール】

名 称	荒川区熊野前ひろば館
設置主体	東京都荒川区
運営主体	公設公営
開館時間	平日 9:30~18:00 土曜日 9:00~17:00 休館日/日曜日、国民の祝日、12月28日~1月3日
所在地	東京都荒川区東尾久5-9-3
ホームページ等	https://www.city.arakawa.tokyo.jp/chiikikatsudou/fureaikan/katsudou/hirobakan_jidou.html
延床面積	139㎡（多目的室）
職員数	13名
年間利用者数	約20,907人（令和3年度） （おおよその割合：★乳幼児26.8%、★小学生40.5%、★中・高校生0.4%、★大人32.1%）
主な利用児童の学校数	6校
その他、特徴や運営上で心掛けている点および今回の劇団様との関係でお伝えしたい事等あればご記入願います	<input type="checkbox"/> アクト21の2階フロアにある児童館 <input type="checkbox"/> 子どもの「やりたい」を叶え、子どもが自分らしくいられる場を作る。 <input type="checkbox"/> 子どもの成長を地域と共に育む。 <input type="checkbox"/> 子どもが自ら考え行動できる力を育てる。

名 称	愛知県児童総合センター
設置主体	愛知県
運営主体	公益財団法人愛知公園協会
開館時間	午前9時から午後5時 休館日/毎週火曜日（火曜日が休日の場合は次の平日） および年末年始（12/29～1/1）
所在地	〒480-1342 愛知県長久手市茨ヶ廻間乙1533-1 愛・地球博記念公園内
ホームページ等	https://www.acc-aichi.org/
延床面積	延床面積 7,600平方㎡
職員数	15名
年間利用者数	約170,564人 （おおよその割合：★乳幼児32%、★小学生23%、★中・高校生2%、★大人43%）
主な利用児童の学校数	県立大型児童館のため不明
その他、特徴や運営上で心掛けている点および今回の劇団様との関係でお伝えしたい事等あればご記入願います	<ul style="list-style-type: none"> ・全身の感覚をフルに発揮し、新しい「気づき」を促す新鮮な遊びのプログラム活動を実践する「体験・育成機能」 ・市町村児童館活動の活性化を図るために、遊具や遊びのプログラムの開発・企画を行う「開発・調査機能」 ・県内の児童館の中核として市町村児童館の児童厚生員等を対象とした、実践的な研修を行う「養成・研修機能」 ・子育て支援の実践と研究。および移動児童館で遊びのプログラムの普及活動を行う「普及・啓発機能」 <p>上記4つの機能を連動させながら、県内児童館とネットワークを組みあそびを通して子どもの成長をバックアップしていきます</p>

名 称	福岡市立中央児童会館 あいくる
設置主体	福岡市
運営主体	社会福祉法人 福岡市保育協会
開館時間	火曜日～日曜日
	9：00～21：00
	休館日/ 月曜日、月曜日が祝日の場合は翌日 ・12月28月～1月3日
所在地	福岡県福岡市中央区今泉1丁目19-22 天神クラス 6階
ホームページ等	https://jidoukaikan-aikuru.or.jp/
延床面積	1,701,03㎡
職員数	33名
年間利用者数	約60,834人 （諸室貸出含む） （おおよその割合：★乳幼児 30%、★小学生 18%、★中・高校生 19%、★大人 31%）
主な利用児童の学校数	校
その他、特徴や運営上で心掛けている点および今回の劇団様との関係でお伝えしたい事等あればご記入願います	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいくるでは、児童館、子育て支援拠点事業、一時預り事業の3つの機能がある ・ 福岡市唯一の児童館 ・ 年間100回程度の（幼児・小学生）アウトリーチ活動を実施。 ・

名 称	こべっこランド
設置主体	神戸市
運営主体	神戸市社会福祉協議会
開館時間	9：30～17：00
所在地	神戸市中央区東川崎町1-3-1
ホームページ等	https://www.kobekko.or.jp
延床面積	4475㎡
職員数	約22名
年間利用者数	約167,885人 (おおよその割合：★乳幼児 %、★小学生 %、★中・高校生 %、★大人 %)
主な利用児童の学校数	
その他、特徴や運営上で心掛けている点および今回の劇団様との関係でお伝えしたい事等あればご記入願います	市内唯一の大型児童センターとして、児童館・児童福祉に関する専門性を有した職員を配置し、「健全育成事業」「療育指導事業」「啓発事業」を3本の柱として運営を行っています。

名 称	世田谷区等々力児童館
設置主体	世田谷区
運営主体	世田谷区
開館時間	午前9時30分から午後6時 休館日：月曜日、第2・4日曜日、年末年始、国民の祝日（5月5日を除く）
所在地	東京都世田谷区等々力3-25-16
ホームページ等	https://www.city.setagaya.lg.jp/mobile/mokuji/kusei/012/008/002/003/d00187495.html
延床面積	571.7㎡
職員数	6名
年間利用者数	約18,803人（令和3年度） （おおよその割合：★乳幼児22.1%、★小学生49.2%（低学年18.2%、高学年31.0%）、 ★中・高校生5.6%、★大人22.9%）
主な利用児童の学校数	7校
その他、特徴や運営上で心掛けている点および今回の劇団様との関係でお伝えしたい事等あればご記入願います	以下の4つの年間目標のもと、一人一人に寄り添うアットホームな場づくりを心がけています。 ①子どもたちの豊かな遊び体験と仲間づくりを進める中で、安心して主体的に活動できる環境にする。 ②中高生世代の多様なニーズに寄り添える居場所となるとともに、幅広い交流への関心を引き出しその活動を広げていく。 ③子育て中の親子が気軽に相談や交流ができる環境を整え、子育ての楽しさを実感できる機会の充実を図る。 ④地区関係機関との連携をさらにすすめ、地区ネットワークの拠点としての基盤作りとする。

(2) 児童劇団・児童館との実施確定に向けての調整作業

①劇団と児童館の組み合わせ

組み合わせにあたり以下のとおり調整を行った。

- ・調査研究委員会にて選定した各児童館へ連絡し、どの劇団の作品の公演を希望するかをヒアリングした。
- ・各々の児童館が希望する公演について、各劇団に問い合わせを行い、実施可能日、対象年齢、必要人数、会場の大きさ、遠方での実施可否等を確認し、調整を行った。
- ・劇団からは演者のスケジュール調整が必要であり公演日は限られていること、リハーサルが必要なこと等要望があった。また、児童館の都合（休館日等）も考慮しながら最終的に組み合わせを決定した。

公演月日（時間）	劇団名	演目	児童館名
2022年12月27日（火） （14:00～15:40）	ラストラーダカンパニー &X-jam	「らふいゆ れふいゆ」	世田谷区立等々力児童館
2023年1月6日（金） （13:30～15:00）	人形劇団 ののはな	「ともだち げきじょう」	福岡市立中央児童会館 あいくる
2023年1月7日（土） （14:00～15:20）	ロバの音楽座	「森のオト」	神戸市総合児童センター こべっこランド
2023年1月9日（月・祝） （13:00～14:40）	ラストラーダカンパニー &X-jam	「らふいゆ れふいゆ」	愛知県児童総合センター
2023年1月30日（月） （11:00～12:00）	企業組合劇団風の子九州	「ハイハイ、ごろ～ん。」	荒川区立熊野前ひろば館

②児童館との調整

- ・施設長と担当者を確認し、劇団、公演内容および公演日について連絡、あわせて当日の集客のお願いを行った。
- ・調査研究事業の主旨説明および効果把握のため参加者（保護者および子ども）に対するアンケートの協力依頼を行った。

③劇団との調整

- ・各劇団のホームページより連絡先を確認し、担当者へ連絡を行った。
- ・調査研究事業の主旨説明、効果把握のためのヒアリング協力依頼、実施費用の説明、ワークショップの内容および所要時間等の確認を行った。
- ・児童館への要望事項（諸設備、収容人員や駐車場等）を確認した。
- ・見積書を提出いただき、調査研究事業での報酬予算調整を行った。

④劇団、児童館、事務局の3者打ち合わせ

○打ち合わせまでの事前準備

- ・劇団、児童館担当者へ公演実施前にオンラインでの打ち合わせを行う旨連絡した。
- ・公演実施日に現地に訪問する事務局担当者を含めて、日程調整を行った。
- ・各々の劇団、児童館から「事前確認連絡票」を記入のうえ、事務局に提出していただいた。

▷ 劇団から児童館へ連絡事項

- 1) 劇団名、2) 公演日時、3) 担当者名、4) 上演場所、5) 設備（舞台・暗幕・電源）
- 6) 駐車場の有無、7) 搬入口の有無・広さ、8) 空調、9) 控室、10) 観客動員、
- 11) その他連絡事項

▷ 児童館から劇団への連絡事項

- 1) 児童館名、2) 住所、3) 担当者名、4) 上演場所、5) 設備（舞台・暗幕・電源）
- 6) 駐車場の有無、7) 搬入口の有無・広さ、8) 空調、9) 控室、10) 観客動員、
- 11) その他連絡事項

- ・オンラインの打ち合わせで確認する内容を「事前準備」・「公演当日の開演前、開演後」で整理のうえ、「演劇公演に係る進行、役割分担の確認」として資料を作成した。
- ・オンライン打ち合わせ日の前日までに各劇団および各児童館へ、それぞれ記入済みの「事前確認連絡票」と、当日使用する「演劇公演に係る進行、役割分担の確認」の資料を配布した。

○打ち合わせ当日

初めに担当者の紹介、ご挨拶、そして改めて事務局より今回の調査研究事業の主旨、アンケート・ヒアリングへの協力をお願いした。その後、演劇公演に係る進行、役割分担について以下のとおり確認した。

◇事前準備について（事務局より）

- ・アンケートは、観劇後、児童・保護者・児童館職員の全員に回答いただく旨を説明した。アンケートの送付方法、準備についても説明した。
- ・観客について人数確認、年齢層、募集方法、募集時に確認しておく要件を確認した。年齢層については、児童館より親子兄弟で観覧する場合において下の子が乳幼児だった場合などの対応について各館より質問があった。
- ・観客の募集については、チラシやポスターについて劇団からデータを提供いただき、児童館で作成いただくことや記載文言の表現方法等細かな点についても確認を行った。

◇当日公演前について

- ・舞台、会場の設営において、準備開始時間、公演時間、撤収時間及び荷物搬入の際の要望、駐車場や舞台の設備（暗幕、電源）等について確認した。また、客席の配置・席数などについても確認した。搬入時のエレベータの使用時間については、基本的に施設内の利用者が少ない時間帯で対応することとした。
- ・現地を訪問する専門委員および事務局担当者の到着時間を確認した。

◇開演時について

司会進行、客入れ、受付場所・受付担当者、消毒検温など準備物、会場への誘導、終演時の挨拶、退場誘導については児童館で対応いただくことで確認した。開場時間においては観客の人数や子どもであることを考慮して児童館、劇団と話し合い、短時間で誘導を行うこととした。

また、終演後のワークショップまでのつなぎや始め方、その後のアンケートの配布、記入、回収については、児童館・劇団よりタイミングなど提案をいただき、よりスムーズに全員がアンケートに記入を行うことができるように確認した。

その他、報告書で使用する可能性があることから、写真について、劇団の承諾、児童館会場における注意点、実際に写真を使用する場合の留意点等を確認した。また、3者打ち合わせ後の劇団や児童館との連絡は、3者が情報を共有できるようにするため、事務局も含めたメールでのやりとりとすることとし、公演実施に向け準備を行った。

⑤事務局の体制

- ・当日、児童館を訪問し、運営進行に携わりながら実際の状況を把握する健全育成事業部の事務局担当（スタッフ）を選任し、3者打ち合わせの後、本部事務局とのミーティングにて以下の点について確認を行った。

①当日の進め方 ②アンケートの回収方法 ③実施レポートの作成 等

- ・また、公演実施に伴い、分担して各児童館に訪問していただく専門委員（方委員、小林委員、宮里委員）の体制を整えるとともに、同委員に対して作品レビューや観察レポートの作成を依頼した。

(3) 児童館職員、保護者、子ども向けアンケートの作成

児童館における公演実施後の感想、意見、効果把握のため、児童館職員、保護者及び子ども向けにアンケートを実施することとした。

児童館職員向けアンケート（案）は、参加した子どもの実際の様子と、公演が児童館活動にどのような効果を生み出したかや今後の課題等を把握するために作成し、保護者向け・子ども向けアンケート（案）については、保護者、子どもたちともに鑑賞後の感想をより具体的に、かつ書きやすくなるように工夫しながら作成した。

上記により作成した（案）を効果把握に関するワーキング委員会（2022. 10. 28 開催）の前に、各ワーキング委員へお送りし、ご意見をいただいた。それをベースに児童館職員向け・保護者向け・子ども向けのアンケート毎に意見をまとめ、ワーキング委員会で検討、議論する内容を整理した。

効果把握に関するワーキング委員会では、まとめた資料をベースにご意見を伺ったところ、各委員より以下の意見があった。

- ・子ども向けアンケートは、顔マークの選択肢を入れるなどの他の児童館での実施事項を参考にする。
- ・子ども向けアンケートは、文字が多いのは良くないので楽しい感じのアンケートにする、裏面に自由に絵を書けるようにする。
- ・保護者向けアンケート項目のうち、「情操を豊かにする（美しいものや心を動かす出来事に触れ、想像力を豊かにもち、コミュニケーション力を育むなど）」設問の追加および「情操」についての説明追記。
- ・感想についての選択肢を追加 等

上記の効果把握に関するワーキング委員会での意見を反映、整理した内容を各委員に送付し、最終確認を得たうえで、第2回調査研究委員会（2022. 12. 2 開催）において、あらためてアンケート内容が確定したことを報告し、了承いただいた。

アンケート（児童館職員向け、保護者向け、子ども向け）の内容は次頁のとおり。

舞台芸術（児童劇など）上演 児童館アンケート。

（1）鑑賞前、公演に期待されたもの。

あてはまるものすべての番号を○で囲んで下さい。

- 1 子ども自身の楽しみとなること。
- 2 身近な場所で良質な舞台作品にふれることができること。
- 3 子どもの感情表現が豊かになること。
- 4 子どもの心の安定に効果があること。
- 5 子どもの児童館での活動により影響を及ぼすこと。
- 6 既存の児童館プログラムにより影響を及ぼすこと。
- 7 新たな児童館プログラムの展開が期待できること。
- 8 児童館に来館児童が増えること。
- 9 児童館に来館する保護者が増えること。
- 10 児童館に関心を持つ地域の来館者が増えること。
- 11 地域のさまざまな社会資源(他施設・機関、主任児童委員等)との連携が期待できること。
- 12 職員の技術向上（スキルアップ）につながること。
- 13 職員の意識向上（モチベーション）につながること。
- 14 特になし。
- 15 その他の期待（ ）。

（2）鑑賞後の子どもに、どのような変化が見られましたか。

あてはまるものすべての番号を○で囲んで下さい。

- 1 鑑賞活動に満足し、次への期待を持った。
- 2 表情が明るくなった。
- 3 感情表現が豊かになった。
- 4 普段の行動が活発になった。
- 5 劇や劇に関することについて友達や家族と話すようになった、今までより気軽におしゃべりするようになった などコミュニケーションが豊かになった。
- 6 児童館のプログラムに積極的に参加するようになった。
- 7 子どもたちから進んで意見を出すようになった。
- 8 児童館に来館する機会が増えた。
- 9 児童館職員に関わってくる場面が増えた。
- 10 舞台芸術に興味や関心を示すようになった。
- 11 舞台芸術に関する活動に参加するようになった。
- 12 特に変化はなかった。
- 13 その他（ ）。

(3) I.公演によって、児童館にどのような効果がありましたか。

あてはまるものすべての番号を○で囲んで下さい。

- | | | |
|----|-------------------------------------|--|
| 1 | 子ども自身の楽しみが増えた。 | |
| 2 | 身近な場所で良質な舞台作品にふれることができた。 | |
| 3 | 子どもの感情表現が豊かになった。 | |
| 4 | 子どもの心の安定に効果があった。 | |
| 5 | 子どもの児童館での活動により影響を及ぼした。 | |
| 6 | 既存の児童館プログラムにより影響を及ぼした。 | |
| 7 | 新たな児童館プログラムの開発につながった。 | |
| 8 | 児童館に来館児童が増えた。 | |
| 9 | 児童館に来館する保護者が増えた。 | |
| 10 | 児童館に地域の来館者が増えた。 | |
| 11 | 地域のさまざまな社会資源(他施設・機関、主任児童委員等)と連携できた。 | |
| 12 | 職員の技術向上(スキルアップ)につながった。 | |
| 13 | 職員の意識向上(モチベーション)につながった。 | |
| 14 | 特に効果はなかった。 | |
| 15 | その他の効果() | |

II.○で囲んだものについて以下に具体的なエピソードをご記入下さい。

- | | |
|---------------------|---|
| (例：歌やセリフを口ずさんでいた など |) |
| (|) |
| (|) |
| (|) |

(4) 公演が効果的に実施されたのは、何が影響したからだと思いますか。

あてはまるものすべての番号を○で囲んで下さい。

- | | | |
|---|-------------------------------|--|
| 1 | 推薦文化財作品そのものの内容や質が高かったから。 | |
| 2 | 児童館が身近で気軽に参加できる施設だから。 | |
| 3 | 親と子で一緒に参加できるプログラムだったから。 | |
| 4 | 事業実施までの準備の取組みの過程が良かったから。 | |
| 5 | 事業実施にともない、児童館で関連プログラムを実施したから。 | |
| 6 | 事業実施当日のプログラム内容が良かったから。 | |
| 7 | 事業実施後の反省会の取組みがあったから。 | |
| 8 | わからない。 | |
| 9 | その他() | |

(5) 今回のような劇団公演の機会があった場合、どのように対応しますか？

いずれか1つの番号を○で囲んで下さい。

- 1 まだ上演してみたい。
- 2 条件（ニーズ）が合えばまた上演したい。
- 3 公演しないと思う。
- 4 わからない。

(6) 今後、児童館では児童劇等の児童福祉文化財を活用して、どのようなプログラムが実施できそうでしょうか？

また、活用のためにどのような工夫が必要だと思いますか。自由にお書き下さい。

活用プログラム

。
。
。
。
。
。
。
。
。
。

工夫

児童劇上演アンケート（保護者の皆様）

① お子さんの年齢（月齢）を教えてください。 () 歳 ・ () ヶ月

② 児童館を利用することはありますか？

・ある（週 回 ・ 月 回） ・ほとんどない

③ 今まで子どもと一緒に児童館でプロの劇団の舞台を観たことがありますか？

・今回が初めて ・観たことがある（ 回）

観たことがある場合、どこで観ましたか？

その他の場合、あてはまるものを○で囲んでください

児童館 ・その他（・学校 ・保育園 ・劇場 ・幼稚園 ・子ども園 ・その他）

④ 今回、上演があることを何で知りましたか？

・チラシ ・インターネット ・児童館の掲示 ・児童館で聞いた ・知人から聞いた
・来たらやっていた
・その他（)

⑤ 参加したきっかけを教えてください。

・子どもが参加したいと言ったから ・ご自身が興味があったから
・子どもの成長に役立つと思ったから ・過去参加して良かったから ・誘われたから
・その他（)

⑥ 生の舞台を直接鑑賞したことについて感想を教えてください。（大人の視点で）

あてはまるものすべてを○で囲んでください。

・楽しかった ・ときどきした ・わくわくした ・はらはらした ・考えさせられた
・感動した ・子どもと話し合っていたと思った ・特にない

具体的な感想があればお知らせください。

()

⑦ 舞台を観ていた（参加していた）お子さんの様子で気づかれた事がありますか。

()
・特にない

- ⑧ 今回は通常の上演に加えて「遊びのプログラム」(舞台のあと、みんなで一緒にやったこと)を実施しています。それに対する感想をお願いします。

とてもたのしかった ・楽しかった ・少し楽しかった ・特にない

具体的な感想がありましたらお知らせください。

(

)

- ⑨ 今回の体験はお子さんの情操を豊かにする(美しいものや心を動かす出来事にふれ、想像力を豊かに持ち、コミュニケーション力を育むなど)きっかけになりますか?

・とてもそう思う ・思う ・少し思う ・どちらとも言えない

- ⑩ 児童館で今後プロの劇団の公演を行うメリットはなんだと思いますか?

・子どもが喜ぶから ・内容が良いから ・いつも子どもが来ている場所だから
・親も気軽に来ることができる場所だから ・子どもが多少泣いても許されるから
・無料または安く観られるから ・特にない
・その他 ()

- ⑪ 今回の舞台が「児童福祉文化財」(注)という事は知っていましたか?

・知っていた ・今回初めて知った

ご協力ありがとうございました。その他お気づきの点がありましたら、ご自由にお書きください。

(

)

(注)「児童福祉文化財」とは

厚生労働省で子どもたちの健やかな育ちに役立ててほしいため、絵本や児童図書等の出版物、演劇や音楽などの舞台芸術、映画等の映像・メディア等の作品について一定の推薦基準に基づいて推薦を行ったものです。

子どものみなさんへのアンケート



今日はきてくれて
ありがとうございます
みなさんのかんそうを
おしえてください！

Q1 あなたはなんさいですか？
()さい

Q2 じどうかんにどれくらいきていま
すか？

- ・ しゅう()かいくらい
- ・ つま()かいくらい
- ・ ほとんどきていない

Q3 ① いままでげきをみたことがありますか？

- ・ こんかいがはじめて
- ・ みたことがある (回)

② どこでみましたか？(そのたは、あてはまるものに○をつける)

- ・ じどうかん
- ・ そのた (学校 ・ ほんぐえん ・ げきじょう ・ ようちえん ・ 子どもえん ・ そのた)

Q4 こんかい、なにで知りましたか？

- ・ チラジをみた
- ・ インターネットでみた
- ・ じどうかんできいた
- ・ きたらやっていた
- ・ ともだちからきいた
- ・ そのた()

Q5 どうしてさんかしようとおもいましたか？

- ・ おもしろそうだったから
- ・ げきのないようにきょうみがあったから
- ・ まえにさんかしてのしかったから
- ・ さわわれたから
- ・ そのた()

Q6 げきをみておもったことに○をつけてください

- ・ たのしかった
- ・ どきどきした
- ・ わくわくした
- ・ うっとりした
- ・ ほかほかした
- ・ のびのびした
- ・ かんどうした
- ・ もっとみたいとおもった
- ・ かんがえさせられた
- ・ じぶんでもやってみたいとおもった
- ・ とくにない

○をつけたものからかんじたことをかいてください



どんな気持ち？
かおを
かいてね♪

Q7 「げきのあと みんなでいつ
しよにやったこと」は どうでしたか？

- ・ とてもたのしかった
- ・ たのしかった
- ・ 少したのしかった
- ・ とくにない

Q8 たのしかったことや、またやっ
てみたいことのないようをおしえてく
ださい。

Q9 またじどうかんでげきをみたいとおもいますか？ それほなぜですか？

- ・ たのしいから
- ・ 「みたい」といつきもちでみられるから
- ・ のびのびとみられるから
- ・ じどうかんでげきをやることにワクワクするから
- ・ 子どもだけでこられるから
- ・ じぶんもさんかできるから
- ・ わからない
- ・ いまほみたいとおもわない
- ・ そのた()

そのほかに気がついたことやかんじたことが あればぜひおしえてください。



うらめんもつかってじゅうに かんそうのえをかいてくださいね。
これからもいろいろなイベントをやるので、じどうかんへ きてくださいね！

2. 公演等の実施結果

(1) 児童館の公演結果

①世田谷区立等々力児童館

ア 実施日・演目・参加人数

- ・2022年12月27日(火) 14:00～15:40
- ・『らふいゆ れふいゆ』(ラストラーダカンパニー&X-jam)
- ・35名

イ 実施状況

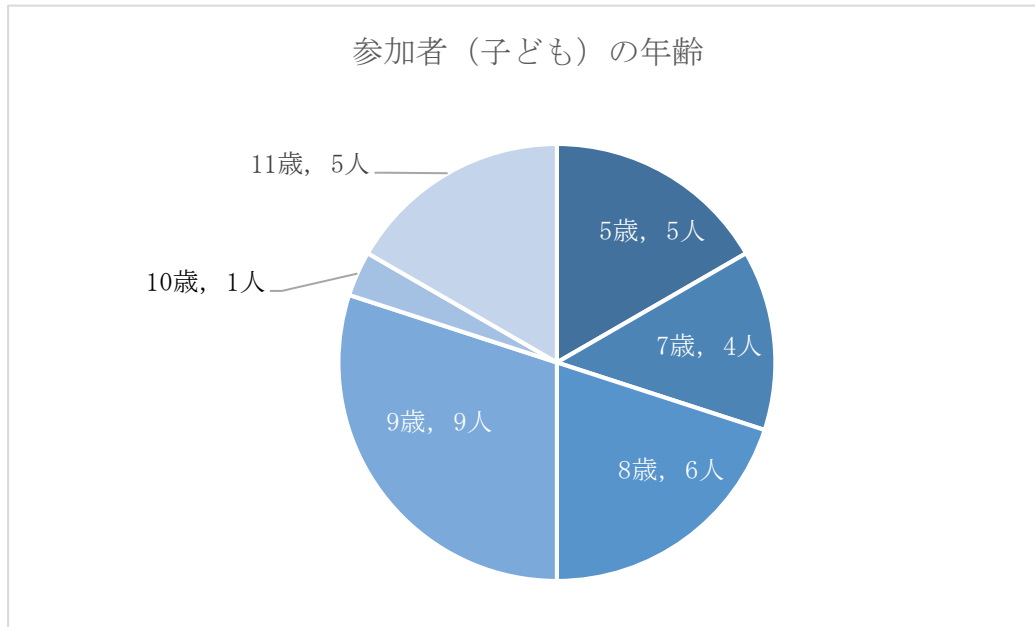
スケジュール	時間	レポート内容
準備	: ~	公演準備についての児童館、劇団、事務局の役割分担、準備の流れなど公演会場の状況設営の状況や工夫など
	9:20	劇団到着。機材搬入開始。
	9:40	搬入終了。劇団を控室へ案内。舞台仕込み開始。 (この間児童館担当職員、事務局とも、舞台仕込みの様子を見つても、公演の準備に加わることは特になし)
	13:00	委員到着。児童館および劇団に挨拶。
	13:30	劇団、児童館職員、事務局を合わせた公演の流れの確認(客入りのタイミング、前説の内容、公演からワークショップへの転換)を行う。
上演前	: ~	劇団(演者)の様子、児童館側の運営、子どもたちの受け入れ・進行等の様子
	13:50	開場。児童館職員により参加者の確認(チケットの半券をもぎる) ※子どもたちはチケットを渡して半券をもぎってもらうことが「本物っぽい」と、うれしそうな様子だった。
	14:00	定刻に児童館職員より以下の開演前の説明を行う。 ・動画や写真の撮影はご遠慮ください。 ・記録として写真を撮らせていただきます。 ・公演後10分間の休憩があるので、一度会場を出ていただき、その間でアンケートを記載してください。
上演中	: ~	子どもの反応、児童館職員など全体の様子
	14:05	上演開始。 部屋が狭いこともあり、演者と客席がとても近く、迫力がある。

休憩	15 : 05	<p>演技の中で「笑い」を誘う場面があったが、はじめのうちは子どもたちも声を出して楽しんでいいのか、どう反応したらよいかかわからないような反応だった。しかし、演者の機転の利いたアドリブから子どもたちも声を出して楽しんでいいということがわかり、そこからは演者の動きによく反応して、笑ったり演技に突っ込みを入れたりしていた。</p> <p>また、芝居の後半の悲しい場面では真剣な表情で芝居を観るなど、始終芝居に引き込まれている様子だった。</p> <p>会場をワークショップ仕様に転換するため、一度会場から出てもらう。</p> <p>この時間でアンケートの説明を行い、会場外で用紙を配布。</p> <p>芝居のおもしろさを表現したいという気持ちの表れのように、アンケート用紙をもらうやすぐに記入し始めていた。</p>
ワークショップ	: ~	<p>ワークショップで何を行ったか、どんなワークショップだったか、その様子</p> <p>①芝居に使った道具の中身（ピアノや音響セットなど）の裏側、仕組みを説明。</p> <p>クイズ形式で子どもに質問する形でスタートしたため、子どもたちも参加性が高く前のめりになって問題に答えていた。</p> <p>②演技にパントマイムを取り入れていたため、パントマイムを体験するワークショップを行う。</p> <p>ひとつひとつの動きを確認しながら少しずつ動きの数を増やし、ストーリー性のあるパントマイムを体験する。最後に覚えた動きを2グループに分かれて、お互いに見合う。</p> <p>ワークショップ開始の際、会場後方から遠巻きに様子を観察していた高学年に対し、児童館職員が声をかける。前半の芝居を見ての自分自身の感想を伝えたり、率先してパントマイムの演技をしてみたりと高学年の子どもたちにも興味を持ってもらうような働きかけを行う。そのこともあり、ほぼ全員が積極的に参加し、楽しんでワークショップを体験していた。</p>
アンケート	: ~ 15 : 05	<p>アンケートの進め方と記入の様子</p> <p>公演とワークショップの合間の舞台転換時にアンケートを配布。</p> <p>子どもたちはアンケート用紙を受け取るとすぐに今観た芝居の感想を興奮した面持ちで記載していた。</p>

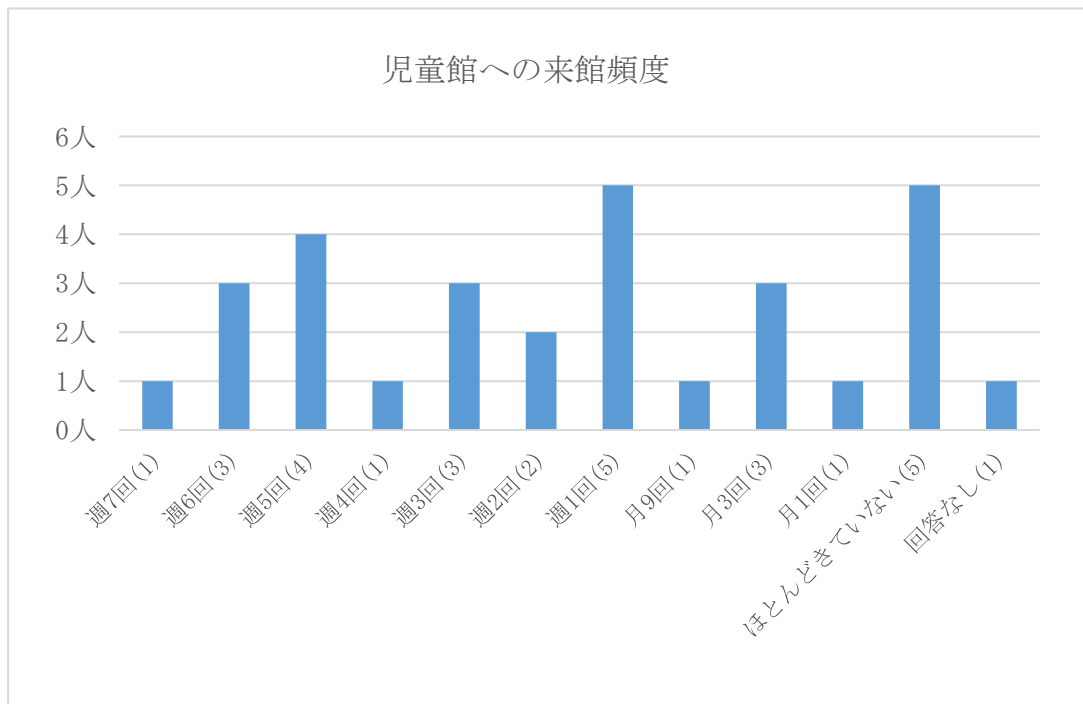
	15 : 15	後半のワークショップが始まると、書いていたアンケート用紙をなくさないようにと、自分の名前やマークなどを記入したり、用紙を置いた場所をしっかりと覚えておくようなしぐさがあったりと、用紙を大切に扱っている姿が見られた。
	16 : 00	ワークショップ終了後引き続きアンケートの記入。 休憩時間同様、すぐにアンケートを記入し始めていたところを見ると、ワークショップの体験に満足しているようだった。
公演後	～	公演後の子どもたち、保護者の様子、聞こえてきた感想・つぶやき 演者の方々にサインや握手を求める子どもが多数いた。 アンケート記入も非常に丁寧に書いている様子だった。 ワークショップで教わったパントマイムを何度も練習したり、児童館の職員に見せに來たりする子がいた。 劇中、ピアノを弾く場面があったためか、児童館の中にあるピアノを弾く子も多く見られた。 資材搬出後、役者の見送りまで行う子もいた。
		子どもたちの送り出しの様子（児童館、劇団、事務局などの関わり）
	16 : 30	児童館の一室を利用したの公演だったため、子どもたちの送り出しはなく、そのまま日常の児童館の利用者となっていた。しかし、前述のようにパントマイムやピアノ演奏、またサインをもらいに役者を探すなど、公演に影響されている子どもが多かった。
	17 : 00	搬出開始。 搬出終了。劇団見送り。

ウ 子どもアンケート結果（回答数 30人）

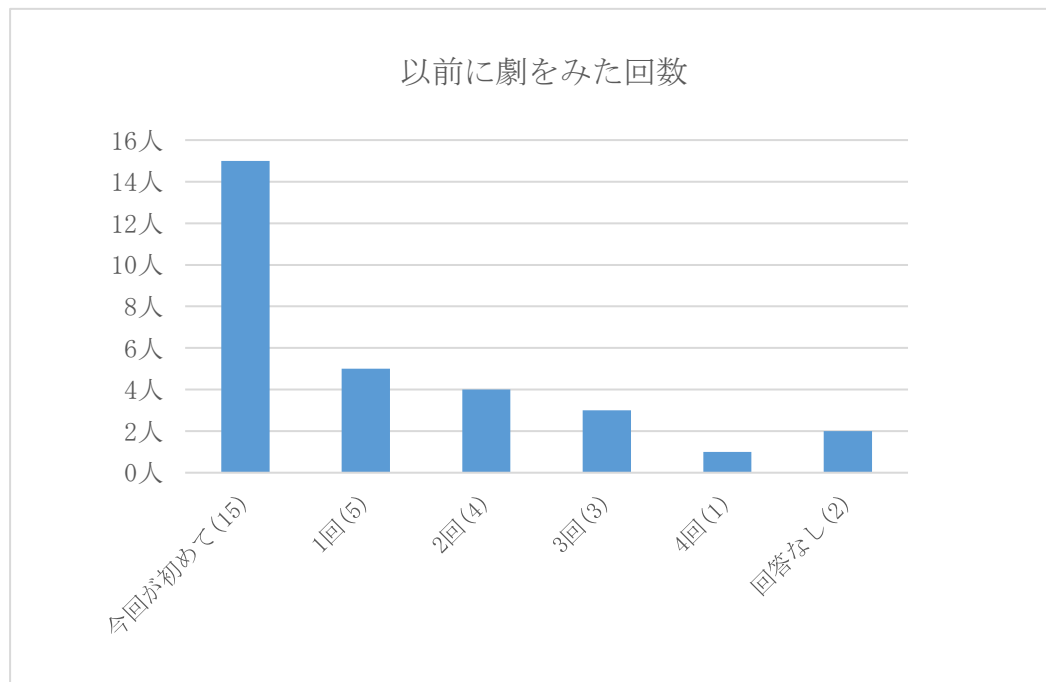
Q1. あなたはなんさいですか？



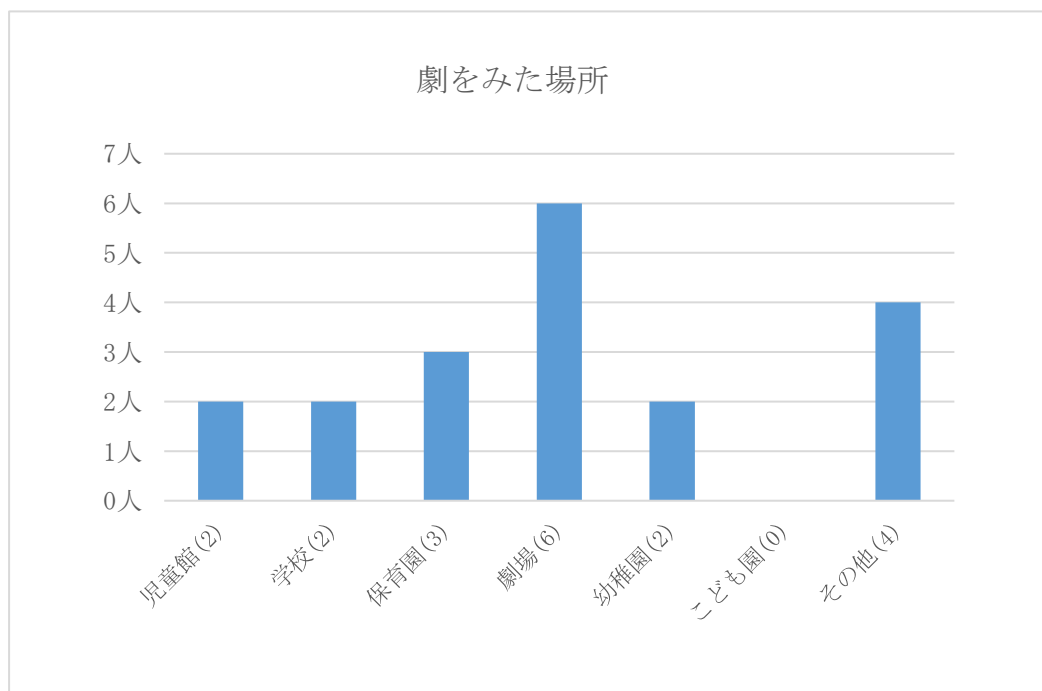
Q2. じどうかんにどれくらいきていますか？



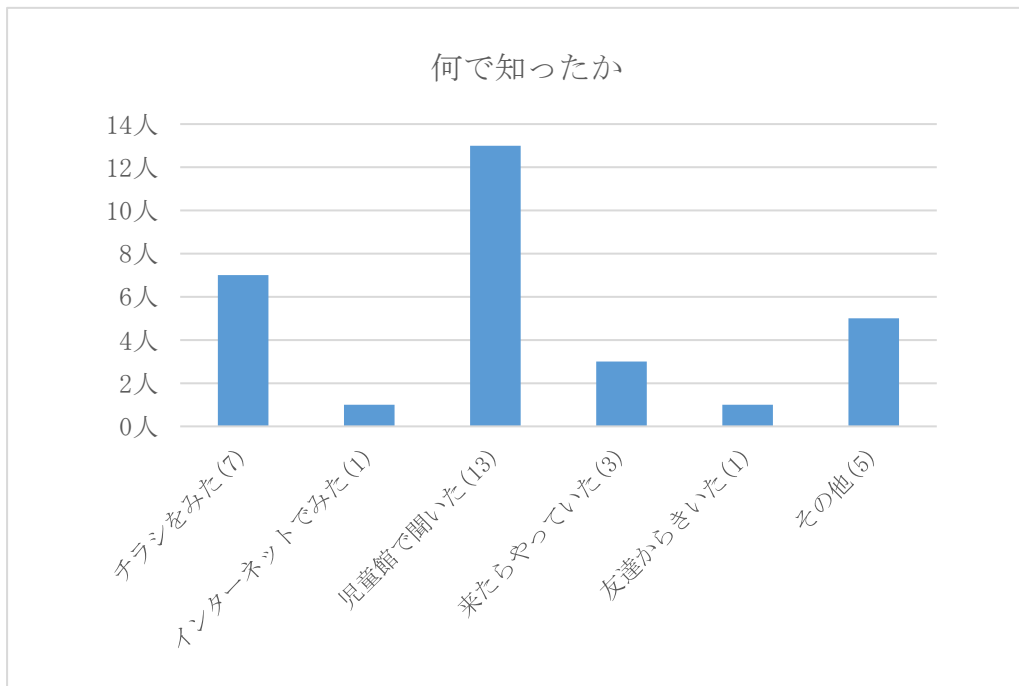
Q3①. いままでげきをみたことがありますか？



Q3②. どこでみましたか？ (複数)

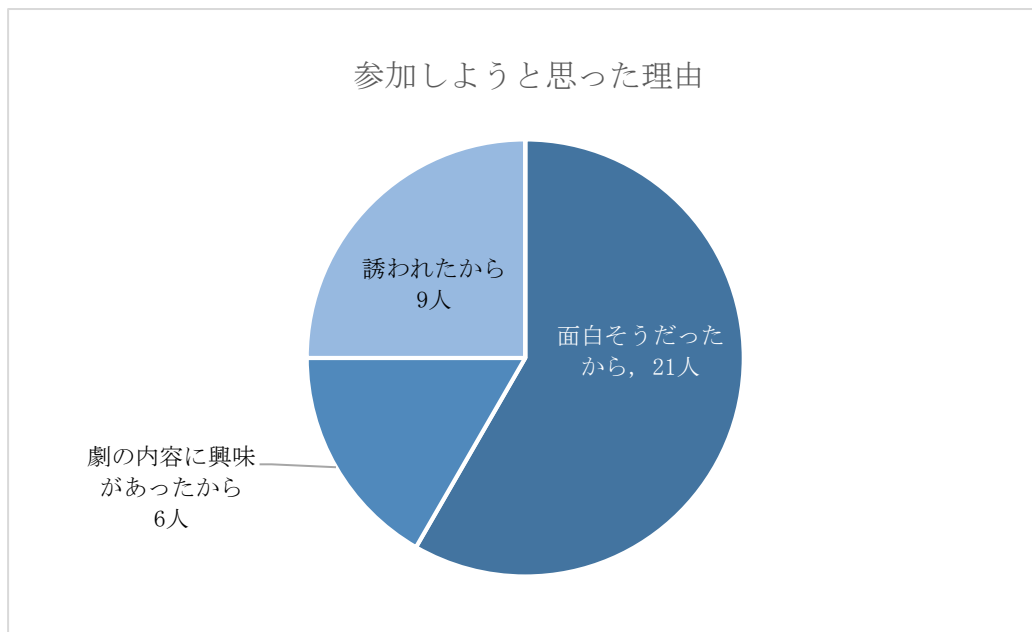


Q4. こんかい、なにで知りましたか？

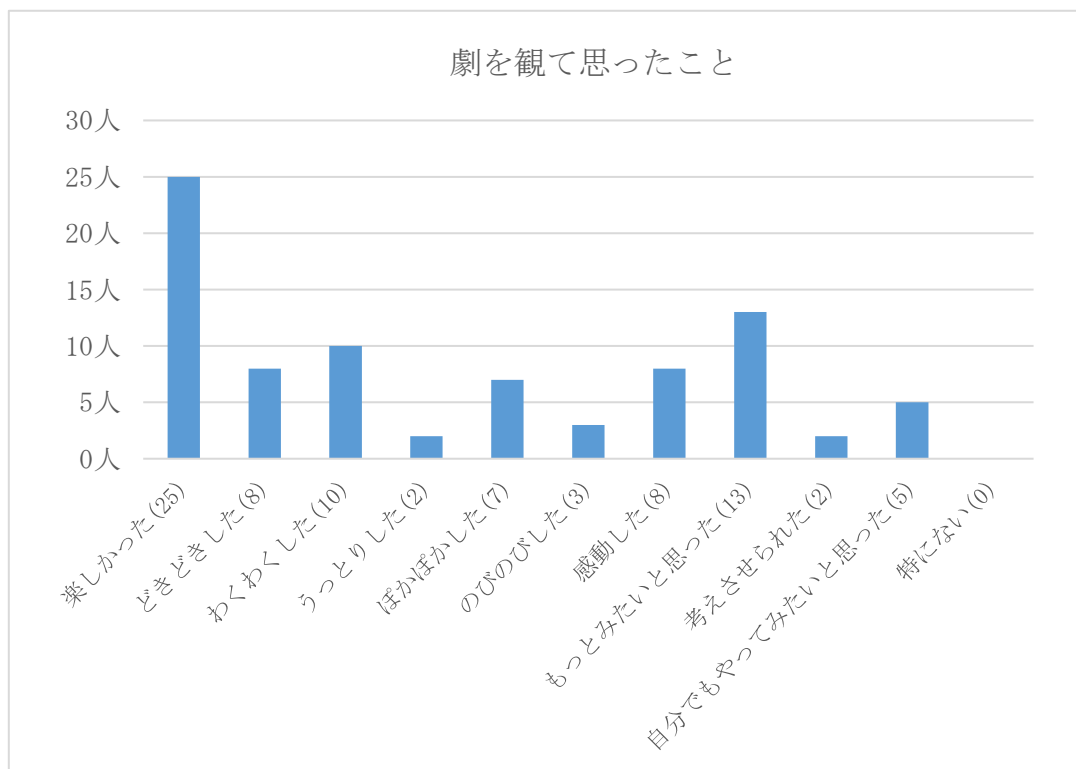


<その他の回答> ・お母さん(3) / ・学校で見た。 / 村まっちょに聞いた。

Q5. どうしてさんかしようとおもいましたか？（複数）

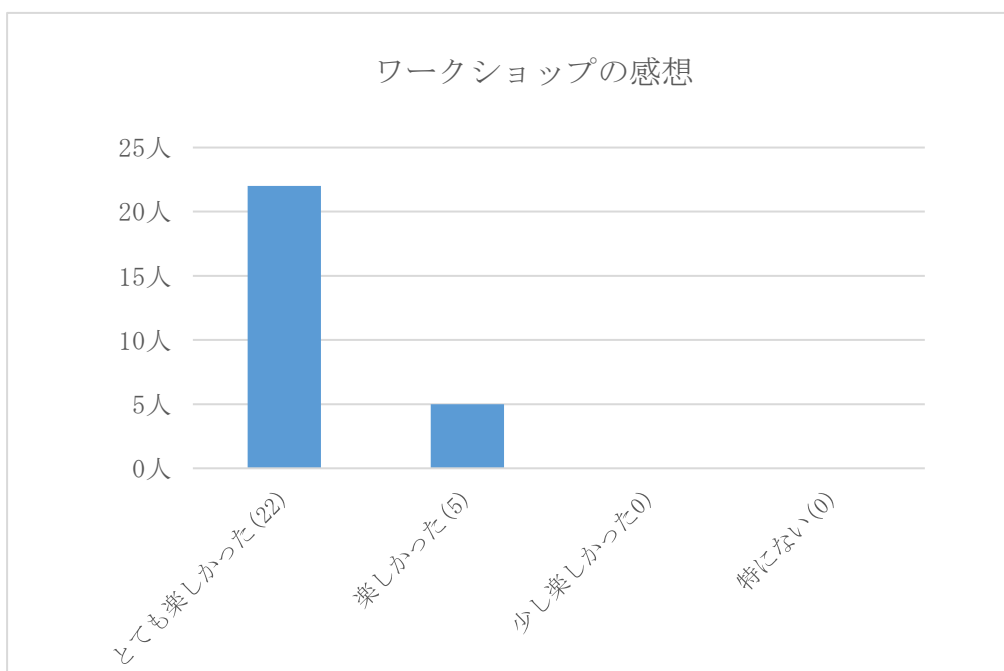


Q6. げきをみておもったことに○をつけてください。(複数)



Q7. 「げきのあと みんなでいっしょにやったこと」はどうでしたか？

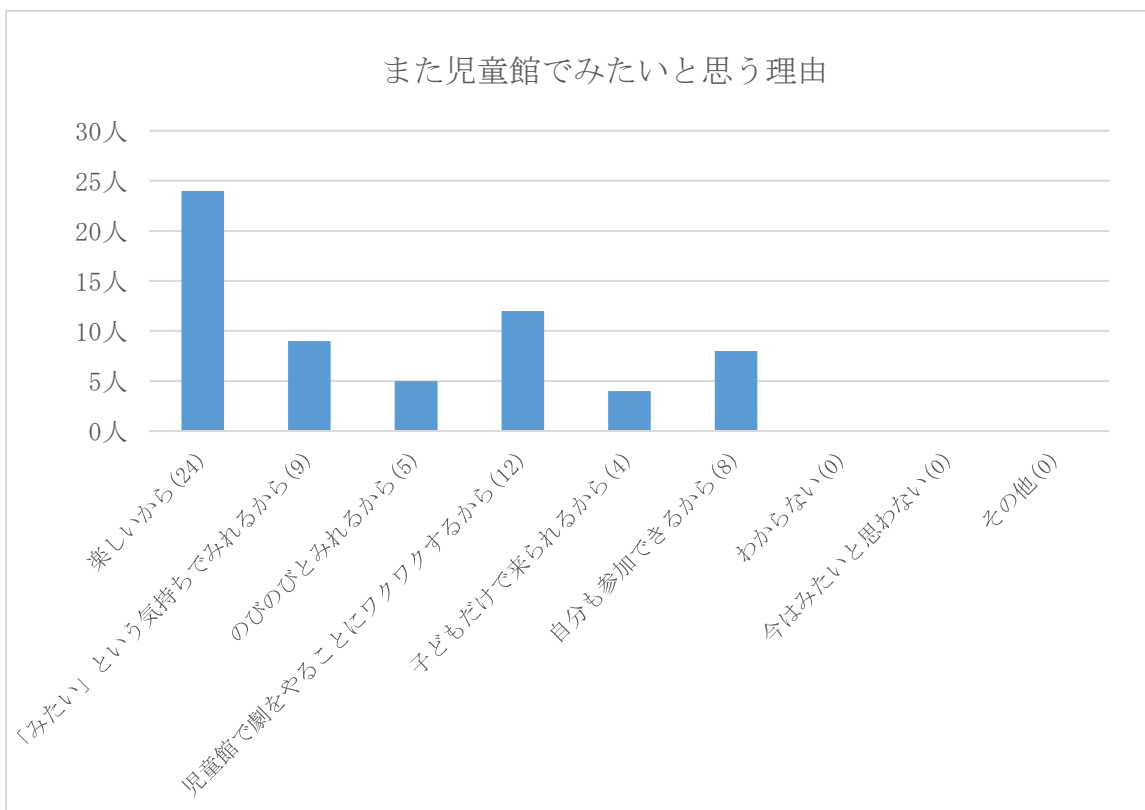
(未回答を省略している)



Q8. たのしかったことや、またやってみたいことのないようをおしえてください。

- ・パントマイム。(3) / ・パントマイムまたやってみたい。 / ・自分がやってみたい。
- ・げきをみたい。 / ・また見たい。
- ・ピエロの人が面白かった。 / ・ピエロをやってみたい。
- ・シュガーボックス。
- ・すべてがたのしかった。(すーごい) / ・全部！楽しかった。
- ・音楽などが聞けて楽しかった。 / ・さいごのおんがくがたのしかった。
- ・かんがえ中。
- ・かべをやるのがたのしかったです。 / ・かべのがたのしかった。
- ・学校でかべをやってみたいと思いました。
- ・手の動きなどみんなと練習してうまくなりたいです。
- ・ピアノがすごかった。ピアノから人が出てくるのが面白かった。
- ・あまりうまくできなかつたけど、家で練習とかもしてみたいと思いました。
- ・しげ？おもしろかった。
- ・たのしかったところはみんながはいってたところ。
- ・いきなりピアノからかおがでてきたのがびっくりしてたのしかった。

Q9. またじどうかんでげきをみたいとおもいますか？それはなぜですか？（複数）



<そのほかに気づいたことやかんじたこと>

- ・うらのしくみがちょっと分かったと思います。

(裏面) いろんなしくみがあって劇ができていると知りました。劇では3人の仲があまり良くなかったけど、だんだんと仲が良くなっていて音楽を使ったりしていてすごかったです。

- ・パントマイムが意外とむずかしくなくて楽しかったです。また見たいなと思ったしパントマイムの他にも何かやって見たいと思いました。
- ・またみたい。楽しかった。
- ・しかけとかがどうなのかワクワクする。楽しかった。
- ・楽しかったです。
- ・ピアノとかにはいろんなしかけがあること。すーごいたのしかった。
- ・友情が大事だなと思いました。
- ・劇場のつくりがもとあそんでいたじどうかんじゃなく感じられた。いろんなしくみに気づいた。
- ・すごく楽しかった。
- ・おちそうだったけどひやひやすることがあった。劇が面白いことを知った。
- ・とても楽しく幸せな時間が過ごせました。
- ・音楽を自分たちで流していたこと。
- ・たのしかった。もっとみたかった。
- ・おもしろかった。
- ・箱やピアノから人が出てくることにおどろいたし、おもしろかったです。音楽に合わせていることがすごいと思いました。
- ・いろいろのきかいがあるなんて知らなかった。
- ・曲がよかった。
- ・いろいろふしぎ。
- ・ピエロのこえ。

■劇を見て思ったこと

どんな気持ち？
かおをかいてね♪



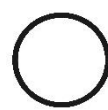
11



1

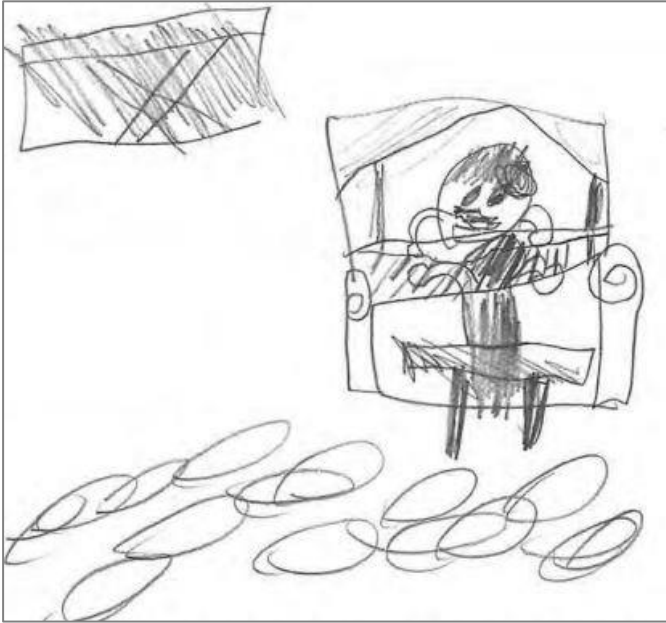


0



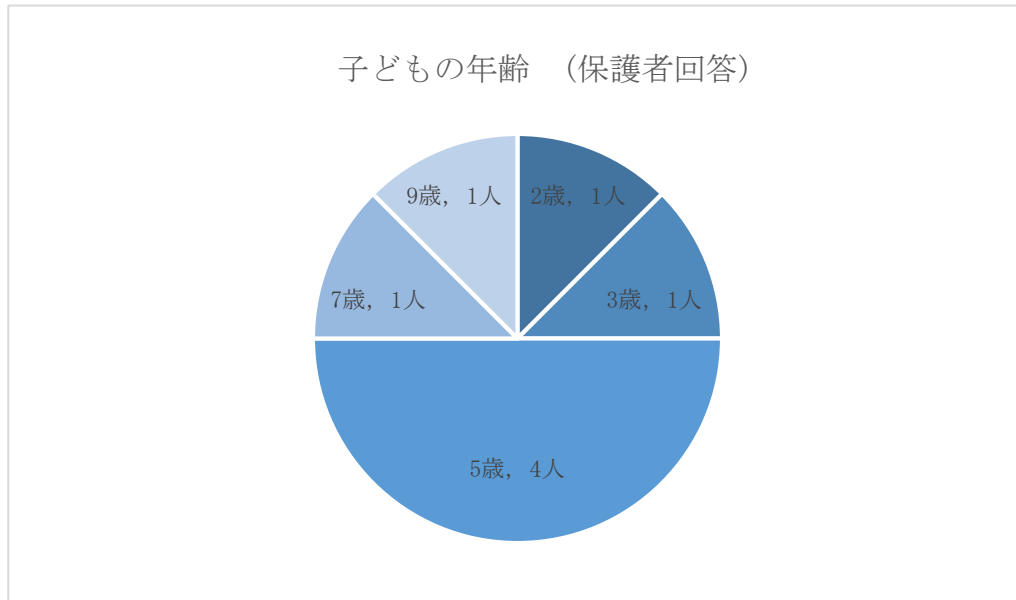
18

■裏面の作画（16件うち4件を表示）



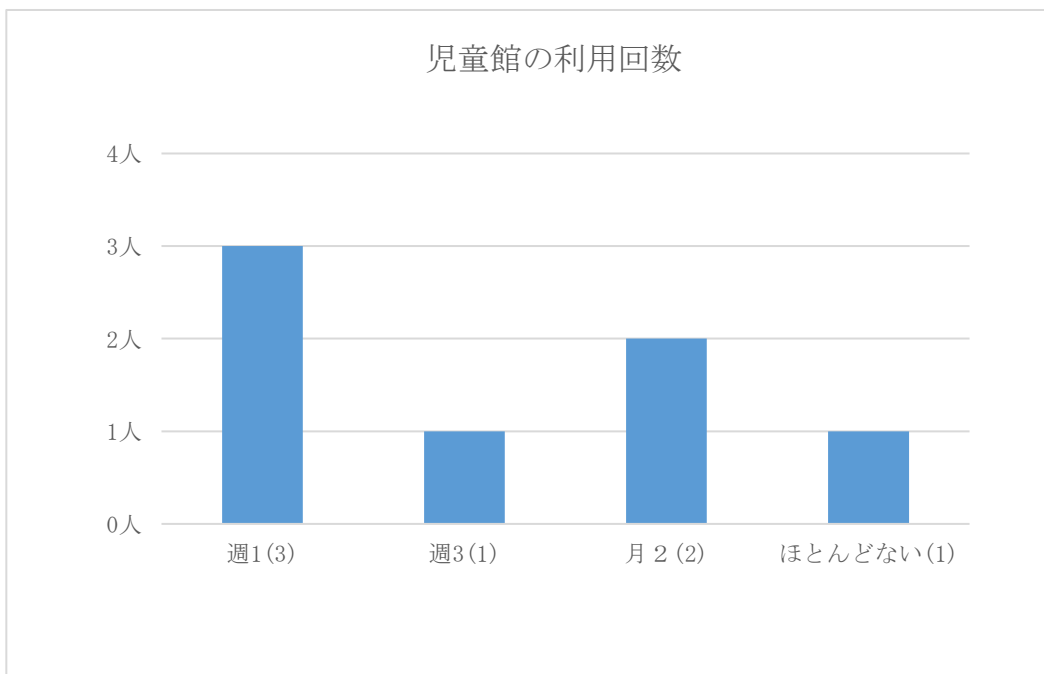
エ 保護者アンケート結果（回答数 7人）

①お子さんの年齢（月齢）を教えてください。



・9歳と5歳の兄弟親子あり

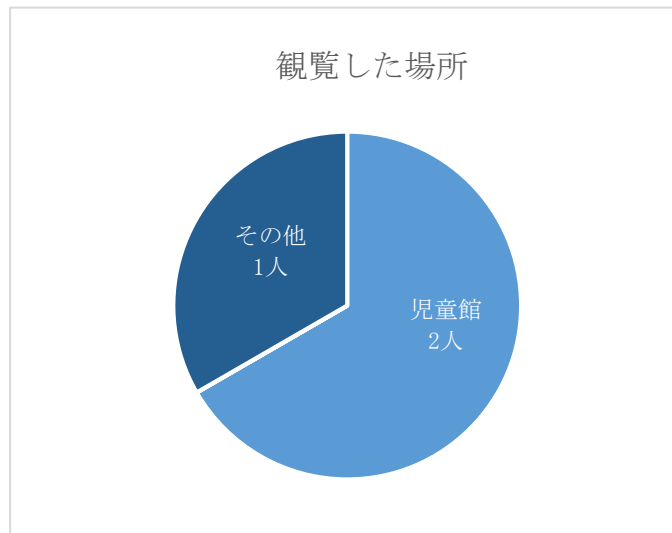
②児童館を利用することはありますか？



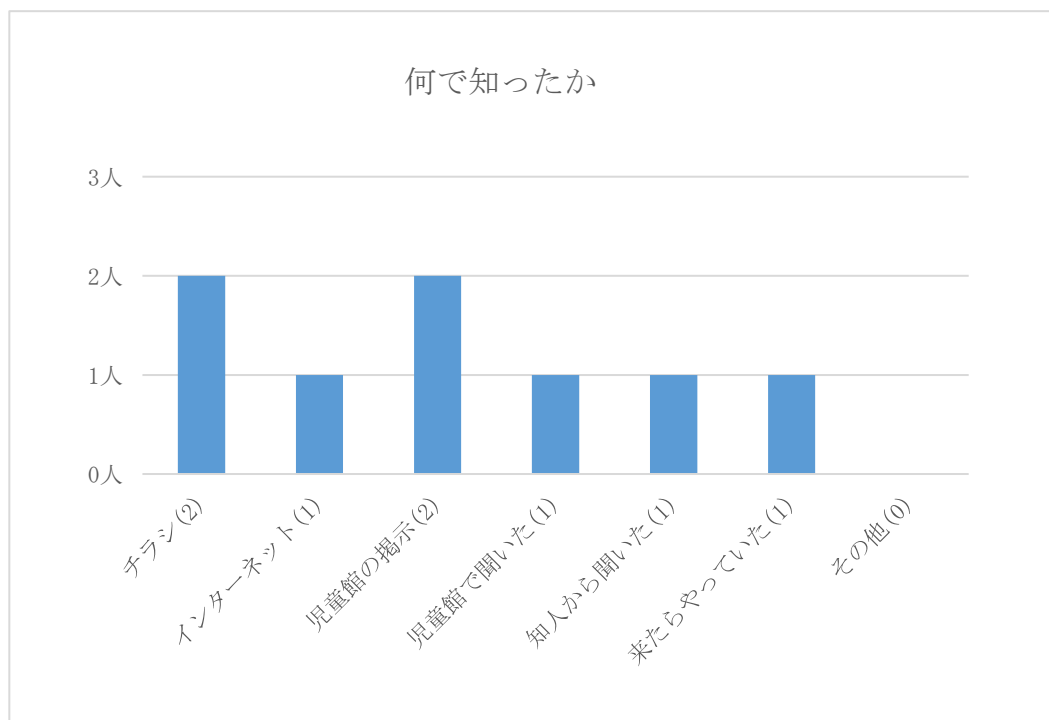
③今まで子どもと一緒に児童館でプロの劇団の舞台を見たことがありますか？

初めて	5人
2回	1人
回答なし	1人

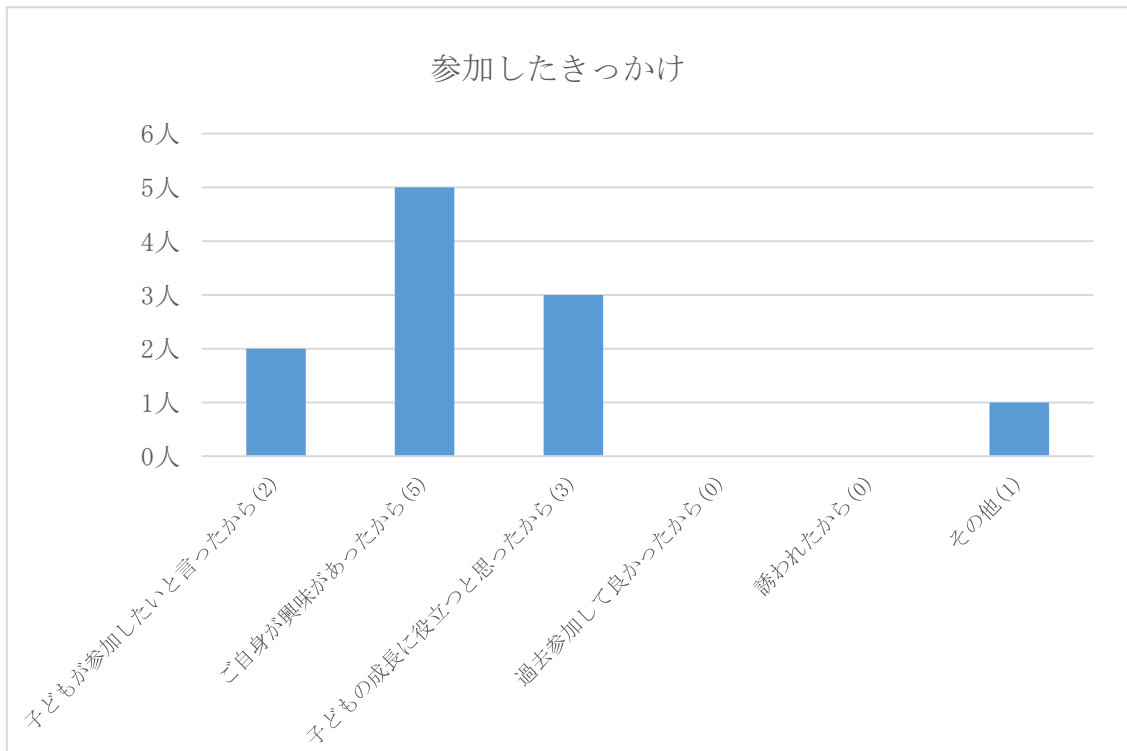
観たことがある場合はどこで観ましたか？（複数）



④今回、上演があることを何で知りましたか？（複数）

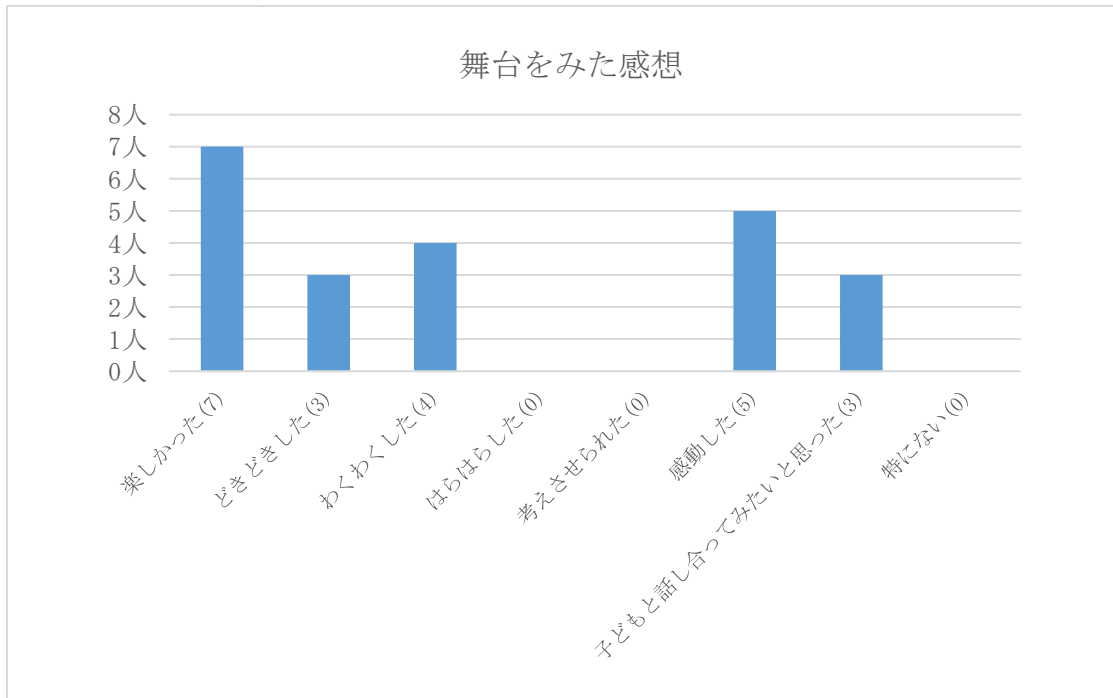


⑤参加したきっかけを教えてください。(複数)



<その他回答> ・来たら開催していて楽しそうだった。

⑥生の舞台を直接鑑賞したことについて感想を教えてください。(大人の視点で)(複数)



<具体的な感想>

- ・見てうきうきしました。
- ・楽しくもあり別れもありでいろいろな感情をあげあわせてくれて良かったです。

⑦舞台を観ていた（参加していた）お子さんの様子で気づかれたことはありますか？

- ・おっちょこちょいな場面に大笑いしていた。
- ・動きに注目してよくみていたと思う。自由に発言していた。
- ・7才は最初から最後まで夢中で見ていました。5才は途中で集中がきれたところがありました。
- ・自然と声が出ていて舞台を楽しんでいるようだった。
- ・楽しそうでした。笑っていたし、声が出ていました。（うわー！、あー！）
- ・真剣に見ていた。目がきらきらしていた。泣いたり騒ぐことなく集中して見ていた。
- ・対象年齢以下でしたが言葉がわからなくても擬音を聞いて楽しんでいたようで、一緒に真似していました。

⑧今回は通常の上演に加えて「遊びのプログラム」（舞台のあと、みんなで一緒にやったこと）を実施しています。それに対する感想をお願いします。

とても楽しかった	7人
楽しかった	0人
少し楽しかった	0人
特にない	0人

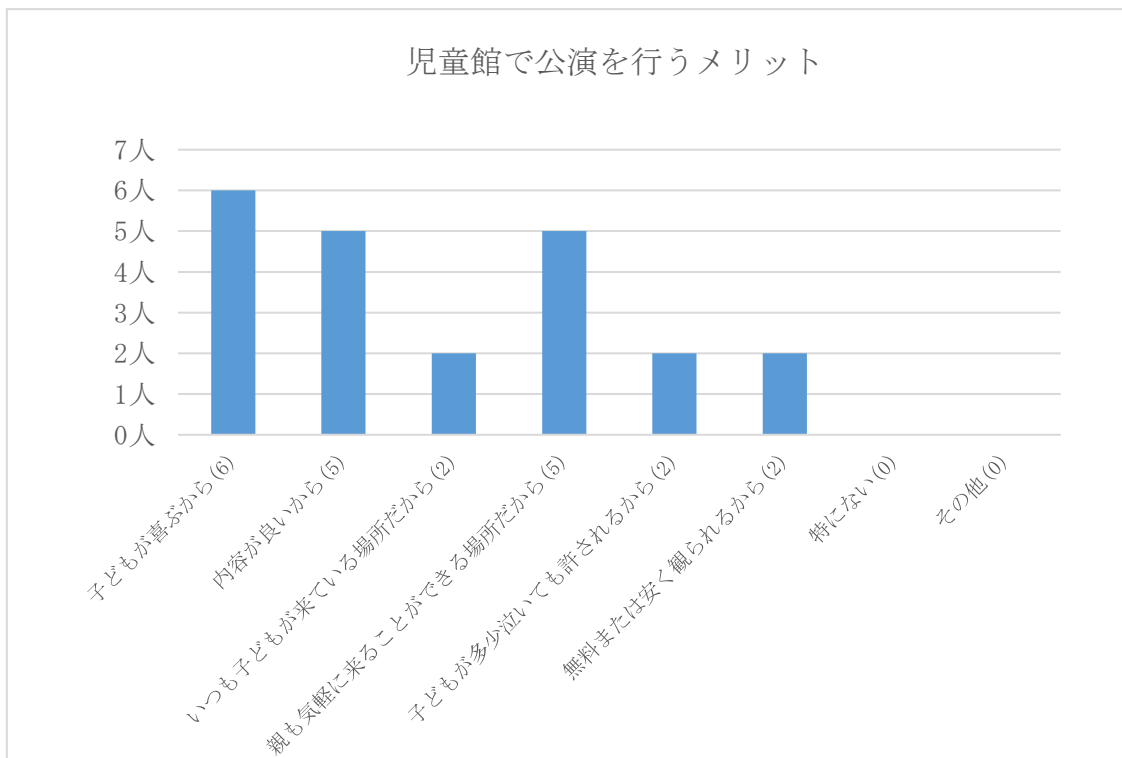
<具体的な感想>

- ・距離が近く楽しかったです。
- ・舞台のしかけを知ることができて興味をひいた。
- ・子どもがやりたい気持ちがあふれていて楽しかったです。
- ・観たあとにすぐ体験できるのでより印象深いものになると思った。

⑨今回の体験はお子さんの情操を豊かにする（美しいものや心を動かす出来事にふれ、想像力を豊かに持ち、コミュニケーション力を育むなど）きっかけになりますか？

とてもそう思う	7人
思う	0人
少し思う	0人
どちらとも言えない	0人

⑩児童館で今後プロの劇団の公演を行うメリットはなんだと思いますか？（複数）



<その他回答>

- ・自分で劇場に行くのはなかなかできないけど、児童館なら参加してみたいなと思います。何か感じるものがあったり得る物があると思う。

⑪今回の舞台が「児童福祉文化財」ということは知っていましたか。

知っていた	0人
初めて知った	7人

⑫お気づきの点、ご自由にお書きください

- ・職員さんが臨機応変に対応してくだりさり参加させていただいてとても嬉しかったです。ありがとうございました！
- ・親子共に楽しめました！ありがとうございました！
- ・面白さだけでなくストーリーもあって素敵でした。
- ・しゃべらないのに表情、音、動きでこんなに楽しませてもらえていい経験でした。
- ・きれいな赤ピンクの髪色は地毛なんですか…ぜひまた観たいです！
- ・生の楽器の演奏や子どもをあきさせなく工夫が感動しました。
- ・私はチャップリンが好きで、たまに子どもにも見せるのですが、子どもが小さくてまだストーリーにまで理解が浅いかもしいのですが動きや音楽にも着目しているようで今回観ることができてとても良い体験になりました。ありがとうございました。

オ 児童館アンケート結果（回答数 6人）

今回、児童福祉文化財の公演を実施した5か所の児童館全てから、代表意見ではなく、実際に携っていただいた方々から意見をいただいた。各児童館の人数はアンケートに回答いただいた人数である。

① 鑑賞前、公演に期待されたものあてはまるものすべての番号を○で囲んで下さい。

1	子ども自身の楽しみとなること	6人
2	身近な場所で良質な舞台作品にふれることができること	4人
3	子どもの感情表現が豊かになること	3人
4	子どもの心の安定に効果があること	1人
5	子どもの児童館での活動によい影響を及ぼすこと	4人
6	既存の児童館プログラムによい影響を及ぼすこと	3人
7	新たな児童館プログラムの展開が期待できること	3人
8	児童館に来館児童が増えること	2人
9	児童館に来館する保護者が増えること	1人
10	児童館に関心を持つ地域の来館者が増えること	1人
11	地域のさまざまな社会資源(他施設・機関、主任児童委員等)との連携が期待できること	0人
12	職員の技術向上(スキルアップ)につながる	1人
13	職員の意識向上(モチベーション)につながる	2人
14	特になし	0人
15	その他の期待	0人

② 鑑賞後の子どもに、どのような変化が見られましたか。

1	鑑賞活動に満足し、次への期待を持った	5人
2	表情が明るくなった	4人
3	感情表現が豊かになった	2人
4	普段の行動が活発になった	0人
5	劇や劇に関することについて友達や家族と話すようになった、今までより気軽におしゃべりするようになったなどコミュニケーションが豊かになった	0人
6	児童館のプログラムに積極的に参加するようになった	0人
7	子どもたちから進んで意見を出すようになった	0人
8	児童館に来館する機会が増えた	0人
9	児童館職員に関わってくる場面が増えた	0人

10	舞台芸術に興味や関心を示すようになった	4人
11	舞台芸術に関する活動に参加するようになった	0人
12	特に変化はなかった	1人
13	その他	1人

③ I. 公演によって、児童館にどのような効果がありましたか。あてはまるものすべての番号を○で囲んで下さい。

1	子ども自身の楽しみが増えた	5人
2	身近な場所で良質な舞台作品にふれることができた	6人
3	子どもの感情表現が豊かになった	3人
4	子どもの心の安定に効果があった	1人
5	子どもの児童館での活動によい影響を及ぼした	2人
6	既存の児童館プログラムによい影響を及ぼした	2人
7	新たな児童館プログラムの開発につながった	0人
8	児童館に来館児童が増えた	0人
9	児童館に来館する保護者が増えた	0人
10	児童館に地域の来館者が増えた	0人
11	地域のさまざまな社会資源(他施設・機関、主任児童委員等)と連携できた	0人
12	職員の技術向上(スキルアップ)につながった	1人
13	職員の意識向上(モチベーション)につながった	4人
14	特に効果はなかった	0人
15	その他の効果	1人

③ II. ③ I で「効果がある」を○で囲んだものについての具体的なエピソード

1 (子ども自身の楽しみが増えた)

- ・パントマイムを見せ合って遊んでいた。
- ・パントマイムを友達に披露していた。
- ・ワークショップで覚えたパントマイムなどを披露する姿があった。

2 (身近な場所で良質な舞台作品にふれることができた)

- ・ジャグリングや音楽・芝居にあこがれを持つ子がいた。
- ・集中して劇を楽しんで観ることに保護者から驚きの声があった。

13 (職員の意識向上(モチベーション)につながった)

- ・職員のワクワクが止まらなかった。
- ・子どもたちとの劇あそびへの意欲が向上した。

15 (その他の効果)

- ・良い効果がこれから出てくることに期待しています。

④ 公演が効果的に実施されたのは、何が影響したからだと思いますか。

1	推薦文化財作品そのものの内容や質が高かったから	4人
2	児童館が身近で気軽に参加できる施設だから	6人
3	親と子で一緒に参加できるプログラムだったから	2人
4	事業実施までの準備の取組みの過程が良かったから	0人
5	事業実施にともない、児童館で関連プログラムを実施したから	0人
6	事業実施当日のプログラム内容が良かったから	5人
7	事業実施後の反省会の取組みがあったから	0人
8	わからない	0人
9	その他	1人

⑤ 今回のような劇団公演の機会があった場合、どのように対応しますか？いずれか1つの番号を○で囲んで下さい。

1	また上演してみたい	3人
2	条件（ニーズ）が合えばまた上演したい	3人
3	公演しないと思う	0人
4	わからない	0人

⑥ 今後、児童館では児童劇等の児童福祉文化財を活用して、どのようなプログラムが実施できそうでしょうか？また、活用のためにどのような工夫が必要だと思いますか。自由にお書き下さい。

<活用プログラム>

- ・劇団の方に教えてもらって子どもたちが参加し演じ、発表まで行う継続的なプログラム。
今回のような公演＋ワークショップとても良かった。
- ・こちら側の受け入れ状況にもよりますが観覧者の想像力が育まれるような内容であれば実施を今後も検討できるかと存じます。
- ・世田谷区の取り組みである夢プロジェクトとのコラボ。
- ・劇あそびをしたい意欲が来館児にあれば、あそび以上のより本格的な劇の指導ができる。
その姿から、他児への良い影響がある活動になると思います。
- ・文化交流会の講座のような形での活用ができそう。

<工夫>

- ・持続的に実施できるような予算的なところ。
- ・その時の子どもに合わせた回数とプログラム。
- ・以前は各児童館に年1回の劇団委託予算がついていたが予算削減でこのようなプログラムを組めないのが残念である。
- ・一回だけではなく、繰り返すことでより多くの子へ劇の楽しさを伝えることで広くPRができ、いつも来館がない子の参加を見込む。
- ・演劇などをやる場合は文化交流会参加者が関われる時期に日程を設定することや、文化交流会でやる内容を劇団の方に見てもらい、評価やアドバイスをもらえるようにする等。

カ まとめ

(7) 公演実施にあたり、2022年11月24日(木)16:00から児童館及び劇団と事務局との3者打ち合わせを行った。打ち合わせ事項については、事前に児童館及び劇団に送付し、準備いただいたうえで実施した。打ち合わせは概ね次の項目に従って確認し、以降は必要に応じて連絡を取り合い、公演当日に備えることとした。

- ・観客の年齢層、募集方法
- ・会場や舞台のスペース、暗幕等設備状況、駐車場
- ・事務局、学識経験者の入り時間
- ・会場の誘導、開演後の進行、ワークショップへのつなぎ方
- ・アンケートの配布・回収方法
- ・必要な備品類(アンケート用紙、筆記具等)
- ・写真撮影や観客への注意事項 等

なお、今回の決定から公演実施までに上記1回、リモート会議での打ち合わせを行った。以降4か所の事前打ち合わせも同様である。

(4) 当日公演の場所は広いスペースではなかったため、劇団演者と参加した子どもたちとの距離が近く、ライブ感や一体感が感じられた。この結果が後半のワークショップの高い参加率に繋がったといえる。また、公演後の子どもたちの活動がかなり公演内容から影響を受けていることが印象的であった。なにより、劇団員を見送る時に、「また児童館に来てね」とずっと言っていたことが、子どもたちの満足度を表しているものと思われる。

(5) 子どもたちのアンケート結果から、今回の公演をみて、「楽しかった」という感想がもっとも多く(30名中25名)、また、後半のワークショップの感想についても「とても楽しかった」という感想が特に多かった(30人中22名)。「自分でもやってみたい」などの意見もたくさんあったことから、子どもたちの満足度はかなり高く、有意義な取り組みであったことがわかった。

(6) 保護者へのアンケート結果からは、今回の公演が「子どもの情操を豊かにするきっかけになる」という意見が全員から得られた。また、演劇とワークショップとの組み合わせにより、「とても楽しかった」と回答している。従って、今回の取り組みは保護者の視点からも今後継続していく必要性を感じていることがうかがえた。

(7) 児童館職員へのアンケートの結果からは、鑑賞後の子どもの変化として「鑑賞活動に満足し、次への期待を持った」や「表情が明るくなった」など前向きに評価する回

答が多かった。また、児童館に与える効果として、「職員の意識向上（モチベーション）につながった」という意見が多くあり、職員の今後の行動変化に期待が持てる公演であったと推察できる。

②福岡市立中央児童会館 あいくる

ア 実施日・演目・参加人数日

- ・2023年1月6日（金） 13:30～15:00
- ・『ともだちげきじょう』（人形劇団ののはな）
- ・87名

イ 実施状況

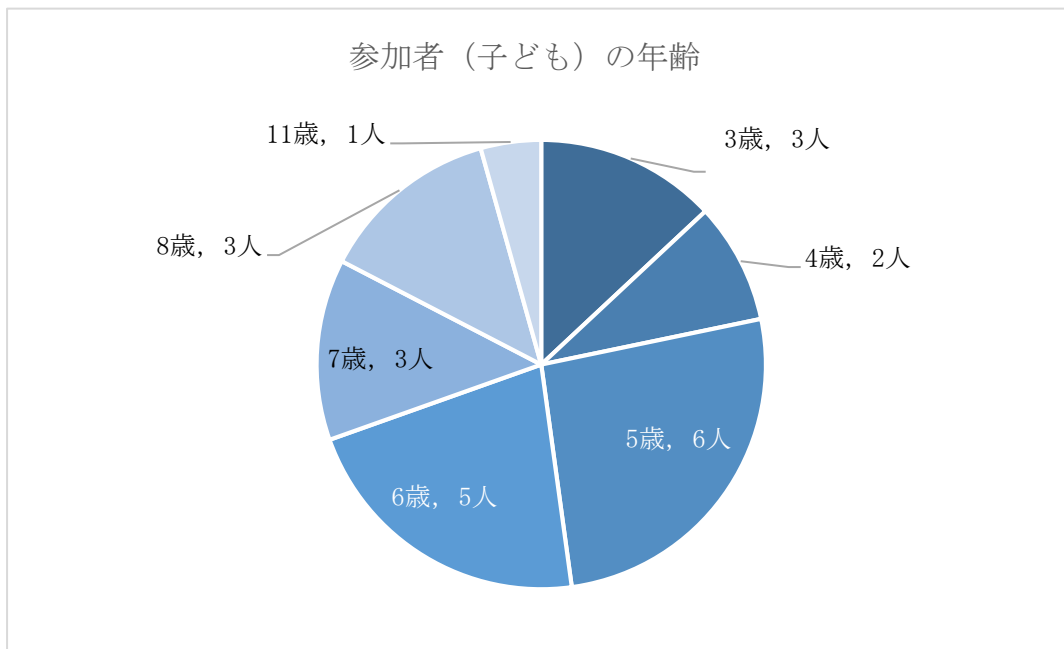
スケジュール	時間	レポート内容
準備	10:30～	<p>公演準備についての児童館、劇団、事務局の役割分担、準備の流れなど公演会場の状況設営の状況や工夫など</p> <p>劇団は予定の10時半より早く到着し、事務局が到着した時には既に舞台設営は完了していた。あとは工作の準備だけということで劇団が行なった。会場の絨毯敷き、椅子並べなども児童館側で既に完了していた。</p> <p>事務局は児童館担当者より、1時間ほど施設概要の説明を受けた。</p>
上演前	13:15～ 13:30	<p>劇団（演者）の様子、児童館側の運営、子どもたちの受け入れ・進行等の様子</p> <p>劇団は整理券の配布から10分で定員の50人分が終了したことを聞いてほっとしている様子だった。</p> <p>上演15分前から開場だったが、その前から並んでいる親子が数組いた。3歳児の親子は、「人形劇を初めてみるのでなるべくいい場所で見せてあげたいと早く並んだ」と話していた。</p> <p>児童館職員は開場15分前にスタンバイし、入り口で靴袋を渡す人、案内する人と役割分担をしていた。劇団も一緒に誘導し、前が埋まってきた頃に「少し前の人と間をあけると見やすいですよ」と案内していた。</p> <p>進行係は写真撮影のインフォメーションとこの事業をどこで知ったかを挙手してもらう形で聞いていた。</p>

上演中	13:40～ 14:20	子どもの反応、児童館職員など全体の様子
		<p>観客が揃うのを待って開始予定の10分後からの開演となった。最初はBGMが流れる中、人形の動きだけでお話を見せていた。人形の動き1つ1つに子ども達は大笑いしていた。2本目以降は人形にセリフが付き、演者の声色により、じっと人形を見る姿があり、より一層お話の世界に引き込まれていた。子どもが途中でお母さんの顔を見て、お母さんも子どもの顔を見る、という場面も多く見られ、親子で安心して一緒にお話の世界を楽しんでいた。始まってから30分弱になると乳児がぐずつき、泣き始める子が数人いたが、子どもたちはそれを気にすることなく劇に集中していた。</p> <p>児童館職員は、後から入ってきた親子に扉を開ける、舞台の近くに行きそうな子どもに声をかける、泣く子を連れたいお母さんが会場の外に出ようとするところを扉を開ける、ワークショップで使う道具が気になる子に対して道具が見えなくなる工夫をする等の対応をしていた。</p>
ワークショップ	14:20～ 14:40	ワークショップで何を行ったか、どんなワークショップだったか、その様子
		<p>スポンジ、アイスの棒、包装用針金、画用紙、シールを使ってちょうちょ作りのワークショップを行った。劇団が作り方の説明をして、ちょうちょだけでなくアレンジした見本をみせてから、材料を取りにってもらい、親子で作成した。ちょうちょの羽はすでに切り取られているものと型紙が準備され色々な形に切り取れるものの2種類が用意され、子ども達は自由に選んでいた。材料をとる場所が1列に並び、時間がかかっていたので児童館職員が気をきかせて、列を2列に増やし対応していた。劇団の方は作っている様子を見回りながら「わからないところがあれば声かけて下さい」と声をかけていた。</p> <p>羽の模様はシールで作ることができ、大きさや色のことなるものが用意されていたので、どれにしようか楽しみながら選んでいた。2人連れのお母さんは、お母さんが子どものために2つ分作る姿もあった。子どもは出来上がると、スポンジ部分を押し羽を動かしたり、スポンジ部分を手の甲にあてて上下に動かして羽を動かして遊んでいた。</p>

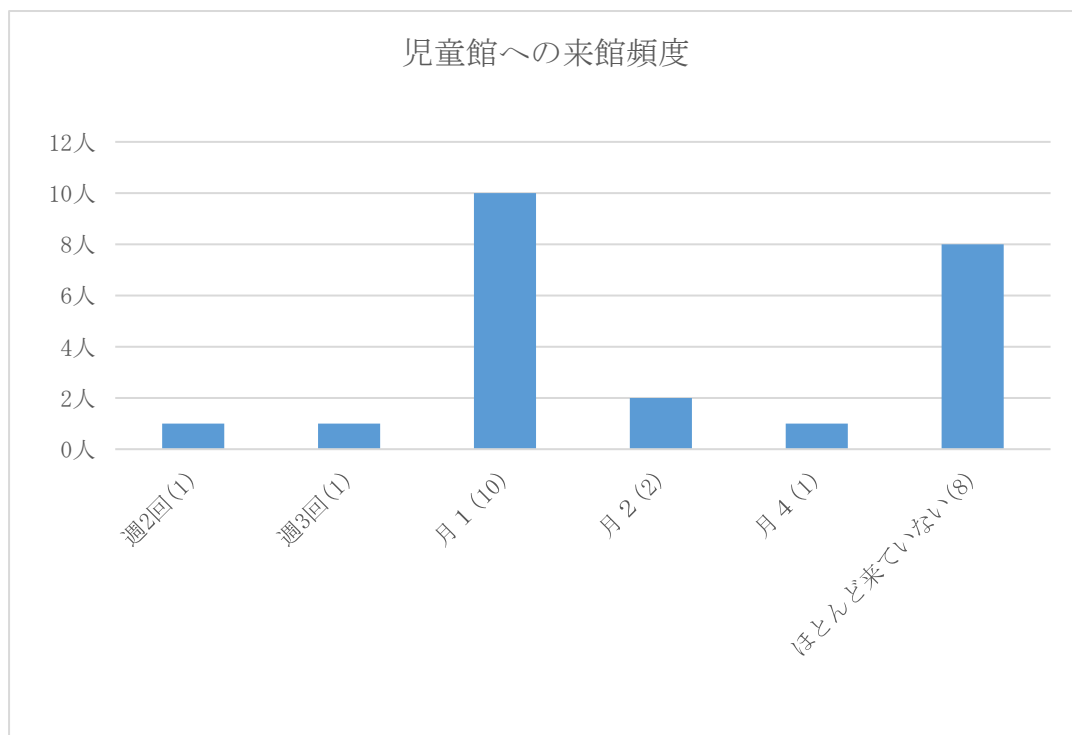
		<p>ちょうちょを動かしながら自身も飛び回っている子もいた。</p> <p>小学生高学年男子と低学年男子の兄弟は作らずに帰った。ちょうちょでは作りたくないかと思い、他のアレンジもできることを伝えたが、作って帰ることはなかった。</p>
アンケート	14:30 ~ 14:40	アンケートの進め方と記入の様子
		<p>出来上がった親子に向けてアンケート記入のお願いを劇団が行なった。その声を受けて児童館職員がアンケート用紙を取りに来て、との案内を始めた。</p> <p>子ども達はお母さんに書いてあることを読んでもらいながら回答していた。イラストは自由に書いていた。お母さん方はアンケート記入の案内が事前に伝わっていたせいか、スムーズだった。</p> <p>出来上がるまでの時間がまちまちだったので、アンケート用紙を記入して帰る親子が増えてきたところで劇団から「今日はありがとう、さようなら」との挨拶が行なわれた。</p>
公演後	14:40~ 14:50	公演後の子どもたち、保護者の様子、聞こえてきた感想・つぶやき
		<p>児童館職員が、ある親子に何が楽しかったか聞いたところ、「ロボットの話」と言ってロボットの動きを楽しそうに真似していた。それを見た周りの大人が拍手したり笑ったりして、その子も嬉しそうにしていた。職員がロボットの小さいもの（劇団にお土産でいただいたもの）が事務所にあるよと伝えると、その子は嬉しそうに「行く」と話していた。事務局が帰り際に事務所に立ち寄るとその子がいてロボットの人形と対面して喜んでいた。</p>
		<p>子どもたちの送り出しの様子（児童館、劇団、事務局などの関わり）</p> <p>三々五々の解散となったため、送り出しによる交通整理の必要はなくスムーズだった。</p> <p>児童館職員はアンケートを回収しながら送り出していた。</p> <p>劇団の方は舞台の前で子どもと写真を撮りたい、と声をかけられていた。</p> <p>事務局は送り出しの手伝いを行った。</p>

ウ 子どもアンケート結果（回答数 24 人）

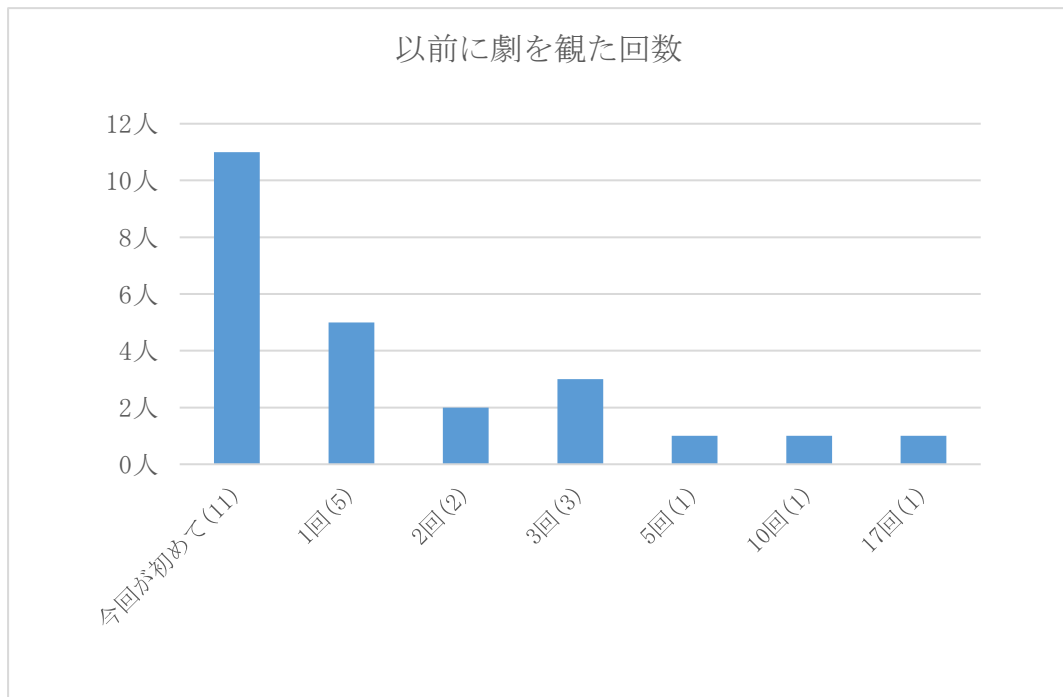
Q1. あなたはなんさいですか？



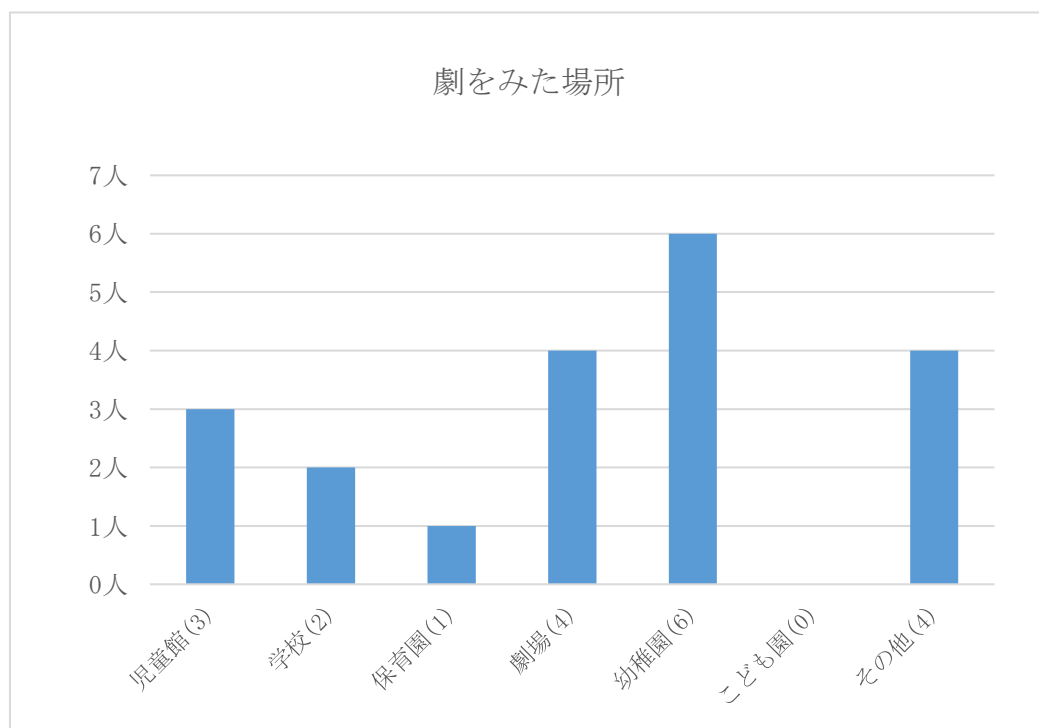
Q2. じどうかんにどれくらいきていますか？（未回答を省略している）



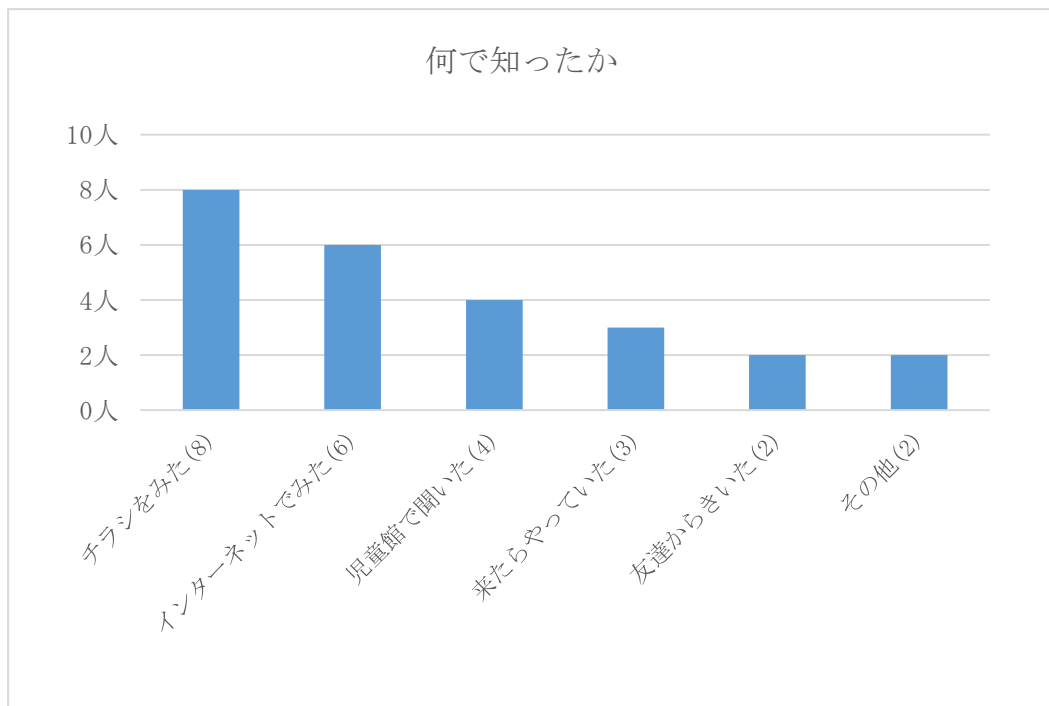
Q3①. いままでげきをみたことがありますか？



Q3②. どこでみましたか？ (複数)

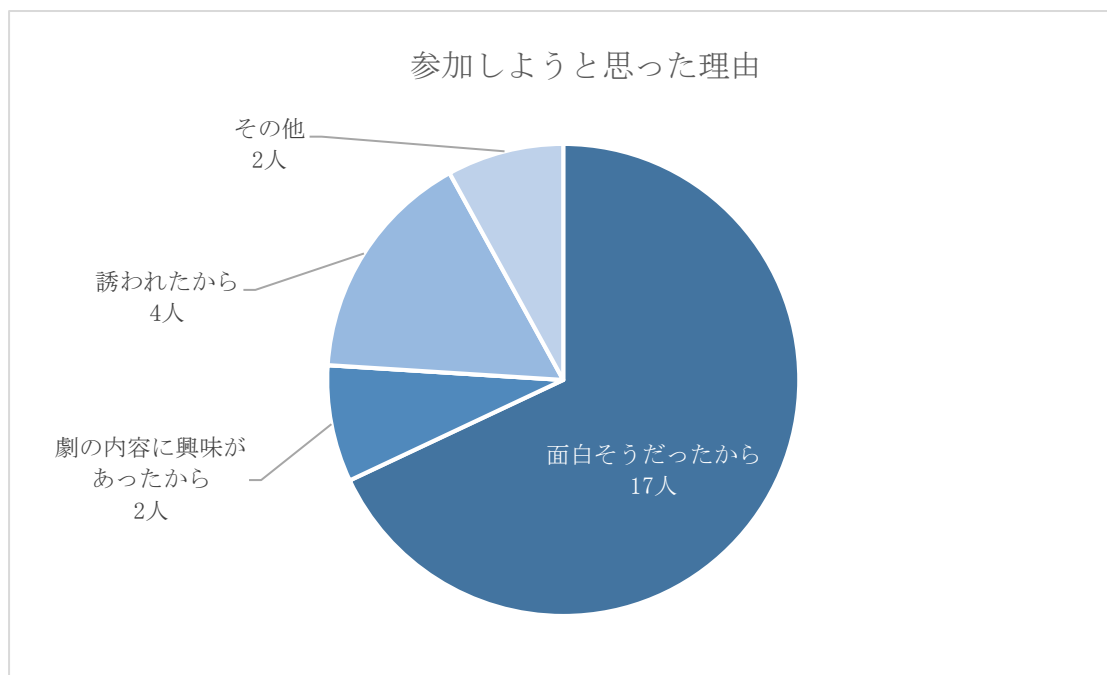


Q4. こんかい、なにで知りましたか？（複数）

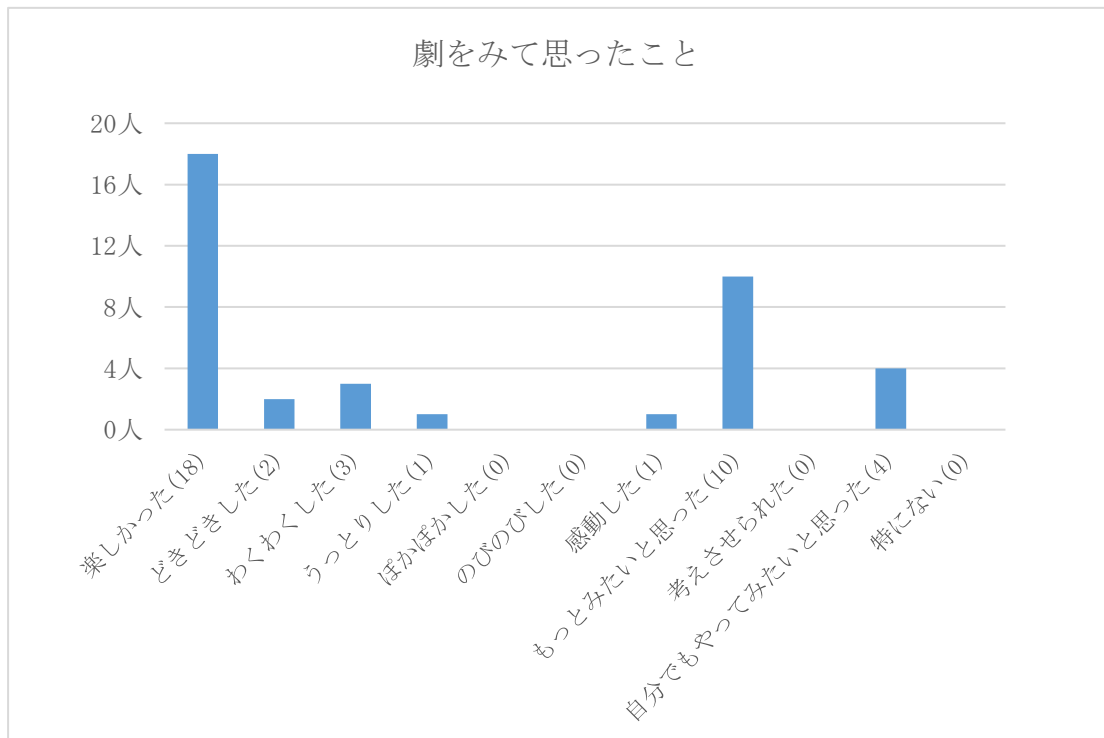


<その他の回答> ・弟の付き添い。／・ママにきいた。

Q5. どうしてさんかしようとおもいましたか？（複数）

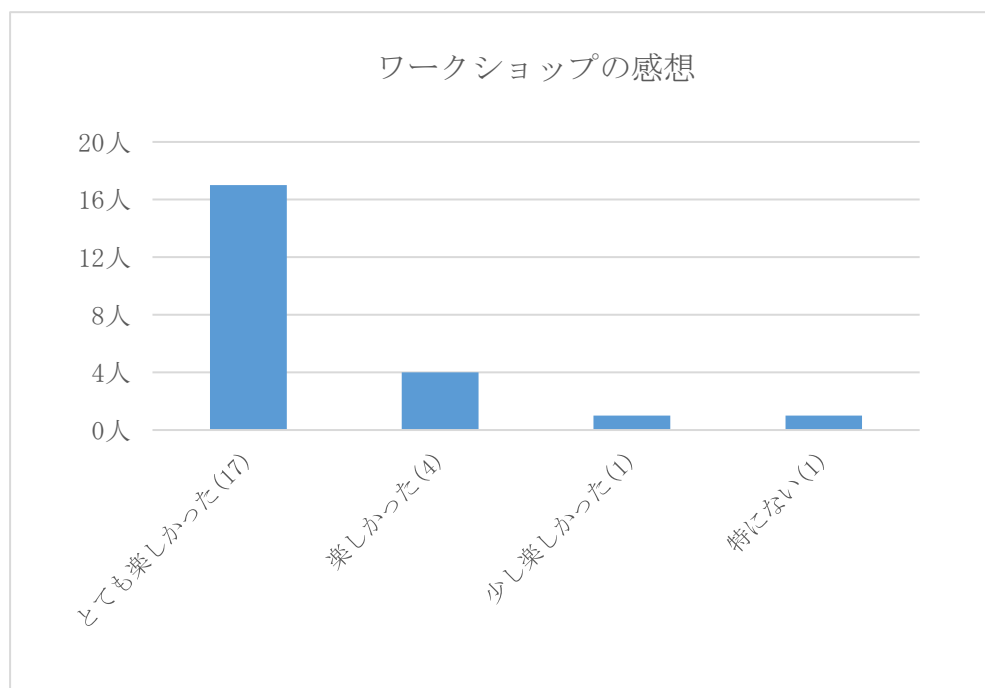


Q6. げきをみておもったことに○をつけてください。(複数)



Q7. 「げきのあと みんなでいっしょにやったこと」はどうでしたか？

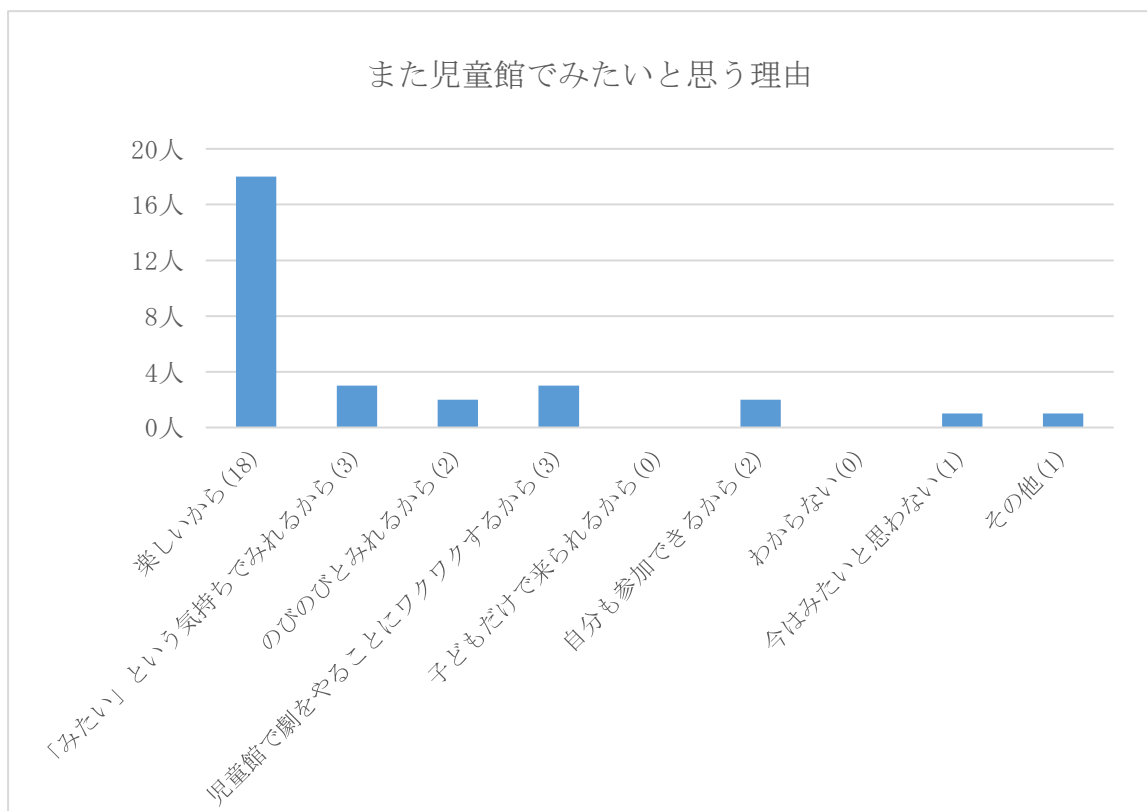
(未回答を省略している)



Q8. たのしかったことや、またやってみたいことのないようをおしえてください。

- ・せいさくをまたつくりたいです。
- ・またきてみたいと思った。
- ・お話がおもしろかった。
- ・なんかあめんがおくれたところがたのしかった。
- ・パタパタちょうちょ作り。
- ・またののはなさんの劇をみたい。もっと工作の時間がほしかった。いっぱいつくりたい！
- ・はじめのこんにちはといていたところ。
- ・ちょうちょづくり。
- ・ロボット。
- ・またこうさくしたいです。
- ・うどんの劇がおもしろかった。
- ・ちょうちょづくりがたのしかった。

Q9. またじどうかんでげきをみたいとおもいますか？それはなぜですか？（複数）



<その他回答> ・しってる人がでてくることもあるから。

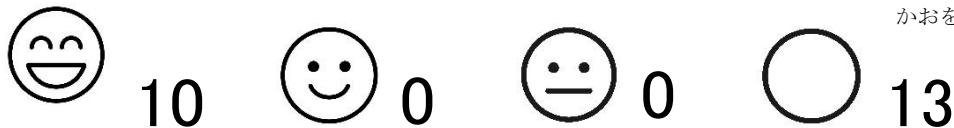
<そのほかに気づいたことやかんじたこと>

- ・げきのお人形が面白くてきました。わたしも動かしてみたいとおもいました。
- ・うどんのうーやんのえほんをよんで面白かったので劇をみれておもしろかったです。
- ・おもしろかった。ぜんぶがたのしい劇だった。
- ・おもしろかった。しゃべらずに表現するのがすごい。
- ・おもしろかった／・おもしろかったから大笑いしたよ！
- ・とてもたのしかったです。またみたいしじぶんでもやってみみたいです。
- ・げきのおにんぎょうがおもしろくてきました。わたしもうごかしてみたいとおもいました。うどんのうーやんのえほんをよんでおもしろかったので、げきをみれておもしろかったです。
- ・しゃべらずに表現するのがすごい。おもしろかった。

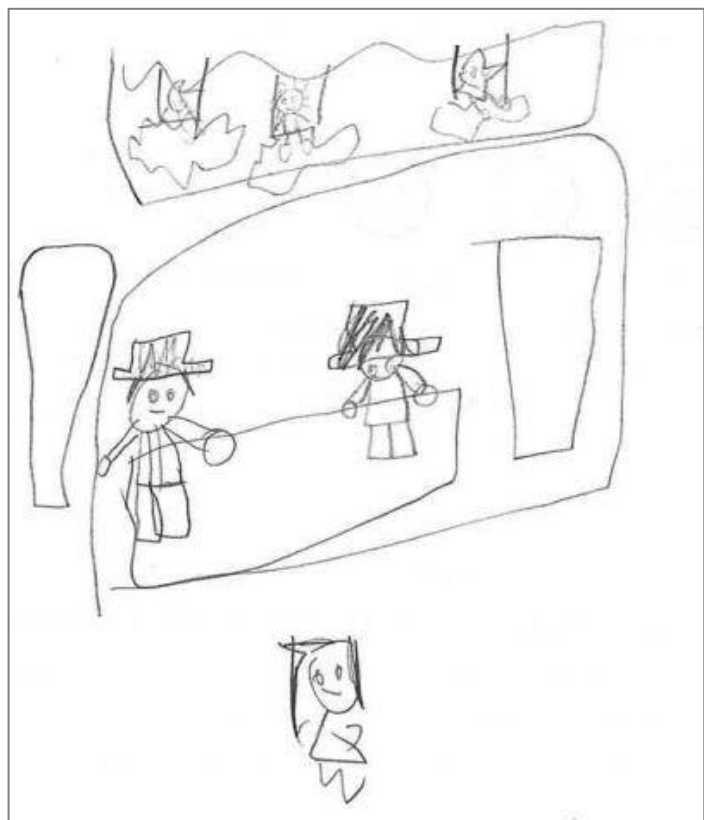
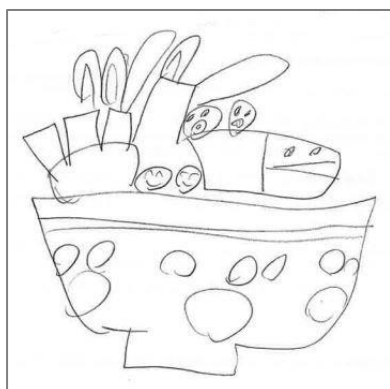
■劇を見て思ったこと

どんな気持ち？

かおをかいてね♪

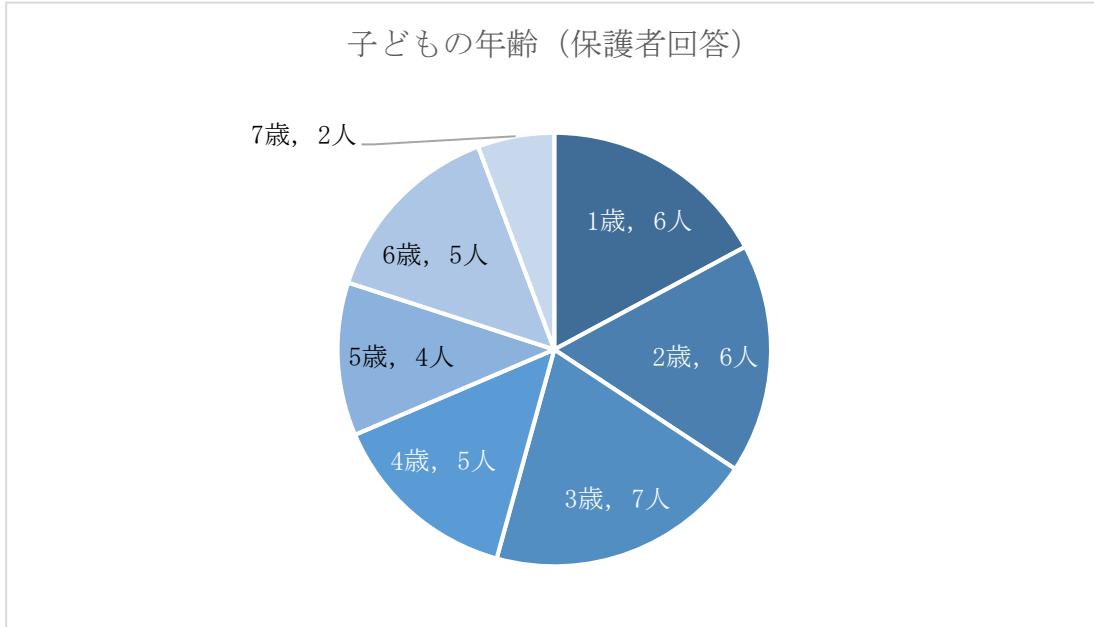


■裏面の作画 (11 件うち 3 件を表示)



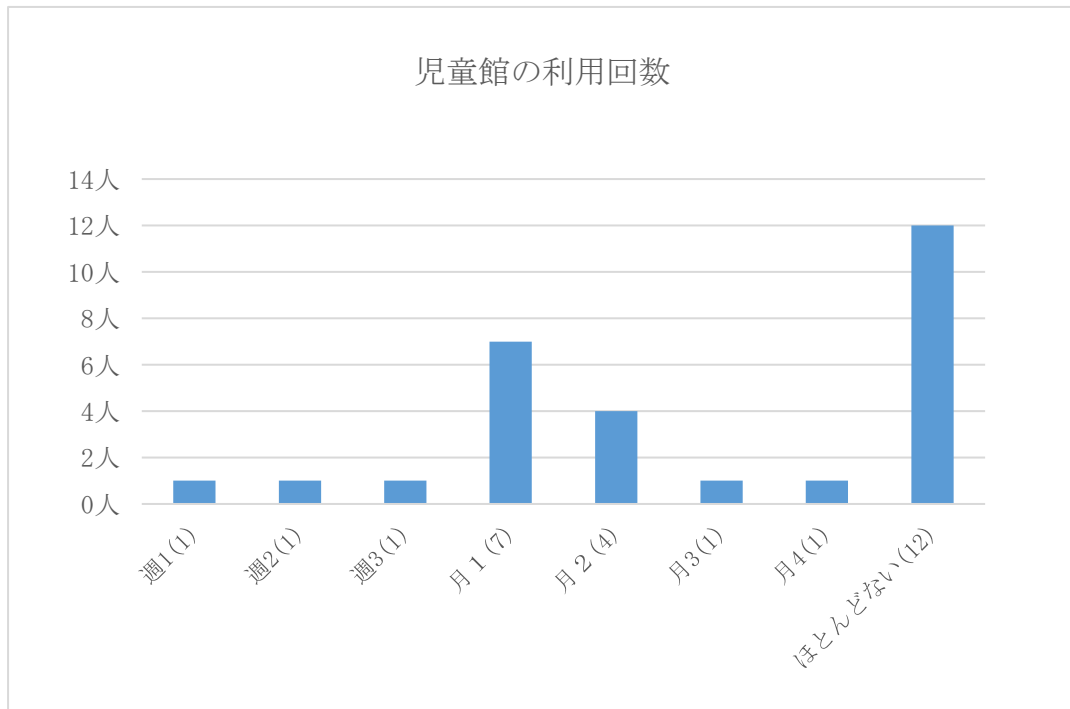
エ 保護者アンケート結果（回答数 29 人）

①お子さんの年齢（月齢）を教えてください。



・ 6 組の親子兄弟連れあり。

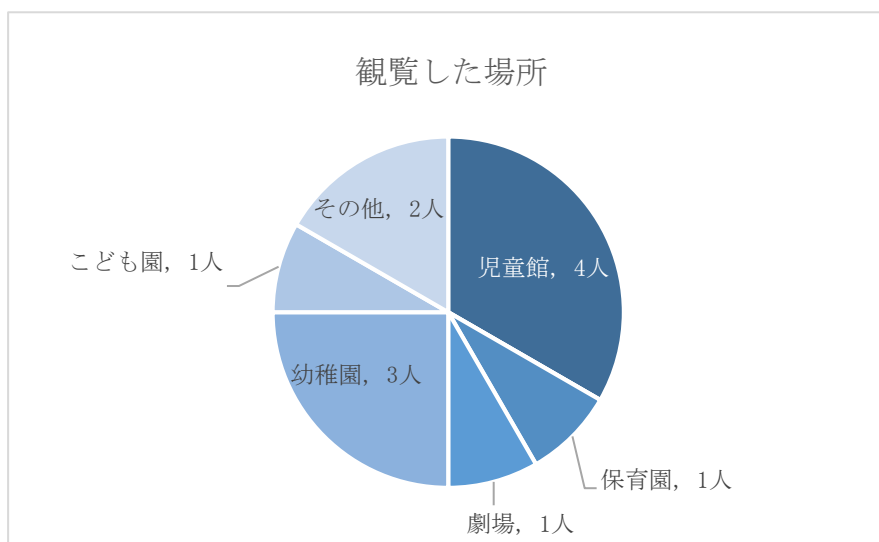
②児童館を利用することはありますか？（未回答を省略している）



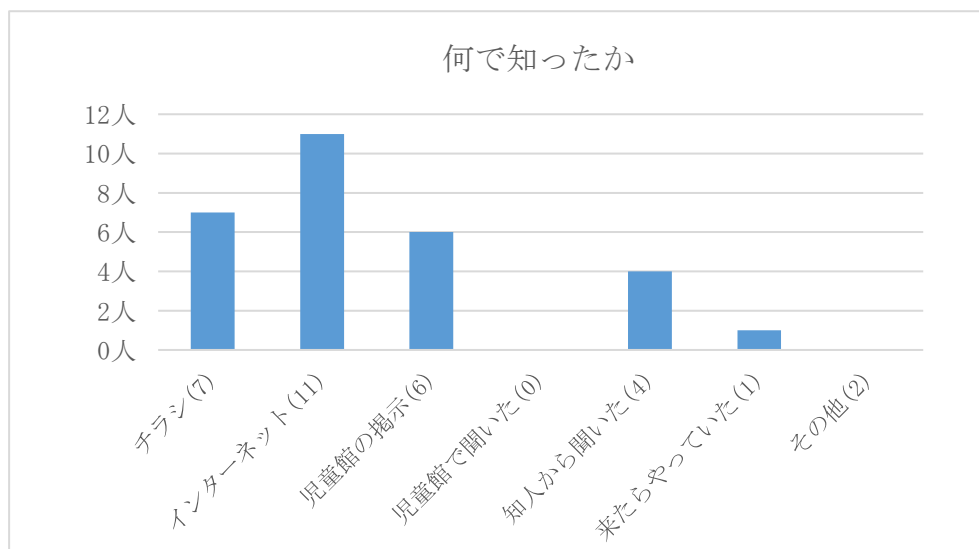
③今まで子どもと一緒に児童館でプロの劇団の舞台を見たことがありますか？

今回がはじめて	21人
1回	3人
2回	1人
3回	2人
5回	1人
6回	1人

観たことがある場合はどこで観ましたか？（複数）

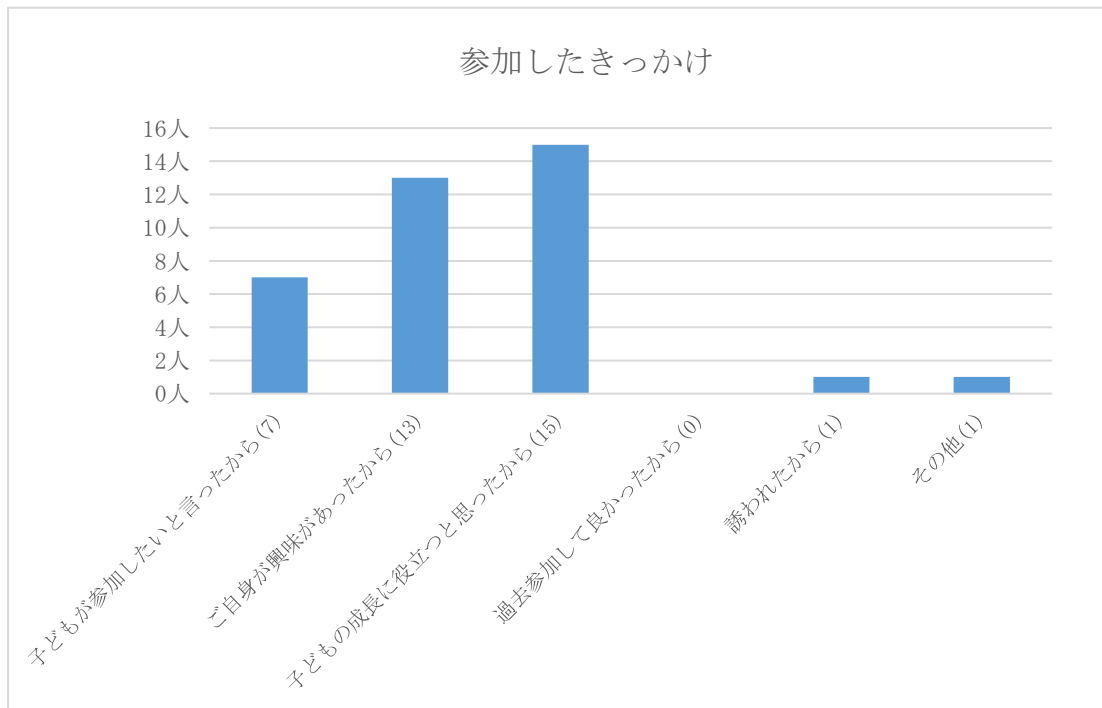


④今回、上演があることを何で知りましたか？（複数）



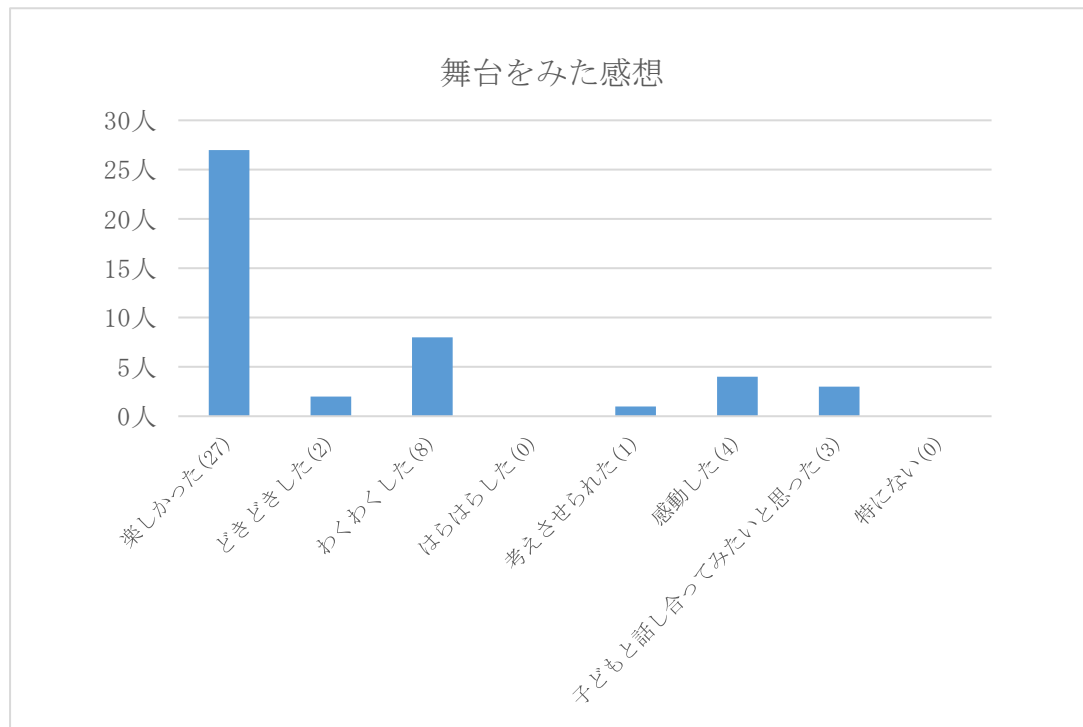
<その他回答> ・市政だより。／・のはなさんからお聞きしました。

⑤参加したきっかけを教えてください。(複数)



<その他回答> ・子どもが喜びそうだったから。

⑥生の舞台を直接鑑賞したことについて感想を教えてください。(大人の視点で) (複数)



<具体的な感想>

- ・大人も楽しめました。
- ・衣装・デザイン・人形・演出どれもハイクオリティですごく入り込んで楽しめた。
- ・今まで子ども向けの舞台には何度もつれていきましたが今回が一番楽しんでいました。
- ・人形の動きがとても上手で生きているようだった。

⑦舞台を観ていた（参加していた）お子さんの様子で気づかれたことはありますか？

- ・反応してた。／・集中してみていた。
- ・動物の名前を言っていた。
- ・よく笑っていた／・たくさん笑って喜んだ。
- ・むじゃきに笑っていて子どものピュアさに気づいた。
- ・爆笑していた テンポがよく楽しかったです。
- ・大笑いしてました。楽しかったみたいです。
- ・長いかなと思った。 夢中になってみていた。
- ・楽しそうに集中していたのが印象的でした。
- ・楽しそうだった。／・とても楽しそうだった。
- ・声がないの？おもしろいの？と見ていたが、大笑いして見えていた。
でも 12 時に券をもらって 13 時 30 分～までの間お昼を食べて来て見てみんな眠くなってグズってしまうんだらうな一と思った。
- ・笑って参加していた。目をキラキラして答えていた。
- ・こんなに集中して聞いてくれるとは思わなかったのでびっくりしました。
- ・集中して見えていました。笑い声がとても楽しそうでした。
- ・うーやんを本で読んだことがありその時と同じように楽しそうに笑って見えていました。

⑧今回は通常の上演に加えて「遊びのプログラム」（舞台のあと、みんなで一緒にやったこと）を実施しています。それに対する感想をお願いします。

とても楽しかった	18 人
楽しかった	9 人
少し楽しかった	0 人
特にない	0 人
回答なし	2 人

<具体的な感想>

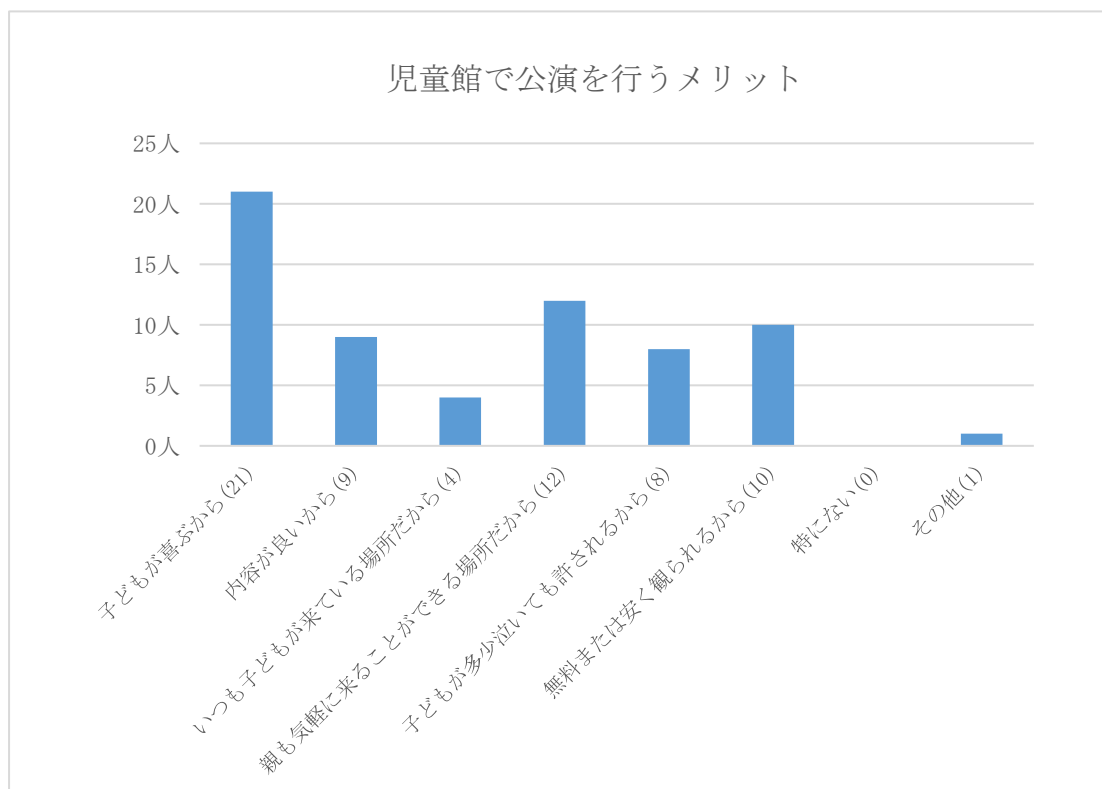
- ・はさみを使わずできた。（ちょうちょが完成していて助かりました）
- ・はさみは怖かった。混雑がすごい。

- ・サクッと出来るし凝ってつくる事も出来る内容が良いなと思いました。
- ・簡単にできるのにかわいいちょうちょ作りができることがとても楽しそうでした。
- ・自分でシールを選んで楽しく作れた。
- ・とても喜んでいきます。
- ・道具は初めからトレーに入れておいて、画用紙やシールだけ選べるようにしておくとうちやうちやにならなかったのでは？と思いました。

⑨今回の体験はお子さんの情操を豊かにする（美しいものや心を動かす出来事にふれ、想像力を豊かに持ち、コミュニケーション力を育むなど）きっかけになりますか？

とてもそう思う	24人
思う	3人
少し思う	0人
どちらとも言えない	0人
回答なし	2人

⑩児童館で今後プロの劇団の公演を行うメリットはなんだと思いますか？（複数）



<その他回答> ・劇にふれる機会を作ってほしいから。

⑪今回の舞台が「児童福祉文化財」ということは知っていましたか。

知っていた	1人
初めて知った	26人
回答なし	2人

⑫お気づきの点、ご自由にお書きください。

- ・またぜひ来てください！私自身気持ちがほっこりしました。
- ・またやってほしいです。期待しています！
- ・ぜひまた参加したいと思います。
- ・ちょうど眠くなる時間で…それだけが残念でした。でもあとはすごくすごく良かったです！！
- ・おもしろ楽しかったです。

オ 児童館アンケート結果（回答数7人）

① 鑑賞前、公演に期待されたものあてはまるものすべての番号を○で囲んで下さい。

1	子ども自身の楽しみとなること	7人
2	身近な場所で良質な舞台作品にふれることができること	7人
3	子どもの感情表現が豊かになること	3人
4	子どもの心の安定に効果があること	0人
5	子どもの児童館での活動によい影響を及ぼすこと	4人
6	既存の児童館プログラムによい影響を及ぼすこと	2人
7	新たな児童館プログラムの展開が期待できること	2人
8	児童館に来館児童が増えること	4人
9	児童館に来館する保護者が増えること	4人
10	児童館に関心を持つ地域の来館者が増えること	3人
11	地域のさまざまな社会資源(他施設・機関、主任児童委員等)との連携が期待できること	2人
12	職員の技術向上(スキルアップ)につながる	3人
13	職員の意識向上(モチベーション)につながる	4人
14	特になし	0人
15	その他の期待	0人

② 鑑賞後の子どもに、どのような変化が見られましたか。

1	鑑賞活動に満足し、次への期待を持った	4人
2	表情が明るくなった	6人
3	感情表現が豊かになった	0人
4	普段の行動が活発になった	0人
5	劇や劇に関する事について友達や家族と話すようになった、今までより気軽にしゃべりするようになったなどコミュニケーションが豊かになった	1人
6	児童館のプログラムに積極的に参加するようになった	0人
7	子どもたちから進んで意見を出すようになった	0人
8	児童館に来館する機会が増えた	0人
9	児童館職員に関わってくる場面が増えた	0人
10	舞台芸術に興味や関心を示すようになった	2人
11	舞台芸術に関する活動に参加するようになった	0人

12	特に変化はなかった	0人
13	その他	0人

③ I. 公演によって、児童館にどのような効果がありましたか。あてはまるものすべての番号を○で囲んで下さい。

1	子ども自身の楽しみが増えた	5人
2	身近な場所で良質な舞台作品にふれることができた	6人
3	子どもの感情表現が豊かになった	2人
4	子どもの心の安定に効果があった	0人
5	子どもの児童館での活動により影響を及ぼした	3人
6	既存の児童館プログラムにより影響を及ぼした	0人
7	新たな児童館プログラムの開発につながった	2人
8	児童館に来館児童が増えた	0人
9	児童館に来館する保護者が増えた	1人
10	児童館に地域の来館者が増えた	0人
11	地域のさまざまな社会資源(他施設・機関、主任児童委員等)と連携できた	0人
12	職員の技術向上(スキルアップ)につながった	2人
13	職員の意識向上(モチベーション)につながった	3人
14	特に効果はなかった	0人
15	その他の効果	0人

③ II. ③ I で「効果がある」を○で囲んだものについての具体的なエピソード

1 (子ども自身の楽しみが増えた)

- ・とても笑顔で「おもしろかった」と言っていた。
- ・また見たいという声が聞こえた。
- ・子どもが「ロボットがおもしろかった」と言っていた。
- ・登場した人形が欲しいという声も聞こえた。
- ・公演後ワークショップで作った作品を嬉しそうに遊んでいた。

2 (身近な場所で良質な舞台作品にふれることができた)

- ・人形の動きに合わせて子どもが真似して動いていた。
- ・登場人物のセリフや動きに反応して声をあげていた。
- ・公演中に子どもたちが声をあげストーリーに引き込まれている様子が感じられた。
- ・帰るときの表情が明るく笑顔だった。
- ・鑑賞していない職員に「楽しかった」と話すとうらやましがられた。

9 (児童館に来館する保護者が増えた)

- ・いつもよりご来館される保護者の方が増えた。

④ 公演が効果的に実施されたのは、何が影響したからだと思いますか。

1	推薦文化財作品そのものの内容や質が高かったから	5人
2	児童館が身近で気軽に参加できる施設だから	5人
3	親と子で一緒に参加できるプログラムだったから	4人
4	事業実施までの準備の取組みの過程が良かったから	1人
5	事業実施にともない、児童館で関連プログラムを実施したから	0人
6	事業実施当日のプログラム内容が良かったから	2人
7	事業実施後の反省会の取組みがあったから	0人
8	わからない	0人
9	その他	0人

⑤ 今回のような劇団公演の機会があった場合、どのように対応しますか？いずれか1つの番号を○で囲んで下さい。

1	また上演してみたい	5人
2	条件（ニーズ）が合えばまた上演したい	0人
3	公演しないと思う	0人
4	わからない	0人

⑥ 今後、児童館では児童劇等の児童福祉文化財を活用して、どのようなプログラムが実施できそうでしょうか？また、活用のためにどのような工夫が必要だと思いますか。自由にお書き下さい。

<活用プログラム>

- ・演劇。（異年齢の子どもたちと）
- ・人形劇を見る、人形をつくるワークショップ。
（プレゼントでもらったようなミニロボット）
- ・人形劇演劇ワークショップ。
- ・観劇会はもちろんのこと、児童福祉文化財を作ってみるなどのプログラム。
観るだけではなく体験したり観せる側になるなど「観せる喜び」、また成功体験へのつながりが期待できる。

<工夫>

- ・誰でもなりきれの役を作りすべての子どもが協力しながら作り上げていけるような環境を作る。
- ・ワークショップをする際人が動く導線を作りスムーズに行えるようにする。
- ・普段から劇やワークショップに触れる機会を設ける。
- ・他の団体（劇や絵本などを作ったり演じたりする…）に協力いただく。
たくさんの方に来てもらうために広報を積極的に行う。
- ・公演はしたいが団体（どのような団体があるか）などの情報集め方が難しい。
情報をまず集めることが大切。

カ まとめ

- (ア) 公演実施にあたり、2022年11月25日（木）16:00から児童館及び劇団と事務局との3者打ち合わせを行った。（打ち合わせ内容は①カ参照）
- (イ) 当日の実施状況では、劇団メンバーの熱演により子どもたちは公演内容の世界に引き込まれていた。途中、子どもがお母さんの顔を見て、お母さんも子どもの顔を見る、という場面も多く見られ、親子で安心して演劇を楽しんでいた。また、児童館職員による見やすい席への案内など運営上の配慮もあった。このことから、身近な場所で、かつ安心して参加できる児童館で公演を実施することの意義が見て取れた。
- (ウ) 子どもたちのアンケート結果から、今回の公演をみて、「楽しかった」という感想が75%（24名中18名）ともっとも高かった。また、後半のワークショップの感想についても、ほとんどの子どもたちが程度の差はあるものの「楽しかった」と回答している。演劇を観るだけでなく、ワークショップでの物づくりについても「またやってみたい」との意見があったことから、今回の公演は子どもたちの創作意欲を掻き立てる内容も含んでいたことがわかった。
- (エ) 保護者へのアンケート結果からは、今回の公演が「子どもの情操を豊かにするきっかけになる」という意見が多数から得られた（29名中27名）。また、舞台を観ていた子どもの様子から、「笑っていた」、「楽しそうだった」という感想が大半を占めていたことから、今回の公演は、情操教育上の観点からも保護者が子どもの新たな一面を発見できるという点からも意義のあるものであった。
- (オ) 児童館職員アンケート結果からは、鑑賞後の子どもの変化として、「表情が明るくなった」が最も多かった。また、児童館に与える効果として「身近な場所で良質な舞台作品にふれることができた」という意見が多くあり、今後は子どもたちに演劇を見せるだけでなく、劇を作ってみるなど新たな取り組みも期待したい。

③神戸市総合児童センター こべっこランド

ア 実施日・演目・参加人数

- ・2023年1月7日（土） 14:00～15:20
- ・『森のオト』（ロバの音楽座）
- ・156名

イ 実施状況

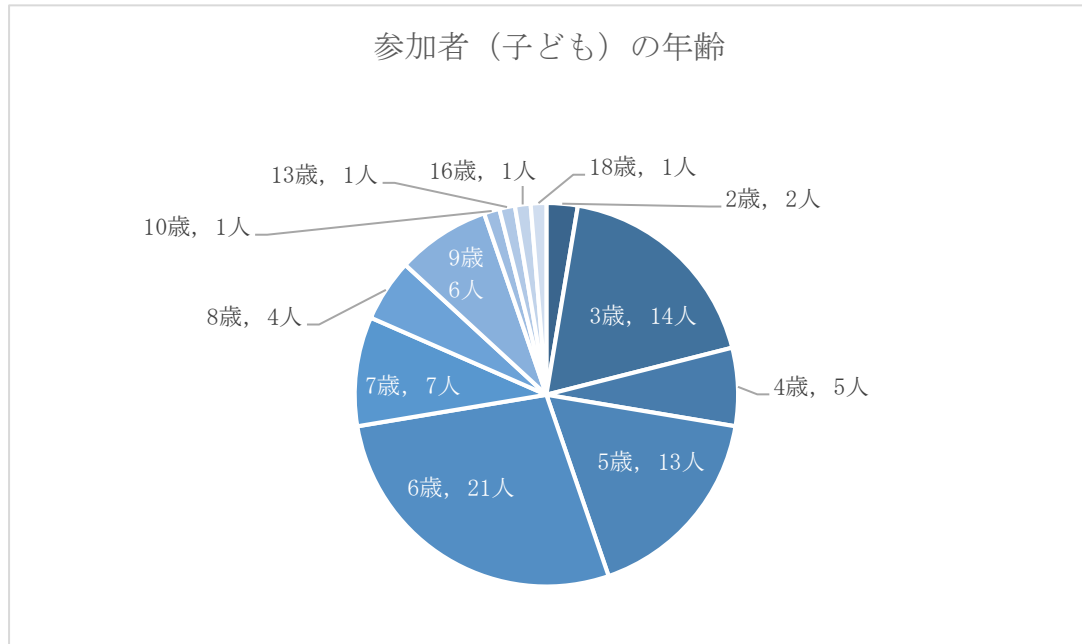
スケジュール	時間	レポート内容
準備	: ~	公演準備についての児童館、劇団、事務局の役割分担、準備の流れなど公演会場の状況設営の状況や工夫など
	7:10～	搬入。1階玄関から7階ホールまでエレベーターを使用して搬入を行った。長物についてはエレベーターに搭載ギリギリのサイズだったが、特に問題なく搬入が行なわれた。
	7:30～	
	10:00～	9:00から仕込みと並行して客席のレイアウトを調整した。
	10:30～	照明の仕込みと照明の調整 ※照明は常設のもの以外に、演者が持ち込んだものがあった。 ※電源の容量については事前の打合せができていたので問題なし
	10:50～	音響のチェック ※PAはすべて演者が持ち込み
	12:00～	開場から開演までの段取りの確認
	12:50～	劇団によるリハーサル 1ベルから開演までのリハーサル（ベルの練習）を行った。 ※ベルの練習は演者と主催者の相互理解に有効だったようである。
上演前		劇団（演者）の様子、児童館側の運営、子どもたちの受け入れ・進行等の様子
	13:30～	前々日にはある程度ステージの準備を済ませてあり、受け入れ体制は万全だった。
	13:40	事前募集で既に250人を超える応募。当日のキャンセルを見込んでも200人は確保。
	13:50	ホール前に来客あり。
	14:00	定刻に開場。

		案内もスムーズでカーペット席にも座っていた。 カーペット席は満席。 定刻に開演。
上演中	: ~	子どもの反応、児童館職員など全体の様子 <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは新しい発見をした際に、「何か動いている」などど声を発したり、親子で顔を見つめ合う様子が見られた。 「カブトムシ」の曲では、コミカルな演技と演奏で、子どもたちが飽きない工夫。 クラップを使った「やまびこあそび」は観客参加型。 「仮面」を使った演出には、「なに？」と、素直に反応。コミカルな動きには笑いが起きる。動きだけでなく、音にも反応。笑い声も。 「大きな楽器」のくだりでは人形が魔法使いのように登場。 学齢前の子どもは40分くらいから飽きてくる子どもも。退場する観客も。 珍しい楽器は子どもたちの反応がいい。 70分で終演。 児童館職員はトイレなどもスムーズに行けるように扉を開けてサポートするなど会場全体に人を配置してあり、観客の様子を見ながらサポートしていた。
ワークショップ	: ~	ワークショップで何を行ったか、どんなワークショップだったか、その様子 身体を音に合わせてながら動かすワークショップ。 上演している中で、観客が参加できる場面が多くあったためか、ワークショップはリラックスを促す内容だった。
アンケート	: ~	アンケートの進め方と記入の様子 ワークショップ終了後にアンケートをバインダーとともに配布 スムーズに記入していただいていた。 なお、途中で退席した方については、十分な案内はできなかった様子が伺えた。

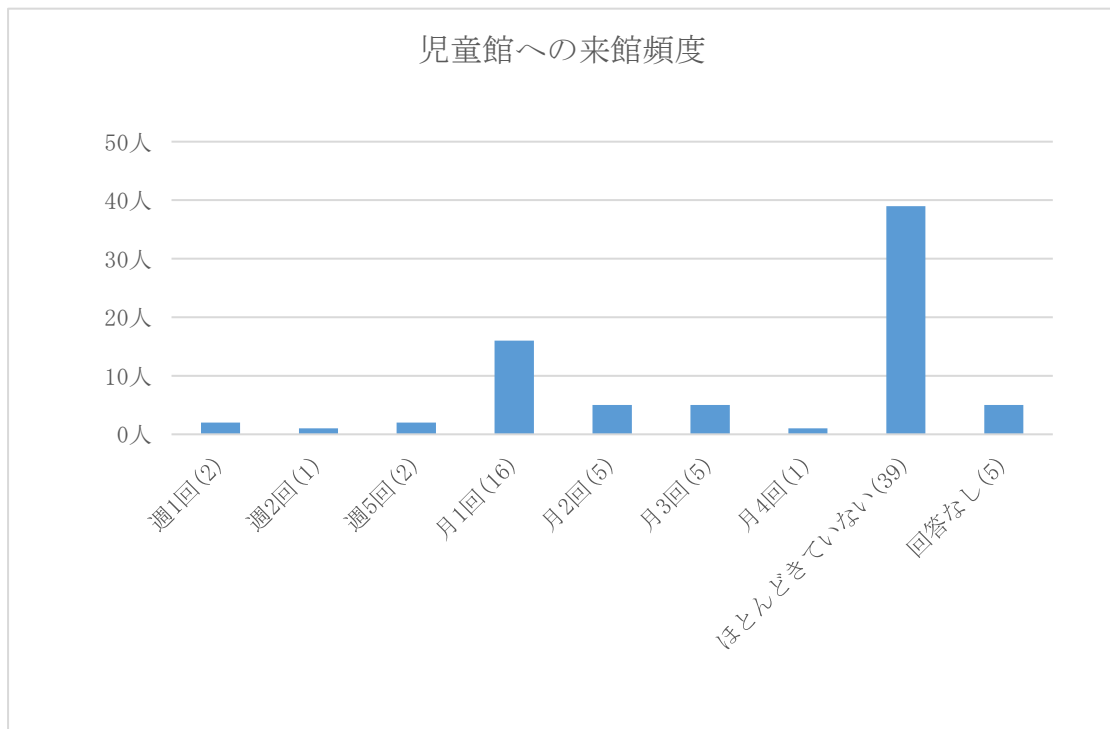
公演後	: ~	公演後の子どもたち、保護者の様子、聞こえてきた感想・つぶやき
		子どもたちからは何か感想などを聴くことはできなかったが、アンケートの裏面に絵を描く子どもが多かったことが印象的だった。
		子どもたちの送り出しの様子（児童館、劇団、事務局などの関わり）
	15:40	客送り出し終了。舞台の撤収を開始。 片付けたものをエレベーター前に配置。
	16:40	搬出開始 1階に運搬し、玄関前に置いたワゴンに積み込む。
	17:20	搬出終了。 ・児童館が台車を複数準備。エレベーターも搬出専用のものを準備していただき、搬出はスムーズに行っていた。

ウ 子どもアンケート結果（回答数 76 人）

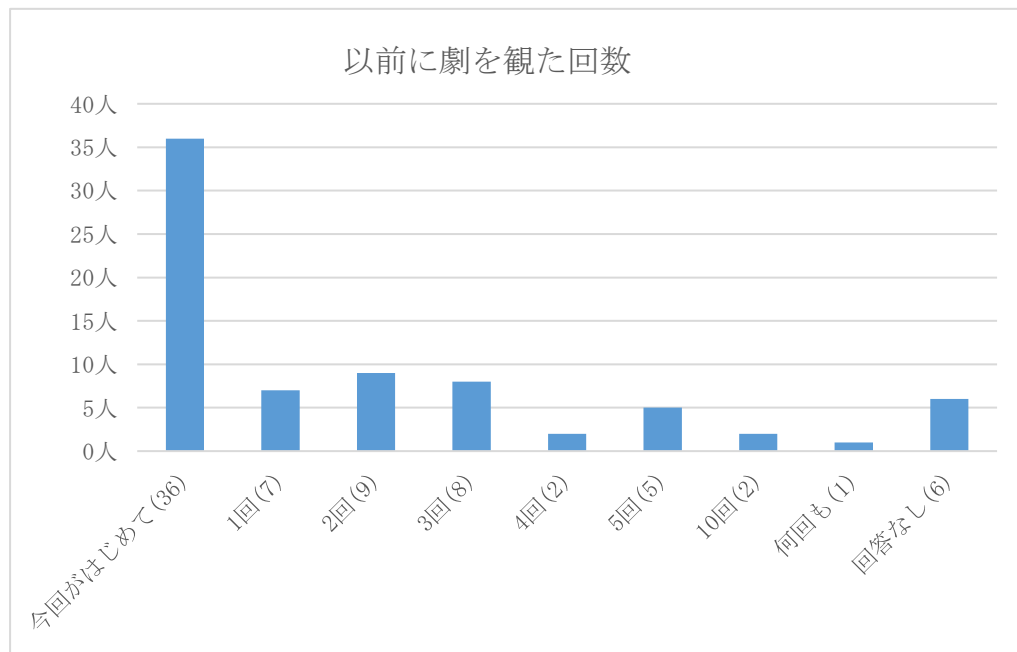
Q1. あなたはなんさいですか？



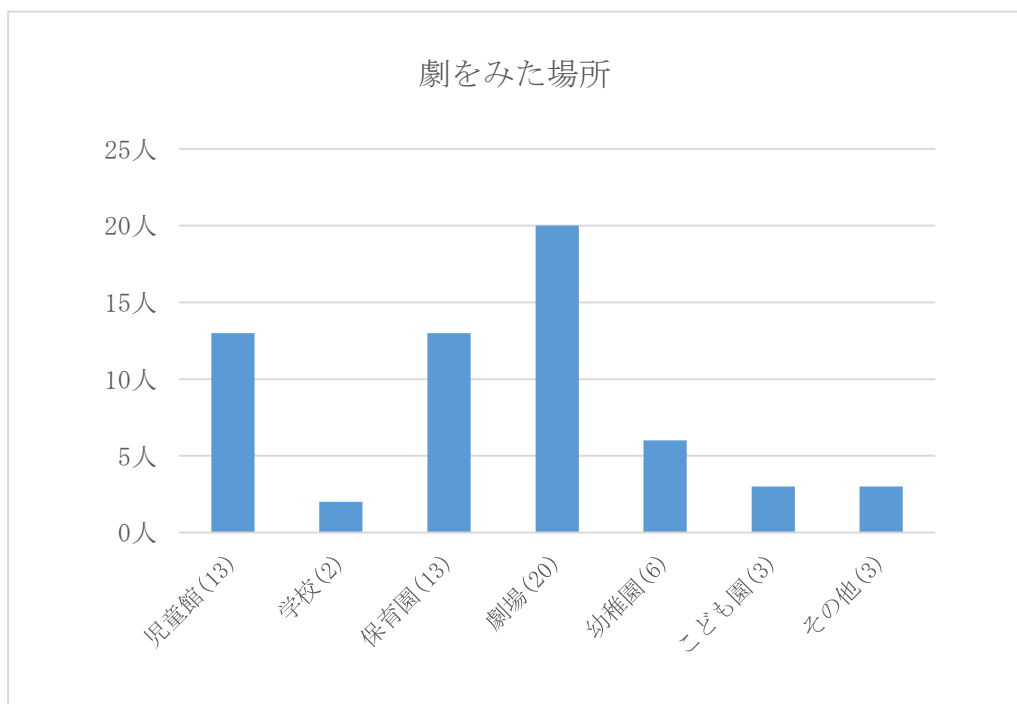
Q2. じどうかんにどれくらいきていますか？



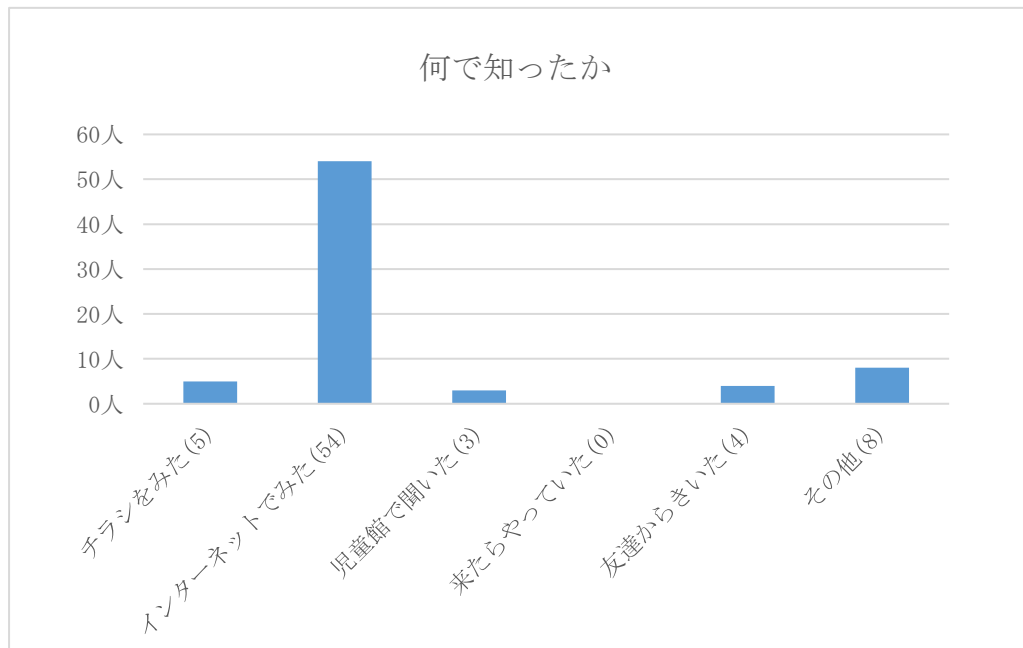
Q3①. いままでげきをみたことがありますか？



Q3②. どこでみましたか？ (複数)

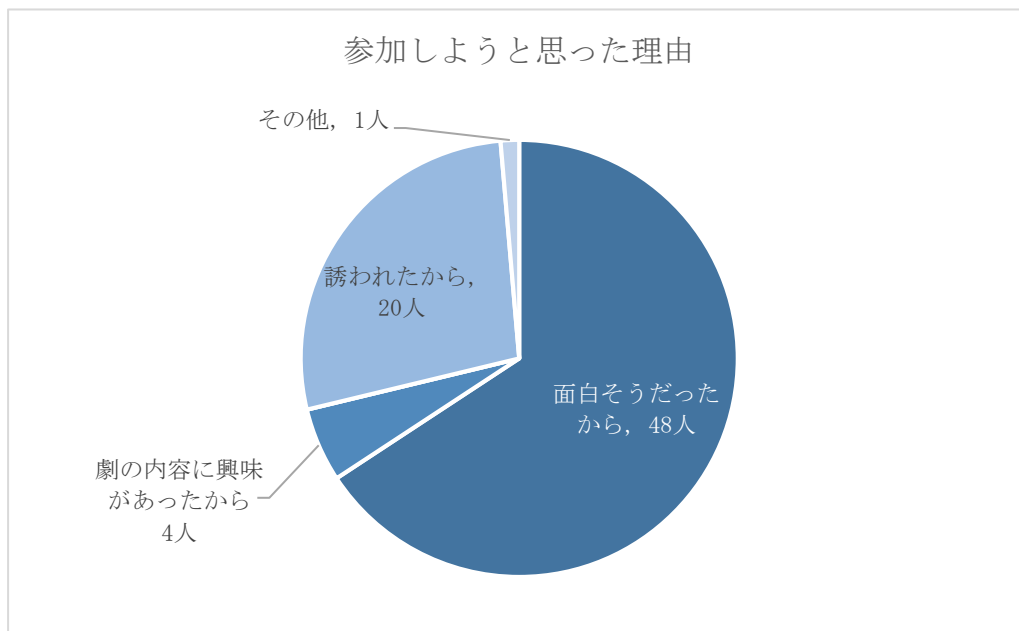


Q4. こんかい、なにで知りましたか？（未回答を省略している）



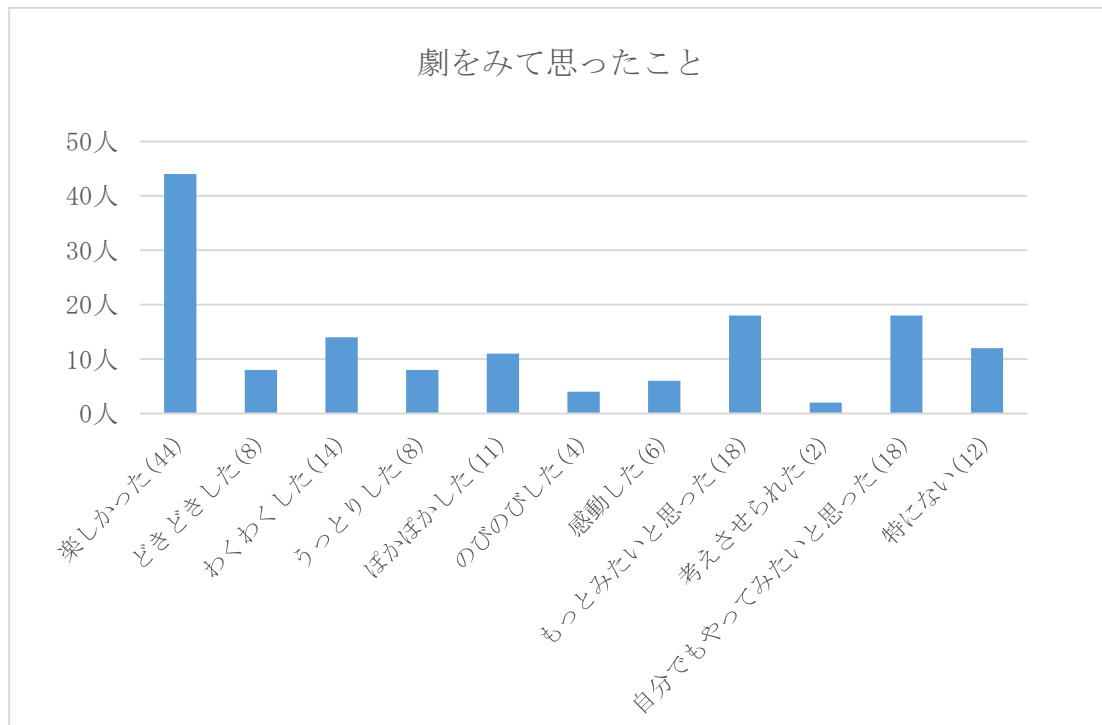
<その他の回答> ・お母さんに聞いた。(4) / ・お母さん連れられて。
 ・ママのともだちからきいた。 / ・メール。
 ・ばあばと来ました。

Q5. どうしてさんかしようとおもいましたか？（未回答を省略している）



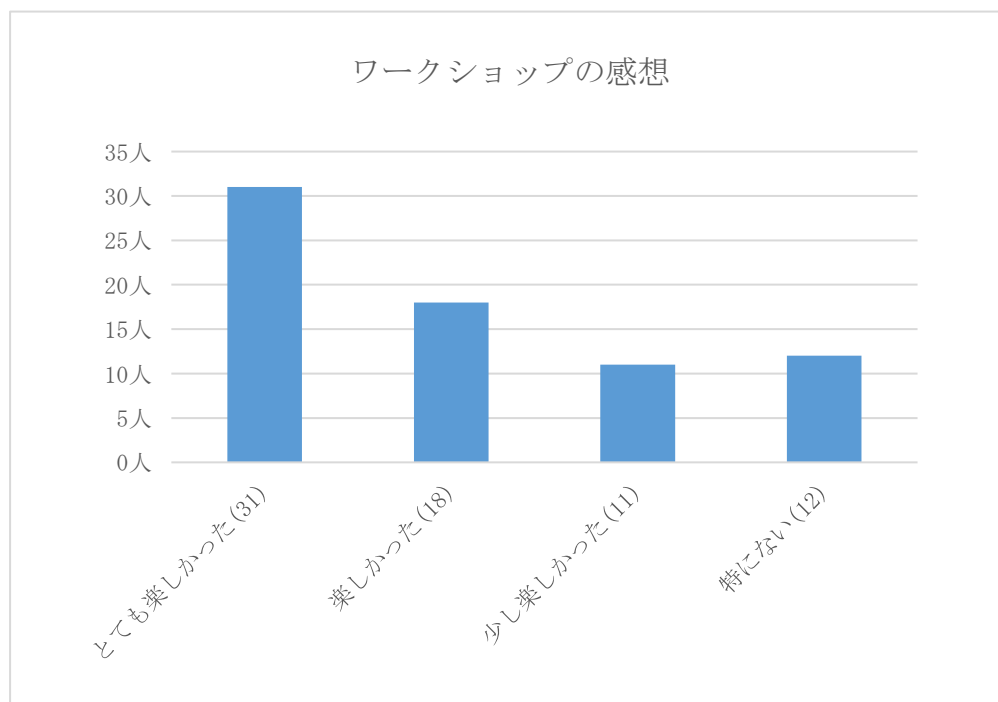
<その他回答> ・メールできたからなんとなく。

Q6. げきをみておもったことに○をつけてください。(複数)



Q7. 「げきのあと みんなでいっしょにやったこと」はどうでしたか？

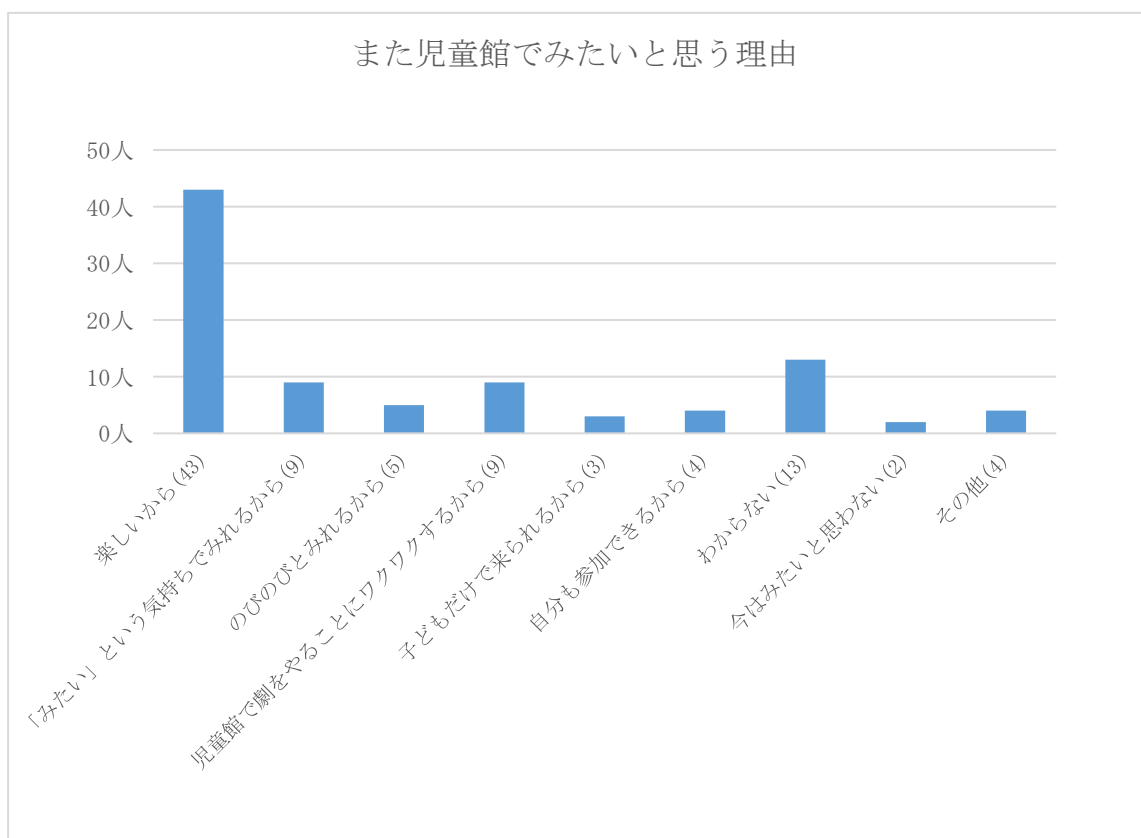
(未回答を省略している)



Q8. たのしかったことや、またやってみたいことのないようをおしえてください。

- ・楽器をひいていることが楽しかった。
- ・動物、手びょうし。
- ・またみたい。
- ・げきがたのしかったので、またきてみたいです。
- ・いっしょにうたうこと。
- ・たのしかったことは森にいるようなかんかくがしたところです。
- ・がっきたのしかった。
- ・学校との共有。
- ・音楽をきくのがたのしかった。
- ・うたが大きかったり小さかったりしたから。

Q9. またじどうかんでげきをみたいとおもいますか？それはなぜですか？（複数）



- <その他回答>
- ・バイオリン。
 - ・人形げきがいい。
 - ・ともだちにもみせたいから。
 - ・内容による。

<そのほかに気づいたことやかんじたこと>

- ・いろいろな楽器を演奏してみたいです。
- ・すごく楽しかった。／・たのしかった。(2)／・うれしかった。
- ・顔のお面がたのしかった。／・ロバは？
- ・本当森にいる感じの曲がたくさんあった。／・ぜんぶ森の楽器なのがびっくりしました。
- ・ありがとうございます。／・またやってほしい。
- ・太鼓さわりがたかった。／・やってみたい。／・いろんなおとがでたからたのしかった。
- ・楽器を弾く点に関しては、うまかった。歌とかは僕と一緒にセッションしたかったな。
- ・かってにうごいたところ。

■劇を見て思ったこと

どんな気持ち？

かおをかいてね♪



22



18

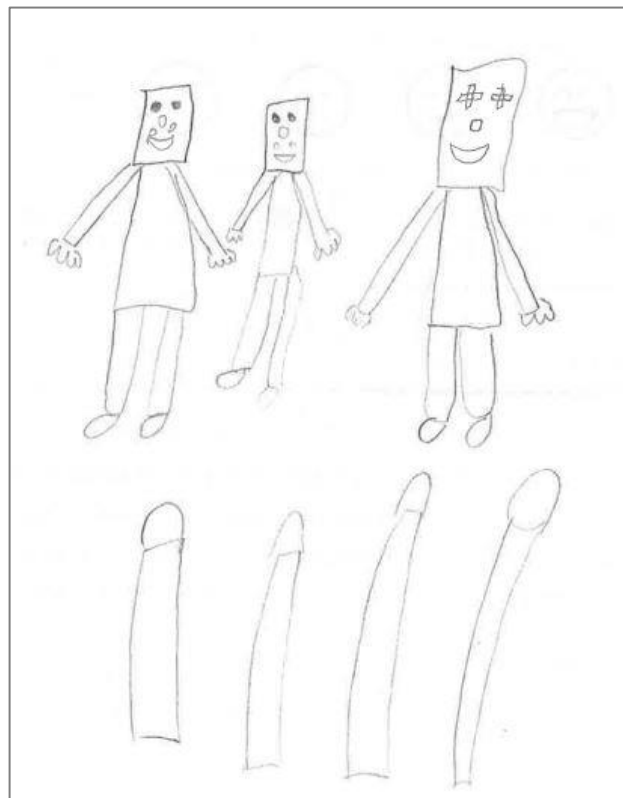


4



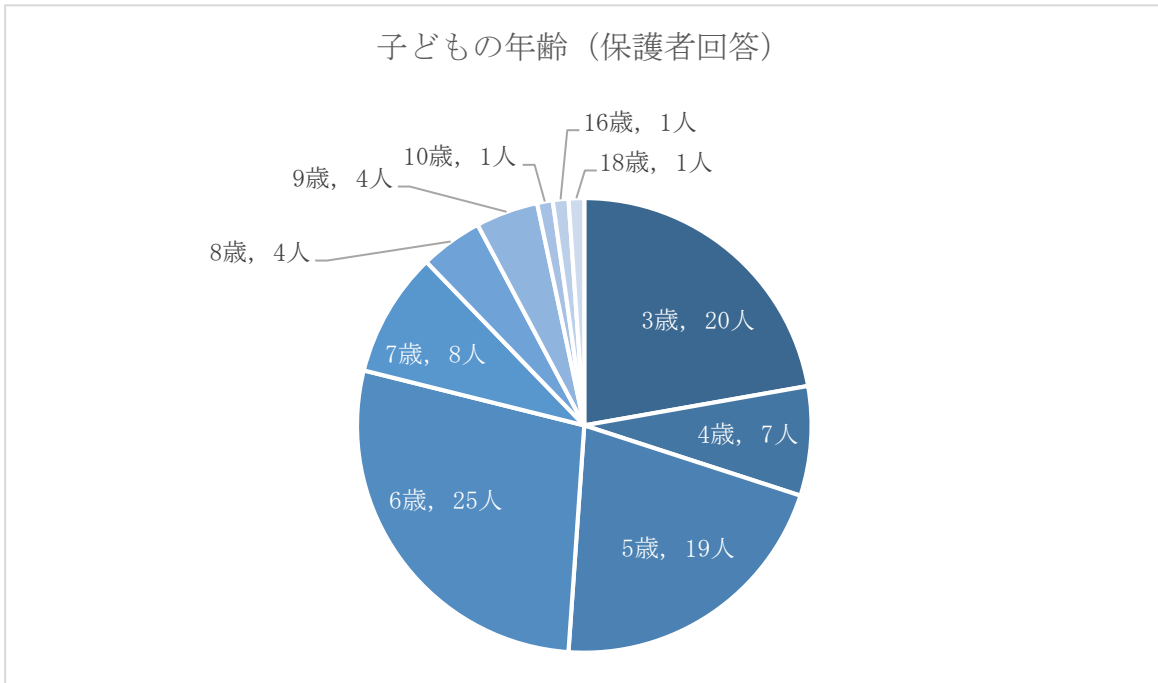
37

■裏面の作画 (22件うち2件を表示)



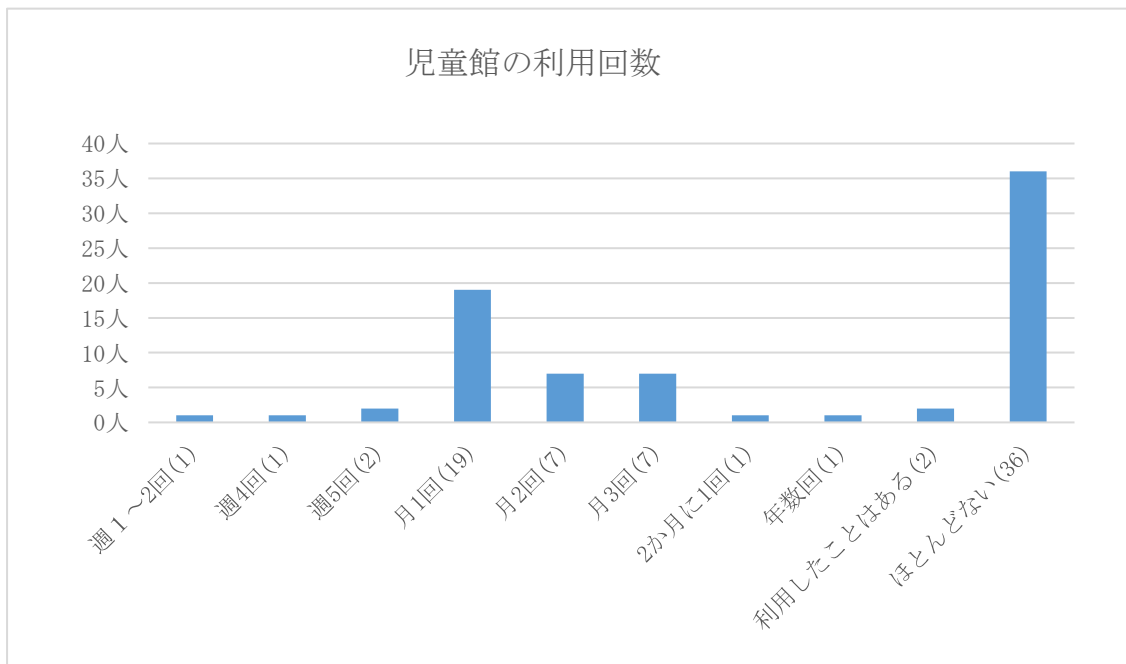
エ 保護者アンケート結果（回答数 75 人）

①お子さんの年齢（月齢）を教えてください。



・ 15 組の親子兄弟での参加あり

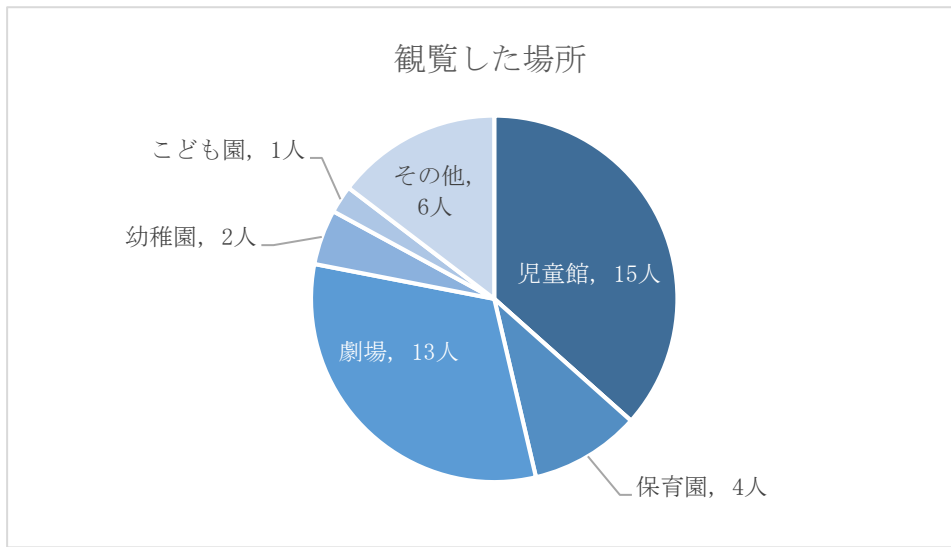
②児童館を利用することはありますか？



③今まで子どもと一緒に児童館でプロの劇団の舞台を見たことがありますか？

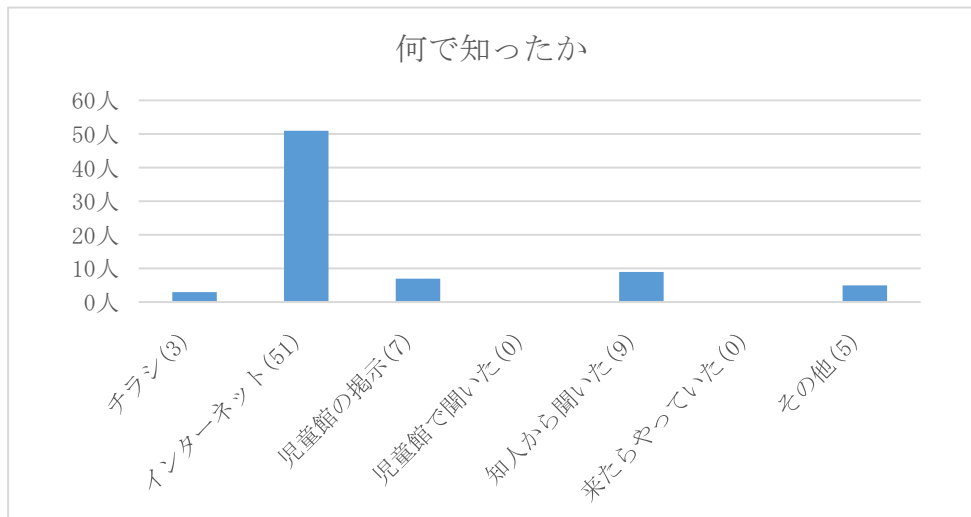
今回がはじめて	47人	4回	4人
1回	6人	5回	4人
2回	3人	7回	1人
3回	8人	みたことはある	2人

観たことがある場合はどこで観ましたか？（複数）



<その他回答> ・区民ホール／・ロバハウス(立川)

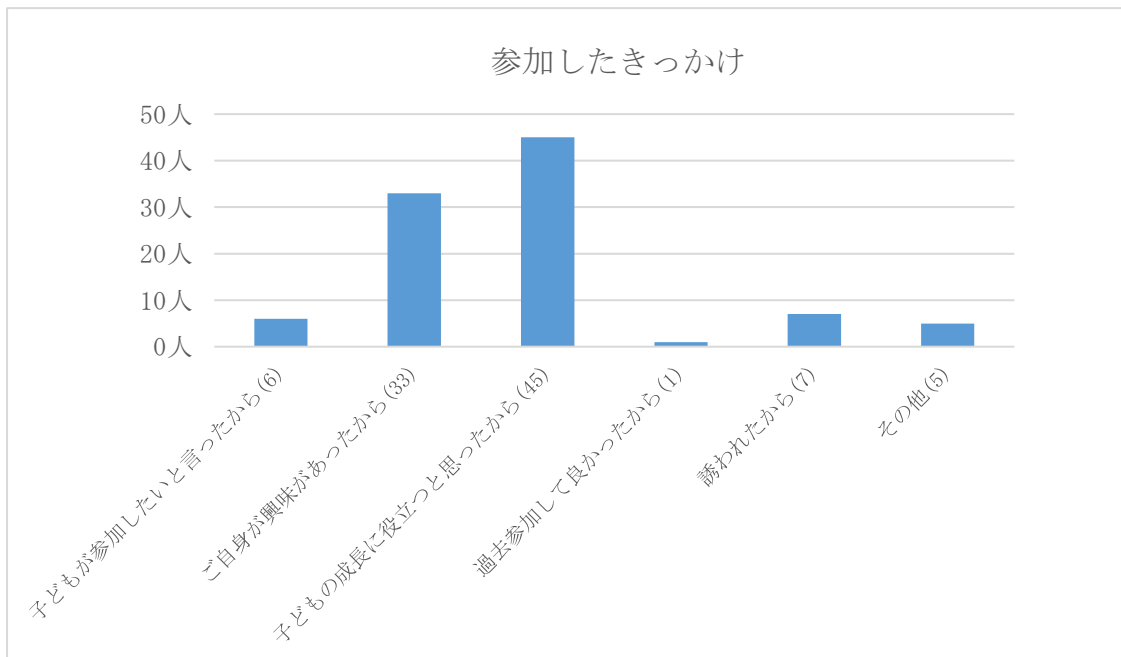
④今回、上演があることを何で知りましたか？（未回答を省略している）



<その他回答>

- ・こべっこランドのお知らせ、HP。／・出演者から。／・妻に教えてもらった。
- ・もうすぐ今のこべっこランドが最後かと思って調べたら見つかりました。

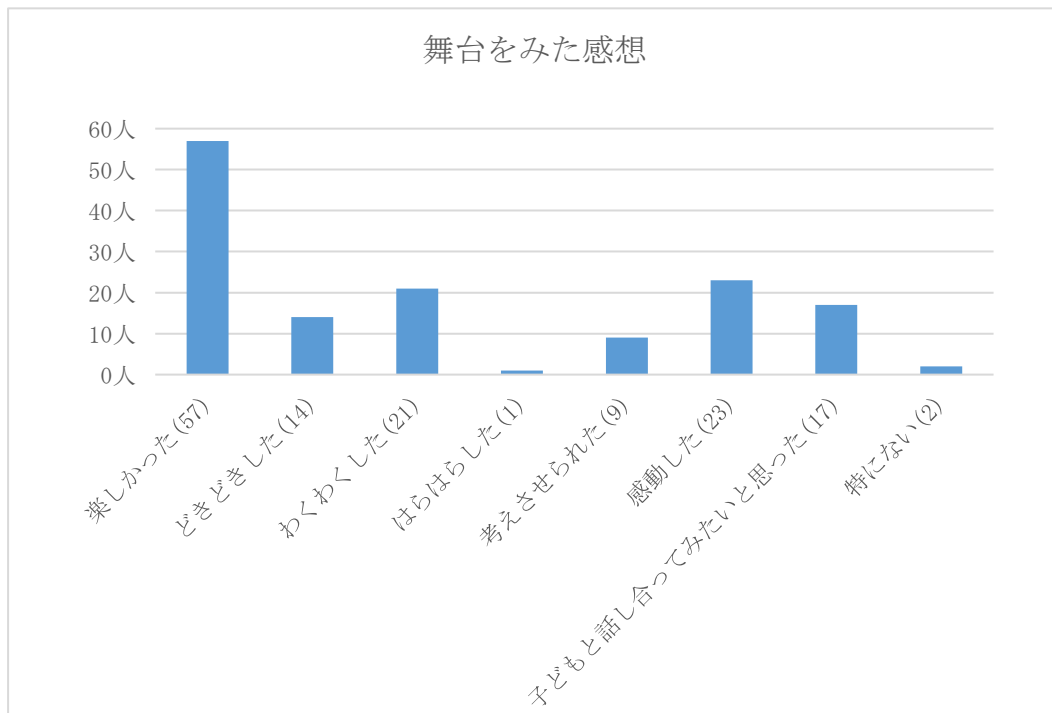
⑤参加したきっかけを教えてください。(複数)



<その他回答>

- ・子どもが音楽と楽器に興味を持っており、ピッタリだと思った。
- ・このこべっこランドが閉館するから。／・今のこべっこランドの思い出に。
- ・心が癒されて、音に対して自然の生の音に触れてほしかったので。

⑥生の舞台を直接鑑賞したことについて感想を教えてください。(大人の視点で) (複数)



<具体的な感想>

- ・仕事の合間に何かしたいと思った。
- ・10年ぶりの生だったので、とても楽しかったです。
- ・想像以上に子どもが喜んだ。
- ・久しぶりの生演奏が聴けて嬉しかった。初めて見る楽器がたくさんあって私自身がとても楽しめました。合唱もとても素敵でした。
- ・どんな楽器がでるか。
- ・本当に感動しました。見たことない楽器が次々出てきて、音が組み合わさることにより、より贅沢な空間が生まれて至福の時間でした。
- ・透明な中にもがさがさした質感の音色がとても心地よかったです。
- ・ゆったりした気持ちになった。
- ・子どもたちがどのように感じたのか、知りたくなった。
- ・自由で楽しい雰囲気の演奏が子どもの興味を引きます。
- ・楽器の種類が多くてびっくりした。

⑦舞台を観ていた（参加していた）お子さんの様子で気づかれたことはありますか？

- ・手をたたいてとても楽しそうに聞いていた。手拍子を楽しんでいました。
- ・楽しそうだった。／・こどもも一緒に楽しめました。
- ・いつもの通りであり、特に大きなリアクションは無かった。
- ・音にあわせて身体を動かしていた。／・楽しんでいました。
- ・次々に登場する楽器に興味津々でじっと見ていた。
- ・なんでまた出てきた？って言っていた。
- ・目がキラキラしていました。
- ・テレビを見たときにはない目の輝きがあった。
- ・音楽にのったり、前のめりで見えたり、興味のある様子だった。
- ・少し難しかったようだが、興味を持っていた。
- ・ニコニコしていました！
- ・最後まで真剣に見ていて、成長を感じた。
- ・世界の挨拶を聞いて楽しそうだった。
- ・子どもも一緒にダンスしたり、踊ったりして思い出になりました。
- ・リズムに乗ってた。
- ・恥ずかしがりやの娘が楽しんでいたので、嬉しかった。
- ・音楽に合わせて楽しそうにしていた。素朴な感じがよかったです。
- ・時間が長いので、最後まで観ることができるか不安でしたが、集中して観ることができていました。／・観入っていた。

- ・ノリノリで最初から楽しそうだった。
- ・長時間でおとなしく観てられるか気になりましたが、子ども用席で離れて見ていたせいか、親に甘えることなくじっと観ていました。
- ・からだを揺らしリズムをとっていた。
- ・自然と手拍子をうっていたり、近くの子とも笑っていたりその空間を楽しんでいたように思います。
- ・大きな音が苦手ですが楽しんでみていたように思います。
- ・どうだったか振り返りたいです。だからこそまた味あわせてやりたいです。
- ・終わったあと目がキラキラしていた。
- ・リズムにのってゆれていた。まばたきせずじーっと見ていた。
- ・変わった音が鳴る楽器の音に反応していた。
- ・リズムに合わせて身体を動かすなど、感情を行動に表していることに感心した。
- ・とても興味深そうに見ていた。
- ・集中して楽しそうに見て、一緒に歌ったり手拍子をしていました。
- ・じっと見ていた。初めて見る楽器ばかりで不思議そうにしていた。
- ・打楽器にとくに興味がありそうでしたが、うっとりしてコンサート半ばで寝てしまいました。
- ・あの楽器はなに？と何回も聞いてきたし参加するところは楽しそうに参加していた。
- ・楽器とその音に興味を持っていた。楽しそうに聞いていた。
- ・知らない楽器を見て興味深そうに見ていました。
- ・最前線で見入っていて、手拍子など興味深そうだった。
- ・楽しそうでした。
- ・最後の方は、集中力が無くなってきていた。
- ・騒がしくして、すみません。
- ・3歳にはもう少し参加型でないと、40分以上は難しいと思いました。
- ・長時間は難しい。／・少し長かった。／・長くてダレていた。
- ・45分くらいで集中力が切れる。
- ・いつ終わるの？と帰りたいそうでした。がなんとか最後まで頑張りました。
- ・途中で飽きがかかることがあった。中休みの頻度が多い方が子どもはいいかもしれない。
- ・半分くらいで休憩が欲しい。
- ・一緒に見ていない。
- ・前もって準備をしていなかったなので、子どもに落ち着きがなかった。
- ・3曲目で一旦飽きた子がイメージや想像力にまだ課題あります。
- ・少し長かったか、小さい子は最後まで集中できていなかったかも？
- ・まだ音楽の楽しさが分からず、ずっと座っているのがしんどそうだった。

⑧今回は通常の上演に加えて「遊びのプログラム」(舞台のあと、みんなで一緒にやったこと)を実施しています。それに対する感想をお願いします。

とても楽しかった	19人
楽しかった	30人
少し楽しかった	13人
特にない	5人
回答なし	8人

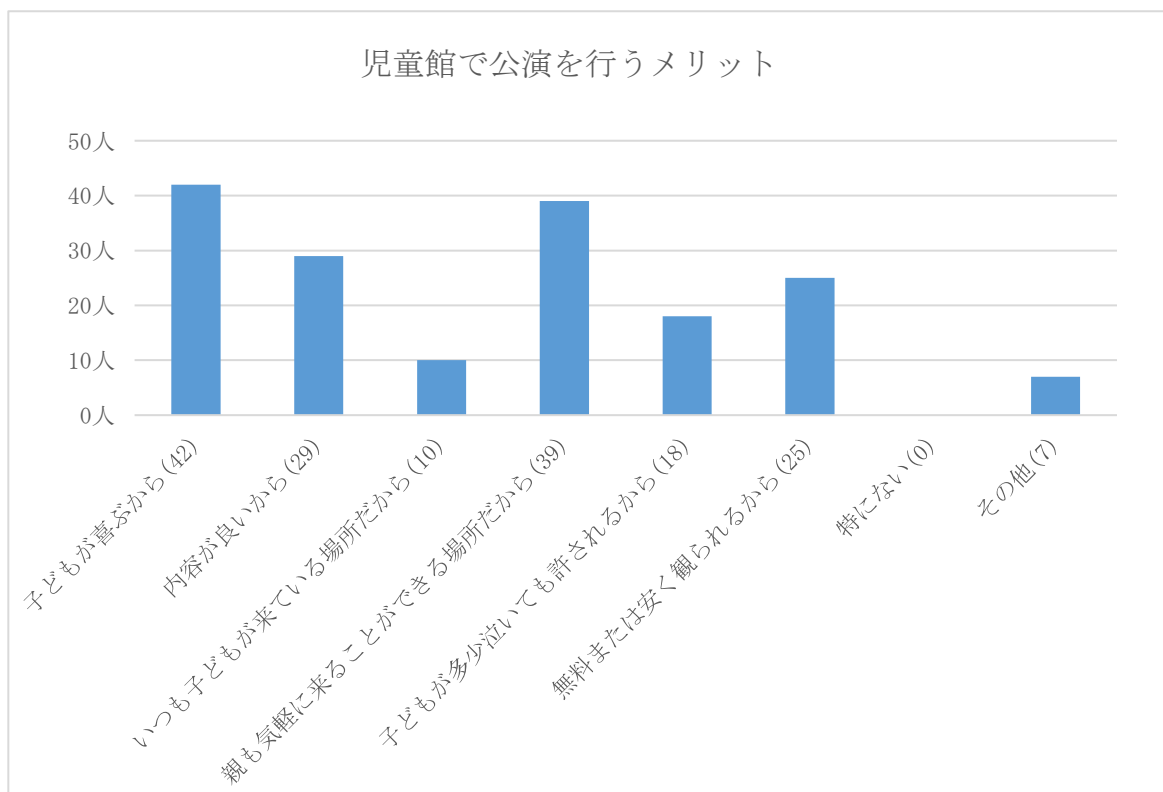
<具体的な感想>

- ・最初はよくわからなかったが、楽器紹介や挨拶から面白くなってきた。
- ・体がほぐれてすっきりしました。
- ・じっと座っていたので体を動かしてよかったです。
- ・体を動かして気持ちよかった。
- ・舞台と客席とが混じり合うことが必要だと思う。
- ・観るだけでなく、身体を使って楽しむことは皆笑顔で楽しんでいました。
- ・みんなで歌ったり、体を動かすのが楽しかったです。
- ・リラックスできた。
- ・もう少しできた感があるといいかな

⑨今回の体験はお子さんの情操を豊かにする(美しいものや心を動かす出来事にふれ、想像力を豊かに持ち、コミュニケーション力を育むなど)きっかけになりますか？

とてもそう思う	43人
思う	17人
少し思う	4人
どちらとも言えない	3人
回答なし	8人

⑩児童館で今後プロの劇団の公演を行うメリットはなんだと思いますか？（複数）



<その他回答>

- ・子ども同伴でOKだから。
- ・自由できれいな演奏が見れるから。
- ・参加型だから。（近い。）
- ・児童館だからこそ親子で気軽に來れること。
- ・五感の刺激になる。
- ・知らない劇団との出会いがある。
- ・普段観劇をされない方にも、機会がもたらせるから。

⑪今回の舞台が「児童福祉文化財」ということは知っていましたか。

知っていた	12人
初めて知った	57人
回答なし	6人

⑫お気づきの点、ご自由にお書きください

- ・色々な舞台があれば嬉しいです。（30分くらいで）
- ・大変素晴らしい劇でした。からくりお人形が素敵だった！
- ・私がかぶりものを作りたいと思いました！

- ・初めて参加して、また来たいと思った。
- ・また、参加したいと思います。
- ・とても楽しかったです。
- ・子ども向けプログラムにしては少し時間が長いように思った。隣の子が我慢しきれず、終始大声を出していた。
- ・とても素晴らしい演奏でした。クオリティーが高くてびっくり。子どもはグズグズでしたが、とても楽しかったです。(私が)
- ・私自身が感動しました。めちゃくちゃよかったです。ありがとうございました！
- ・ロバが出てくると思っていたようで、ロバは？と言っていました。席についてですが、座れる地面のところは助かりますが、他の人と距離が近く、コロナ禍で心配なところもありました。
- ・素晴らしいコンサートでした！
- ・また見にきたいと思います。
- ・またこんな劇や音楽に参加したいです。
- ・最初ロバの音楽座は聞いたときわからなかったが、昔 TV で見たことがあると急に思い出したので、楽しくなってきました。
- ・できれば午前中にしてほしかった。とても喜ぶ内容なのにお昼寝時間にかかってしまい、気持ちよさから眠ってしまったのが残念。
- ・古楽器を生で演奏してくださる機会はめったにないので、素晴らしい時間をありがとうございました。
- ・良い時間を親子共々過ごさせていただきました。本当に楽しかったです！
- ・小さなお子さんには少し長かったのかな？と思われる場面が多かったように思いました。
- ・またロバの音楽座さんをお呼びください。
- ・とても楽しく、楽器にも興味を持ちました。ありがとうございました。
- ・心地よかったです。ありがとうございました。
- ・笑顔いっぱい孫はとても楽しんでいました。私は 23 年前の懐かしい面を思い出し、感動しました。素敵な音楽をありがとうございました。
- ・絨毯で鑑賞できてよかったです。
- ・また機会があれば参加したいです。ありがとうございました。
- ・見たことのない楽器というのもあり、興味深かった。
- ・もっと子ども向きな感じかと思っていましたが、大人もとても楽しめて見たこと聞いたことのない不思議な音色でとても良い時間でした。

オ 児童館アンケート結果（回答数 5 人）

① 鑑賞前、公演に期待されたものあてはまるものすべての番号を○で囲んで下さい。

1	子ども自身の楽しみとなること	5 人
2	身近な場所で良質な舞台作品にふれることができること	5 人
3	子どもの感情表現が豊かになること	4 人
4	子どもの心の安定に効果があること	3 人
5	子どもの児童館での活動により影響を及ぼすこと	2 人
6	既存の児童館プログラムにより影響を及ぼすこと	2 人
7	新たな児童館プログラムの展開が期待できること	2 人
8	児童館に来館児童が増えること	2 人
9	児童館に来館する保護者が増えること	2 人
10	児童館に関心を持つ地域の来館者が増えること	1 人
11	地域のさまざまな社会資源(他施設・機関、主任児童委員等)との連携が期待できること	1 人
12	職員の技術向上（スキルアップ）につながる事	3 人
13	職員の意識向上（モチベーション）につながる事	2 人
14	特になし	0 人
15	その他の期待	0 人

② 鑑賞後の子どもに、どのような変化が見られましたか。

1	鑑賞活動に満足し、次への期待を持った	3 人
2	表情が明るくなった	3 人
3	感情表現が豊かになった	1 人
4	普段の行動が活発になった	0 人
5	劇や劇に関する事について友達や家族と話すようになった、今までより気軽にしゃべりするようになったなどコミュニケーションが豊かになった	1 人
6	児童館のプログラムに積極的に参加するようになった	0 人
7	子どもたちから進んで意見を出すようになった	0 人
8	児童館に来館する機会が増えた	1 人
9	児童館職員に関わってくる場面が増えた	1 人
10	舞台芸術に興味や関心を示すようになった	1 人
11	舞台芸術に関する活動に参加するようになった	0 人

12	特に変化はなかった	0人
13	その他	1人

③ I. 公演によって、児童館にどのような効果がありましたか。あてはまるものすべての番号を○で囲んで下さい。

1	子ども自身の楽しみが増えた	2人
2	身近な場所で良質な舞台作品にふれることができた	4人
3	子どもの感情表現が豊かになった	2人
4	子どもの心の安定に効果があった	2人
5	子どもの児童館での活動により影響を及ぼした	2人
6	既存の児童館プログラムにより影響を及ぼした	2人
7	新たな児童館プログラムの開発につながった	2人
8	児童館に来館児童が増えた	2人
9	児童館に来館する保護者が増えた	2人
10	児童館に地域の来館者が増えた	1人
11	地域のさまざまな社会資源(他施設・機関、主任児童委員等)と連携できた	1人
12	職員の技術向上(スキルアップ)につながった	2人
13	職員の意識向上(モチベーション)につながった	3人
14	特に効果はなかった	0人
15	その他の効果	0人

③ II. ③ I で「効果がある」を○で囲んだものについての具体的なエピソード

1 (子ども自身の楽しみが増えた)

・公演中、年齢問わず、集中(夢中で)して鑑賞できている様子だった。

2 (身近な場所で良質な舞台作品にふれることができた)

・心がほっこりしていやされたと言っていた。

5 (子どもの児童館での活動に良い影響を及ぼした)

・良い公演に触れ刺激になった。

④ 公演が効果的に実施されたのは、何が影響したからだと思いますか。

1	推薦文化財作品そのものの内容や質が高かったから	5人
2	児童館が身近で気軽に参加できる施設だから	3人
3	親と子で一緒に参加できるプログラムだったから	4人
4	事業実施までの準備の取組みの過程が良かったから	1人

5	事業実施にともない、児童館で関連プログラムを実施したから	0人
6	事業実施当日のプログラム内容が良かったから	3人
7	事業実施後の反省会の取組みがあったから	0人
8	わからない	0人
9	その他	0人

⑤今回のような劇団公演の機会があった場合、どのように対応しますか？いずれか1つの番号を○で囲んで下さい。

1	また上演してみたい	3人
2	条件（ニーズ）が合えばまた上演したい	2人
3	公演しないと思う	0人
4	わからない	0人

⑥今後、児童館では児童劇等の児童福祉文化財を活用して、どのようなプログラムが実施できそうでしょうか？また、活用のためにどのような工夫が必要だと思いますか。自由にお書き下さい。

<活用プログラム>

- ・ボディパーカッションや表現あそびのワークショップは、音楽スタジオ等で幼児向プログラムなどに入れ込むことができると感じた。

<工夫>

- ・それを楽しく想像させたり感じさせたりするまでの工程をどう行うかは、しかけが必要だと感じる。

カ まとめ

- (ア) 公演実施にあたり、2022年11月11日（金）10:00から児童館及び劇団と事務局との3者打ち合わせを行った。（打ち合わせ内容は①カ参照）
- (イ) 当日の実施状況は、劇団員によるコミカルな曲と演技で子どもたちに飽きさせない工夫が見られた。また、珍しい楽器の演奏は子どもたちの反応もよかった。ワークショップへのつながりも、公演中に観客が参加できる場面が多くあったこともあり、リラックスしていた。
- (ウ) 子どもたちのアンケート結果から、今回の公演をみて、「楽しかった」という感想がもっとも多く（76名中44名）、次に「もっとみたいと思った」と「自分でもやってみみたいと思った」が多かった（各々76名中18名）。後半のワークショップの感想についても「とても楽しかった」という感想が特に多かった（76名中31名）。この結果から、今回の公演は意義ある取り組みであったことがわかった。
- (エ) 保護者へのアンケート結果からは、今回参加のきっかけが「子どもの成長に役立つと思ったから」が一番多く（75名中45名）、次に「自分自身が興味があったから」であった（75名中33名）。さらに「楽しかった」、「感動した」、「わくわくした」と答えており、今回の作品は大人の視点からも楽しめる作品であったという特徴があった。
- 今回の会場は大きな児童館であったため、アンケート配布のタイミングで途中退席する方に対して十分な案内ができなかったが、事前に劇団と児童館のコミュニケーションを密にしておけば対応は可能だった。なお、「小さなお子さんには少し長かったのかな？」という意見も何件かあった。
- (オ) 児童館職員アンケート結果からは、今回の公演が効果的に実施された要因として、作品そのものの質の高さの他、「親子で参加できるプログラムだったから」や「児童館が身近で気軽に参加できる施設だから」など児童館ならではの特徴を表していることがわかった。

④愛知県児童総合センター

ア 実施日・演目・参加人数

- ・2023年1月9日（祝・月） 13:00～15:00
- ・『らふいゆ れふいゆ』（ラストラーダカンパニー&X-jam)
- ・54名

イ 実施状況

スケジュール	時間	レポート内容
準備		公演準備についての児童館、劇団、事務局の役割分担、準備の流れなど公演会場の状況設営の状況や工夫など
	8:50	事務局到着 センター長と担当職員に挨拶。
	9:05	ラストラーダカンパニー到着 すぐに会場設営開始。 舞台設営は出演側のみで準備。
	10:25	照明・客席などは舞台設営後設営。 (舞台から2メートル離して絨毯を敷く。絨毯の後ろに椅子席を設置)
	10:45	研究会委員到着。
	11:00	ラストラーダカンパニー、センター職員、事務局打ち合わせ、最終確認。 ・開場時間・開始時の案内確認（司会が「よろしくお願ひします。」の後に暗転。） ・当日の進行（公演→休憩→ワークショップ。休憩は一度全員退出して絨毯を剥がす） ・撮影について（ワークショップのみ可とする） ・終演後出入口にて物販の実施。（館内では通常は物販禁止だが、特例として会場内のみで実施可となった。事前打ち合わせで確認済）
	11:25	演者個別練習。 昼食。

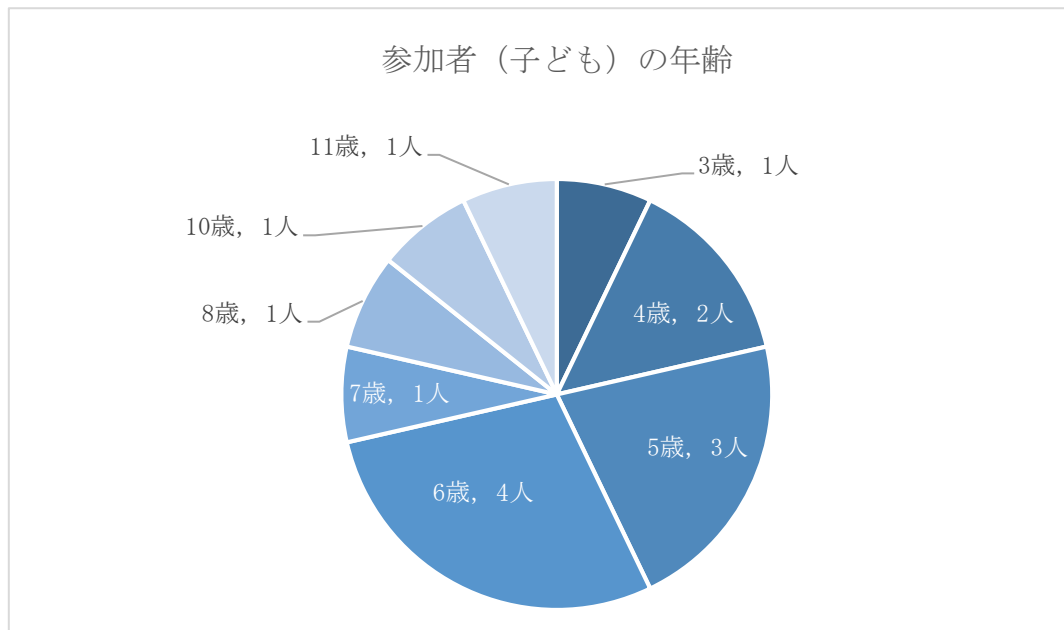
上演前		劇団（演者）の様子、児童館側の運営、子どもたちの受け入れ・進行等の様子
	12:30	<p>開場直後に2組入場（絨毯に座る）</p> <p>出演者は出入口中扉にて、待機。</p> <p>※センター職員は受付対応をしていた。会場内は最初事務局職員が対応していたが、途中からセンター職員が参加者と共に会場内に入り椅子か絨毯への着席を案内していた。参加者は絨毯前列から座り始める。</p>
	12:55	司会より、本日の公演に際して守って欲しいことや会場の案内のアナウンスをする。
	13:00	立地上会場まで車で来館する方多いこと、近隣商業施設目当ての方と同じ駐車場を利用することもあり、駐車場が満車になって施設から遠い場所に駐車することになったことを踏まえ、開場を5分遅らせた。
上演中		<p>子どもの反応、児童館職員など全体の様子</p> <p><子どもの反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウンが出てきたとき1人泣いた子はいたが、ほとんどの子は動きや表情を見て楽しんでいた。 ・開始直後は保護者や兄弟などと小声で話をしながら見ていたが、開始10分程度経過すると食い入るように見ていた。 ・演目が進んでいくと演者の表情や動きを見て笑ったり、音楽に合わせて立ったり、踊ったりする子や、おどけた動きをする保護者と一緒に笑う姿が多く見られた。また演者の動きに対して「寝たの?」「大丈夫?」などの保護者に話していた。 ・開演から1時間を経過し曲調が落ち着いてくると一部の子どもたちから「もう終わるの?」という声も聞こえた。 <p><センター職員の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・途中入場はなし。1組が途中で退席した際にはセンター職員が出入口まで付き添い対応していた。 <p>14:10 終演</p>

ワークショップ		ワークショップで何を行ったか、どんなワークショップだったか、その様子
	14:22～	<p>終演後 10 分間休憩 会場内配置転換のため全員退出を促す。 (ワークショップ準備のため、センター職員、事務局で絨毯を剥がす)</p> <p>休憩後、会場内に戻ってきたのは参加者の約半数だった。</p> <p><ワークショップのプログラム構成></p> <p>①本日の演目についてのクイズ ②ピアノ即興 ③パントマイムのワークショップ ④本日の舞台についてお話 ⑤質問コーナー</p> <p><実施内容></p> <p>本日の公演に合わせた内容を盛り込み、パントマイムではじゃんけんを使った動作から実際にパントマイムを行うにあたっての注意点や見せ方などを伝える。最後には出演側と観客側に分かれて互いのやっている姿を見る機会もあった。</p> <p>質問では小学生から「ピアノから箱に移ったのはどのように移動したのか」があった。</p> <p>また保護者からは「ストップモーションの場面が絵本を見ているようでとてもきれいだった」と感想があがった。</p>
アンケート		アンケートの進め方と記入の様子
	14:50	<p>バインダーにアンケートとペンを挟み子ども用、保護者用に分けて準備していた。</p> <p>ワークショップ終了後アンケート用紙をセンター職員と事務局職員が配布。椅子、机は用意せず床面に座ってもらい記入した。</p> <p>子どもたちだけで書いていたグループには事務局職員が入り説明しながら記入した。</p> <p>記入後はセンター職員、事務局職員がバインダーごと回収し、まとめた。</p> <p><記入の様子></p> <p>子どもたち向けのアンケートを子どもだけで書くのが難しいと感じた保護者は、説明しながら聞き取っている方もいた。また、保護者が代筆している方もいた。未就学児は保護者や大人が代読し</p>

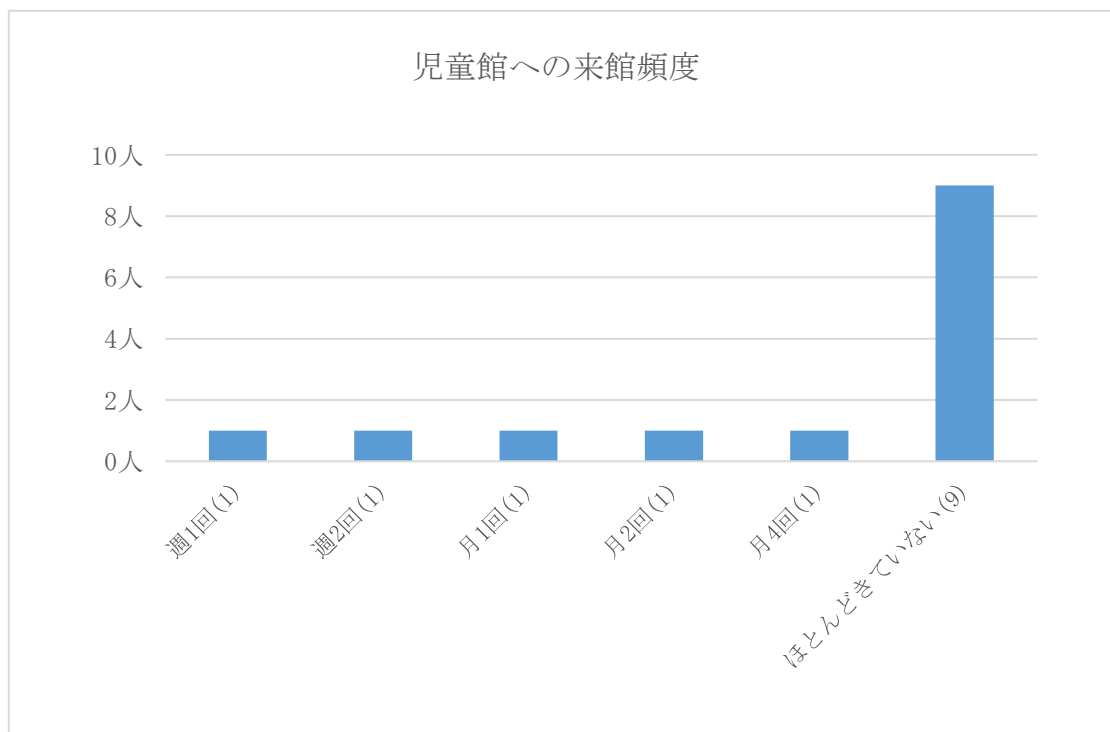
		<p>ながら説明をされると記入をしていた。</p> <p>裏面の絵を真剣にかく子が多く、見た様子を書いたり残っていたセットに書いている子もいた。</p>
公演後		<p>公演後の子どもたち、保護者の様子、聞こえてきた感想・つぶやき</p>
	15:00 頃	<p><子ども・保護者の様子></p> <p>数組が残り、セットの写真を撮ったり、保護者と公演の感想を話していた。</p> <p>多くの方がアンケート記入後センター職員、事務局職員へ手渡しして退出した。</p> <p><感想・つぶやき></p> <p>「楽しかった」「面白かった」</p>
		<p>子どもたちの送り出しの様子（児童館、劇団、事務局などの関わり）</p>
		<p><センター職員></p> <p>アンケート回収と子どもへの声掛けをしていた。</p> <p>劇団は、ワークショップ中から出演していない方が片付けをしていた。片付けを行っている方はそのまま片付けを実施。出演した3名はアンケート記入している時に退出。1名が物販を行いながら対応していた。（楽譜・CDなどを販売していた）</p> <p>事務局は、アンケート回収と参加者へ忘れ物の有無など確認の声掛け、公演について子どもたちと対話をした。</p>

ウ 子どもアンケート結果（回答数 14 人）

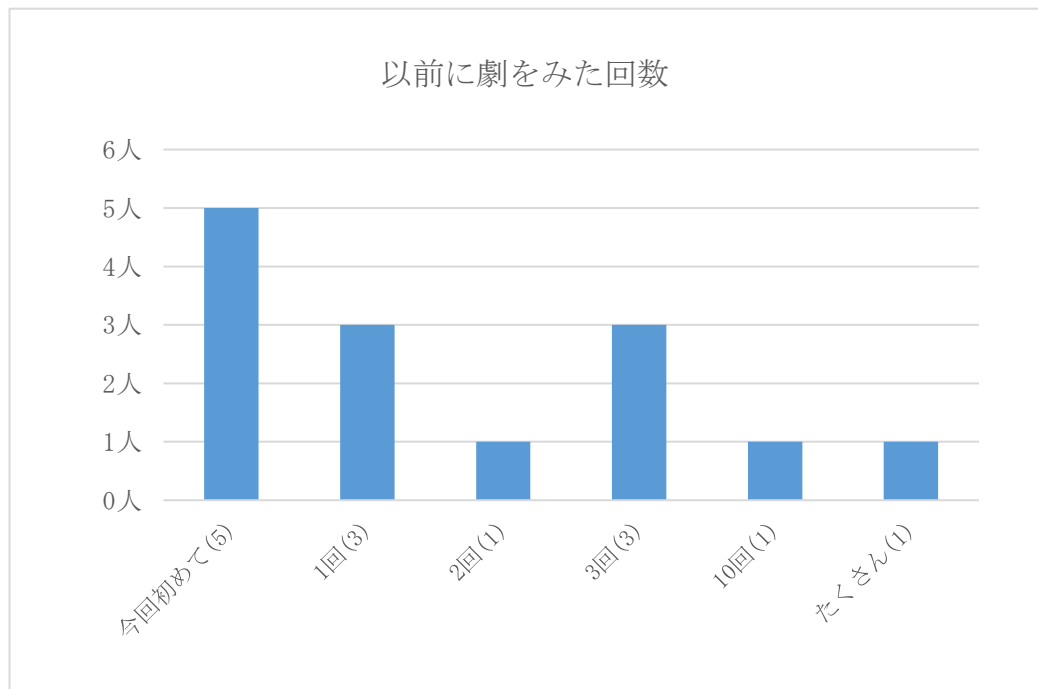
Q1. あなたはなんさいですか？



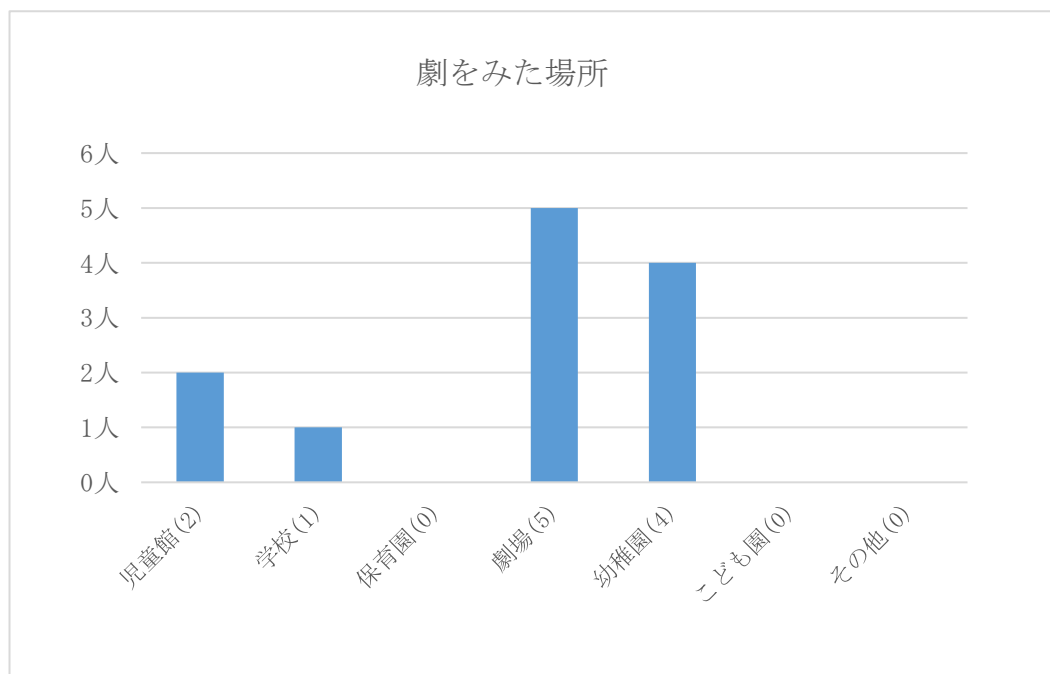
Q2. じどうかんにどれくらいきていますか？



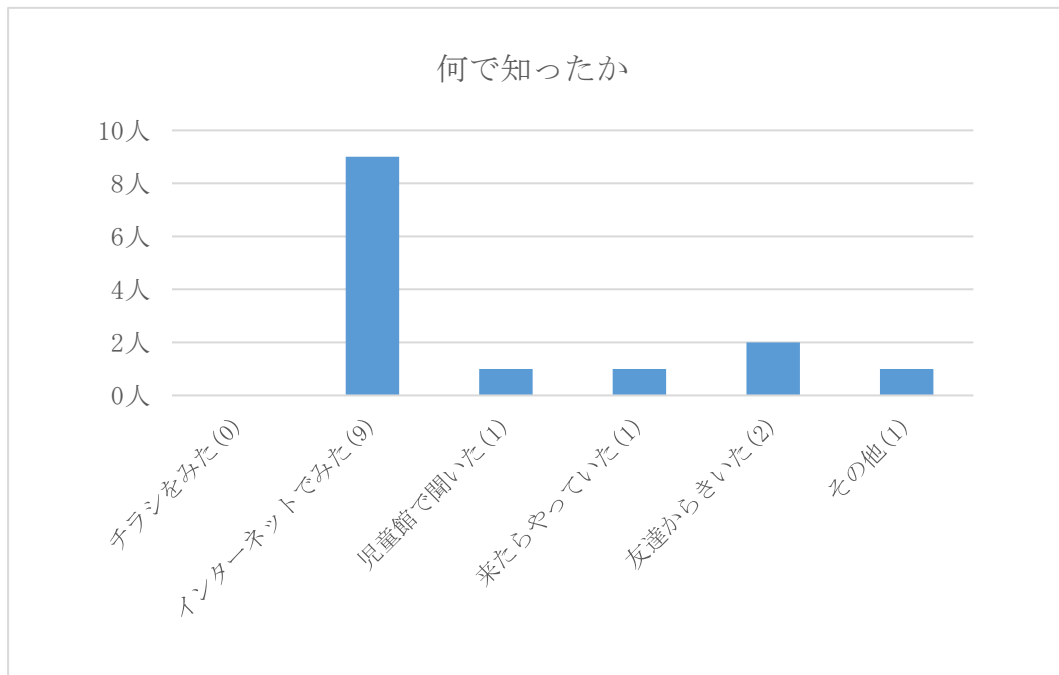
Q3①. いままでげきをみたことがありますか？



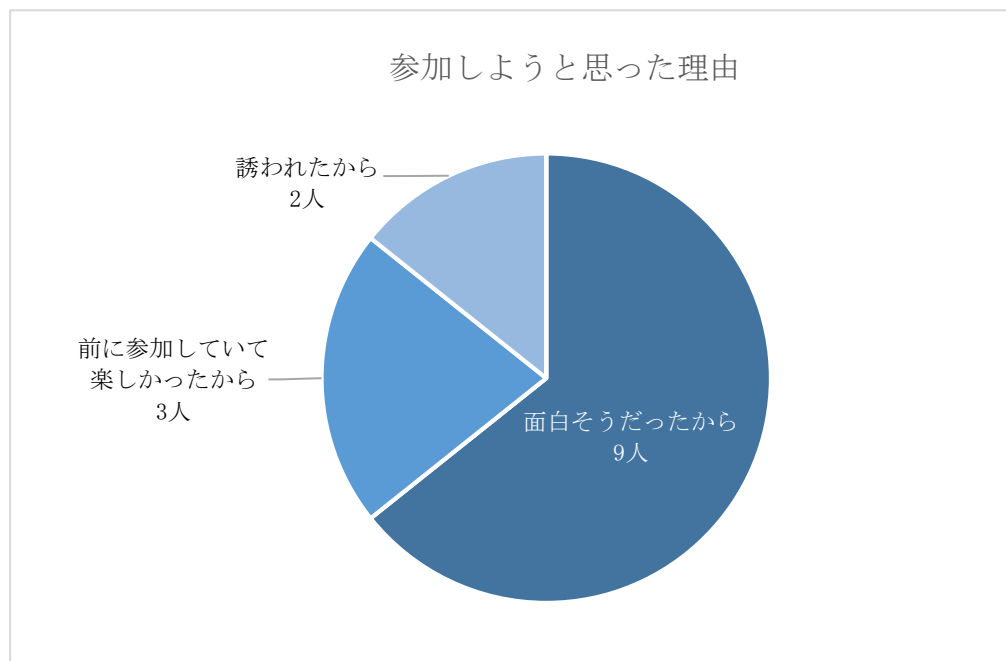
Q3②. どこでみましたか？（複数）



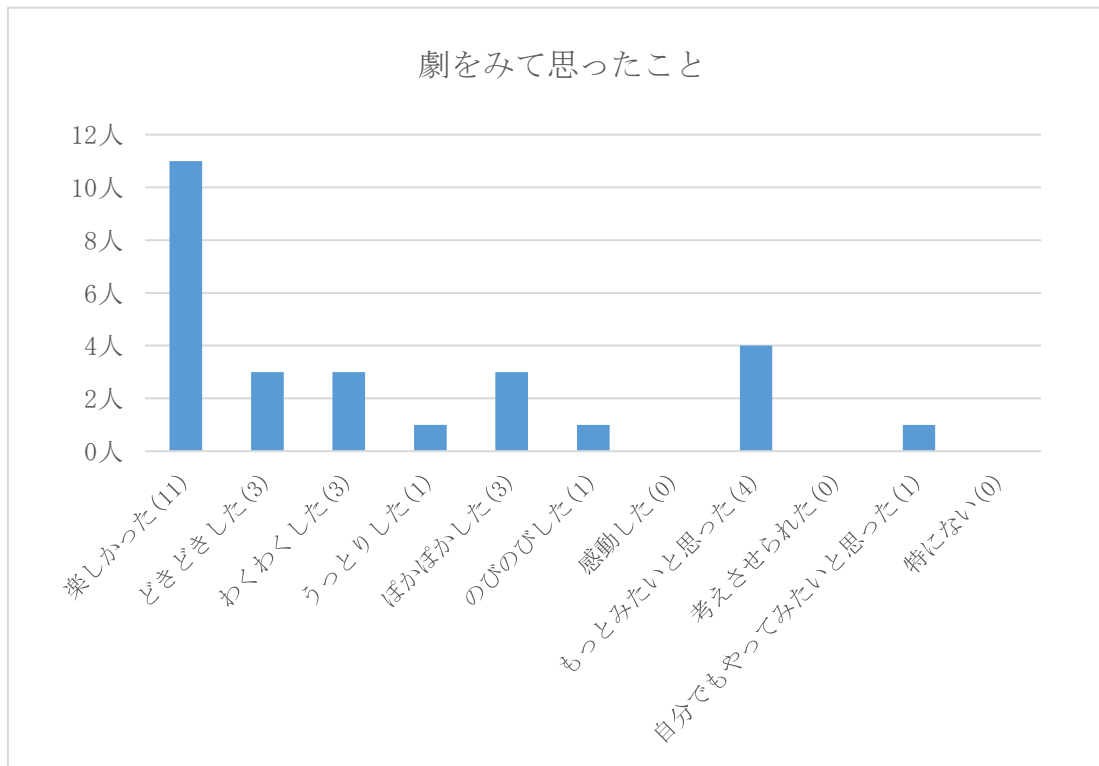
Q4. こんかい、なにで知りましたか？



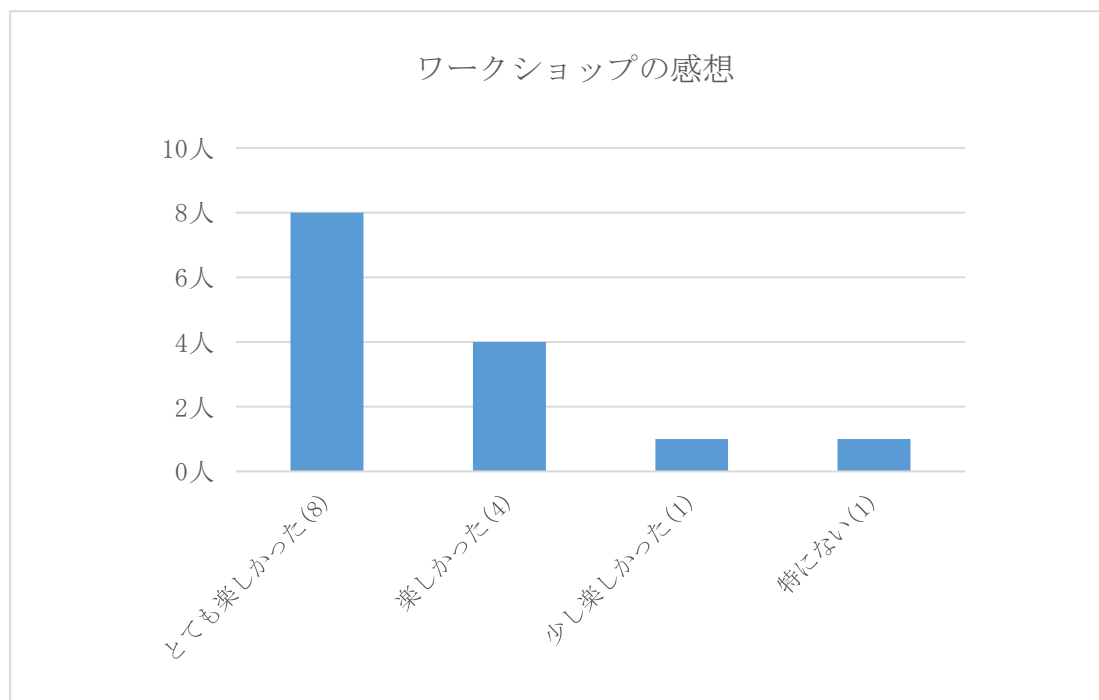
Q5. どうしてさんかしようとおもいましたか？



Q6. げきをみておもったことに○をつけてください。(複数)



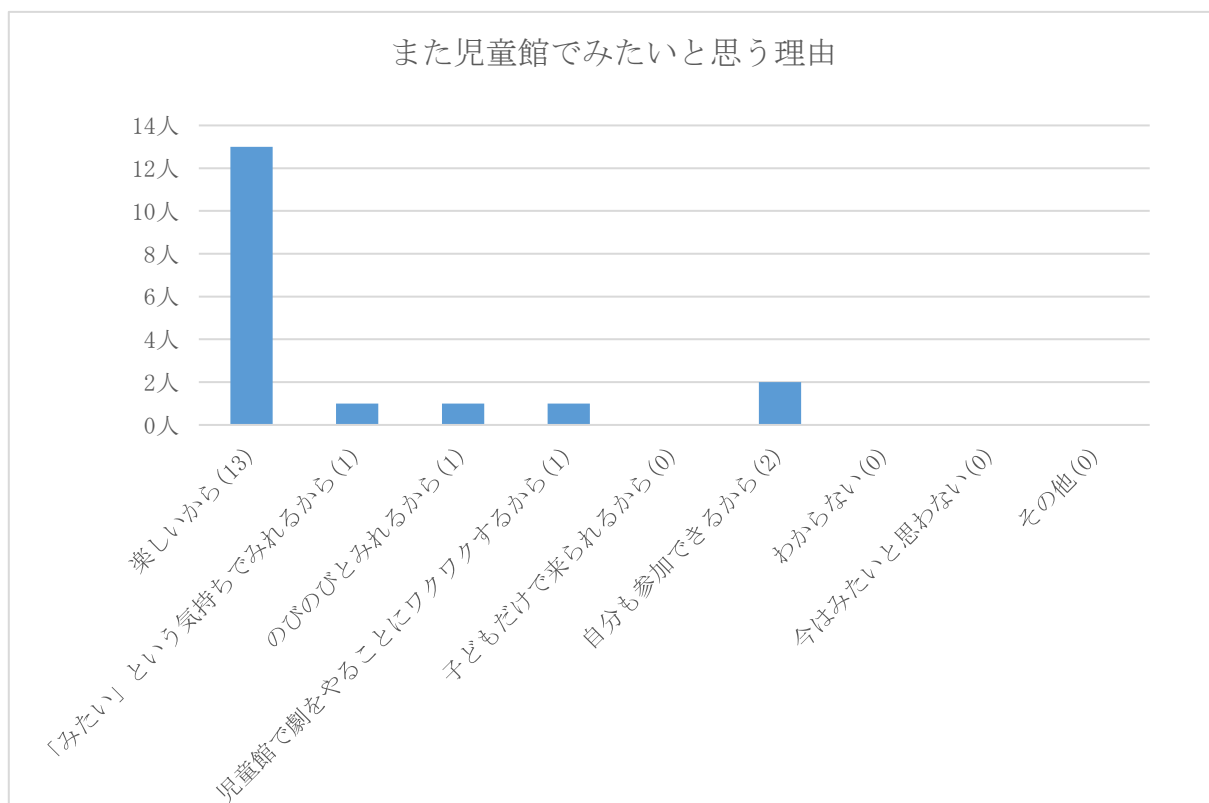
Q7. 「げきのあと みんなでいっしょにやったこと」はどうでしたか？



Q8. たのしかったことや、またやってみたいことの無いようをおしえてください。

- ・かくれみのの言葉なくしなどしたい。
- ・げき。
- ・ぜんぶ。
- ・さいしょのところ。
- ・かくふをとりあげたところがおもしろかった。
- ・かばんでのパントマイム。
- ・ワークショップでかばんが動かなくなるやつ。
- ・ライトがいろんないろになるところ。ピエロすきじゃないけどたのしかった。
- ・おちばがばさっとでてくるのがおもしろかったです。

Q9. またじどうかんでげきをみたいとおもいますか？それはなぜですか？（複数）



<そのほかに気づいたことやかんじたこと>

- ・ピアノの下をかくしたほうが、みえなくてもっと楽しくみれると思った。
- ・たのしかった ぴえろ。
- ・またあそびたいです。
- ・げきがたくさんあればいいな。／・たくさんあればいい。
- ・はっばがきれいでした／・はっばきれいだった。

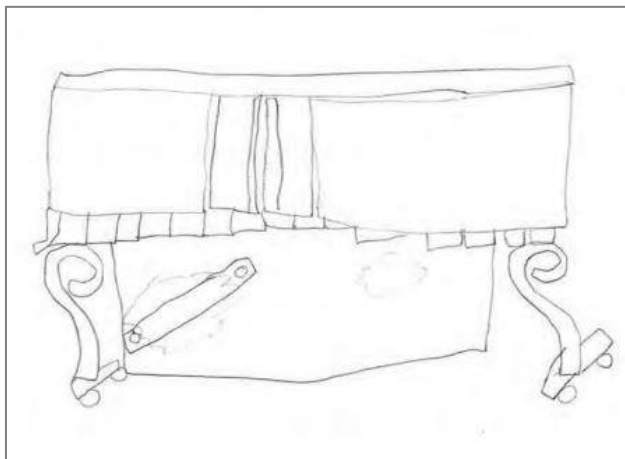
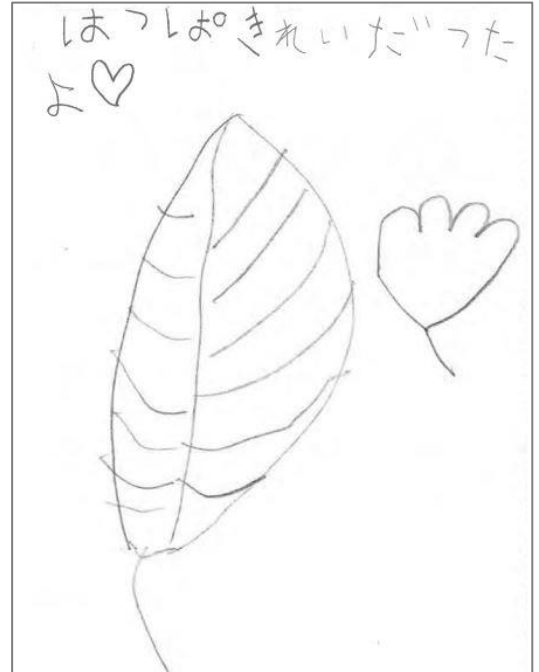
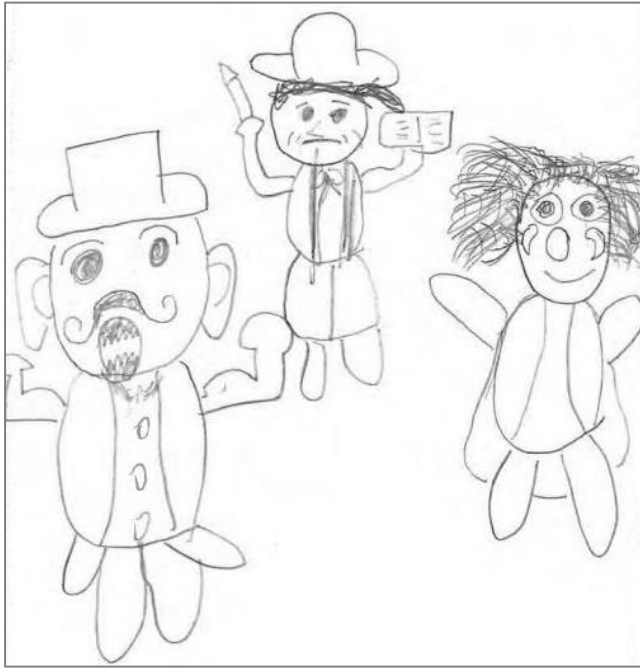
■劇を見て思ったこと

どんな気持ち？

かおをかいてね♪

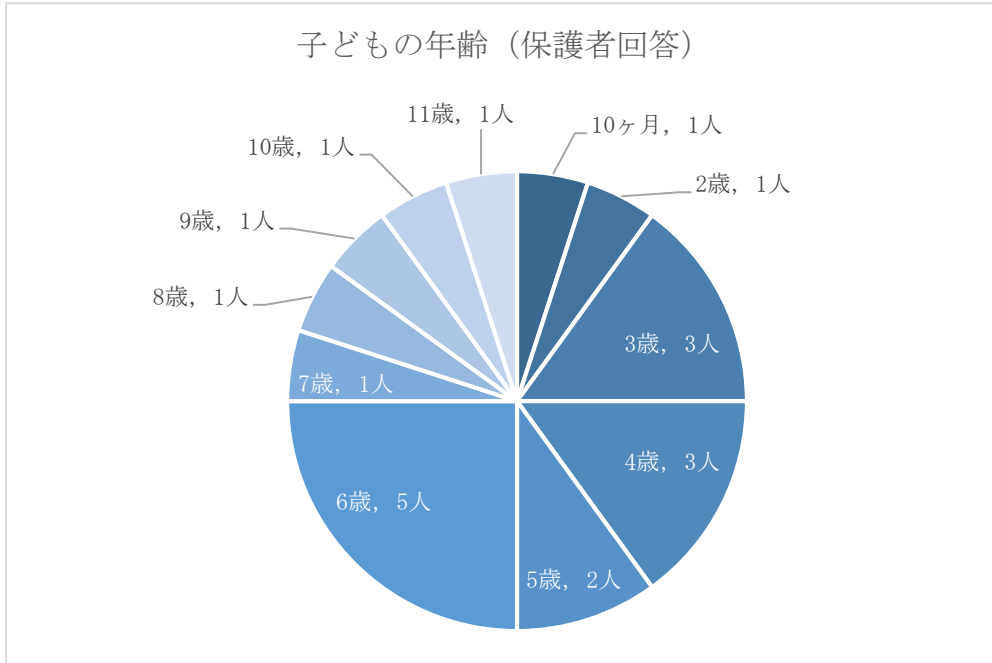


■裏面の作画（12件うち3件を表示）



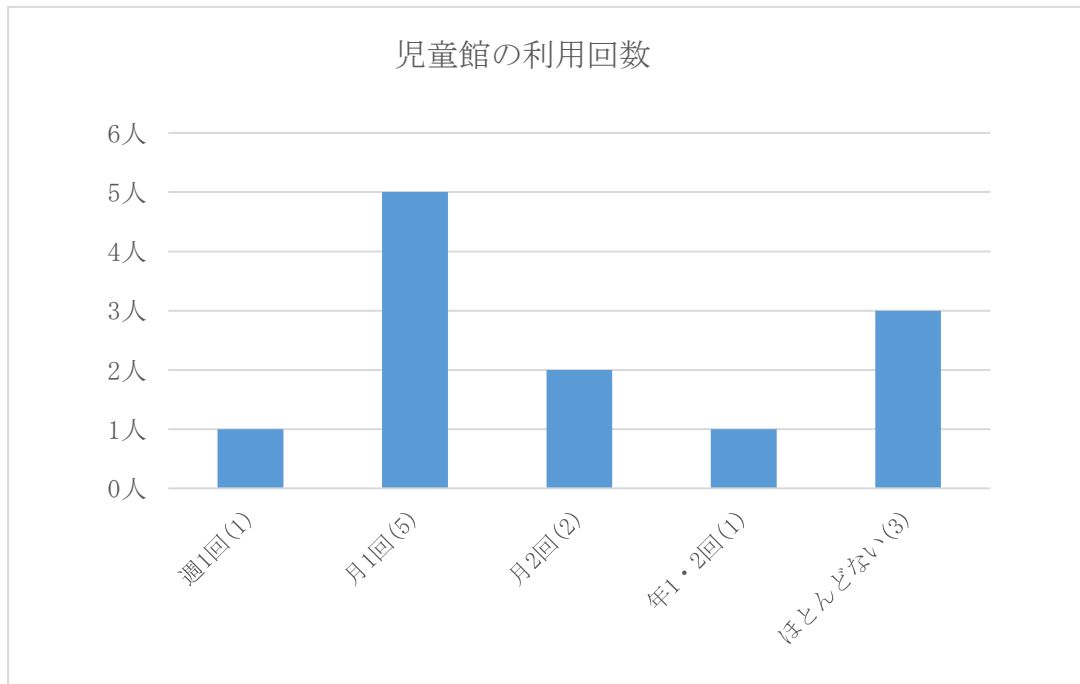
エ 保護者アンケート結果（回答数 13 人）

①お子さんの年齢（月齢）を教えてください。



・ 6 組の兄弟親子あり

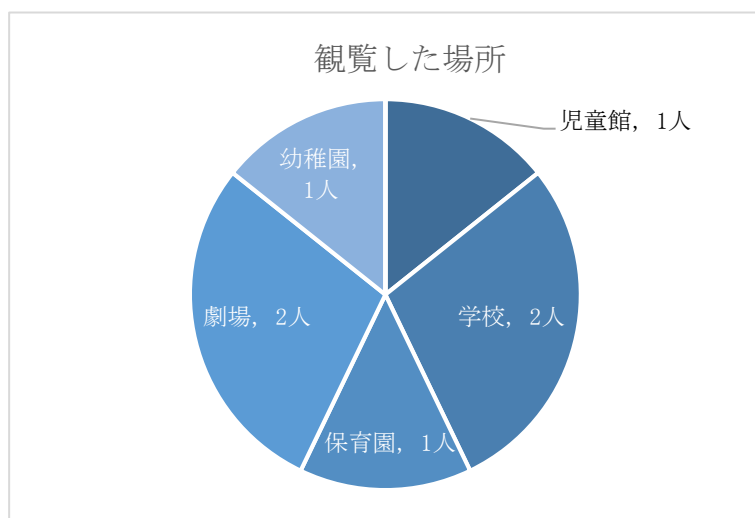
②児童館を利用することはありますか？（未回答を省略している）



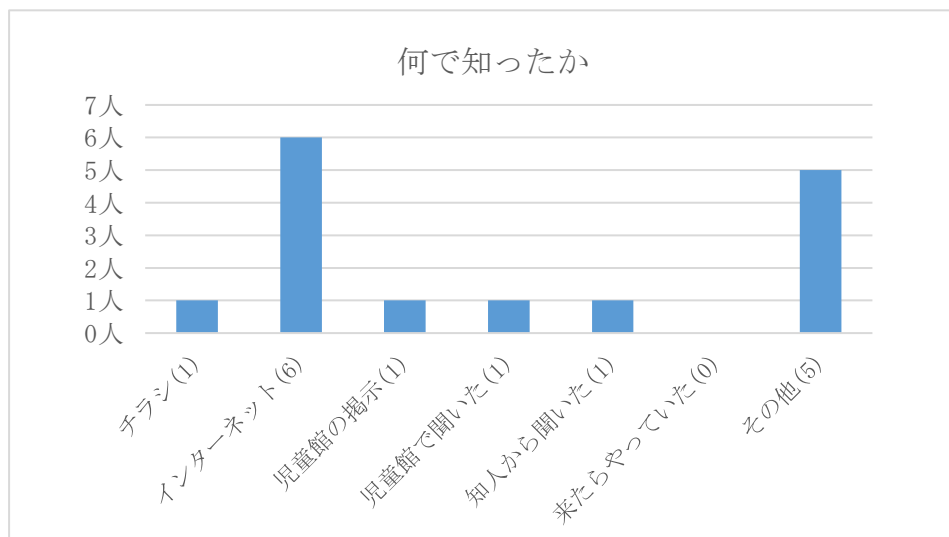
③今まで子どもと一緒に児童館でプロの劇団の舞台を見たことがありますか？

今回がはじめて	9人
1回	1人
2回	1人
3回	1人
10回	1人

観たことがある場合はどこで観ましたか？（複数）

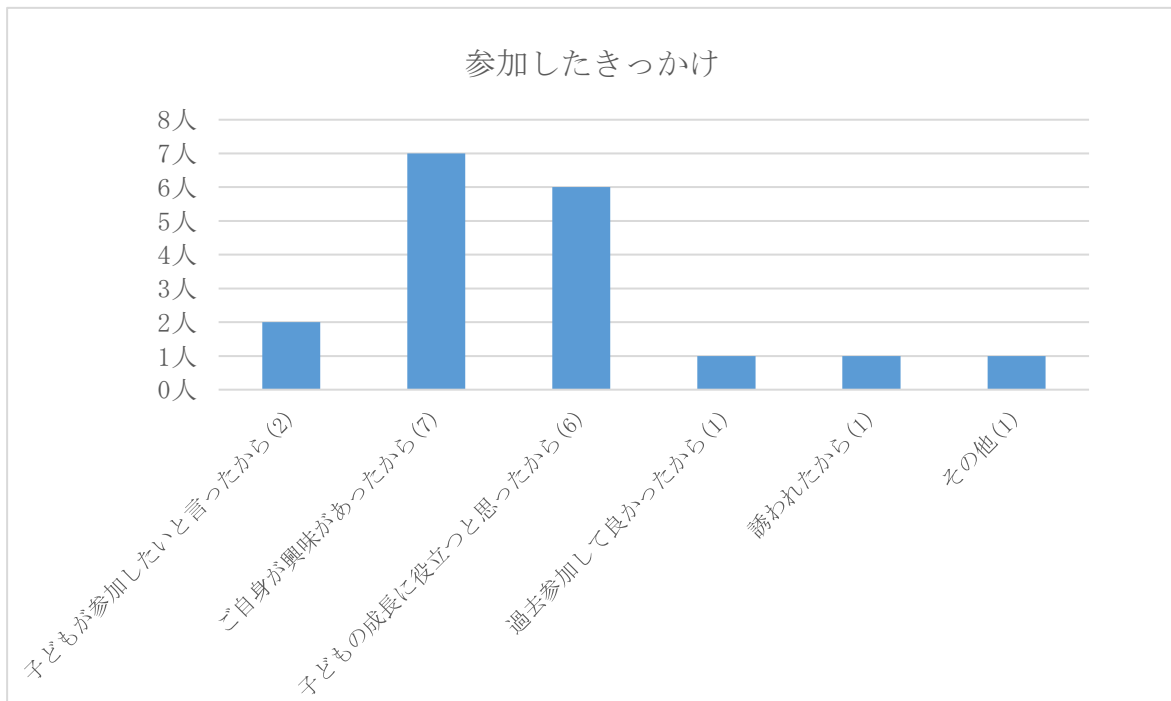


④今回、上演があることを何で知りましたか？（複数）



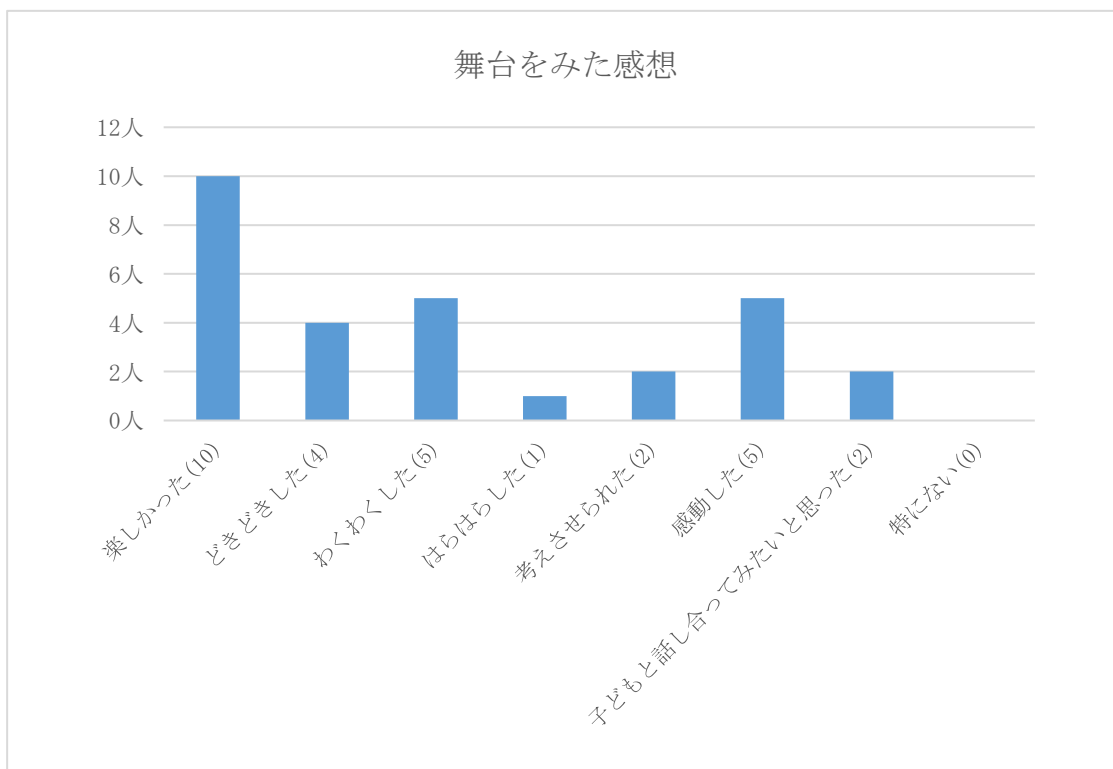
<その他回答> ・LINEのお知らせ(2)／・Instagram／・Facebook
 ・家族から聞いた

⑤参加したきっかけを教えてください。(複数)



<その他回答> ・ワークショップがあったから。

⑥生の舞台を直接鑑賞したことについて感想を教えてください。(大人の視点で) (複数)



<具体的な感想>

- ・今回の演目はピアノの曲も素敵でした。
- ・とてもわくわくしました。言葉がゆっくりの2才児もいっしょに観劇しましたが、内容が分かったようで声をあげて楽しんでいました。
- ・目の前でくりひろげられること、目と目が合うこと、生ならではのドキドキがつまみついてとてもステキでした。
- ・言葉はなくても、こんなに豊かに表現できることに感動しました。
- ・3人のかけ合いの間がとてもおもしろかったです。音楽をただ聞くだけではなく、こうやって楽しめる体験ができて本当に良かったです。

⑦舞台を観ていた（参加していた）お子さんの様子で気づかれたことはありますか？

- ・はじめに流れていた音楽や雰囲気がかわいと言っていたが、はじまったらその世界にひきこまれて楽しんでた。
- ・集中して目がキラキラしていた／・笑顔で見えてた。
- ・楽しんでました。1時間あっという間でした。
- ・ピエロが怖かったけど楽しそうに動いているのをみて、楽しんでました。ワークショップも怖くて遠くでやってましたが最後は楽しくやれることができました。ありがとうございます。
- ・興味深そうでした／・楽しそうだった。／・ひきつけられて観ていたと思います。
- ・最初は怖がっていましたが途中から笑ってました。
- ・袖にはけたときに「どこにいったんだろうねー？」と気にしている様子がとてもかわいかったです。
- ・少し間延のびしている時間があった。

⑧今回は通常の上演に加えて「遊びのプログラム」（舞台のあと、みんなで一緒にやったこと）を実施しています。それに対する感想をお願いします。

とても楽しかった	6人
楽しかった	4人
少し楽しかった	1人
特にない	0人

<具体的な感想>

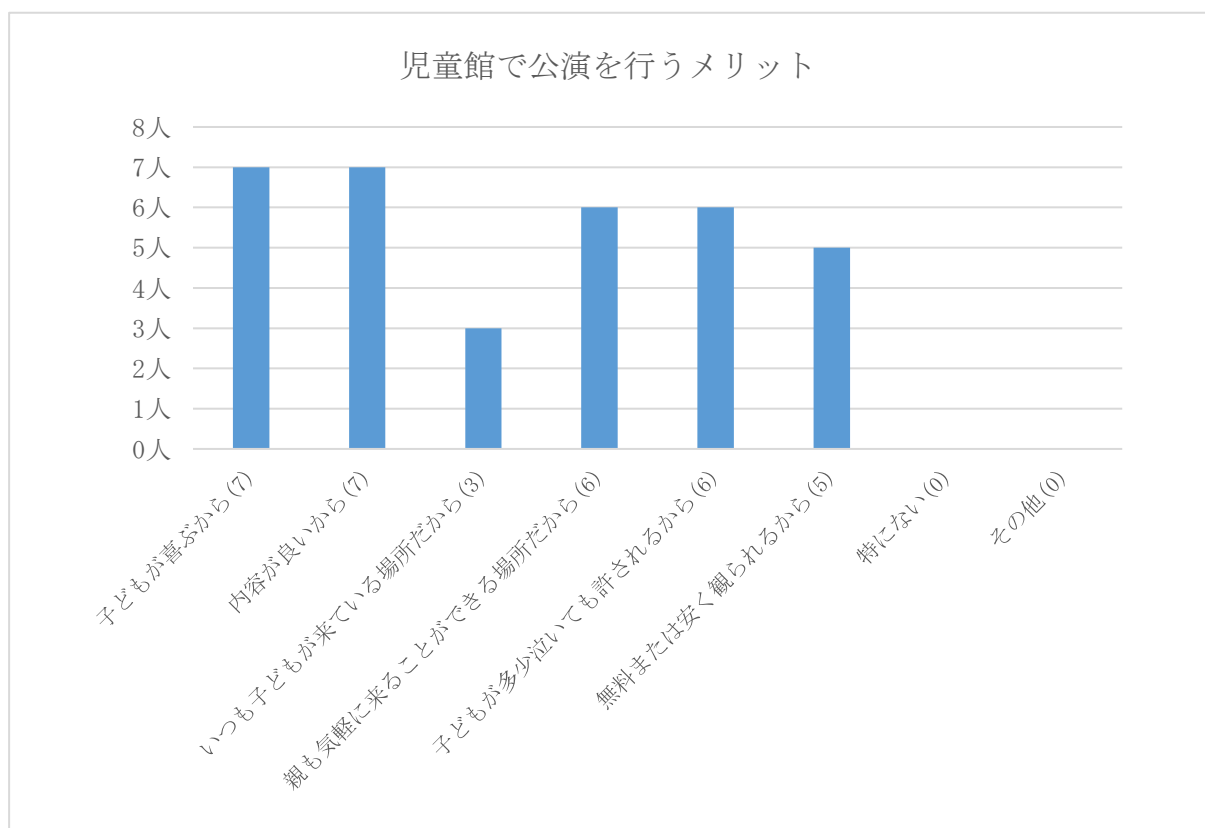
- ・プロにコツを教えていただき皆で参加できたのでいつもは恥ずかしがってやらない子どもたちも体をうごかし、楽しめた。
- ・葉が一つ一つ手作りで色んないろや材料、音も様々でその説明があつて良かったです。

- ・どんなWSなのか内容を知らなかったのでパントマイムを教えてもらえてよかった。分かりやすく楽しくワークショップしてくださりました。
- ・プロから直接教えてもらう貴重な機会、出演者の声や表情、小学生の息子に響いたと思います。
- ・子どもにわかりやすいペース・話し方でやってくれていて、はじめはやりたがらなかった息子も楽しそうにやっていた。
- ・パントマイムのことをもう少し説明してあげてほしかった。

⑨今回の体験はお子さんの情操を豊かにする（美しいものや心を動かす出来事にふれ、想像力を豊かに持ち、コミュニケーション力を育むなど）きっかけになりますか？

とてもそう思う	9人
思う	2人
少し思う	0人
どちらとも言えない	0人

⑩児童館で今後プロの劇団の公演を行うメリットはなんだと思いますか？（複数）



⑪今回の舞台が「児童福祉文化財」ということは知っていましたか。

知っていた	3人
初めて知った	8人

⑫お気づきの点、ご自由にお書きください

- ・ピアノがすごかった。
- ・プロの劇を観る機会に恵まれて本当にうれしく思いました。子どもの情操を豊かにするために今後も一緒にいろいろ観たいと思います。またぜひ企画していただきたいです。ありがとうございました！
- ・ワクワクしたりドキドキしたり日常で感じることの無い気持ちを感じることができ、とても嬉しかったです。ありがとうございました。
- ・豊田みよしおやこ劇場に入っていてシモシュもラ・ストラダも別々に鑑賞したことがあり、どちらもとても良かったので今回大よろこびで参加しました。期待以上にステキな舞台できっと子どもたちの心に残ったと思います。オシャレ！美しい！大好きです！

オ 児童館アンケート結果（回答数 5 人）

① 鑑賞前、公演に期待されたものあてはまるものすべての番号を○で囲んで下さい。

1	子ども自身の楽しみとなること	3人
2	身近な場所で良質な舞台作品にふれることができること	4人
3	子どもの感情表現が豊かになること	1人
4	子どもの心の安定に効果があること	0人
5	子どもの児童館での活動によい影響を及ぼすこと	0人
6	既存の児童館プログラムによい影響を及ぼすこと	1人
7	新たな児童館プログラムの展開が期待できること	3人
8	児童館に来館児童が増えること	0人
9	児童館に来館する保護者が増えること	0人
10	児童館に関心を持つ地域の来館者が増えること	2人
11	地域のさまざまな社会資源(他施設・機関、主任児童委員等)との連携が期待できること	0人
12	職員の技術向上（スキルアップ）につながる	1人
13	職員の意識向上（モチベーション）につながる	1人
14	特になし	0人
15	その他の期待	0人

② 鑑賞後の子どもに、どのような変化が見られましたか。

1	鑑賞活動に満足し、次への期待を持った	0人
2	表情が明るくなった	3人
3	感情表現が豊かになった	1人
4	普段の行動が活発になった	0人
5	劇や劇に関する事について友達や家族と話すようになった、今までより気軽におしゃべりするようになったなどコミュニケーションが豊かになった	0人
6	児童館のプログラムに積極的に参加するようになった	0人
7	子どもたちから進んで意見を出すようになった	1人
8	児童館に来館する機会が増えた	0人
9	児童館職員に関わってくる場面が増えた	0人
10	舞台芸術に興味や関心を示すようになった	0人
11	舞台芸術に関する活動に参加するようになった	0人

12	特に変化はなかった	0人
13	その他	3人

③ I. 公演によって、児童館にどのような効果がありましたか。あてはまるものすべての番号を○で囲んで下さい。

1	子ども自身の楽しみが増えた	1人
2	身近な場所で良質な舞台作品にふれることができた	3人
3	子どもの感情表現が豊かになった	0人
4	子どもの心の安定に効果があった	0人
5	子どもの児童館での活動により影響を及ぼした	0人
6	既存の児童館プログラムにより影響を及ぼした	2人
7	新たな児童館プログラムの開発につながった	1人
8	児童館に来館児童が増えた	0人
9	児童館に来館する保護者が増えた	0人
10	児童館に地域の来館者が増えた	0人
11	地域のさまざまな社会資源(他施設・機関、主任児童委員等)と連携できた	0人
12	職員の技術向上(スキルアップ)につながった	1人
13	職員の意識向上(モチベーション)につながった	2人
14	特に効果はなかった	0人
15	その他の効果	0人

③ II. ③ I で「効果がある」を○で囲んだものについての具体的なエピソード

1 (子ども自身の楽しみが増えた)

- ・親子で手拍子をするなど楽しんでいる姿が見られた。

2 (身近な場所で良質な舞台作品にふれることができた)

- ・公演後親子の会話で「すごいね！ここでこんなに良いものがみられるなんて！」という声がありました。
- ・幼すぎて怖がる子もいたが生身の人間が演じる様子を惹きこまれるように見ている子もおおく、なにかしら伝える使えるものがあるんだということが嬉しくもあり一緒に感激できた。

6 (既存の児童館プログラムにより影響を及ぼした)

- ・申込していない当日の来館者にもどんな催しなのか質問をうけた。

13 (職員の意識向上 (モチベーション) につながった)

- ・音楽が好きな職員が多いため準備の段階から当日を楽しみに、進めることができました。

④ 公演が効果的に実施されたのは、何が影響したからだと思いますか。

1	推薦文化財作品そのものの内容や質が高かったから	2人
2	児童館が身近で気軽に参加できる施設だから	1人
3	親と子と一緒に参加できるプログラムだったから	2人
4	事業実施までの準備の取組みの過程が良かったから	0人
5	事業実施にともない、児童館で関連プログラムを実施したから	0人
6	事業実施当日のプログラム内容が良かったから	3人
7	事業実施後の反省会の取組みがあったから	0人
8	わからない	0人
9	その他	1人

⑤ 今回のような劇団公演の機会があった場合、どのように対応しますか？いずれか1つの番号を○で囲んで下さい。

1	また上演してみたい	5人
2	条件 (ニーズ) が合えばまた上演したい	0人
3	公演しないと思う	0人
4	わからない	0人

⑥ 今後、児童館では児童劇等の児童福祉文化財を活用して、どのようなプログラムが実施できそうでしょうか？また、活用のためにどのような工夫が必要だと思いますか。自由にお書き下さい。

<活用プログラム>

- ・児童劇などの舞台芸術作品だけではなく出版物 (書籍) も積極的に来館者に見てもらえるようにする。
- ・子どもの表現方法として難しさは多々あると想像できますが言葉のないお芝居 (パントマイム) は面白いと感じました。
- ・出版物などは専用のコーナー等を設けて多くの来館者に手に取ってもらうようにする。
- ・劇に限らず、子どもたちの目の前で展開されるライブパフォーマンスを体験してもらえることが実施できそう。

<工夫>

- ・子育て支援広場や絵本コーナーで見てもらえるようラインナップに降り入れるなどしていきたいです。
- ・言葉を発さないことを子どもにどれだけ伝えられるか、または制約すること自体難しいですが身体を使った表現は楽しそうなのでパネルにお題を書いて見せながら〇〇になってみよう！！で一緒になりきる遊びができそうです。
- ・舞台芸術は非日常な空間を創出できるので、定期的に年間スケジュールに組み込むようにする。
- ・参加者の集中力を考え、年齢を今回より少し上にする。体験する場面もあった方が良いのでWSとセットにする。

カ まとめ

- (ア) 公演実施にあたり、2022年11月24日（木）17:30から児童館及び劇団と事務局との3者打ち合わせを行った。（打ち合わせ内容は①カ参照）
- (イ) 公演の場所は、大型館ゆえの公演会場までの導線のわかりやすさや控室を確保しやすいなどメリットがあったと同時に、休憩時や写真撮影時の案内については分かりやすくするなど、きめ細かい運営が必要であった。公演後には、客席に残っていた子どもたちが、きれいな落葉が気に入ったのか舞台に近づき、落葉を手にとって見つめ、やがて嬉しそうにかたづけの手伝いをしていた。
- (ウ) 子どもたちのアンケート結果から、今回の公演をみて、「楽しかった」という感想がもっとも多く（14名中11名）、また、後半のワークショップの感想についても「とても楽しかった」という感想が特に多かった（14人中8名）。また、ほとんどの子どもたちが「また児童館でみたいとおもう」と答えていることから、今回児童館における公演の実施は成功裏に収めることができたといえる。
- (エ) 保護者へのアンケート結果では、ほとんどの方が今回の公演が「子どもの情操を豊かにするきっかけになる」と回答している。また、今後児童館で児童福祉文化財である劇団の公演を行うメリットについて尋ねたところ、「こどもが喜ぶから」、「親も気軽に來ることができる場所だから」、「多少泣いても許されるから」、「無料または安く観られるから」という意見が多く、今回の取り組みは保護者の視点からも継続していく必要性を感じていることがわかった。
- (オ) 児童館職員へのアンケートの結果、「今回のような劇団公演の機会があった場合、どのように対応しますか」という問いに対し、全員が「また上演してみたい」と回答している。このことから、児童館に与える効果として「既存の児童館プログラムに良い影響を与えた」や「職員の意識向上（モチベーション）につながった」という意見に結び付いたことが推察される。

⑤荒川区立熊野前ひろば館

ア 実施日・演目・参加人数

- ・2023年1月30日（月） 11:00～12:15
- ・『ハイハイ、ごろ～ん。』（劇団風の子九州）
- ・28名

イ 実施状況

スケジュール	時間	レポート内容
準備	: ~	公演準備についての児童館、劇団、事務局の役割分担、準備の流れなど公演会場の状況設営の状況や工夫など
	8:30	劇団到着（劇団は前日入り。裏口にバスが停車できなければ敷地内別スペースに停める手筈になっていた。打ち合わせ通り）
	8:45	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局到着。搬入経路チェック、階段だったが特に問題なし。 ・劇団の方々は和気あいあいと準備をしている。公演に使う物品はほぼ手作りとのこと。 ・ベビーカー置き場についての言及があり、児童館から「今回は1階に置く」との返答。普段は会場内にベビーカー置き場、荷物置き場を作っているとのこと。
	9:00	<ul style="list-style-type: none"> ・児童青少年課長到着。劇団と挨拶。 ・絨毯、クッションに至るまで、コロコロをかけるなど丁寧に準備を行なっている。 ・畳んだ卓球台が多目的ホール隅にあり。劇団側は「日常」なので問題ないとのこと。劇団の声掛けで児童館スタッフがすぐ対応するなど、スムーズな準備が行われた。
	10:15	<ul style="list-style-type: none"> ・劇団と児童館の最終打ち合わせ。劇団からは「しないしてほしいことは特にないが、舞台の後ろに入ってしまったときはお願いしたい」との要望あり。検温場所の確認あり。 児童館からは「劇団の世界観を壊したくないので、挨拶も最小限にしたい」との話があった。劇団は「普段と違うと参加者が緊張してしまうので、普段通りの声掛けを」と応えていた。 ・換気等の対策、PCR検査を受け、マスクを外して公演することについて再度報告あり。打ち合わせ通り。

	10 : 25	<ul style="list-style-type: none"> ・他事務局到着。厚労省、研究会委員到着。 <p>会場と待合室が別室で、早く来た参加者が入場を待つこともなくスムーズな受け入れだった。</p>
上演前	: ~	劇団（演者）の様子、児童館側の運営、子どもたちの受け入れ・進行等の様子
	10 : 45	<ul style="list-style-type: none"> ・演者、衣装に着替え会場入り。
	10 : 50	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が集まり始める。 ・飲み物(赤ちゃん用)についての問い合わせを事務局が受ける。児童館に確認したところ、その場で劇団に確認。劇団からOKが出る。
	10 : 55	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の半数が集まる。児童館から手洗いして入場するよう声掛けあり。 ・劇団は保護者に優しく赤ちゃんが動き回っても大丈夫との声掛けをしている。 ・雰囲気作り開始。 <p>(2組遅刻のため、児童館と劇団で2組の案内場所を再確認していた)</p>
上演中	: ~	子どもの反応、児童館職員など全体の様子
	11 : 03	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館挨拶。打ち合わせ通り短めで劇団に繋ぐ。 ・「わー」「おー」など喃語に近い演者の声に泣き出す子も。多少連鎖する。月齢が高い子は演者をよく見ている。演者ではなく母親を見る子などもいる。 ・慣れてくるとハイハイしだす子もいる。布が繰り広げる波の動きにくぎ付けの子もいる。立ち上がる子も3人ほどいた。
	11 : 20	<ul style="list-style-type: none"> ・演者が太鼓を鳴らしながら会場を回る。だんだん音が大きくなり、鳴りやんだ時会場から自然と保護者から拍手。
	11 : 30	<ul style="list-style-type: none"> ・いもむしが動きながら演者と「こんにちは」をするシーンでは、いもむしにタッチする子もいた。ハイハイ、動き回る子が多数出てくる。楽しみ始めている様子が伝わってくる。会場を一回りし、笑顔で母のところに駆け戻る子、小道具に触りだす子もいる。半数の子が動き出す。
	11 : 35	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りおもちゃ（楽器）を演者が取り出し、自然と子が手に取れるよう会場に転がす。転がるおもちゃを取り、母に見せに行ったり、別の子の保護者に手渡す子なども出てきた。おもちゃをきっかけに、母同士の交流も出てくる。全体がおもちゃを振り、会場に一体感が生まれる。

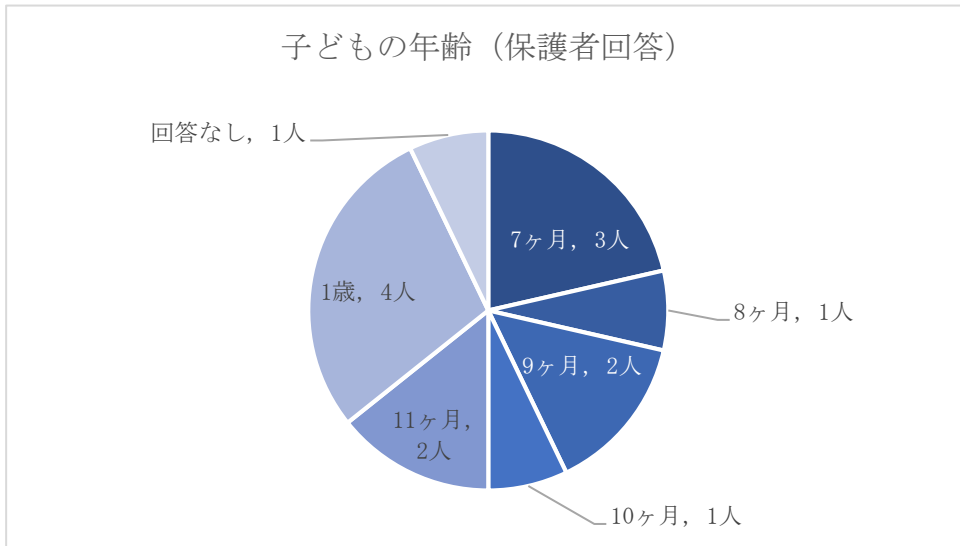
ワークショップ	: ~	ワークショップで何を行ったか、どんなワークショップだったか、その様子
	11:40	<ul style="list-style-type: none"> ・「ハイハイ、ごろ～ん」の演目は終了だが、楽器等・小道具に自由に触れていいとの演者からの声掛け。 ・おもちゃの作り方を演者から母に伝えている。自然と楽器を中心に人の輪が縮まる。保護者と演者のコミュニケーションも多い。関わり方が自然である。 ・舞台裏側に入った子がいたが、保護者が追いかけて何事もなく終わる。 ・使用していた楽器だけでなく、小道具も自由に触らせてくれる。輪に入れない親子には演者が楽器を届けに行く。母が手に取って子に奏でて見せている。母同士の会話も増えている。 ・遠慮しているのか、こういった場に慣れていない様子の親子もいたが、最後は演者の声掛けで舞台近くまで行けていた。
アンケート	: ~	アンケートの進め方と記入の様子
	12:05	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館から全体にお礼と挨拶。自然と拍手が起きる。アンケートのお願い。 アンケートはバインダーに挟み、籠に入れて準備されていた。 ・アンケートを配る際も、児童館スタッフは保護者に子の様子などの声掛けをしている。児童館スタッフも多数おり、保護者同士も子を見あっていて、アンケートに集中していても大丈夫な雰囲気生まれている。アンケート記入中も劇団は子との交流をしていた。 <p>※アンケートに裏面もあるとの事前の声掛けや、回収時の確認もなかったため、裏面を書いてない人がいた。回収時にスタッフによる確認が必要だったと思われる。</p>
公演後	:	公演後の子どもたち、保護者の様子、聞こえてきた感想・つぶやき
	12:15	<p>「満足そう」「ごきげんだね」「まさか前に行くと思わなかった」「かわいかった」「楽しんだ」「よく見てた」「最初泣いちゃったけど、リラックスしてきたら終わっちゃった」等の感想を聞くことが出来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終わったあとに、走り回り興奮した様子の子もいた。 ・また、「歩き回り、ごきげんな子」「声を出始める子」「会場内を探検する子」もいた。

		・晴れやかな顔をしている子が多かった。
		子どもたちの送り出しの様子（児童館、劇団、事務局などの関わり）
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童館、事務局ともに廊下に出て保護者に挨拶し、お礼とともにお送り出しを行なった。 ・子どもの様子などをスタッフに報告する保護者もいた。 ・館長から一人一人に声掛けしていることが日常の様子に感じた。 ・会場隣が遊戯室のため、そちらに入っていく子もいた。 ・劇団の方々も「バイバイ」の声掛けあり、「またね」「またあそびましょ」などもあった。

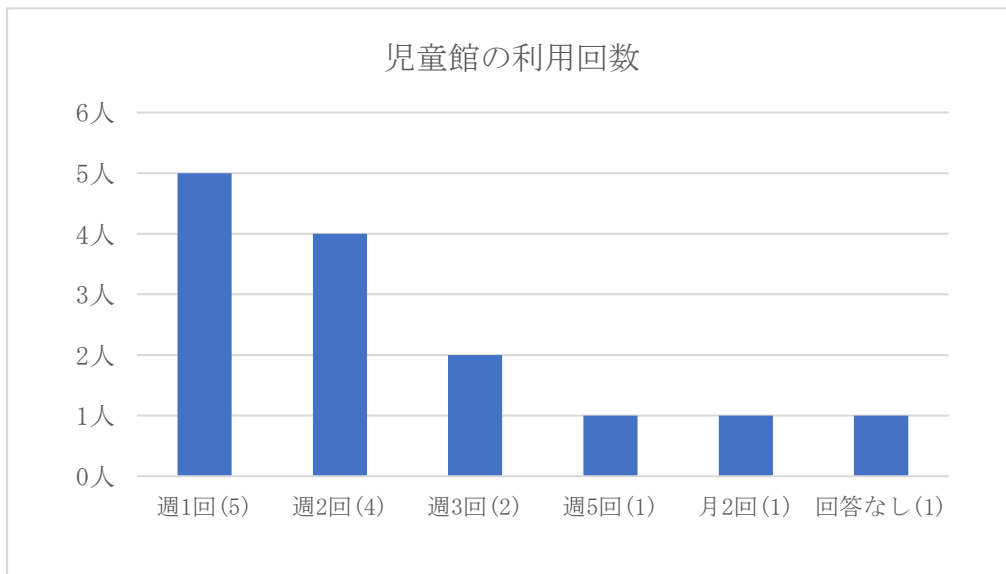
ウ 子どもアンケート結果：乳幼児対象のため、無し。

エ 保護者アンケート結果（回答数 14 人）

①お子さんの年齢（月齢）を教えてください。



②児童館を利用することはありますか？

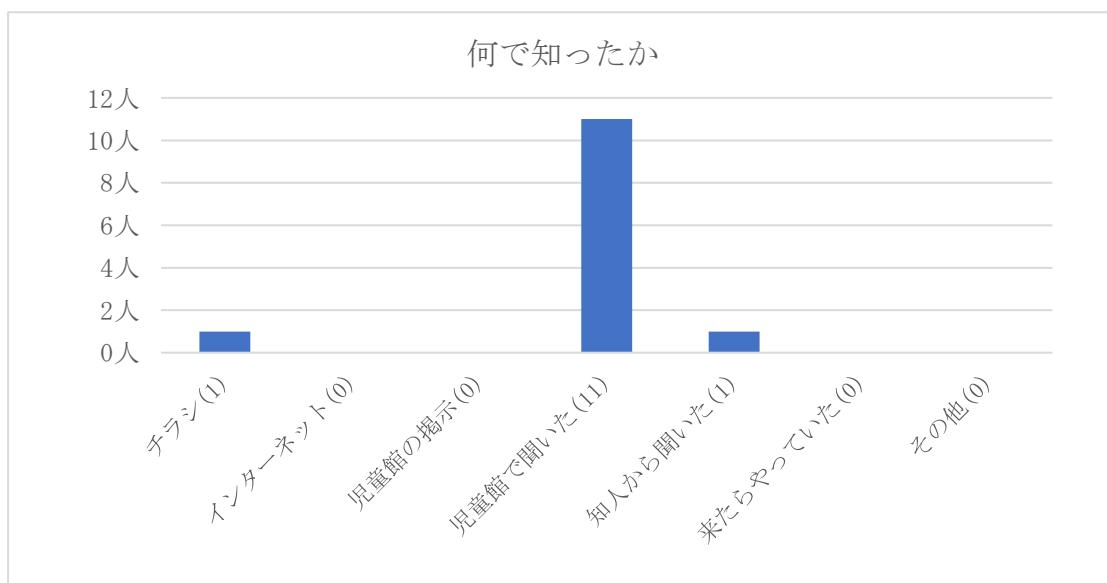


③今まで子どもと一緒に児童館でプロの劇団の舞台を見たことがありますか？

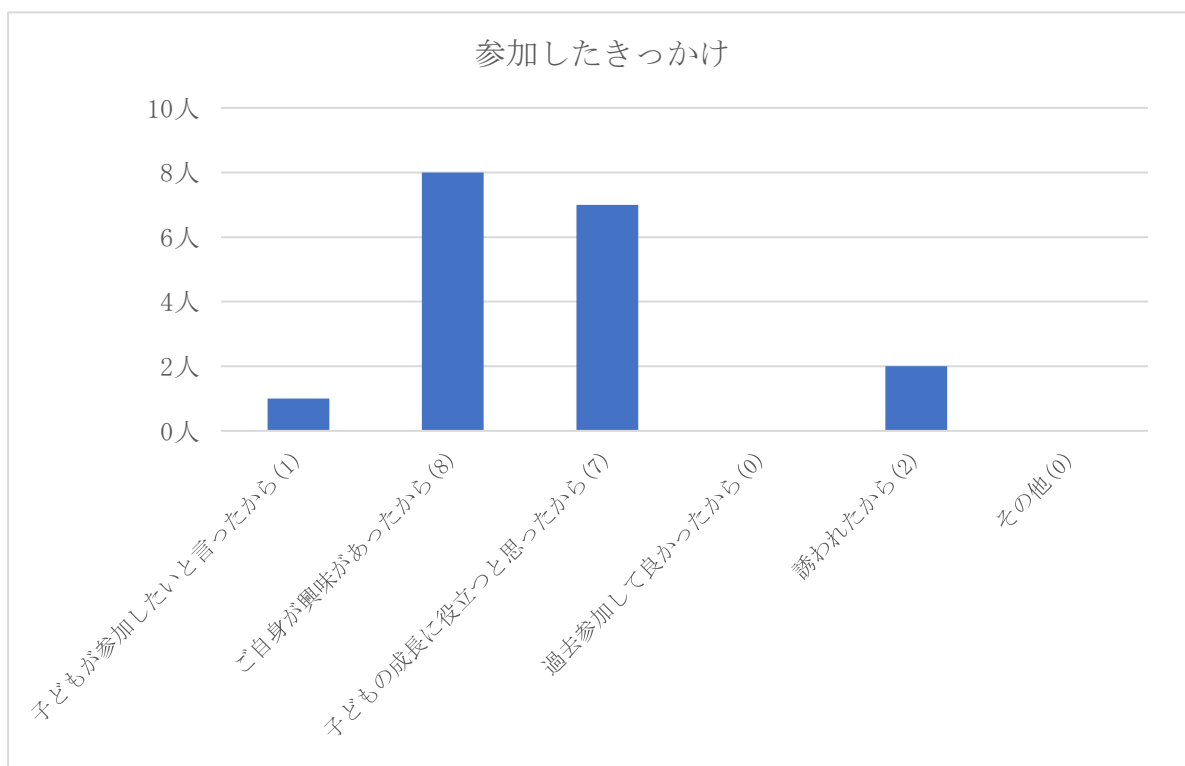
今回がはじめて	13人
回答なし	1人

観たことがある場合はどこで観ましたか？ 該当者なし

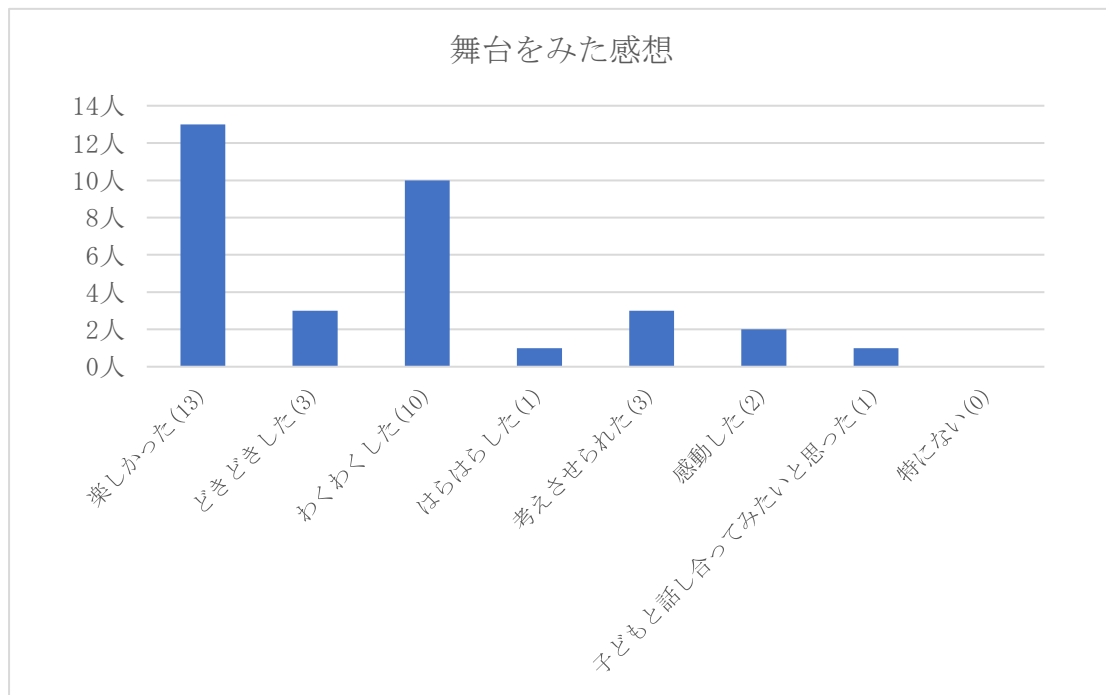
④今回、上演があることを何で知りましたか？（未回答を省略している）



⑤参加したきっかけを教えてください。（複数）



⑥生の舞台を直接鑑賞したことについて感想を教えてください。(大人の視点で) (複数)



<具体的な感想>

- ・言葉がないので子どもも興味をもってみることができていた。
- ・色々な音にふれられてとてもいい経験だと思いました。
- ・様々な音、色を楽しめた。

⑦舞台を観ていた(参加していた)お子さんの様子で気づかれたことはありますか？

- ・最初は様子見だった娘も自由に動いて表現して楽しそうだった。
- ・泣きたそうにしてる時でも動きや音に興味をもっていた。
- ・最初はいつもと違う雰囲気緊張した様子だったが、様々な音やものに楽しそうにしていた。
- ・普段テレビには興味を示さないのですが、舞台は真剣に見ていました。こんな小さい子どもでも音や表情を読み取って泣いたり笑ったりできるものなのだと気が付きました。
- ・初めは緊張していたけど、途中から楽しそうだった。
- ・演者さんの動きをじっと見ていたり、初めてのおもちゃに興味深々だった。
- ・長い時間集中してよく物を見ていた。
- ・目で追っていた。だんだん慣れて動き出していた。
- ・揺れたり音のなるものを特に注視していた。
- ・とても楽しそうに参加していた！
- ・とても集中してみていた。
- ・海の音が一番好きそうだった。

- ・いつもと違う様子で興味津々だった。
- ・真剣に見ていて、いっしょになって楽しんでいる様子が伝わってきた。

⑧今回は通常の上演に加えて「遊びのプログラム」(舞台のあと、みんなで一緒にやったこと)を実施しています。それに対する感想をお願いします。

とても楽しかった	11人
楽しかった	3人
少し楽しかった	0人
特にない	0人

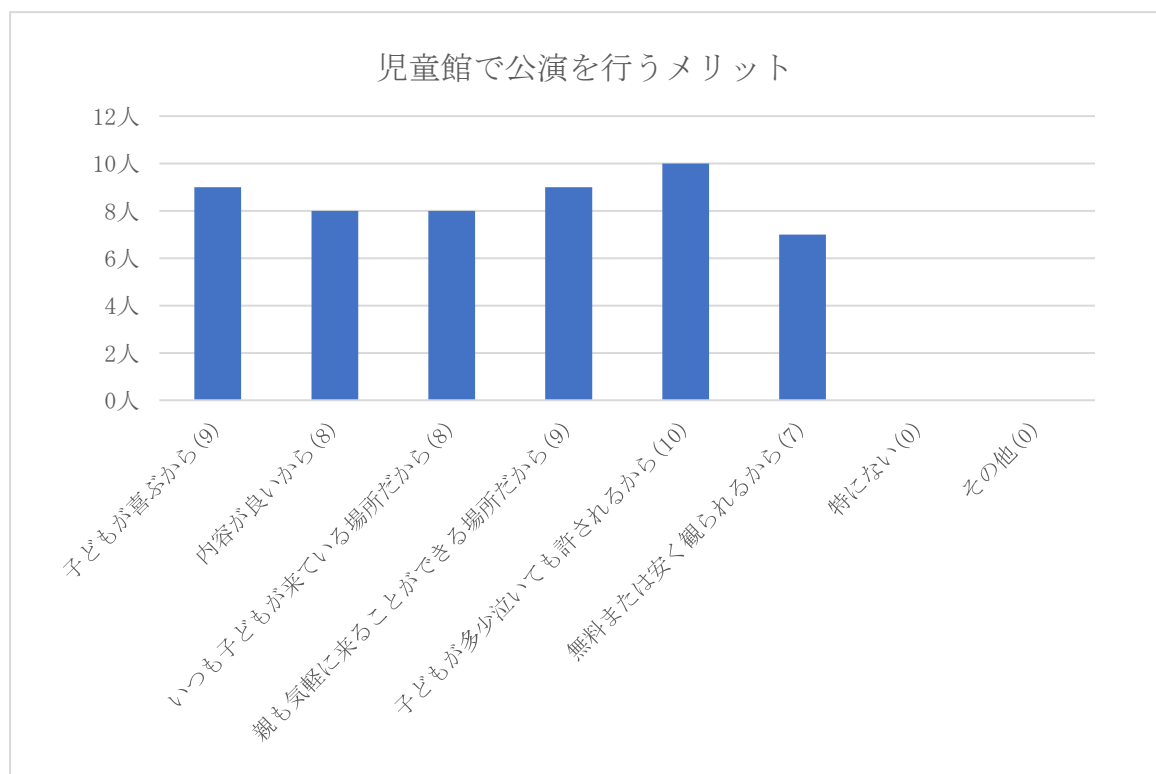
<具体的な感想>

- ・身近でつくれるおもちゃがあり、作り方を教わった。
- ・どのお子さんもそれぞれ興味のある方に向かっていく様子が面白かったです。
- ・見たことのない楽器、普段さわれない楽器にふれて興味がありそうだった。
- ・ヨーグルトマラカス、自宅でも作ってみます。
- ・自由に遊べて良かった。
- ・おもちゃに興味を持っていた。
- ・上演中にも前に行きたそうにしていたが、行けなかったようなのでそのあと自由に動ける時間があってよかった。

⑨今回の体験はお子さんの情操を豊かにする(美しいものや心を動かす出来事にふれ、想像力を豊かに持ち、コミュニケーション力を育むなど)きっかけになりますか？

とてもそう思う	14人
思う	0人
少し思う	0人
どちらとも言えない	0人

⑩児童館で今後プロの劇団の公演を行うメリットはなんだと思いますか？（複数）



⑪今回の舞台が「児童福祉文化財」ということは知っていましたか。

知っていた	2人
初めて知った	12人

⑫お気づきの点、ご自由にお書きください

- ・まさかステージに行くとは。子どもの新しい部分を見ることができてよかった。
- ・手作りのおもちゃがかわいくて参考にさせていただきます。
- ・とても素敵な体験をさせていただきました。有難うございました。
- ・とても良い時間をありがとうございました。
- ・気軽に参加できてとても楽しかったです。音がとても優しくてとても良かったです。
- ・とても楽しくみれました。ありがとうございました。
- ・またやってほしい！
- ・いつも通っている場所で見れて良かったです。

オ 児童館アンケート結果（回答数6人）

① 鑑賞前、公演に期待されたものあてはまるものすべての番号を○で囲んで下さい。

1	子ども自身の楽しみとなること	5人
2	身近な場所で良質な舞台作品にふれることができること	6人
3	子どもの感情表現が豊かになること	4人
4	子どもの心の安定に効果があること	3人
5	子どもの児童館での活動によい影響を及ぼすこと	3人
6	既存の児童館プログラムによい影響を及ぼすこと	2人
7	新たな児童館プログラムの展開が期待できること	2人
8	児童館に来館児童が増えること	0人
9	児童館に来館する保護者が増えること	1人
10	児童館に関心を持つ地域の来館者が増えること	2人
11	地域のさまざまな社会資源(他施設・機関、主任児童委員等)との連携が期待できること	0人
12	職員の技術向上（スキルアップ）につながる	3人
13	職員の意識向上（モチベーション）につながる	4人
14	特になし	0人
15	その他の期待	0人

② 鑑賞後の子どもに、どのような変化が見られましたか。

1	鑑賞活動に満足し、次への期待を持った	2人
2	表情が明るくなった	3人
3	感情表現が豊かになった	0人
4	普段の行動が活発になった	0人
5	劇や劇に関する事について友達や家族と話すようになった、今までより気軽に おしゃべりするようになったなどコミュニケーションが豊かになった	0人
6	児童館のプログラムに積極的に参加するようになった	0人
7	子どもたちから進んで意見を出すようになった	0人
8	児童館に来館する機会が増えた	0人
9	児童館職員に関わってくる場面が増えた	0人
10	舞台芸術に興味や関心を示すようになった	0人
11	舞台芸術に関する活動に参加するようになった	0人

12	特に変化はなかった	1人
13	その他	0人

③ I. 公演によって、児童館にどのような効果がありましたか。あてはまるものすべての番号を○で囲んで下さい。

1	子ども自身の楽しみが増えた	2人
2	身近な場所で良質な舞台作品にふれることができた	4人
3	子どもの感情表現が豊かになった	2人
4	子どもの心の安定に効果があった	0人
5	子どもの児童館での活動により影響を及ぼした	1人
6	既存の児童館プログラムにより影響を及ぼした	3人
7	新たな児童館プログラムの開発につながった	3人
8	児童館に来館児童が増えた	0人
9	児童館に来館する保護者が増えた	1人
10	児童館に地域の来館者が増えた	1人
11	地域のさまざまな社会資源(他施設・機関、主任児童委員等)と連携できた	0人
12	職員の技術向上(スキルアップ)につながった	2人
13	職員の意識向上(モチベーション)につながった	4人
14	特に効果はなかった	0人
15	その他の効果	0人

③ II. ③ I で「効果がある」を○で囲んだものについての具体的なエピソード

2 (身近な場所で良質な舞台作品にふれることができた)

- ・いつも館を利用しているときとは異なる集中力や表情が見られた。
- ・興味の示し方が、普段とは異なり、引き込まれている姿が見られた。
- ・太鼓で泣いていた子も柔らかな音や声で集中しはじめた。
- ・乳児のため細かなところはうかがえないが、当日の最初と最後では集中力が違う。泣いていた子たちが吸い込まれる世界観。穏やかな表情で最後まで何か感じていたように思う。
- ・鑑賞後まだ一週間しかたっておらず参加者のほとんどが週一で来館しているため変化を直接目にするのは難しい。当日何が始まるのか緊張していた子どもたちが鑑賞中に表情がやわらぎ、空間に吸い込まれていく様子が見られた。

3 (子どもの感情表現が豊かになった)

- ・動きを音に変えていた→ニョロ～、ふわあ～、ポン！に反応していた

7 (新たな児童館プログラムの開発につながった)

- ・ワークショップの手作りおもちゃは子どもや保護者がとても興味を持っていたひろば館のワークショップにも取り入れていきたい。
- ・制作物がとても参考になり試作をはじめている。

12 (職員の技術向上 (スキルアップ) につながった)

- ・タイム時、ゆっくりと子どもの動きを待つ。
- ・音の出るおもちゃに制作のヒントがあった。

④ 公演が効果的に実施されたのは、何が影響したからだと思いますか。

1	推薦文化財作品そのものの内容や質が高かったから	4人
2	児童館が身近で気軽に参加できる施設だから	3人
3	親と子で一緒に参加できるプログラムだったから	5人
4	事業実施までの準備の取組みの過程が良かったから	0人
5	事業実施にともない、児童館で関連プログラムを実施したから	1人
6	事業実施当日のプログラム内容が良かったから	4人
7	事業実施後の反省会の取組みがあったから	0人
8	わからない	0人
9	その他	0人

⑤ 今回のような劇団公演の機会があった場合、どのように対応しますか？いずれか1つの番号を○で囲んで下さい。

1	また上演してみたい	5人
2	条件（ニーズ）が合えばまた上演したい	1人
3	公演しないと思う	0人
4	わからない	0人

⑥ 今後、児童館では児童劇等の児童福祉文化財を活用して、どのようなプログラムが実施できそうでしょうか？また、活用のためにどのような工夫が必要だと思いますか。自由にお書き下さい。

<活用プログラム>

- ・風の子さんの「ハイハイ、ごろ～ん。」のように言葉がなくとも心の奥深く感じられる豊かな感情やあたたかな雰囲気を伝えられるもの。時代は人と人とのつながりや思いを人の心や言葉からではなく、画面を通してあったりメールやラインで伝えていく。そんな時代だからこそ見て聴いて感じてという心の深い動きを得られるものが大事だと思う。乳幼児な

ら五感の刺激を得られるもの、小学生なら参加型で見て聴いて感じて楽しいもの。

- ・今回のように普段ひろば館の活動では体験できないプログラム、鑑賞活動の実施。できれば参加型のもので親子で一緒に楽しめるもの（乳幼児）。それと同様もう少し年齢の高い幼児、小学生も参加型で楽しめるものがあると良いと思う。日常生活の中で体験できないひろば館だからできる体験の場になると嬉しい。
- ・小学生を対象にダンスやバレエなどのパフォーマンスをやってみると面白いかもしれない。
- ・幼児向け（2～3歳）（4～6歳）、小学生のプログラムがあれば実施してみたい。子どもや保護者の表情や言動に良い影響を与えるもの。学校や生活の中から得られない体験の場。
- ・今回と同様、舞台美術等、日常では体験できない空間で親子が参加できるもの。年齢別で赤ちゃんから、幼児、小学生と区切って楽しめるもの。

<工夫>

- ・児童館運営として情操豊かなプログラムを積極的に行う。SNS や外部への発信に力を入れ、プログラム実施をアピール。外部へ自館の取り組みの発信、外部への理解度へつなげる。
- ・推薦文化財のようなプログラム情報の収集機会があれば応募などする。申し込む。
- ・今回のことをきっかけに職員一人ひとりが児童福祉文化財に触れる。本を読む。劇・ミュージカルを見る等。
- ・ひろば活動のアウトプット活動内容を周りに知ってもらい理解してもらうことが必要。
- ・職員が日頃からアンテナを張り、外部の活動利用者のニーズなどに興味、関心を持つ。
- ・今回のような部屋全体を舞台にするようなものは何でもできそう。観客を少なくすると一体感が出てよいと思う。
- ・上演後のどの様な変化が見られたか、具体的な項目を設定する。上演前と上演後にアンケートをとって、参加者の変化を得る。

カ まとめ

(ア) 公演実施にあたり、2022年11月16日（水）11:00から児童館及び劇団と事務局との3者打ち合わせを行った。（打ち合わせ内容は①カ参照）

(イ) 当日の観客は乳幼児が対象ということもあり、劇団からは「赤ちゃんが動き回っても大丈夫」との声掛けを保護者にしていた。演劇が始まると泣き出す子もいたが、慣れてくるとハイハイし出す子や立ち上がる子も出てくるなど楽しみ始めている様子が伝わってくる。転がるおもちゃを取り、お母さんに見せに行ったり、別の子どもの保護者に手渡す子も出てきたりして、お母さん同士の交流も始まるなど、会場に一体感が生まれていった。

公演を通じて、子どもたちは自由に動き回り遊んでいた。最初は舞台上に上がろうとする我が子を止めるようにしていたお母さんも、演者の仕草で、自由にしていると気づかされ、見守るようになっていった。

(ウ) 保護者へのアンケート結果では、全員の方が今回の公演が「子どもの情操を豊かにするきっかけになる」と回答している。また、自分自身の感想としても「楽しかった」と答えた方が大半で、さらに子どもの様子についても「楽しそうだった」との回答が多く、今回の公演が親子共に有意義なものであったと感じていたことがうかがえた。

(エ) 児童館職員へのアンケートでは、児童館に与える効果として「新たな児童館プログラムの開発につながった」や「職員の技術向上（スキルアップ）につながった」、「職員の意識向上（モチベーション）につながった」という意見が多く得られた。具体的には、「ワークショップの手作りおもちゃは子どもたちや保護者がとても興味を持っていたので、今後児童館のワークショップにも取り入れていきたい」や「音の出るおもちゃに制作のヒントがあった」などの意見があった。このことから、今後も児童館におけるこうした取り組みを継続していく必要性を感じた。

(2) 児童劇団からのヒアリング結果

今回、児童福祉文化財の公演を実施いただいた4つの劇団全てから、以下のとおりヒアリングを実施した。

- ① 実施方法： 事前に項目を伝え、後日オンライン会議によるインタビュー形式で聞き取った。
- ② 項目：▷通常劇場で行われている公演と違い、児童館という日常の子どもたちの生活、遊び空間へ訪問して公演を実施した感想
▷今後児童館で上演する場合に関してのご意見、ご要望など
▷その他ご意見など
- ③ 実施内容： 次のとおり

■ラストラーダカンパニー&X-jam 様

[公演実施内容]

①日時：2022年12月27日（火） 14:00～15:40

場所：世田谷区立等々力児童館

演目：「らふいゆ れふいゆ」

②日時：2023年1月9日（月） 13:00～14:40

場所：愛知県児童総合センター

演目：「らふいゆ れふいゆ」

[ヒアリング]

日時：2023年1月24日（火）10:00～10:30

インタビュー：ラストラーダカンパニー 兵藤様（Chang）、LONTO 様（演者）

x-jam 城間様（事前に演者のシモシュ様と共有してご出席）

<お伺いした内容>

- (1) 通常劇場で行われている公演と違い、児童館という子どもの生活、遊びの空間へ訪問して公演を実施した感想

○等々力児童館での公演

- ・会場において舞台セットの割合が大きく、それ故図らずも観客である子どもたちとの距離間も近く、より印象も深くなり、上演後子どもたちが見たものやっただけですぐ遊ぶということにつながったと思われる。
- ・特別な「お出かけ」するような劇場や公民館での公演や（学校）教育の中での公演は、ちゃ

んとしてみないといけない（ややお仕着せ観）ということあるが、児童館では子どもたちと主催者である職員がフラットな関係性であり、その延長線上で子どもたちは自由に反応してよいし、楽しんでいいという安心感があったことを感じた。

- ・当日公演中も外でサッカーしている子もいたりして、公演を見たい子だけが見るという共存しているむしろ自由な空間に感動した。（劇場や公民館での公演や学校教育での公演との比較で）
- ・舞台上に観客も入り込んで、子どもたちと「そうだよね?」「うん! うん!」と共感しながら、より個々に届けることができた。ワークショップでも出演者と子どもが近く、今まで一緒にやってきた同志のような感覚でおこなえた。
- ・規模が小さいことも影響しているのか、児童館職員と参加している子どもたちとが非常に良い信頼関係にあると感じた。

○愛知県児童総合センターでの公演

- ・幼児の親子が多く観覧していたため、会場の空間が暗くなり怖くなった子もいたが、親の働きかけでなんとか見ようとしてくれているということを感じた。
- ・公演の中で何か展開があったときに「～だったね?」と親が子どもに問いかけし共有していた。公演をとおして、親が子どもがこんな風に反応するのかということ成長の過程を知ったり、子どもに考えさせたりすることで親が子どもと向き合っているということを舞台上から見てとれた。（親子と一緒に舞台を見る効果の一つ）
- ・客層が小さな子が多かったため、スピードをゆっくりやるなど子どもの理解に合わせておこなった。
- ・ワークショップは小学生にはバックステージの公開をして探求心をもたせているが、愛知の場合幼児が多かったため、ステージの秘密は教えずにまだまだ夢をも持ってほしいと思い、急遽内容を変更した。（おとぎ話を信じるようなものを大切にしたい）
- ・規模が大きいこともあり、家族での参加が多く、上演中に親子での会話を楽しんでいたように感じた。

(2) 今後の児童館で上演する場合に関してのご意見、ご要望など

- ・児童館では来館するこどもの年齢層が異なるため、それを踏まえた企画が必要であると感じた。文化財も作品ごとに対象年齢もあると思うので、観客募集する際のチラシにもっと演目の詳しい内容（小学生対象ですが、親子連れも可能です等）を記載して、観客層を事前に想定できると、劇団も何を提供するかより詳しく公演に関して事前に相談することができる。また、特に親子連れの幼児の場合参加してもいいかどうかの心配することがなく、安心して参加できる。

「らふいゆ れふいゆ」は、音楽と言葉がないパフォーマンスであるため、その場で観客層や

観客の反応に合わせて場を創っている。また、親子で見る場合でも大人も自分の感性に基づいて舞台を観ることができる。

- 作品によってはある程度対象が限定されているものがあると考え、その場合その対象者以外は作品の意図が伝わりにくいかも知れない。
- 児童館の公演では、児童館の特性を生かして途中から見るなど出入り自由ということ「ゆかさ」も求められるのではないかと。劇団側もそれに対応が必要であると思う。そのためには、児童館での公演回数の多さ、子どもたちが見るチャンスの多さが必要で、たくさんの回数を希望する
- 児童館によって公演を見に来る人の層も変わるので、児童館が求めるものと作品のマッチングを相談できると思う。

(3) その他ご意見など

- 子どもたちの中には生の舞台に親が連れていく子や学校等で観る機会がある一方、そのような機会もなく生の舞台を観られない子もいるため、より多くの子どもたちに等しく舞台を届けたいと考えている。等々力のような日常的に児童館に来てくれる子や愛知のようにいつも行っている児童館に子どもをつれていく親子など、児童館が舞台を自由に無料で観られる場となれば、舞台に触れることのない、こぼれているこどもの一部には届くのではないかと、是非そのような機会を増やしたいと考えた。
- 今回実施した2つの児童館の職員及び協会事務局メンバーの方々の気遣いがありがたかった。

■人形劇団 ののはな 様

[公演実施内容]

日時：2023年1月6日（金） 13:30～15:00

場所：福岡市立中央児童会館 あいくる

演目：「ともだちげきじょう」

[ヒアリング]

日時：2023年1月26日（木）10:00～10:30

インタビュー： 人形劇団のはな 納富様

<お伺いした内容>

(1) 通常劇場で行われている公演と違い、児童館という子どもの生活、遊びの空間へ訪問して公演を実施した感想

- 50年ほど活動してきているが、主に保育園、幼稚園、こども劇場で行っており、児童館は年

2～3回は実施している。今までの児童館の公演は小学生が自由に見て、ほかで遊んでいたりと観たくない子も多く、時にはヤジが飛んだりするのでいつもは抑えるのに大変で、演じる方も大変エネルギーを使って取り組んでいる。しかし、今回の公演は小学生が少なく、小さい子と親子が多かったため、むしろ興味を持って子どもたちも集中して観てくれていた。

- ・この作品は小学生向けではあるが、いつも好評なので、さほどの心配はしていなかったが、児童館サイドが観客の対象をより幅広く募集を行っていただいたので、幼児の親子連れが多かったのではないかと思う。
- ・児童館は、普段子どもたちの自主性、主体性を導く場所であるのでエネルギーは使うが公演を行うことは良いことだと考えている。今回は親も多くおり、子どもたち対象の演劇を親にも見てもらい、演劇を理解してもらい・関心をもってもらうことは意義のあることである。今回は親にもアンケートを沢山書いてもらう事ができ、関心をもってもらえてよかった。親のアンケートの回答を観て、「こどもの様子を見てこれからもたくさん演劇を見せたい」と書いてあったことがことのほか嬉しかった。
- ・児童館では、児童厚生員が子どもの主体性を重視し、向上心や好奇心を高められるような働きかけをしているかと思う。演劇を見ただけで終わらせるのではなく、その一環で芝居を見たあと、「こんなことやってみたいな」と思えるような活動、例えば誕生日やちょっとしたイベントなどの機会をとらえて演劇的な表現、遊びにつなげていけるようになるととても良いと考える。

(2) 今後の児童館で上演する場合に関してのご意見、ご要望など

- ・児童館の児童厚生員は皆さん総じて様々な遊びにたけていると思うが、それでも個々には得手不得手や関心もまちまちであると思われる、そこで遊びに演劇活動取り入れるスキル等を学ぶ機会があれば、それを日常の児童館の活動で子どもたちと一緒に遊びに取り入れることもでき子どもたちの遊びの幅が広がると考える。遊びに取り入れる少しのヒントを劇団から伝える場（児童厚生員向きのワークショップの場）があれば、そのきっかけになるのではないか。
- ・今回の公演において、ワークショップの時にものを取りにわーっと子どもたちが集まりすぎ少し混乱したところがあった。もちろん児童館職員のサポートもいただいたが、事前に一度そのワークショップの内容をを理解してもらって事前に課題や対応方法をなどを考えておくとうよかったと感じた。またこちらで進行をお任せいただけたのはありがたかったが、もう少し児童館と一緒に対応できればよかった。劇団側での配慮がかけていたところもあったと思うが、やや残念な部分であった。

(3) その他ご意見など

- ・児童館でのプロの劇団公演は経済的に大変だと思う。例えば、地元のアマチュアの方などを

呼んで行えば地域の人と人とのふれあいとなり、子どもたちのコミュニケーション能力の向上につながるのではないかと考える。更には子どもが主体的に演劇などに取り組むことができないうか、どうやったらできるかを劇団と児童館の皆さんと一緒に考えていければいいのではないだろうか。

■ロバの音楽座 様

[公演実施内容]

日時：2023年1月7日（土） 14:00～15:20

場所：神戸市総合児童センター こべっこランド

演目：「森のオト」

[ヒアリング]

日時：2023年1月26日（木） 16:00～16:30

インタビュー： ロバの音楽座 松本様

<お伺いした内容>

(1) 通常劇場で行われている公演と違い、児童館という子どもの生活、遊びの空間へ訪問して公演を実施した感想

- ・保育園、幼稚園、学校、子ども劇場の公演が多いが、東京都内や仙台市など児童館でも公演は行っている。今回は児童館職員の方とのコンビネーションもよくしっかり支援してくれたので気持ちよく公演ができた。環境がよく音響などもお手伝いいただき、体制がよくとれていた。
- ・今までの公演、特に過去補助事業での公演時では児童館側との事前打ち合わせや連絡がすくなく、関係性も希薄だったが、今回は事前に打ち合わせをし、会場設備の有無も確認できるなど密なやりとりができスムーズに準備ができた。
- ・児童館と劇団で事前に連携して、児童館によく演目を知っておいてもらい事前告知や来館者である子どもへの直接の働きかけがあると、さらに期待感がこどもに伝わるのでよい
- ・幅広い年齢層の方の多くの人が見えたが、様々な年齢層の方に観ていただけることは我々にとってもうれしい。年齢層問わず、子どもも大人も楽しめるような作品作りに取り組んでいる。
- ・児童劇団としてただ観て聴いてもらうだけでなく、子どもたちが自分たちで音楽をつくりたい、楽器をやってみたいなどのムーブメントにつなげていきたいという課題意識をもって行っている。演目にはそのような題材を取り入れて公演を行っている。ほかにも公演にインスパイアされそれが行動化に繋がるきっかけにしたいという意識をもって行っている団体

が増えてきている。

- 例えば公演をする前に、参加してくれる子どもたちに様々な日常の雑貨で音の出るものを創ったり、自由に触れることができるものを準備して音に対する関心を高める時間を設けておき、その上で公演に臨むとどうしたらこういう音がでるといったことを知ったり、音そのものをもっと深く感じる事ができたかも知れない。またその流れで公演後音遊びに繋がるとよりハッピーかもしれない。そのためには、児童館の公演をどのように日常の活動に活かすかという思い、また事前、事後の仕掛けが大切と考える。今回の演目の「森のオト」も日常的な音の関わりにつながるものとなっている。

(2) 今後の児童館で上演する場合に関してのご意見、ご要望など

- 小学校など学校関係は目的をもって劇団を呼びたいという事でのオファーがあり、公演後学校のネットワークと推測するが他の学校から同様のオファーにつながっていく。今までの経験上、児童館での公演を広報して演奏をしても、学校関係のように他の児童館からの反応がない。児童館も多数あるが、情報の共有やネットワークが薄いのが残念。もう少しネットワークや情報の共有で地域での公演が広がっていくといいなと感じる。児童育成協会から名案があれば教えてほしい。
- 今回の神戸児童総合センターで参加対象を幅広く募集をしたと思うが、各児童館で演劇等の公演は普段対象をどのように設定して開催しているかわからないことが多い。ただ今回のように児童館ならではの幅広い観客層で上演する機会があれば、こうやって公演ができるのだと経験値が増した。また、児童館と公演事前の情報交換を密にしていたので、児童館での公演のやり方がよくわかってよかった。

(3) その他ご意見など

- 神戸は今回調査研究で開催した他の児童館と比して集客人数が多いほうだったとの事だが、「森のオト」は元々ホール向けに作った作品なので、神戸のようにステージ、照明があって、動員数は今回くらいあったほうがよい。ただ、例えば小さな児童館で公演する場合には、その場にあった作品にアレンジも可能で、その上で上演してみたい。

■劇団風の子九州 様

[公演実施内容]

日時：2023年1月30日（月） 11:00～12:00

場所：荒川区立熊野前ひろば館

演目：「ハイハイ、ごろ～ん。」

[今回のヒアリング]

日時：2023年2月1日（火）10:30～11:00

インタビュイー：玉木聡美様（班の責任者、演者）、寺崎花絵様（演者）、
高山洋輝様（演者）

<お伺いした内容>

（1）通常劇場で行われている公演と違い、児童館という子どもの生活、遊びの空間へ
訪問して公演を実施した感想

- ・通年でやっている作品ではなく、劇団の演目とはしているが年齢を限定しているため、公演の申し込みは多くはない。幼稚園や保育園での公演はあまり実施しておらず、主には子育て支援センター主催や劇団の自主公演としている。
- ・今回の児童館での公演は、空間としてはちょうどいい大きさとやりやすく演目にぴったりだった。ホールも明るい感じでストレスのない環境だった。作品のコンセプトとして「子どもがリラックスできる」、「公演中に親が周りの人たちにすみません、ごめんなさいと言わない、親もリラックスして公演を楽しめる」場づくりをしている。
- ・児童館を普段から利用している親子ということで、児童館の職員の方とのつながりもあり、一層安心感がある中で観ていただけたと思う。
- ・児童館にはホールのような大きな会場のある所から、会議室程度の広さしかない施設もある。実際の公演にあたっては、空間が広い場合はパーテーションや長机などで区切って行っている。会議室を利用してなど狭い空間の場合は、子どもにとって必要な道具の置き方を工夫したり、人数を調整するなど、児童館との事前の打ち合わせや下見を通じ、施設環境に応じた準備をしているので会場についての Must 条件は特に無い。
- ・公演開始からの時間だけが作品ではなく、会場入りして会場の環境（空間）に慣れるところから始まっている。今回は慣れた場所という事であるが、普段も公演会場に初めて来た子どもがその空間や演者に慣れる時間をあえて上演前に設定できるように意識し演者も全員が舞台上で登場し、また声掛けなども行っている。保護者の中には、子どもが泣くと迷惑がかかるから時間ギリギリに来ようとする傾向があるが、主催者である児童館側もこれらを意識して「時間に余裕を持ってきてください」などを事前にアナウンスしていただければよいと思う。今回も始まってすぐに、泣き出した子どもや、開始直後に来て、会場や演者に慣れる時間をとれなかった子どもが泣いていたが、安心安全な場であると認知したら泣き止む

し、泣いているには何か理由があるので、作品の中で演者が様子を見て対応するなり、泣いていても大丈夫と判断することもあるので問題はない。

(2) 今後の児童館で上演する場合に関してのご意見、ご要望など

- ・こういった児童館での公演が、児童館を今まで利用したことのない人にも児童館や子育て広場に来る機会になれば嬉しく思う。例えば特別なケアが必要な子が公演に参加してくれるのも歓迎、特別なケアが必要な子を持つ親でも普段気後れして児童館に行くことができない人もいますので、公演の参加を機にそれ以降も児童館に来館したり、相談するきっかけになればよい。
- ・この作品は、子どもたちが自分のタイミングで行きたい場所に行く、探索する、自由に動いていく。一瞬、「あっ」と親が思うことがあっても、演者との関わりを観て、いいんだと思える、子どもに声掛けをしたり、一緒に舞台に出て行ったり、ごろ〜んと寝転んでみたりととにかく自由に過ごしてしていただければと思う。

他の劇団の他の公演でも、子どもの自由な身体表現を留めてしまうことが無いよう、演者の公演前のアナウンスや児童館職員の方々にアナウンスを行ってもらう事、公演前に余裕をもって会場入りしてもらう事が子どもだけではなく、親にとっても大切になる。

- ・観客数を限っているが、公演は1日2ステージを行うことで、より多くの方々に見てもらう事は可能。この時間帯だったら親御さんに負担が無いことや、お昼寝の時間帯やその直後に設定しないなどを考慮し、余裕を持った時間設定にする等、主催者側と事前に打ち合わせをしっかりとっていくことが重要だと思う。

(3) その他ご意見など

- ・アンケートを見ると、ベビーシアターを初めて知ったという方が多い。今回1回観て、参加できなかった児童館の他の親御さんや児童館以外のママ友に広がって、イベント参加をきっかけにという輪が広がってほしいと思っている。
- ・乳幼児は同じ作品を期間を空けて繰り返しみることも良い。1か月に1回や1学期に1回でも良いと思う。例えば1か月後に観ると親は子ども成長の変化が実感できる。作品の同じ場面で新たな反応や楽しんでいる様子を発見し成長を実感することがある。更には観劇後、家に帰ってからの行動にもつながっている事にも気づくこともある。ベビーシアターというのはこの年齢層をターゲットにして継続して行うことが大事である。

ただベビーシアターを開催するのは予算的に難しいということも理解している。子育て支援センターや保育園などからのニーズも掘り起こせるような様々な場面を通じての周知や連携をしていければと考える。公演については色々と提案していただければ、フィードバックしながら、一緒に考え、より良い作品作りにつながるので、是非積極的に声をかけていただき

たい。

- アンケートの中で「はらはらした」を選択した方がいた。心配になったという意味か、怖かったという意味なのか、あまりない感想なので、是非その意図を知りたい。
- ベビーシアターの今後の取り組みであるが、劇団の活動の中で、なぜ赤ちゃんに演劇が必要としているのか、何が大切かという事を探索、考察しながら作品作りをしている。今後も彼らが成長の上で必要としているものを作っていきたい。

(3) 委員による「演目レビュー」及び「観察結果」

①『らふいゆ れふいゆ』(ラストラーダカンパニー&X-jam)

実施日：2022年12月27日(火) 世田谷区立等々力児童館

「演目レビュー」

小林由利子(明治学院大学)

令和4年12月27日(火)14時から、世田谷区立等々力児童館のホールにおいて、ラストラーダカンパニーとX-jamの共同制作の『らふいゆ れふいゆ』を観劇した。観客は、子どもと保護者を合わせて35名だった。観客層は、1歳半から小学生の子どもと保護者だった。舞台と観客席に段差はなく、つながっている状況だった。

落ち葉が舞台全体に敷き詰められていて、ヨーロッパのどこかの街の広場の雰囲気を醸し出し、落ち葉で隠されたアップライト・ピアノといくつかの街灯が設置されている。広場に、手に楽譜を持ち、悲壮な面持ちの作曲家が登場する。続いて、二人の自由気ままな感じの道化師が現れる。一人はシンバルの付いた押し車を押し、もう一人は大きな古びた皮の鞆を持っている。道化師の二人は、ジャグリングなどをしながら、作曲家にちょっかいを出し始める。作曲家は、作曲の邪魔をされることに腹を立てるが、徐々におかしい道化師たちのペースに巻き込まれ、3人でいろいろな体験をする中でさまざまな着想を得て、曲を完成させることができる。そして、作曲家は、道化師たちに感謝しようとする、知らない間に彼らは、舞台から消え去っている、という物語である。

道化師 Chang と LONT、音楽家シモッシュの3人の高い技術を豊かな経験が融合して、スラップスティックがドタバタにならず、アーティスティックでおしゃれでエスプリの効いた作品になっていた。ノーバーバルなのに頭の中でセリフが聞こえてきた。二人の道化師と作曲家が、さまざまな「遊び」の要素を取り入れたやりとりをしながら、親しくなっていくプロセスが描かれていた。作曲することの苦悩が描かれ、その苦悩から逃げずに、他者とかかわりながら試行錯誤と葛藤しながら、新たな曲を創作できた、という達成感が表現されていた。まさに、アートや科学などすべての創造過程に共通することが示されていた。観客は、大笑いしながら、深く豊かなテーマである「遊び」と創造性、他者とのコミュニケーション、苦悩と葛藤を通じた達成感などをおもしろがったり、大笑いしたりしながら、心身に浸み込ませていっていると思った。

「観察結果」

小林由利子（明治学院大学）

1. パフォーマーへのあこがれ

道化師 Chang と LONT、そして作曲家・演奏家シモッシュは、高い技術があり、長年の多様な状況でのパフォーマンスの豊かな経験を基盤にして、子どもの観客に脚本に沿いながら、即興的に演じていた。作品全体が、アーティスティックで、しゃれていて、ユーモアのある作品であった。

大道芸の高度なテクニックがあるので、Chang がわざと失敗しても、それ自体がアートになっていて、場面として美しかった。さらに、Chang のアクロバットは、筋肉の美しさが見事に表現されていて、子どもの観客はあこがれを持つことができるのではないかと思った。同時にユーモアが差しはさまれているので、Chang が自分の芸を自慢するポーズをすると観客から笑いが引き出されていた。

2. 洗練されたユーモアから生まれる親密性

スラップスティックの場面が、単なるドタバタではなく、洗練された上品なユーモアになっていた。作品は、ノンバーバルなのに、LONT が話すジブリッシュは、何を言ってるか想像できるようになっていた。LONT が、観客に同意を求めるような発話をすると、思わず「そうだ、そうだ！」と同意してしまうような構成になっていた。みごとに観客を演劇作品の参加者として位置づけて、子どもたちと一緒にパフォーマンスを創造していた。

児童館のホールという狭い空間であったため、観客とパフォーマーの距離が、非常に近かった。以前、大ホールで『らふいゆ れふいゆ』を観たときは、舞台と観客席が明確に分かれていたので、子どもたちとパフォーマーたちとのやりとりに距離があった。しかし、今回は、子どもたちが手を伸ばせば届くような距離でパフォーマーたちが演じていたので、最初からある種の親密さがあった。さらに、作品の最初の方で LONT は帽子を落とすと観客に拾ってもらって、また落とす、というようなことを繰り返していた。このやりとりが、LONT と子どもの観客の間にラポートが形成されていった。この親密な関係が、公演後のワークショップへスムーズにつながられる大きな要因になっていたのではないかと考える。LONT の現実世界と想像世界の縦横無尽な行き来する方法が、非常に効果的に作品全体に織り込まれていた。たとえば、別の場面では、Chang と LONT が、大道芸をすると投銭を観客に求めて、観客が応えないと、悔しい素振りをして、観客から笑いを誘いだしていた。ある時は、「いないいないばー」の要素を取り入れて、ピアノから突然登場して、観客を驚かせていた。さらに、LONT の子どもたちという観客を対象に演じることがとても楽しい、一緒に作品を創り上げていく創造過程が楽しい、ということが表現からにじみ出ているので、それを子どもたちの観客は敏感に受け止めて、LONT に親しみを感じ、それが作品を通して増大していき、上演後の子どもたちの LONT と一緒にパントマイムを演じたいという気持ちが表出されたワークショップにつながっていったと考える。

3. 創造することの苦悩と歓喜

ピアニストのシモッシュは、以前からラストラーダカンパニーに曲を提供していたが、今回の作品で初めてパフォーマーとして参加した、ということだった。しかし、初めてとは思えない LONT と Chang との息の合ったアンサンブルであった。シモッシュ自身も作曲家であるので、今回の曲を創り出せないで苦しんでいる作曲家の気持ちに共感し、リアリティーをもって演じられたのではないかと思った。曲想が全く浮かんでこないで苦しんでいるところに、二人のおかしな道化師があれやこれやとちょっかいを出したり、からかったりするのを最初は煩わしかったが、徐々に一緒に遊んでいるうちにさまざまな発想を得ていくプロセスが見事に描かれていた。まさに創造することの苦しみと喜びが、描かれていた。この創造過程の描き方が、子ども「遊び」の要素をふんだんに使い、創造の源泉が「遊び」であることを示していた。そして、この「遊び」は、一人「遊び」ではなく、グループでの「遊び」である。他者と一緒に「遊ぶ」ことを通して、人はさまざまな体験をして、さまざまなアイデアを得て、楽しさを共有でき、新たな創造を生み出すことができることが表現されていた。そして、大人のパフォーマーが真剣に「遊ぶ」ことを観客としての子どもたちが、目撃でき、大人になっても「遊び」続けていいことを伝えられていると思った。こういう作品を「遊び」を重視している児童館で子どもたちが観る機会があることは、非常に意義のあることである。

4. 演劇鑑賞とワークショップのつながり

パフォーマンスが終わって、子どもたちはホールを出て、ワークショップの準備ができてからホールへ再び入っていった。すでに LONT と子どもたちの関係はパフォーマンス中に出来上がっていたので、非常にスムーズにワークショップへ子どもたちは入っていった。LONT が、「かべ」のデモンストレーションをして、するときのポイントを説明すると、すぐに子どもたちは「かべ」のパントマイムをし始めた。さらに、保護者たちも一緒にパントマイムをしていた。子どもたちのスムーズなワークショップへの移行を観察して、子どもたちの中にすでにパントマイムを LONT と一緒にやりたい、という気持ちが存在していたと思った。ここから、いかに上演作品の中で子どもの観客との関係をつくっていくことの重要性を再確認した。通常、ワークショップをする場合、信頼関係をつくっていくことに時間がかかるので、1 回だけのワークショップではうまくいかない場合が多い。しかし、今回は、LONT をはじめとしてパフォーマーたちが、作品を上演していく中で子どもたちとの関係を構築していったので、ワークショップにおいて子どもたちが積極的にパントマイムを行い、もっとやりたい、ということになっていったと考える。改めて、ワークショップのファシリテーターと参加者の信頼関係の重要性を再確認した。今回は、演劇作品鑑賞と直後のワークショップ体験であったが、さらにパントマイムのワークショップを体験できる機会が設定できれば、子どもたちの興味はさらに増大し、技術も磨くことができると考える。

5. アンケートから考えたこと

アンケートの子どもたちのワークショップの感想に「ピエロをやってみたい」、「かべをやるのがたのしかったです」、「パントマイムまたやってみたい」、「かべのがたのしかった」など、ワークショップにおいてパントマイムをした楽しさが書かれていた。作品の中でパントマイムを鑑賞するだけでなく、ワークショップでパントマイムを実際にやってみる楽しさを子どもたちは実感している。さらに、「ピエロをやってみたい」、「手の動きなどみんなと練習してうまくなりたいです」、「あまりうまくできなかったけど、家で練習とかもしてうまくなりたいです」、「学校でかべをやってみたいと思いました」など、パントマイムのワークショップから刺激を受けて、ワークショップ終了後もやってみたい、うまくなりたい、友だちに見せたいという子どもたちもいた。演劇作品を鑑賞して、ワークショップを体験したことが、刺激になって、新たなことにチャレンジしたいという気持ちに子どもたちがなったといえる。つまり、子どもたちが、パントマイムをやってみたい、という自発性が生まれたのである。それも楽しみながら、「やりたい！」という気持ちになったことは、子どもたちが演劇鑑賞をして、ワークショップを体験する特筆すべき意義である。

保護者のアンケートからも、「親子共に楽しめました」、「しゃべらないのに表情、音、動きでこんなに楽しませてもらえてすごいいい経験でした」、「距離が近く楽しかったです」、「子どもがやりたい気持ちがあふれていて楽しかったです」と子どもたちだけでなく、大人の保護者も楽しめたといえる。ラストラダカンパニーの作品は、子どもから大人まで楽しめるといえる。さらに保護者のアンケートにおいて、「対象年齢以下でしたが言葉がわからなくても擬音を聞いて楽しんでいたようで、一緒に真似していました」というコメントがあった。実際、1歳前後の男児が、立ち上がって道化師と一緒に音楽に合わせて笑いながら動いている姿を観察した。スウェーデンのスザンヌ・オースティンは、「生後6か月から完璧な観客である」と指摘している。『らふいゆ れふいゆ』は、対象年齢以下の子どもでも十分に楽しめる作品であったといえる。特に、児童館のホールでの上演だったので、舞台と観客とは、テープで隔てられているだけで同じ高さの床であったことも重要な点であると考えられる。また、別の保護者は、「自分で劇場に行くのはなかなかできないけど、児童館なら参加してみたいなと思います」と指摘していた。乳幼児のいる保護者にとって、劇場に行くことは敷居が高いし、途中で泣き出したらどうしよう、という不安もあると考えられる。したがって、いつも日常的に通っている児童館のホールでの公演なら、気軽に行くことができる。児童館のホールでこのような活動をする意義について、ある保護者は「職員さんが臨機応変に対応してくださり参加させていただいてとても嬉しかった」と述べている。子どもたちと日常にかかわっている職員の方々が、演劇鑑賞のときも、ワークショップのときも存在しているので、安心できているのである。ここから児童館で演劇鑑賞とワークショップを実施することの重要性を読み取ることができる。

6. 親密さを生み出す空間

『らふいゆ れふいゆ』を大劇場と児童館のホールの両方で観る機会があったので、児童館のホールで行うことの重要性を実感できた。児童館のホールは狭いことと、少人数の観客になるため、パフォーマーと観客との距離が近くなり、親近感を創り出せる可能性が高くなる。乳幼児・児童を観客対象にする場合、この親近感は重要なことである。今回の公演とワークショップでは、この親近感が存在した。事務局の感想において、「今回は広い部屋がないからこそ、演者と参加した子どもたちの距離が近く、それは芝居を観ているというより、芝居の中にいるという感覚となるような公演だった。それだけにライブ感や一体感がある公演となったし、また後半のワークショップへの参加性が高かったことにつながると考える。なにより、公演後の子どもたちの活動がかなり芝居から影響を受けていたことが印象的だった」と指摘している。これは、児童館のホールだからこそ、日常的に子どもたちがやってくる児童館だからこそ、生み出されたことである。

7. 「遊び」についての理解を深める研修としての演劇鑑賞／ワークショップ

これは、ある意味、児童館の職員にとっても子どもの「遊び」についての理解を深めるための研修にもなっている、しかも楽しい研修になっているといえる。

さらにいえば、演劇鑑賞とワークショップが、子どもたちの日常の「遊び」に影響を与え、演劇鑑賞とワークショップから獲得したことを子どもたちの「遊び」に取り込まれていることでもある。ここに「遊び」を重視している児童館で演劇鑑賞とワークショップを実施する重要性がある。つまり、「遊び」／演劇鑑賞／ワークショップ／「遊び」という連続体である。この連続体により、児童館における子どもの「遊び」が、より豊かになっていくと考える。

②『ともだちげきじょう』（人形劇団のはな）

実施日：2023年1月6日（金） 福岡市立中央児童会館あいくる

「演目レビュー」

小林由利子（明治学院大学）

令和5年1月6日（金）13時30分から、福岡市立中央児童会館あいくるのホールにおいて、人形劇団のはなの『ともだちげきじょう』を観劇した。人形劇団のはなは、1998年北九州で設立され、人形遣い2名の小規模人形劇団であるが、全国で巡回公演をしてくれている。

観客は、子どもと保護者を合わせて87名（乳幼児45名、小学生8名、保護者34名）だった。観客層は、乳児から小学生の子どもと保護者だった。舞台と観客席に段差はなく、客席として敷物が敷かれ、後部に椅子が設置されていた。

『ともだちげきじょう』は、5つの作品からなる幼児向けの人形劇である。『しろくまちゃん』は、白いぬいぐるみを人形遣いが動かすセリフのない作品である。しかし、セリフが想像できるようになっていた。『ウレタンロボット』は、ロボットがおかしな動きをしながら、さまざまな登場人物に出会う物語である。この作品は、幼児だけでなく、小学校の低学年の子どもたちも関心をもって観ることができる構成になっていた。『コップんこシアター』は、さまざまな大きさの紙コップを使った作品だった。紙コップが重なっていて、「いないいないばー」のように表情の異なる顔がコップの下から登場するようになっていた。まるで手品のようなようだった。最後に映画館で売られているポップコーンの紙コップが登場したときは、その紙コップの大きさに驚かされた。『びよんちゃん・けろちゃん』は、「かくれんぼ」の要素を取り入れた作品だった。岡田よしたか原作の絵本『うどんのうーやん』を人形劇にした作品は、うどんの麺の動きのおもしろさと、うどんのどんぶりに次々にいろいろな具材が飛び込んでくるおもしろさがあった。きつねうどんが、最後にどんぶりにあふれんばかりの具材がごちゃごちゃに入れられ、注文主のキツネの家に届けられるが、キツネは怒りもせず、喜んでしまう、というお話である。新たに入ってくる具材を拒否しないで、うどんのどんぶりに全て受け入れるところが、なんともおかしく、心温まされ、よかった、よかったと思えるようになっている。

「観察結果」

小林由利子（明治学院大学）

1. はじめに

50枚の整理券が、10分でなくなったということは、それだけ『ともだちげきじょう』を観たい、ワークショップに参加したい、という保護者のニーズを示している。いつも通っていたり、以前から知ったりしている児童館での無料の公演とワークショップという条件も影響していると考えられる。観客は、乳幼児が多く、小学生は数名であった。

「人形劇団ののはな」は、1998年創立で、夫婦で長年九州を中心に、全国で人形劇を長年演じてきて、上演した児童館とは以前からの知り合い、ということだった。このような劇団と児童館とのネットワークは重要であり、特にワークショップを実施するときは、劇団と児童館職員との連携が不可欠である。

2. 上演作品についての考察

(1) 「しろくまちゃん」

「人形劇団ののはな」の『ともだちげきじょう』は、5つの短い作品のオムニバスであった。最初の「しろくまちゃん」において、女性の人形遣いが、音楽に合わせて柔らかく優しくゆっくりと白いぬいぐるみのくまを動かすので、乳児も興味を持って見入るという現象が起きていた。時々、くまのうごきに子どもたちが反応して、笑いが発生していた。さらに、ぬいぐるみをパペット（人形劇の人形）として使うことにより、乳幼児にとって、日常している「遊び」の延長線上にある人形劇として親近感を感じているのではないかと考える。

子どものアンケートでも、「おもしろかった、しゃべらずに表現するのがすごい」というコメントがあった。子どもたちは、物語をおもしろがるだけでなく、同時に人形遣いの技術についても観察している。つまり、演劇鑑賞は、メタ思考の機会を子どもたちに提供しているといえる。演劇鑑賞は、子どもたちの感情だけでなく、知性にも働きかけているのである。人形劇という想像世界に乳幼児をいざなう導入の作品として、「しろくまちゃん」はとてもよい作品の選択であると考えられる。オムニバス形式の順序性の重要性を再確認できた。

(2) 「ウレタンロボット」

2番目の「ウレタンロボット」は、超人間的な動きや予想外の動きをするので、非常におもしろく意外性があり、幼児から小学生までの観客から笑いを生み出していた。そして、ロボットは、さまざまな登場人物と出会い、新たな発見をしたり、一緒に「遊び」をしたり、からかったりしていた。小学生にとっては、自分もロボット・パペットを動かしてみたいという意欲を掻き立てられていたのではないかと思った。

この作品は、小学生男児にとっても魅力的な作品であった。児童館職員が、小学生男児と保

護者に「何が楽しかった？」か尋ねると、この男児はすぐさま人形劇のウレタンロボットが演じていたような動きを楽しそうに始めた。それが、あまりに作品のロボットの動きをとらえていたので、思わず拍手してしまった。保護者も児童館職員も笑いながら拍手していた。このことは、職員のレポートにも記録されていた。非常に印象深い場面であった。その後、職員が、劇団からプレゼントされた小さなウレタンロボットが事務所にあることを伝えると、男児小学生の表情がパッと明るくなった。彼は、演劇鑑賞でウレタンロボットに興味を持ち、自分でもロボットを操ってみたいと思っていた、ということが理解できた。しかし、ワークショップでは、ウレタンロボットではなく、ちょうのパペットの作成だったので、彼は、がっかりしていたのではないかと想像した。驚きだったことは、人形劇の上演が終わり、片付けをして、劇団と振り返りをして、児童館ホールの下の階にある事務所の前を通りかかったら、彼がウレタンロボットを楽しそうに動かしていた。すでに上演後1時間くらいは過ぎていたにもかかわらず、彼は事務所からウレタンロボットを借りて、動かし続ける「遊び」をしていたのである。

まさに、演劇鑑賞から刺激を受けて、自発的な「遊び」をしていたのである。いかに演劇鑑賞が、子どもたちの日常の「遊び」に影響を与えるか、ということを考えた。それも、興味と関心をもって、楽しみながら、小学生になっても「ごっこ遊び」をしていたのである。ここから、ファシリテーターのいるパペット使った「劇遊び」は、小学生対象でも可能であると思った。その時に、小学生がどのような上演作品とパペットに興味を持つか、演劇鑑賞に続くワークショップでどのパペットを製作し、それを使って演じてみるか、ということが重要になると思った。乳幼児と小学生と一緒にワークショップでパペットを製作する場合は、年齢について考慮する必要があることを改めて実感した。

(3) 「コップんこシアター」

3番目の「コップんこシアター」は、子どもの「遊び」の「いないいないばあ！」の要素を取り入れた作品だった。真ん中に柔らかい棒の付いた動物の絵が描かれた小さな紙コップを動かすと、下から別の顔をした動物が現れたり、別の動物が現れたりした。上の紙コップが持ち上がり、下から別の紙コップが現れる仕掛けになっていた。何か手品のようであり、子どもたちは、驚きながらこの意外性を楽しんでいた。小さな紙コップで終わると思っていたら、少し大きな紙コップが登場し、別の動物の絵が現れた。さらに、もっと大きな紙コップが出てきて、最後は映画館で売られている大きなポップコーンの紙コップを使ったパペットが登場すると、子どもたちは驚きながら爆笑していた。

紙コップが徐々に大きくなっていくので、次はどうなるか、という期待感を子どもたちは感じているようだった。紙コップが大きくなるたびに、子どもたちは歓声をあげていた。さらに、下から何が出てくるか、という期待感やわくわく感があり、子どもたちは徐々に人形劇の世界に引き込まれていった。この徐々に子どもたちが、人形劇という想像世界に入っていき、その想像世界の中

で子どもたちは、楽しんだり、笑ったり、わくわくしたりする体験をして、現実世界に戻ってくると「あー、楽しかった！」と満足感を体感できる。それも、グループでこのことを体験できるのが演劇鑑賞である。

(4) 「ぴょんちゃん・けろちゃん」

4番目の「ぴょんちゃん・けろちゃん」は、子どもの「遊び」の「かくれんぼ」の要素を取り入れた作品だった。登場人物の一人が隠れて、もう一方が探す場面では、子どもたちは、自然に「あっち!」、「あそこ!」、「うしろ!」など声を上げて、探している登場人物を助けようとしていた。この作品は、子どもたちのこういう形での自然な参加を導き出していた。子どもたちは、人形劇の登場人物が「かくれんぼ」をしているのを観て、現実世界でも「かくれんぼ」をまたしよう、という刺激を受けていると考える。いいかえれば、人形劇を鑑賞することで日常の「遊び」のための新たなアイデアを獲得して、現実世界に戻ってきたとき、これらのアイデアを「遊び」に生かすことができる。つまり、演劇鑑賞は、子どもたちの「遊び」をより豊かにする刺激になる。さらに、大人の人形遣いが、真剣に誰かになって演じるという「遊び」を目撃するので、演劇鑑賞を通して、大人になっても「遊び」続けていいというメッセージを楽しみながら受け取ることができる。演劇鑑賞は、生涯、「遊び」続けられる人になっていくきっかけになると考える。そして、「遊び」は芸術や想像の源泉であるので、生涯、創造過程を継続していくことにもなる。ここに演劇鑑賞をする重要な意義があると考えられる。

(5) 「うどんのうーやん」

最後の「うどんのうーやん」は、岡田よしたかの絵本に基づいた人形劇である。子ども対象のアンケートに「『うどんのうーやん』の絵本をよんで面白かったので劇をみれておもしろかったです」というコメントが書かれているように、大笑いの連続の人形劇だった。うどんのうーやんが、キツネの注文した「きつねうどん」を自ら出前して家まで届けるお話である。大阪弁が非常に歯切れよく、人形劇が始まったとたんに物語世界に観客が巻き込まれてしまった。

うどん屋の主人が、「きつねうどん」の注文を受け、うどんのうーやんに出前を頼むと「ほはいってきます」と店を出ると、後から「うすあげ」と「ねぎ」と「おはし」が慌てて追いかけてきて、どんぶりに入った。すると3日もご飯を食べていないやせた猫に出会ってしまうと「うどんのうーやん」は気前よくうどんを半分あげてしまった。少し行くと、そうめんに出会い、「そうめん」がうどんより細いけど大丈夫と心配していても頼みこんでどんぶりに入ってもらった。この細かいところを気にしない、「ええや、ええや」という「うどんのうーやん」のおおらかさが、この作品の魅力の1つであると考えられる。次に、「めざし」が登場し、どんぶりに入れてくれと言っている場面では、味は大丈夫かと心配になってしまった。さらに、おばあさんの梅干しに出会い、どんぶりはぬくいから入れ入れと勧めて、梅干しも入れてしまった。こうな

るともう何を入れてもいいような状態になってしまっていた。どんぶりは、山盛り状態になっていた。次に、木綿豆腐にいじめられた絹ごし豆腐が泣きながら登場した。「うどんのうーやん」は、また入れ入れと勧め、「うすあげ」に親戚みたいなものだから慰めてやるようにうながした。「うどんのうーやん」の誰でもおおらかに受け入れて、楽しくやっぺいこう、という雰囲気、大笑いしながら観客の気持ちを温かくさせていた。さらに、舟が壊れて困っていた「たこやき兄弟」もどんぶりに入れ、弁当に入れなかった「エビフライ」「コロッケ」「トマト」もどんぶりに入れてしまうと、どんぶりはさらに大盛状態になった。この大盛のどんぶりが、目の前に出現した川を渡るので、観客は大丈夫かと心配するようになっていた。川は、大きな布で表現され、どんぶりは大揺れに揺れながら川岸に到着すると、観客も一緒にほっとしているようだった。川を渡っていると、トンビが、うすあげをねらいに来ると、後から追いかけてきた「七味唐辛子」がトンビを撃退した。やっぺいどんぶりが川を渡りきると、大急ぎでキツネの家に向かうのだが、うどんが左右にゆれ、具材が落ちそうになり、大騒ぎ状態になり、観客はひやひやどきどきしながら、大笑いしていた。やっぺいキツネの家について、どんぶりを置くと、キツネは、キツネうどんを注文したのにと思いつつ、食べてみるとおいしかった、ということになり、観客もほっとするというハッピーエンドになっていた。

おもしろおかしいお話であると同時に、他者に対してどのようにかかわるか、ということもテーマに入っていて、大笑いしながら、他者と協働して、楽しく生きていくっていいよね、と感じるようになっていた。道徳的なことを押しつけがましく子どもたちに伝えるのではなく、大笑いしながら、ハラハラどきどきしながら、悩みを抱えている他者をポジティブに受け入れ、助け合いながら生きていくっていいよね、と思えた。笑いの重要性を改めて考えた作品であった。子どもたちのアンケートにも「おもしろかった」、「うどんのげきがおもしろかった」、「おもしろかったからお大笑いしたよ!」、「とてもたのしかったです。またみたいしじぶんでもやってみたいです」と書かれていた。いかにおもしろさ、たのしさ、笑いが重要で、この体験が次にまた演劇を観たい、自分でも演じてみたい、ということにつつながっていくと思った。

3. 演劇鑑賞後のワークショップ

ワークショップは、「パタパタちょうちょ」の製作だった。劇団が、材料等を準備し、壁際に設置されていたテーブルに並べた。いろいろな材料があり、子どもたちにとって興味を引くものばかりだった。したがって、何人かの子どもたちは、人形劇を観るより、これらの材料が気になって、触ったり、手で持とうとしたりしていた。子どもたちが人形劇に集中するために、ワークショップの材料の上に布を被せたり、公演後に並べたりする方法も検討する必要があると思った。

今回は、幼児が多かったため、ハサミを使って羽を切り抜く「パタパタちょうちょ」は、難しそうだった。ハサミをまだ使えない幼児も多くいた。他方、作るのが少し難しかったため、保護者が積極的にワークショップに参加することになった。保護者たちが、楽しそうにパペッ

トを製作し、子どもたちが喜んで出来上がったパペットを動かしていた。親子の共同作業になったことは、よかった点でもある。しかし、男子小学生はこのパペットを製作することにはあまり熱心ではなかったようであった。

ワークショップを実施する前に劇団が、児童館に来訪し、ワークショップで製作するパペットの作り方と動かし方を伝える研修のようなものがあり、演劇鑑賞とワークショップを実施できたならよかったのではないかと思った。今回は、児童館職員の臨機応変の対応で、幼児にとって難しかったワークショップを実施することができたと思った。職員向けワークショップ→演劇鑑賞→ワークショップ→子どもが人形劇をするワークショップ、というような継続した活動ができるとより、子どもの「遊び」が豊かに深まるのではないかと思った。

4. おわりに

乳幼児のいる保護者にとって、児童館での演劇鑑賞は、親子でアートに触れる初めての機会になると思った。大きな劇場に乳幼児を連れていくのは、料金もかかるし、途中で泣き出したらどうしようという不安もあるし、慣れていないので緊張もしてしまう、ということがある。通いながっている児童館で人形劇などの演劇鑑賞をして、その内容の一部をワークショップとして体験できることは、保護者にとっても子どもの「遊び」を理解する機会になるし、子どもと一緒に「遊ぶ」ための新たな方法を知る機会にもなる。

子どもにとっては、よく知っている場所が劇場になる、という体験もできるし、よく知っているお友だちと一緒に演劇を鑑賞する機会にもなる。そこで一緒に笑ったり、驚いたり、ちょっと悲しくなったり、さまざまな体験をすることができる。そして、パフォーマーのしていることを真似したいと思ったり、自分でもやってみようと思ったりすることもできる。『黄金の羅針盤』の作者であるフィリップ・プルマンは、「子どもたちから美術、音楽、物語、演劇を取り上げてしまったら、子どもたちの心のなかは枯れて果ててしまいます。どの子どもたちが芸術に飢えていることは、なかなか表面には現れてこないのです、おとなたちは子どもに芸術が必要だということがわからないのです。芸術を与えなければならない立場のおとなたち、たとえば教師、政治家とか、親たちでさえ、このことにまったく気づいていないのです」¹と述べている。大人であるわたしたちは、子どもがアートに触れる機会を提供しなければならない、子どもに対して責任ある立場にあり、もしそうしないと子どもたちは一生アートに触れる機会がなく過ごしてしまうかもしれない。ノーベル賞受賞者の労働経済学者であるジェームス・J・ヘックマンは、「子供が成人後に成功するかどうかは幼少期の介入の質に大きく影響される……幼少期に認知力や社会性や情動の各方面の能力を身に着けることは、その後の学習をより効果的にし、それによって学習することがより簡単になり、継続しやすくなる」²と述べている。いいかえれば、幼少期に質の高い経験をすれば、その学びに影響し、大人になってからの生活の質にも影響を与える、ということである。演劇は総合芸術であるので、質の高い演劇作品の

鑑賞とワークショップは、子どもたちに楽しさだけでなく、大人になってからの豊かな生活にもつながる体験を提供できるのである。

¹ プルマン, P., 小林由利子訳「なぜ、演劇か? なぜ子どもか」, 児童・青少年演劇ジャーナル《げき》編集委員会, 『児童・青少年演劇ジャーナル』, 5号, pp.4-7. (原文は Action for Children Arts News 2004 に掲載).

² ヘックマン, J. J. (2015) 大竹文雄解説, 古草秀子訳『幼児教育の経済学』東洋経済新報社, p.34.

③『森のオト』（ロバの音楽座）

実施日：2023年1月7日（土） 神戸市総合児童センター こべっこランド

「演目レビュー」

方 勝（玉川大学）

ロバの音楽座は、中世ルネッサンスの古楽器や創作楽器を使って子どものための音楽を創り演奏活動を行っているグループである。

その代表作のひとつ「森のオト」を令和5年1月7日（土）、神戸市総合児童センターのホールで鑑賞した。

会場は額縁舞台を備え、固定席の無いフロアーにカーペットを敷いた座る席とその回りに椅子席が設けられていて、170人程の親子連れが着席。子どもの多くが幼児から小学生であった。

「森のオト」は、題名のとおり「森から生れた楽器で、森に教わった音楽を」をテーマに、男女6人の演奏者がそれぞれ数種の楽器を奏でる。バグパイプ、リュート、リコーダー、ヴィオラ・デ・ガンバ、オルガンなど30種以上の古楽器に歌や踊りや語りを混じえた愉快的なコンサートである。

舞台も可愛い森の絵の背景幕に少しばかりの装飾と使う楽器が予めセットされ、出演者の衣装や小道具など全てがまるでブリュッセル絵画の中世の旅芸人の世界をイメージさせてくれる。

演目は全16曲。ロバの鈴の音で開演し、まずは笛を主とした牧歌的な静かな曲で始まり、次いで太鼓やバグパイプが加わり賑やかな曲で一気に不思議なおとぎの世界へと誘う。そして森に向かい「かぶと虫が教えてくれた歌」他コミカルな演目が続き、やがて演奏者全員可笑しい土俗的な仮面を被り森の精霊になって歌い演奏する。その後楽器の紹介に移り、それぞれの古楽器がいかにユニークな音色をもち、形や大きさがいかに不揃いでデコボコであるかを説明し、「デコボコゆかいだな」の歌で多様性のおもしろさと大切さを教えてくれる。最後の曲は世界の国々の「こんにちは」「さようなら」の挨拶を原語で観客と一緒に歌い終る。カーテンコールの2曲も観客の手拍子で盛り上がり1時間15分のコンサートが幕となる。

ロバの音楽座の音楽会は、普段見聞きしたことのない珍しい楽器の不思議な音に子どももおとなも皆一様に驚き、興味を示して楽しんでいたが、その演奏を生で聴けたのは貴重な体験であろう。

古楽器の音は現代の楽器に比べて音が小さく単調だが、しかしその素朴な音を生かし楽しいコンサートに仕上げているのが演奏家たちの技と優しい心である。そしてそれがロバの音楽座の最大の魅力であろう。子どももおとなも温かい気持ちにしてくれる上質のコンサートである。

◎公演の日取り

週末（土曜日）午後 2 時からの公演だからか観客の殆どが親子連れで父親の姿もあった。開演時間がちょうど昼寝の時間で眠い子もいたようだが、親子で出かけるには適した時間帯であろう。また上演側にしても、その日のうちに準備、公演となると早くてもこの時間になると思う。

◎会場の状況

「こべっこホール」は多目的なホールで、200 m²の広さの運動もできる平らなフロアーをもち、その奥に額縁式の舞台があって今回はその舞台上演した。

客席は、前方にカーペットを敷いた幼児と親子の席、その両脇と後ろに椅子を並べた小学生とおとなの席が用意され、子ども約 80 人、おとな約 90 人、合せて 170 人程の観客を迎えた。

舞台は間口 8 m×奥行 4 m で、広さは小学校の体育館の舞台に近いが、舞台の高さが少し低く、後ろの観客は前の人の頭に遮られて見づらいのが難点である。

音響・照明など舞台設備については劇場ほどではないが一応備っている。今回はアコースティックな古楽器のコンサートのためホールの音の響きが心配だったが、上演側がマイク他 P A の機材を用意しての上演だったので問題は無かった。照明についても特別な演出は無く、多少の持ち込み器具も使って舞台を明るくする程度であった。

出演者の控え室（楽屋）は舞台裏に無く、観客の出入口を通り別の部屋に行かねばならず不便だったと思う。

しかし今回の「森のオト」の上演会場としては概ね良かったと思われる。

児童館の受け入れ態勢は、当日早朝の荷物の搬入の手伝いから、会場の受付・案内、司会など裏方の仕事を児童館のスタッフと高校生、大学生のボランティアによって進められた。この会場ではいろいろな催しがよく行われるそうで、外部からの公演グループの受け入れ態勢が整っていると感じた。

◎公演の様子

このコンサートは、古楽器の合奏と歌合せて 16 曲を 1 時間 10 分にわたり続けて演奏する。途中楽器や歌の説明があるものの休憩なしで進行するため、幼児の中には長い時間で飽きてしまい集中の途切れた子もいた。観客対象を 3 歳からとしているなら、途中で短い休憩があっ

も良かったと思う。しかしコンサートの後半には手拍子や歌って参加できる曲もあり、体でリズムを取ったり立ち上がって踊る子もいた。

引き続き行われたワークショップでは、そうした子どもの反応に答えるような活動的なものを予想していたが、時間の制約もあって約5分間「耳をすます」をテーマに、風をイメージして体を揺すってほぐしたり、耳をすましていろんな音に気づいたり、静かにひと息ついた感じで終わった。ロバの音楽座では子どもと一緒にもしろい楽器を作ったり、音で楽しむ遊びなどさまざまな活動も行っているの、児童館でもそうしたプログラムも加えたらと思う。

◎アンケートの結果

○児童のアンケートより

半数以上の子どもが公演を楽しんだようだが、その多くが「自分でもやってみたかった」と答えている。舞台が面白ければ自分もやってみたいと思うのは当然だろう。児童館での上演なら尚さらのこと。そうした児童の欲求を積極的に受け入れられるプログラム（ワークショップを含め）を考える必要がある。そこが学校の舞台鑑賞教育との違うところだから。

○保護者のアンケートより

殆どの親もこのコンサートを楽しんだようであるが、この体験が子どもの情操を豊かにする機会になったか、という設問に対して大多数の親が「そう思う」と評価している。

一方児童館でのプロの公演のメリットについては、子どものためには勿論だが、「親も気軽に来ることができる場所だから」や「無料または安く観られるから」という答えも多く見られた。どうやら親子連れで劇場やコンサートに行くのは敷居が高いのか、児童館公演の気軽さが評価されたようだ。児童館には子どもだけでなく親子一緒に観に来て感動を共有する場としての役割もあるようだ。

○その他

今回の資料やアンケートに、上演団体を「劇団」、上演作品を「劇」という言葉で括っていることが多いが、舞台芸術のジャンルの多様性を考えると改める必要があると思う。案の定打ち合せ資料に、ロバの音楽座より「音楽会」と紹介して欲しいとの要望があった。

児童のアンケートに「感想を絵にして」という項目を加えたが、今回のように終演後の忙しい時間では無理な要望であった。ゆっくり時間が取れば面白い反応を得られるのだが。

◎まとめ

児童館における児童福祉文化財（舞台芸術）の上演の意義とそのあり方について、今回の観察を通して以下のように考えた。

- 生の舞台を観る機会の少ない親子のために気軽に観られる機会を提供できる。
- 児童館を利用したことが無い親子に、こうした催しが来館の良いキッカケとなる。
- 優れた舞台芸術を生で観て感動したり、出演者と交流して表現の楽しさを実体験することができる。
- そのためには、児童館の特性に合った児童館のためのプログラム（ワークショップも含め）が望まれるが、その内容を上演側任せにせず、児童健全育成のプロの助言や協力が得られるような体制作りが必要と思う。

かつて厚生省時代に実施していた児童福祉文化財（舞台芸術）の巡回事業の復活・発展を望む。

④『らふいゆ れふいゆ』（ラストラーダカンパニー&X-jam）

実施日：2023年1月9日（祝・月） 愛知県児童総合センター

「演目レビュー」

小林由利子（明治学院大学）

落ち葉が舞台全体に敷き詰められていて、ヨーロッパのどこかの街の広場の雰囲気を出し出し、落ち葉で隠されたアップライト・ピアノといくつかの街灯が設置されている。広場に、手に楽譜を持ち、悲壮な面持ちの作曲家が登場する。続いて、二人の自由気ままな感じの道化師が現れる。一人はシンバルの付いた押し車を押し、もう一人は大きな古びた皮の鞆を持っている。道化師の二人は、ジャグリングなどをしながら、作曲家にちょっかいを出し始める。作曲家は、作曲の邪魔をされることに腹を立てるが、徐々におかしい道化師たちのペースに巻き込まれ、3人でいろいろな体験をする中でさまざまな着想を得て、曲を完成させることができる。そして、作曲家は、道化師たちに感謝しようとする、知らない間に彼らは、舞台から消え去っている、という物語である。

道化師 Chang と LONT、音楽家シモッシュの3人の高い技術を豊かな経験が融合して、スラップスティックがドタバタにならず、アーティスティックでおしゃれでエスプリの効いた作品になっていた。ノーバーバルなのに頭の中でセリフが聞こえてきた。二人の道化師と作曲家が、さまざまな「遊び」の要素を取り入れたやりとりをしながら、親しくなっていくプロセスが描かれていた。作曲することの苦悩が描かれ、その苦悩から逃げずに、他者とかかわりながら試行錯誤と葛藤しながら、新たな曲を創作できた、という達成感が表現されていた。まさに、アートや科学などすべての創造過程に共通することが示されていた。観客は、大笑いしながら、深く豊かなテーマである「遊び」と創造性、他者とのコミュニケーション、苦悩と葛藤を通じた達成感などをおもしろがったり、大笑いしたりしながら、心身に浸み込ませていっていると思った。

「観察結果」

方 勝（玉川大学）

◎ 公演会場の状況

劇団によると「この演目に必要な会場の広さは 10m×10m、天井高 4 m で、会議室ほどのスペースでも可能」とのこと。

この愛知県児童総合センターの大ホールは広さの条件は満たしているが、そもそも研修や遊びのためのフリースペースなので舞台や客席が無い。

そのため公演当日の午前中、劇が上演できるよう劇団のメンバーが舞台を作り、児童館のスタッフが客席を作った。さすがの対応力、限られた時間にもかかわらず手際良く会場の準備ができた。

舞台は、大ホールの奥半分の床に半円形のカーペットを敷いて演技スペースを作り、その回りを黒幕で覆っただけのシンプルなものである。

客席は、舞台寄りの床にカーペットを敷いて幼児の親子席、その後ろに学童とおとなの椅子席が設けられた。

観客は、子ども 30 人とおとな 24 人、合せて 54 人でこじんまりしてるが、その殆どが親子連れであった。

◎ 公演の様子

○舞台美術のマジック

会場の設営が終ると、いくつかの置道具などが飾られた。

- ・舞台四隅に街灯らしき柱（そのうち 2 本は丸い電灯が点いている）
- ・舞台全体に紅葉した落葉（床に散りばめられている）
- ・舞台左奥に古いアップライトピアノと木のベンチ（開演まで落葉の吹き溜りで少し隠れる）その傍に蓋つきの古い木箱

これらの道具はどれも手の込んだ作りで存在感があるが、それに夕陽の照明と怪しい音楽が加わって、何も無い空間が瞬く間に「晩秋のパリ下町の広場」のようなシーンになった。正に舞台美術のマジックである。客席に入って来た子どもはその情景に驚いたようで、劇への期待も昂ったに違いない。児童館でこの様な素敵な舞台を見られるのは感動的であろう。ラストラダカンパニーの舞台作りへのこだわりを感じる。

○ピエロと子ども

変なメイクに可笑しいなコスチューム、どこやら怪しいピエロは幼ない子どもには少し怖い存在だろう。開演して間もなく客席から登場したピエロを見て大声で泣いた子もいた。でも

ピエロがジャグリングを始めると子どもたちは目を輝かせてその技に見とれ、声を出して喜び、ピエロに親しみを感じ始めるが、ピエロは喋らない。喋れないことに気づいた子どもは声をかけ助けようとする。それは子どもの素直な思いやりであろう。

この劇はことばは話さないが、子どもたちに人を思いやる優しさや想像する楽しさを感じさせてくれたに違いない。

このピエロの劇は、大道芸やサーカスのショーと違い、ピエロのドラマが楽しめる優れた演劇である。

◎ワークショップの様子

公演後、客席をかたづけて約 20 分間、役者たちの指導でワークショップが行われた。内容は舞台で見たピエロのパントマイムを親子で体験すること。

まずはクイズとじゃんけんゲームで気持ちをほぐし、じゃんけんのパーの開いた手のひらで見えない壁を作ってみる。次いでその壁に戸口を作り、扉を開けて外に出るという一連の動作を教わり、そして皆でその成果を見せ合って楽しんだ。

なかなか観る機会のないパントマイムだが、それを舞台上で観ることができ、その出演者に直接教えてもらったことはきっと子どもたちの心に残るだろう。こうしたプロのアーティストとの交流がもてるのも児童館での公演のメリットである。

◎ まとめ

○作品の内容と観客の年齢

「らふいゆ れふいゆ」は、一流のアーティストによる素晴らしい劇だが、味わい深い芸術性にこだわった内容だけに、学童はともかく、幼児が理解するには少しハードルが高いように思った。

この劇団には、幼児向けのパントマイムやアクロバットを楽しんでピエロと仲良しになれるやさしい内容の演目もあり、幼い子どもにはそちらが向いているかと思う。

公演に際しては、児童観客の年齢と作品内容とのマッチングを充分確認する必要があると思う。上演側と児童館側が事前によく打ち合せ、そして適切に広報することが大切だと感じた。

○親子席

今回、カーペット席で親子一緒に観劇してる姿を多く見たが、その様子からいくつか気づいたことがある。

- ・幼児は舞台を観て怖がったり悲しんだりした時に、親と一緒にいることで安心して観れ

る。

- ・子どもの反応を親がその場で受け止め、分からないことがあればすぐに答えられる。
- ・親からすれば、子どもの様子や反応を通して子どもの成長を知ることができる。

幼稚園や保育園の公演でも親が参観することもあるが、同じ席で一緒にということは無いだろう。でも児童館ならそれが可能だと思った。

○バックステージ見学

終演後、客席に残っていた2人の子どもがきれいな落葉が気に入ったのか舞台に近づき、落葉を手にとって見つめ、やがて嬉しそうにかたづけの手伝いをしていた。

素敵な舞台を観た後は、その舞台がどうなってるのか興味がわくものである。児童館でプロの舞台を上演する際は、バックステージの見学の時間をしっかり取って見せてあげたいと思う。

○スタッフ体験

また、中学生や高校生の場合は、裏方のボランティアスタッフとしてプロの公演の仕込み作業を見学したり、許されれば手伝いながら学ぶことが出来るだろう。そしてその学びが児童館の行事や催しの際に生かされると思う。

舞台のスタッフは目立たない存在だが、誰かのために汗をかいて、感動してもらう喜びが得られる魅力的な役である。

⑤『ハイハイ、ごろ〜ん。』（劇団風の子九州）

実施日：2023年1月30日（月） 荒川区立熊野前ひろば館

「演目レビュー」

宮里 和則(特定非営利活動法人 ふれあいの家 おばちゃんち 理事)

ハイハイごろ〜んは、劇団風の子九州が8ヶ月から18ヶ月の赤ちゃんのために制作した作品である。「この時期が全てを取り込もうとする時期で、その後は自分がいろいろやりたくなるとき。しっかり全部を取り込んでいくのがその時期」という神経心理学者ジャッキーE チャン（韓国・ウンソン医療財団ニューロサイエンスアートセンター院長）の指導のもとに作られた。

劇場に入るとまず目につくのは真ん中に斜め半円状の小さな舞台、その上にチンアナゴのような木。その舞台の周りに、指に小さな鈴、オルゴールベルをつけた役者が3人座っている。観客席はその周りを囲むように配置されている。半円状にマットが置かれ、限定で20組だけの親子が座る。鈴と目で子どもたちを誘う役者。「どこでどんなふうに見てもいいですよ。とめないであげてください」とお母さんに優しく語られる。

芝居が始まるまでかなり長い時間。そこでゆっくり役者と交流。この時間も大切にされているのが、ベイベーシアターの特徴だろう。やがて流れの中で自然にお芝居が始まる。

3人の役者がものと戯れ、赤ちゃんとお母さんにノンバーバルの表現で話しかける。優しい音楽が会場を包み込む。最初は緊張してお母さんのそばを離れなかった赤ちゃんたちも、劇が進むに連れ、自由に動きまわるようになる。最後に客席いっぱいペットボトルやガチャポンで作られた楽器が広げられると、その楽器で遊びだす。

そして3人の役者の芝居は終わるのだが、劇団から「この後まだ少し遊んでいっていいですよ」のメッセージ。実はここから、おかあさんと赤ちゃんとの劇が始まるように作られている作品なのだ。赤ちゃんとお母さんたちがそこかしこで遊びだす。これこそが、劇団の意図なのだろう。

劇団からもらった資料にはこんなことが書かれていた。「何をしたいのかわからない、自分は完璧な親ではないと思いこんでしまうストレスは、すぐに鬱と結びつきます。誰も自分のことを理解してくれない。誰も助けてくれない。この赤ちゃんは私を困らせるようとしていると思い込んでしまうのです。もっと自然体で子どもと遊ぼう」。

他愛ない遊びがとても意味のあるすてきな表現なのだとお母さんに伝えることができる作品である。

「観察結果」

宮里 和則(特定非営利活動法人 ふれあいの家 おばちゃんち 理事)

観察：2023年1月30日 10:30～12:00 熊野前ひろば館

事後インタビュー：2023年2月6日 10:30～11:30 熊野前ひろば館

1) 人々の生活のすぐそばに劇があるということのすばらしさ。

「おはよう～」優しい児童館スタッフの声。「〇〇ちゃん！おはよう」
玄関に明るい声が響き渡る。

地区児童館は子どもたちの生活圏にある児童館のため、よく知っているスタッフがそこで待っていてくれる。母親たちも顔見知りの人もいて、安心できる場所である。こんな環境の中で、お母さんも赤ちゃんも心が開かれていく。特に乳児を連れて、劇を見に行くということは、母親にとってハードルが高い。この時期に劇と触れてほしいという劇団の思いを実現するには、地区児童館での公演は最適だと思える。

2) ハレとケ

会場に入るといつもと違う雰囲気、赤ちゃんたちは張緊。何が起きるのだろうと、前にいる役者に目を見張る。こんにちは～の音が響く。ゆっくり包むような声と抑揚が心地いい。

勝手知ったる児童館。赤ちゃんは自分から会場になるホールに入っていこうとする。するといつもと違う様子に、動きが止まってしまう。

知っている空間が、いつもと少し違っている。それは「祭り」と出会う感覚と似ているのだろう。夢のような体験が、その空間をより深く豊かなものへと彩っていくことになると思える。

3) 始まる前の一時

ゆっくりと開演を待つ。お母さんたちの世間話がそこそこで起きる。
「キャンドウ寄ってきたんだけど…」「・・・へえ、そおなんだ」
温かくのんびりした空気が広がっている。町の児童館ならではの風景だろう。

このリラックスした一時が、五感を開放し、より劇を味わうことができる環境を作っていくと思う。

最初は抱っこされていた赤ちゃん同士も、降ろされ、やがてお互いを意識し始める。児童館によく集まっている仲間だから、お母さん同士は知り合いなので、安心感がある。

4) 優れた導入

赤ちゃんの前では指に小さなオルゴールボール（鈴のようなもの）の指輪をした役者がゴロゴロしている。目の前の赤ちゃんの真似をしたり、赤ちゃんになろうとしているのだろう。

やがて赤ちゃん同士も、お互いを意識し始める。児童館によく集まっている仲間だから、お母さん同士は知り合いなので、安心感がある。

ライトが付き開演だということに大人は気づかされる。児童館のあいさつ。「目で見て、耳で聞いて、心で感じましょう」とお母さんたちへのメッセージ。素敵の始まり。

役者が突然ウーとうなりだす。それまでいろいろな方向を見ていた赤ちゃんたちが舞台に集中する。

ニョキニョキと芋虫のようなものが歩き出す。太鼓が登場。鳴らすのかと思っていると、転がす。転がすのを十分に楽しんだ後、初めてポン！と叩く。

赤ちゃんの気持を実によく捉えた導入。かなりの長い時間赤ちゃんたちは集中して劇を見ている。観劇後のアンケートの中にも、こんなに長い時間見ていたことへの驚きの声が上がっている。「普段テレビには興味を示さないのですが、舞台は真剣に見ていました。こんな小さい子どもでも音や表情を読み取って泣いたり笑ったりできるものなのだと気が付きました。」

5) 子どもたちへのリスペクト

やがて海。ウニャラウニャラピ！芋虫のようなもの。「こんにちは」を覚えた芋虫。いたるところでこんにちは。赤ちゃんたちにも「こんにちは」。

もちろん赤ちゃんたちは「こんにちは」を返すことがない。それでも丁寧に頭を下げ、伝えようとする姿から、赤ちゃん一人ひとりを大切にしている劇団の姿が伝わってくる。観客の人数を制限しているのはこんな思いからだろう。

6) 探索行動のあとの幸せ

「イシイシイシ」カエルのようなもの。そしてへビのようなもの。が登場してにぎやかに。やがて長い布が観客の上を覆う頃、子どもたちも少しずつお母さんを離れ動き出す。赤ちゃんの探索行動が始まる。しばらく周りを歩いて、お母さんのところに帰ってきてニコリ。抱きしめるお母さん。

現在はコロナ禍であり残念ながらお母さんたちは皆マスクをしての観劇なので、笑顔を見ることはできなかったが、幸せいっぱいの眼差しをしていた。

「どのお子さんもそれぞれ興味のある方向に向かっていく様子が面白かったです。」とアンケートにもあるが、自分の子どもの探索行動に喜びを感じ、そして戻ってきた時の探検報告のような笑顔の我が子を受け止めるとき、母親として無常の喜びを感じたのではと思われる。

7) 自由

やがてボールや、プラスチックケースにビーズを入れたものなどいろいろなものが会場に広げられる。子どもたちはもう自由に遊びまわっている。

全公演を通じて、子どもたちは自由に動き回り、遊んでいる。

最初は舞台上がろうとする我が子を止めようとしていたお母さんも、役者の仕草で、自由にしているのだと気付かされ、見守るようになる。これこそが劇団が伝えたかったことだろう。

アンケートの中にも「自由に遊べてよかった」という声が上がっている。

8) ここから始まる

そして・・・「お芝居はここまでですが、気になるものがあれば遊んで行ってください…」と役者からのメッセージ。

お母さんが動き出す。ハッピードラムが中央に持ってこられる。最初はお母さんやがて子どもたちがたたき出す。いろいろなところでおしゃべりが始まる。交流が始まる。

ここから、劇団が意図してきたお芝居が始まるように思える。お母さんたちが自然体で子どもたちと遊びだす。

9) 来週またね

12時が過ぎ、終了のあいさつ。親子は帰っていく。「来週またね」のあいさつがここここで聞こえる。

月曜日は赤ちゃんたちのプログラムの日であるらしい。この体験を共有した親子がまた来週会える。この素晴らしさこそ、町の児童館ならではだと思ふ。

こんな取り組みが全国どこでも行えることができれば、一人で子育てに苦勞しているお母さんたちに大きな力を与えてくれるだろうと思わされた。

10) 事後インタビュー

1週間後、子どもたちと児童館職員が劇をどう感じたか知りたいと思い、児童館を訪ねた。

一番乗りでやってきたのは、初めに舞台まで這って行った赤ちゃんとお母さん。自分の子ど

もの新しい一面を見られたことを、語ってくれた。のんびりとした素敵な居場所である。

職員の意識が変わりましたね。劇の終わった後はみんな感激。「言葉のない世界を子どもたちが見れるんだ」と感動。「今日感じたものを後々の子どもにも伝えよう」と話が出てきました。また劇団のポリシーを Web で学び、ホールを幻想的空間にしたいという劇団の要望で、児童館に何げなく置いてしまっているものなどを見直し、環境を整えることができました。

劇で使った手作りおもちゃはすぐにまねして作り、布の効果も知ることができました。文化的なものにあまり関心なく、子どもに雑なかかわり方をしているなあと思っていたお母さんが、感激し「心が洗われた」と言って帰っていったんです。職員も「やってよかったなあ」と感じた一時でした。

このハイハイごろーんは職員の意識さえ変えてしまう効果を、児童館にもたらした。すべての劇がこのような効果をもたらすとは思えないが、演劇という視点で子どもや館そのものを見直すことができる機会をもたらすことができると考える。また職員の保護者へのまなざしも変わり、ますます地域にとって、心強い居場所になっていくことと思える。

このような取り組みが様々な場所で行われることを願っている。

第3章 考察及び提言

本調査研究は「児童館が有する施設特性の1つである『遊びをとおして文化的・社会的な体験活動などを行う』（児童館ガイドライン第1章総則の3-(2)）に当たって、その役割を一層効果的にしていくために、厚生労働省社会保障審議会福祉文化分科会が推薦する児童福祉文化財（主に児童劇）を活用し、全国の児童館の質の向上や今後の児童館活動の方向性を検討するのに役立てる」ことを目的として、以下の調査研究を実施した。

- I 令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「児童館の運営及び活動内容等の状況に関する調査研究」の追跡調査として、児童館における「表現活動・鑑賞活動・児童福祉文化財」について実態を調査する。
- II 全国5か所の児童館で児童福祉文化財（児童劇等）を上演し、鑑賞後に参加者（保護者・子ども）、児童館職員・劇団へヒアリングやアンケートを取り、活動の成果等を把握する。なお、この取り組みは新型コロナウイルス禍の影響で、児童館の観客数や行動等の制約がある中で、児童館・劇団と事務局の創意工夫と協力のもとで行った。

これらの結果の詳細は、第2章調査研究の結果にまとめている。ここでは、今回の調査研究において特筆すべき事項について考察する。

1 表現活動プログラム等に関する実態調査結果の考察

本調査は、一般財団法人児童健全育成推進財団が実施した令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「児童館の運営及び活動内容等の状況に関する調査研究」において、劇遊び等の表現活動または、劇・映画・音楽等の鑑賞会のいずれかを実施していると回答した1,475児童館を対象として「①表現活動について（10問）、②鑑賞活動について（10問）、③児童福祉文化財について（6問）」について調査を行った（調査基準日令和4年10月1日現在）。

結果、1,475児童館のうち857児童館から回答が得られた（回収率58.1%）。主な項目の概要は以下の通りである。

（1）「表現活動」の実施状況等について

【問1】857館のうち、570館（66.5%）の児童館が何らかの「表現活動」に取り組んでいた。

【問2】「表現活動」を実施するための予算がある児童館は、332館（58.2%）であり、予算額は、10,000～50,000円未満の館が131館（42.5%）と最も多かった。

【問3】「表現活動」実施回数は、令和3年度は1～10回未満の館が214館（37.5%）と最も多く、次いで10～20回未満の126館（22.1%）であった。また、予定を含む令和4年度の実施回数は、1～10回未満の館が187館（34.0%）と最も多く、次いで10～20回未満の122館（22.1%）となっており、令和3年度と大きな差は見られなかった。

【問4】取組んでいる「表現活動」は、「ダンス」274館（48.6%）、「読み聞かせ（読み語り）」255館（45.2%）、「リズム遊び」230館（40.8%）等であった。また、「その他」の自由記述では、「リトミック」「手遊び」などバラエティに富んだプログラムがあった。

【問5】「表現活動」の対象者は、小学生が502館（89.0%）、乳幼児と保護者321館（56.9%）、中学生136館（24.1%）の順に多く、小学生を主たる対象とした活動が多いことが確認できた。

【問6】－略－

【問7】児童館で「表現活動」を児童館で行うことによって、期待される効果については、468館の記述があり、結果、おおよそ次のような記述があった。

・子どもたちが表現活動を行うことで、表現をすることの楽しさを体験し、表現力が高まること／・情操が豊かになること／・自主性や創造性が高まること／・仲間同士や講師等の地域の方々との関わりにより協調性、コミュニケーション力などが高まること／・自己肯定感や達成感が充足されること／・出版物・音楽等の舞台芸術などの文化財に親しむこと／・日本や地域の伝統文化を知り、伝承されること

これらのことから、児童館では実に多くの期待を寄せて「表現活動」に取り組んでいることがわかった。

【問8】「表現活動」の質の向上（効果性や継続性等）のための工夫や留意点では、416館から記述があった。

○子どもへの働きかけの際の工夫や、留意点では、「子どもの自主性・主体性（子どもの意見・子どもが取組みたい内容・子どもが考える・子ども同士で教え合う・子どもが素材の選定などを尊重する）」「子ども一人ひとりの自由な表現を大切にする」「子どもが達成感を得られるようにする」「子どものニーズを捉える」などであった。

○活動の内容に関わることでの留意点では、「子どもの興味や関心に応じた内容にする」「子どもが様々な体験・素材・道具などに出会う機会にする」「発達段階を考慮した活動の設定」「子どもが親しみやすい内容や素材の選定」などであった。

○活動の環境に関わることでの留意点では、「定期的・継続的な取組みとして設定する」「専門技術のあるスタッフ・講師が関わる」「取組みやすい環境の設定（参加しやすい日時・取組に集中できる環境など）」「職員間で意識・情報の共有を図る」「職員が研修を受講する」「講師との十分な打合せ（活動の趣旨の確認・子どもの特性などを伝えるなど）」「取組み成果を発表する場を設定する」などであった。

【問9】－略－

【問10】今後「表現活動」を実施していくための課題を尋ねた。結果、おおよそ次のようなこ

とが課題として記述されていた。

・新型コロナウイルス感染症の影響により、大勢が集まったり、大きな声を出したりなどが難しいなど、活動場所、活動人数、活動内容等が制限されること。感染対策に関すること／・職員の指導技術や知識の不足、謝金や報償費等の予算がない、または少ないことなどにより指導者、講師の確保が困難なこと／・子どもの放課後の忙しさや、子どもが集まらないこと、恒常的な活動場所の確保が困難なことなどにより継続的な活動をすることが難しいこと／・活動に伴う予算がない、または少ないこと／・子どもの自主性や、やりたいという気持ちを引き出すこと／・魅力的な活動内容の選定

などであった。

(2) 「鑑賞活動」の実施状況等について

【問 11】857 館のうち、607 館（70.8%）の児童館が何らかの「鑑賞活動」に取り組んでいた。これは、「表現活動」の実施率より高い結果となった。

【問 12】「鑑賞活動」を実施する予算がある児童館は、570 館中、342 館（56.3%）であり、その内訳は、10,000～50,000 円未満の館が 140 館（44.9%）と最も多かった。

【問 13】「鑑賞活動」の実施回数は、令和 3 年度は 1～10 回未満の館が 399 館（69.0%）と最も多かった。予定を含む令和 4 年度の実施回数は、1～10 回未満の館が 434 館（74.8%）と最も多く、次いで 10～20 回未満の 72 館（12.4%）だった。

【問 14】「鑑賞活動」の活動内容は「音楽コンサート」234 館（38.6%）、「映画」218 館（35.9%）、「人形劇」199 館（32.8%）の順に多かった。「その他」の自由記述では、「マジックショー・手品」、「絵本や紙芝居の読み聞かせ」などバラエティに富んだプログラムが回答されていた。

【問 15】「鑑賞活動」の対象者は、小学生が 561 館（92.4%）、乳幼児と保護者 380 館（62.6%）、中学生 175 館（28.8%）の順に多く、「表現活動」と同様に小学生を主たる対象とした活動が多いことが確認できた。

【問 16】—略—

【問 17】「鑑賞活動」を児童館で行うことによって、期待される効果については、462 館の記述があった。結果、おおよそ次のような効果を期待していることが見て取れた。

・感受性・情操を豊かに育むこと／・想像力・創造力・共感力などを高めること／・普段の生活では体験できない芸術文化に触れる機会となること／・子どもたちの興味・関心や視野を広げること／・鑑賞マナーなど社会性を身に付けることができること

主な記述を紹介したが、他にも多様な記述があり、児童館では実に多くの期待を寄せて「鑑賞活動」に取り組んでいることがわかった。

【問 18】「鑑賞活動」の質の向上（効果性や継続性等）のための工夫や留意点では、351 館の記述があった。

○子どもへの働きかけの際の工夫や、留意点は「子どものスタッフ活動を取入れる」「何をした

いか子どもが考える」などがあつたが、「表現活動」と比べると、子どもたちが主体的に取り組むという趣旨の記述は少なかった。

- 活動の内容に関わることでの留意点は「子どもの興味や関心に応じた内容にする（子どもが楽しめる内容）」「発達段階を考慮した内容の設定」「子どもの意見を尊重した作品選び」「地域の社会資源を活用する」「様々なジャンルを体験する」などがあつた。
- 活動の環境に関わることでの留意点は、「定期的・継続的な取り組みとして設定する」「集中して鑑賞できる環境の設定」「職員間で意識・情報の共有を図る」「演者との十分な打合せ（活動の趣旨の確認、子どもの特性などを伝えるなど）」「新型コロナウイルス対策」などであつた。

【問 19】 ー略ー

【問 20】 今後「鑑賞活動」を実施していくための課題については、402 館の回答があつた。結果、おおよそ次のようなことを課題と考えていることが見て取れた。以下に項目を列記する。

- 予算が限られていたり、なかったりなどにより、実施したいことの実現が困難なこと
 - ・生の舞台やプロの技術、伝統文化・芸能などに子どもが触れる機会／・地域の団体などに依頼する場合でも、報償費などに苦慮／・故障した器材の修理ができない／
 - ・実費負担も検討しているが、参加できない子どもが出る など
- 新型コロナウイルス感染症に関わること
 - ・人数制限、活動制限、実施場所の環境整備等が制限される／・鑑賞するための外部団体等への依頼が難しい
- 出演者・団体、作品など、子どもの状況に即したプログラムの選定に関すること
 - ・情報が無い、または少ない／・そのような団体、出演者がいない、または少ない
- 鑑賞スペースが無い、または狭いこと
- 企画したり運営したりできる人材がいないこと
- 日時の確保が困難こと

(3) 「児童福祉文化財」の活用状況等について

【問 21】 児童館の「児童福祉文化財」の認知状況は。「よく知っている」29 館 (3.4%)、「ある程度知っている」229 館 (26.7%)、「詳しくは知らない」308 館 (35.9%)、「知らなかった」291 館 (34.0%) であつた。

また、「知らなかった」と回答した 291 館を除いた 566 館のうち、有効回答の 460 館に「認知方法」を尋ねた。結果として、「児童健全育成推進財団からの情報提供」が最も多く、284 館 (61.7%)、次いで「厚生労働省が発行しているポスター」131 館 (28.5%)、「自治体からの情報提供」122 館 (26.5%) であつた。

【問 22】 上記と同様の 566 館に対して「児童福祉文化財」のうち、劇などの舞台芸術作品を上演・観劇しことがあるかについて尋ねたところ、「はい」47 館 (8.4%)、「いいえ」512 館 (91.6%)

であった。

【問 23】「児童福祉文化財」のうち、絵本などの出版物作品を購入・活用しことがあるかについて尋ねたところ、「はい」168館（29.8%）、「いいえ」395館（70.2%）であった。また、「はい」と回答した168館の出版物作品の活用状況は、「毎回参考にしている」20館（12.0%）、「ときどき参考にしている」129館（77.2%）、「あまり参考にしていない」18館（10.8%）であった。

【問 24】「児童福祉文化財」のうち、映画などの映像・メディア等作品を上映・活用しことがあるかについては、「はい」45館（8.1%）、「いいえ」511館（91.9%）であった。

【問 25】今後、「児童福祉文化財」を有効活用していくための課題・要望について254館から自由記述を得た。内容は、多くが、「児童福祉文化財についての周知・情報発信を徹底すること」「児童福祉文化財を活用するための予算を確保すること」であった。なお、「児童館職員が児童福祉文化財について知る必要があること」「対象年齢が児童館の実態に合っていない（低学年向けが少ない）」なども数件あった。

【問 26】—略—

以上、プログラムの詳細等についての設問は—略—として割愛した。詳細については、第2章を参照されたい。

2 児童福祉文化財（主に児童劇）を活用した遊びのプログラム実施結果の考察

今回の上演後の参加者アンケート調査によると、子どもでは「楽しかった」を始め様々な感情を表現してくれていた。また「もっと見たい」という意見も多く見られた。また保護者も子ども同様「楽しかった」という意見を始め、様々な感情を持ってもらえた。「子どもと話しあってみよう」という観劇が親子のコミュニケーションのきっかけの可能性になり得たことも推察された。

すべての館の児童館職員のアンケートからも「こどもが鑑賞活動に満足した」、「表情があかるくなった」という回答が一位、二位を占めることから今回の公演は関係者の満足度も高く成功を見たと言える。

児童館のアンケート、劇団ヒアリングからも、児童館は子どもや保護者の普段の生活や遊びの空間での安心感や気軽さで空間全体が楽しさに満ち溢れている。また、「児童館では子どもたちと主催者である職員がフラットな関係性であり、その延長線上で子どもたちは自由に反応してよいし、楽しんでいいという安心感があったことを感じた」という意見があったように、子ども達は劇を観て自由に反応し、自由に楽しむことができる場という特性が明らかになったと考えられた。

児童館は異年齢の子どもや保護者が一緒に観劇できる場である点も児童館の特色、すなわち、グループみんなで一緒に楽しかったということを経験できたり児童福祉文化財の公演の魅力親子で一緒に感じたりすることができる場という事も調査を通じてより明らかになった。

また、保護者のアンケートの回答の1つに「こどもの情操を豊かにするきっかけになる」や公演後の効果についての児童館職員アンケートで「感情表現がゆたかになった」という意見があった。更に、上演後のワークショップ「遊びのプログラム」への評価も高かったことから観劇後のこどもの新たな可能性を見出すことができた。児童館の既存のまた新たなプログラムへの影響や展開の可能性も考えられた。

これらのことを踏まえて、「子どもの遊びを豊かにするワークショップ」「公演活動における子どもの参画や体験機会の提供」「子どもと保護者が共に参加することの積極的意味」「企画段階からの準備と協力の大切さ」「児童館における児童劇実施への期待」について考察する。

(1) 子どもの遊びを豊かにするワークショップ

ワークショップは乳幼児を対象にした児童館を除く4館で実施することができた。結果、以下のとおりのことがわかった。

- ・「距離が近くて楽しかったです」「観るだけでなく、身体を使って楽しむことは皆笑顔で楽しんでいました」等、児童館・劇団の協力のおかげで楽しかったとの感想が多かった。
- ・演劇作品を鑑賞してワークショップを体験したことが刺激になって、子どもたちが新たなことにチャレンジしたいという気持ちになることがわかった。
- ・「テレビを見たときにはない目の輝きがあった」「身近でつくれるおもちゃがあり、作り方を教わった」等、子どもと一緒に参加した保護者にとっても子どもの「遊び」を理解する機会になり、子どもと一緒に「遊ぶ」ための新たな方法を知る機会にもなることがわかった。
- ・ワークショップに関して、「劇団と児童館の事前の打ち合わせや準備を充実すると、もっと良い結果が得られるかも知れない」という意見もあった。

これらのことから子ども主体の児童劇やワークショップの手法やヒントを劇団の職員から児童厚生員が学ぶ機会を設けることも必要であるや、今後、職員向けワークショップ→演劇鑑賞→ワークショップ→子どもが人形劇をするワークショップ、というような継続した活動ができると、より子どもの「遊び」が豊かに深まり、劇団と児童館どちらにとってもプラスになるような可能性を推察できた。

(2) 公演活動における子どもの参画や体験機会の提供

公演後の会場を去りがたい幼児が、公演後劇団の舞台の小道具の片づけを手伝おうとしていた姿があった。

また、公演後ワークショップで作った作品で遊んでいた例や、劇中の登場ロボットに触発され、児童館の備品を借り受け遊び始める例もあった。

これらのことから

- ・公演の周知から当日の公演準備や片付けまでを、それぞれの年齢層や興味に応じて危険の無い範囲で子どもが参加する機会を設ける事で参加意識の醸成や誰かの役に立つことの喜びを体験してもらえる可能性が考えられる。
- ・演劇の背景となる舞台装置、照明、音響、小道具などを見るバックステージツアーや、公演準備の手伝いを通じて、演劇のプロの公演の裏方や舞台装置までを知り、興味関心の幅を広げる可能性が考えられる。
- ・ワークショップとも関連するが、観劇後の自発的な劇遊びや劇団員から指導を受け更に子どもたちが演じ発表を行うまでの継続したプログラムに発展させる可能性も考えられる。

などが推察された。

また、児童館は乳幼児・幼児から大人まで幅広い世代が利用するため、今回の上演を通じ良い幅広い参加型の体験活動の広がりへの兆しを感じた。なお、今回は中高生のボランティアスタッフが公演の成功に一役かっていた例もあった。

(3) 子どもと保護者が共に参加することの積極的な意味

今回の公演では、乳幼児を対象としたところだけでなく5か所全ての児童館で保護者の参加があった。

参加した保護者からは、「子どもの新しい部分を見ることができてよかった」、「こんなに集中して聞いてくれるとは思わなかったのでびっくりした」「恥ずかしがりやの娘が楽しんでいたので嬉しかった」等と、子どもへのあらたな気づきが語られていた。

また、保護者自身も「見てうきうきした」「とてもわくわくしました。言葉がゆっくりの2歳児もいっしょに観劇しましたが、内容がわかったようで声をあげて楽しんでいました」等の楽しかった・感動したという感想が多く書かれていた。

劇団からは、「保護者のアンケート回答に、『これからもたくさん演劇を見せたい』と書いてあったことがことのほか嬉しかった」との話があった。

今回公演を実施した児童館は、日常的に保護者が子どもと来館することのできる場所である。その親子が演劇を通して共に楽しみ、子どもの成長を知ることができたり、あらたな面を発見したりすることができる場となることは、保護者自身と親子の関係にも劇団にとっても良い結果を生むことが推察される。

(4) 企画段階からの準備と協力の大切さ

コロナ禍であるという事情から、打ち合わせは全てリモート会議等と限定された中で準備をする必要があった。

そのような状況の中、児童館及び劇団と募集方法や会場設備、進行方法、アンケートの配布、必要な備品類の確認などについて、事前に確認事項を共有しておく等、効率よく打ち合わせができるよう工夫した。

その結果、児童館、劇団双方の協力のおかげもあり、成功裏に収めることができた。

こうした活動を今後さらに充実させるためには、

- ・児童館の特性にあった公演内容（ワークショップ含め）の選定
- ・児童館と劇団の連携による準備活動の充実
- ・公演内容の参加者への事前告知
- ・子どもたちへの直接の働きかけ 等

を出来るだけ早い段階で実施することにより、さらに充実したものになるのではないかと、推察される。

(5) 児童館で児童福祉文化財（児童劇）の公演を行うことへの期待

児童館職員アンケートでは、「また上演してみたい」「条件ニーズがあればまた上演したい」が93%の回答があった。

保護者アンケートからは、「プロの劇を見る機会に恵まれて本当にうれしく思いました。子どもの情操を豊かにするためにも今後も一緒に見たいと思います。また是非企画にしていきたいです」などの意見があった。

子どもアンケートでは、「楽しかった」「みたいという気持ちでみられるから」「児童館で劇をやることにワクワクするから」など、また児童館で児童劇を見たいという理由が多く寄せられた。

また、劇団からは、「児童館が舞台を自由に無料で見られる場となれば、（生の舞台を見られる機会がない）子どもの一部には届くのではないか、是非そのような機会を増やしたい」との意見があった。

これらのことから、公演に関わった全ての人から今後も児童館での児童劇公演を引き続き行ってほしいという期待を推察することができる。

3. 今後の研究に向けて（提言）

本事業を行った「結果」と「考察」から、児童福祉文化財（主に児童劇）の公演を児童館で行うことは、児童館の質の向上と児童館活動の活性化に役立つことが明らかになった。

また、児童福祉文化財を活用した遊びのプログラムのあり方についても一定の整理を行うことができた。

これらに基づいて、今後以下のことを提言する。

本調査によって、児童福祉文化財（主に児童劇）の公演を児童館で上演することは、子どものこころを刺激し、情操を豊かにする機会となることが認められた。また、子ども、保護者、児童館職員、劇団も「もっと体験させたい」と望んでいることも明確になった。

このように児童福祉文化財（児童劇等）の鑑賞体験を児童館に普及することの必要性は高いことが明らかにされた。なお、実態調査の結果からは現在の予算では、なかなかそのような機会を作ることはできないことが推測される。

国や地方自治体に児童館における児童福祉文化財（児童劇等）の上演が可能となる方策を検討することが期待される。

児童福祉文化財は、国の審議会において審査され、優秀と認められた（良質を保証された）作品であり、安心して活用できるものである。

今回の実態調査から、児童館における児童福祉文化財の認知度は低く、優秀な作品を子ども達に届ける機会を十分に作れていないことがわかった。

児童劇に限らず、子どもたちに有用な本や映像も含めて児童福祉文化財をより具体的に知る機会を増やすことによって、児童館における児童福祉文化財の活用の可能性が広がることを期待する。

これらの本年度調査研究の知見を活かして次年度も引き続き調査研究を行うことによって、児童福祉文化財を活用した、子どもが主体的に参加し満足感を得るような「遊び」の要素が多く含まれる新しい児童館プログラムを開発することを期待する。

謝辞

本報告書の作成に当たり、児童福祉文化財（舞台芸術）の公演に携っていただきました児童館や劇団の皆様、及びアンケートにご回答いただいた皆様に心より厚く感謝申し上げます。

令和4年度 厚生労働省委託事業

児童館における児童福祉文化財を活用した遊びのプログラムに関する調査研究

令和5年（2023年）3月

受託者 公益財団法人 児童育成協会

〒102-0081

東京都千代田区四番町2-12 四番町THビル